

# 盛南地区遺跡群発掘調査報告書 I

盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡 平成5～12年度調査報告①

大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡

独立行政法人都市再生機構

盛岡市・盛岡市教育委員会

# 盛南地区遺跡群発掘調査報告書 I

盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡 平成5～12年度調査報告①

大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡

独立行政法人都市再生機構

盛岡市・盛岡市教育委員会

# 序

盛岡市は、東北地方東部を縦断する北上川とその支流である雫石川・中津川の三河川が合流し、雄大な岩手山や姫神山を望む約30万の人口を抱える岩手県の県都です。

この市街地の南西部、雫石川の南に広がる地域に職住近接の新市街地を形成しようというのが盛南開発構想で、全体計画の7割に当たる313.5ヘクタールを整備するのが盛岡南新都市開発整備事業です。事業主体は独立行政法人都市再生機構（旧地域振興整備公団）で、平成3年12月に事業認可をうけております。都市再生機構では盛岡都市開発事務所（現 岩手都市開発事務所）を平成4年1月に開設、土地区画整理事業の整備手法により、平成7年11月に着工しました。

それにともない、当該区域内に所在する16遺跡、全約90 haのうち盛岡南新都市開発整備事業によって消滅する遺跡の発掘調査を、平成5年度から当市教育委員会と財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行っており、現在もなお継続しているところであります。

本報告書は、当市教育委員会が平成5年度から同12年度まで実施した発掘調査のうち、小幅遺跡・大宮北遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡の調査成果について報告するものです。事業は現在も継続中ではありますが、平成12年12月に当市文化財調査室が全焼するという被害を受け調査資料も罹災したことから、残存する資料をもって報告するものです。

本書は、資料の呈示を意図してまとめたものですが、市民の皆様をはじめ、各学校や関係機関・研究者等の方々に当該地域の歴史を知るためにご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大なるご協力やご指導を賜りました独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所ならびに岩手県教育委員会生涯学習文化課、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに対して、深く感謝を申し上げますとともに、ご理解とご協力を頂いた地権者各位ならびに地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

盛岡市教育委員会

教育長 八巻 恒雄

# 例 言

1 本書は、「盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅰ 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡 平成5～12年度調査報告① 大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡」である。本書は、岩手県盛岡市本宮・向中野・南仙北・飯岡新田に所在する盛南地区遺跡群において、「盛岡南新都市開発整備事業」及び関係事業に伴い平成5年度から12年度に実施した発掘調査の報告書である。なお、「盛南地区遺跡群」の名称については、事業区域内に所在する計17遺跡を包括する総称として使用している。

2 本書の編集執筆は今野公顕があたり、各職員と協議して編集した。

3 遺構平面位置は、日本測地系 平面直角座標X系を座標変換した調査座標で表示した。

・調査座標軸は日本測地系 第X系に準じる。

・調査座標原点 X-35,000.000 Y+23,700.000 → RX±0.000 RY±0.000

4 高さは標高値をそのまま使用している。

5 土層図は堆積のしかたを重視し、線の太さを使い分けた。土層注記は層理ごとに本分でふれ、個々の層位については割愛した。層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』（1994小山正忠・竹原秀雄）を参考にした。

6 遺構記号・番号は次のとおりとした。

竪穴住居跡：RA，建物跡：RB，柱列跡：RC，土坑：RD，竪穴建物跡：RE，  
焼土遺構：RF，溝跡：RG，配石・集石遺構：RH，井戸：RI，埋設土器：RP，  
古墳・円形周溝など：RX，土坑墓：RZ，

7 平面図は遺構によって、線種を以下のように使い分けた。

遺 構	——— 破線
	——— 実線
時期差のある遺構	——— 一点鎖点

8 古代の竪穴住居跡のカマド方向は、カマド本体中心(炊き口)から煙道先端(煙出し)を結んだ線の方向の傾きとした。建物の棟方向は、建築時に意図したと考えられる棟の方向をあらわし、両妻の棟持柱の中心を結んだ線、もしくは両妻の中間点を結んだ線の方向の傾きを示した。

9 古代の土器区分は、土師器・須恵器・あかやき土器に分類した。

「あかやき土器」の名称は、ロクロ使用の酸化炎焼成土器（坏類、甕類、鉢）に使用し、内面黒色処理の坏類はロクロ使用でも土師器に分類した。

10 発掘調査にともなう出土遺物および諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管している。

11 平成12年12月24日未明に発生した盛岡市教育委員会文化財調査室火災により、平成12年度までの調査資料が罹災した。本書は残存する資料および復元した資料をもって編集した。なお、本件の詳細については、『盛岡市遺跡の学び館平成16年度館報』（2006）にて報告を行っている。

12 調査成果の一部については、『現地説明会資料』などに報告しているが、本書の記載内容をもって訂正する。

13 遺物の実測は、その一部を株式会社タックエンジニアリングに委託した。

<財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（本報告）>

- 1995年3月『本宮熊堂B遺跡第1次発掘調査報告書—盛南開発事業関連遺跡発掘調査—』第226集
- 1996年3月『小幡遺跡第2次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業—』第244集
- 1996年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成7年度）』第246集〔小幡遺跡6次〕
- 1996年11月『小幡遺跡第2次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第265集
- 1997年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成8年度）』第266集〔宮沢遺跡4次，本宮熊堂A遺跡7次〕
- 1998年3月『小幡遺跡第5次・第7次発掘調査報告書—盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査—』第267集
- 1998年3月『大宮北遺跡・本宮熊堂A遺跡発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第265集〔大宮北遺跡4次，本宮熊堂A遺跡6次〕
- 1998年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成9年度）』第282集〔稻荷遺跡3次，野古A遺跡9次・10次〕
- 1999年3月『熊堂B遺跡第5次・台太郎遺跡第16次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第293集
- 1999年1月『本宮熊堂B遺跡第4次・鬼柳A遺跡第4次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第308集
- 1999年3月『台太郎遺跡第15次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第309集
- 1999年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成10年度）』第311集〔飯岡才川遺跡2次〕
- 2000年1月『向中野館遺跡第3次・小幡遺跡第10次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第388集
- 2000年3月『向中野館遺跡第4次・小幡遺跡第11次・台太郎遺跡第19次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第321集
- 2000年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成11年度）』第340集〔小幡遺跡13次・14次〕
- 2001年3月『台太郎遺跡第22次発掘調査報告書—盛岡東警察署警察官待機宿舎建設事業関連遺跡発掘調査—』第365集
- 2001年3月『台太郎遺跡第18次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第369集
- 2001年3月『台太郎遺跡第26次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第416集
- 2002年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成12年度）』第370集〔鬼柳A遺跡7次，本宮熊堂B遺跡9次・11次，小幡遺跡15次・16次，飯岡才川遺跡4次〕
- 2002年2月『熊堂B遺跡第10次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第377集
- 2002年3月『飯岡才川遺跡第3次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第393集
- 2002年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成13年度）』第397集〔台太郎遺跡36次，細谷地遺跡6次〕
- 2003年3月『台太郎遺跡第23次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第415集
- 2003年3月『台太郎遺跡第35次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第417集
- 2003年3月『台太郎遺跡第44次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第422集
- 2003年3月『細谷地遺跡発掘調査報告書—第4・5次調査—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査』第414集
- 2003年3月『飯岡沢田遺跡第3次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第418集
- 2003年3月『飯岡沢田遺跡第5次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第419集
- 2003年3月『野古A遺跡第12次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第420集
- 2003年3月『野古A遺跡第15次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第421集
- 2003年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成14年度）』第423集〔矢盛遺跡4次，稻荷遺跡5次〕
- 2004年2月『矢盛遺跡第3次・熊堂B遺跡発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第451集

2004年3月『本宮熊堂A遺跡第17次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第453集  
2004年3月『細谷地遺跡第8次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第454集  
2004年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成15年度）』第455集〔稻荷遺跡6次，本宮熊堂B遺跡19次，台太郎50次・52次，野古A遺跡19次・20次，飯岡才川遺跡5次・6次，細谷地遺跡7次〕  
2004年12月『本宮熊堂B遺跡第13・15・20次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第467集  
2005年2月『本宮熊堂B遺跡第18次発掘調査報告書—国道46号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査—』第458集  
2005年2月『台太郎遺跡第51次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第468集  
2005年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成16年度）』第469集〔稻荷遺跡8・）次，台太郎遺跡53次，矢盛遺跡5次〕  
2005年12月『矢盛遺跡第6次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第488集  
2006年2月『飯岡沢田遺跡第9・10次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第489集  
2006年2月『本宮熊堂A遺跡第24次・本宮熊堂B遺跡第25次発掘調査報告書—一般国道46号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査—』第470集  
2006年3月『台太郎遺跡第54次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第486集  
2006年3月『本宮熊堂B遺跡第27次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第487集  
2006年3月『平成17年度発掘調査報告書』第490集〔宮沢遺跡11次，本宮熊堂B遺跡30次・31次〕  
2007年2月『飯岡才川遺跡第8・9次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第494集  
2007年3月『細谷地遺跡第9次・第10次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第500集  
2007年2月『野古A遺跡第23・24・29次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第501集  
2007年3月『本宮熊堂A遺跡第26・29次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第502集  
2007年3月『向中野館遺跡第5・6次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第503集  
2007年2月『向中野館遺跡第7・8次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第504集

#### <盛岡市教育委員会>

1998年3月『盛岡市埋蔵文化財調査年報—平成5・6年度—』〔南仙北遺跡12・13・14次〕  
2002年3月『盛岡市内遺跡群—平成13年度発掘調査報告—』〔台太郎遺跡40・41次〕  
2005年3月『盛岡市内遺跡群—平成15年度・16年度発掘調査報告—』〔台太郎遺跡55次〕  
2007年3月『盛岡地区遺跡群発掘調査報告書Ⅰ—平成5～12年度調査報告①—大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡』

# 目次

## 序

## 例言

### I 経過

1 調査に至る経過	1
2 発掘調査作業の経過	2
3 整理作業の経過	2
4 調査体制	8

### II 遺跡群の位置と環境

1 地理的環境	9
2 歴史的環境	10

### III 調査成果

1 大宮北遺跡(第3・5・6・7・8・9次調査)	12
2 小幡遺跡(第1・3・8・9・12・17次調査)	21
3 宮沢遺跡(第5次調査)	107
4 鬼柳A遺跡(第5次調査)	109

### IV まとめ

1 各調査成果のまとめ	111
2 大宮北遺跡出土土器について	113

### V 写真図版

報告書抄録	125
-------	-----

# 表目次

第1表 盛南地区遺跡群発掘調査一覧	3
第2表 小幡遺跡 掘立柱建物跡一覧	54
第3表 小幡遺跡 土坑一覧(1)	70

第4表 小幡遺跡 土坑一覧(2)	71
第5表 大宮北遺跡 出土土器一覧	116
第6表 小幡遺跡 出土土器一覧	118

# 挿図目次

第1図 地形分類と遺跡分布図(1:100,000)	9
第2図 盛南地区周辺の遺跡分布図(スケールフリー)	11
第3図 大宮北遺跡全体図(1:4,000)	12
第4図 大宮北遺跡第5次調査全体図(1:400)	13
第5図 大宮北遺跡第8次調査全体図(1:200)	15
第6図 大宮北遺跡第8次調査RD008土坑出土遺物(1:3)	18
第7図 大宮北遺跡第8次調査RD007・008土坑出土遺物(1:3)	19
第8図 大宮北遺跡第8次調査ピット、遺構外出土遺物(1:3)	20
第9図 小幡遺跡・宮沢遺跡全体図(1:3,000)	22
第10図 小幡遺跡RA041 竪穴住居跡	23
第11図 小幡遺跡RA019 竪穴住居跡平面図、断面図	24
第12図 小幡遺跡RA019 竪穴住居跡断面図	25
第13図 小幡遺跡RA019 竪穴住居跡出土遺物	25
第14図 小幡遺跡RA020 竪穴住居跡	26
第15図 小幡遺跡RA020 竪穴住居跡出土遺物	27
第16図 小幡遺跡RA021 竪穴住居跡平面図	28
第17図 小幡遺跡RA021 竪穴住居跡断面図	29
第18図 小幡遺跡RA022 竪穴住居跡	30
第19図 小幡遺跡RA023 竪穴住居跡	31
第20図 小幡遺跡RA023 竪穴住居跡出土遺物	32
第21図 小幡遺跡RA024 竪穴住居跡	33
第22図 小幡遺跡RA024 竪穴住居跡出土遺物	33
第23図 小幡遺跡RA025 竪穴住居跡平面図	34
第24図 小幡遺跡RA026 竪穴住居跡出土遺物	34
第25図 小幡遺跡RA026 竪穴住居跡	35

第26図 小幡遺跡RA027 竪穴住居跡平面図	37
第27図 小幡遺跡RA027 竪穴住居跡断面図	38
第28図 小幡遺跡RA027 竪穴住居跡出土遺物	39
第29図 小幡遺跡RA028 竪穴住居跡	40
第30図 小幡遺跡RA028 竪穴住居跡出土遺物	40
第31図 小幡遺跡RA029 竪穴住居跡	42
第32図 小幡遺跡RA030 竪穴住居跡	43
第33図 小幡遺跡RA031 竪穴住居跡	44
第34図 小幡遺跡RA029 竪穴住居跡出土遺物	45
第35図 小幡遺跡RA030 竪穴住居跡出土遺物	45
第36図 小幡遺跡RA031 竪穴住居跡出土遺物	45
第37図 小幡遺跡RA039 竪穴住居跡	46
第38図 小幡遺跡RA039 竪穴住居跡出土遺物	46
第39図 小幡遺跡RB015 掘立柱建物跡, RC002, 003, 004 柱列跡平面図	47
第40図 小幡遺跡RB015 掘立柱建物跡, RC002, 003, 004 柱列跡断面図	48
第41図 小幡遺跡RB016, 017 掘立柱建物跡平面図	49
第42図 小幡遺跡RB016, 017 掘立柱建物跡断面図	49
第43図 小幡遺跡RB018 掘立柱建物跡	51
第44図 小幡遺跡RB019, 020 掘立柱建物跡	51
第45図 小幡遺跡RB021 掘立柱建物跡	52
第46図 小幡遺跡RB023 掘立柱建物跡	52
第47図 小幡遺跡RB022 掘立柱建物跡	53
第48図 小幡遺跡RB027, 028, 029 掘立柱建物跡平面図	55
第49図 小幡遺跡RB027, 028, 029 掘立柱建物跡断面図	56
第50図 小幡遺跡RB030, 031 掘立柱建物跡	57

第51図	小幅遺跡 RB032 掘立柱建物跡	58
第52図	小幅遺跡 RE034 竪穴建物跡	59
第53図	小幅遺跡 RE035, 036, 037 竪穴建物跡	61
第54図	小幅遺跡 RE038 竪穴建物跡	62
第55図	小幅遺跡 RE039 竪穴建物跡	63
第56図	小幅遺跡 RE040, 041, 042 竪穴建物跡	64
第57図	小幅遺跡 RI006, 007 井戸跡	66
第58図	小幅遺跡 RI008 井戸跡	67
第59図	小幅遺跡 RX039 円形周溝	68
第60図	小幅遺跡 RX032 円形周溝	69
第61図	小幅遺跡 RX040 円形周溝	69
第62図	小幅遺跡 RD227, 228, 229, 230, 231, 232 土坑	72
第63図	小幅遺跡 RD233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240 土坑	73
第64図	小幅遺跡 RD241, 242, 243, 244 土坑	74
第65図	小幅遺跡 RD245, 246, 247, 248, 249, 250, 251 土坑	75
第66図	小幅遺跡 RD253, 254, 255, 256, 257, 258, 259 土坑	76
第67図	小幅遺跡 RD260, 261, 262, 263, 264, 265 土坑	77
第68図	小幅遺跡 RD266, 267, 268, 269, 270 土坑	78
第69図	小幅遺跡 RD271, 272, 273, 274, 275 土坑	79
第70図	小幅遺跡 RD276, 277, 278, 279, 280 土坑	80
第71図	小幅遺跡 RD281, 282, 283, 284, 285, 286, 287, 288 土坑	81
第72図	小幅遺跡 RD289, 290, 291, 292, 293, 294 土坑	82
第73図	小幅遺跡 RD295, 296 土坑平面図	83
第74図	小幅遺跡 RD295, 296 土坑断面図	84
第75図	小幅遺跡 RD297, 298, 299, 300, 301, 302, 303 土坑	85
第76図	小幅遺跡 RD304, 305, 306, 307, 308, 309, 310 土坑	86

第77図	小幅遺跡 RD311, 312, 313, 314, 315, 316, 317 土坑	87
第78図	小幅遺跡 RD318, 319, 320, 321, 322, 323, 324 土坑	88
第79図	小幅遺跡 RD325, 326, 327, 328 土坑	89
第80図	小幅遺跡 RD329, 330, 331, 332, 333 土坑	90
第81図	小幅遺跡 RD355, 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363 土坑	91
第82図	小幅遺跡 RZ018, 019, 020, 024, 025, 026, 027 土坑	92
第83図	小幅遺跡 RZ028, 029, 030, 031 土坑	93
第84図	小幅遺跡 RZ033, 034, 035, 036, 037, 038 土坑	94
第85図	小幅遺跡 A～E区全体図(1), 溝跡, 小ピット	96
第86図	小幅遺跡 A～E区全体図(2), 溝跡, 小ピット	97
第87図	小幅遺跡 A～E区全体図(3), 溝跡, 小ピット	98
第88図	小幅遺跡 A～E区全体図(4), 溝跡, 小ピット	99
第89図	小幅遺跡 F区溝跡, 小ピット	100
第90図	小幅遺跡 G区溝跡, 小ピット	101
第91図	小幅遺跡 H区, I区溝跡, 小ピット	102
第92図	小幅遺跡 J区, 12次調査溝跡, 小ピット	103
第93図	小幅遺跡小ピット断面図(1)	104
第94図	小幅遺跡小ピット断面図(2)	105
第95図	小幅遺跡 RX032 円形周溝, RD315, 355 土坑 RG129 溝跡, 小ピット 出土遺物	106
第96図	宮沢遺跡第5次調査全体図(1:400)	107
第97図	宮沢遺跡 RG018 溝跡	108
第98図	鬼柳A遺跡全体図(1:4,000)	109
第99図	鬼柳A遺跡第5次調査全体図	110
第100図	鬼柳A遺跡 RE001 竪穴建物跡	110
第101図	大宮北遺跡および10世紀代の土器(1:6)	115

## 写真図版目次

### 第1図版

- 大宮北遺跡第8次調査区(西から)
- 大宮北遺跡第8次調査区(東から)
- 大宮北遺跡第8次調査区(RB002・003東から)
- 大宮北遺跡第8次調査区(RB005・006・007北から)
- 小幅遺跡第17次調査区(北東から)
- 小幅遺跡第17次調査区(南から)
- 小幅遺跡第17次調査区(RA039竪穴住居跡 東から)
- 小幅遺跡第17次調査区(RX032円形周溝 北から)

### 第2図版

- 大宮北遺跡第8次調査 出土土器(1)
- RD008 6図3, 同6図3墨書, 同6図6, 同6図6底面, 同6図8, 同6図15, 同6図21, 検出面8図52, RD008 7図29, 同7図31,

### 第3図版

- 大宮北遺跡第8次調査 出土土器(2)
- RD008 7図32, 同7図34, 同7図35, 同7図41, 同7図42, 同7図42底面
- 小幅遺跡 出土土器(1)
- RA020 15図10, 同15図11, 同15図12, 同15図13

### 第4図版

- 小幅遺跡 出土土器(2)
- RA023 20図2, RA024 22図2, 同22図3,
- RA026 24図1, RA027 28図1, 同28図4, 同28図5, 同28図6, RA029 34図3, 同34図4

### 第5図版

- 小幅遺跡 出土土器(3)
- RA030 35図1, 同35図2, 同35図4,
- RA031 36図1, 同36図3, RA039 38図1, 同38図2, C24-T20 Pit2 95図5,



# I 経過

## 1 調査に至る経過

盛岡南新都市開発整備事業は、北東北の中核都市および県都として担うべき都市機能の充実を図るため、既成市街地南西部に新市街地を開発整備し、既成市街地・盛岡駅西口地区・盛岡南地区を結ぶ軸状都心を形成することで、都市構造をよりよく改めようと策定された土地区画整理事業である。平成2年9月に岩手県・盛岡市・都南村（現盛岡市）の3者が、地域振興整備公団（平成16年7月 独立行政法人都市再生機構に改組）に対して事業申請を行い、地域振興整備公団は実施計画を作成、翌平成3年12月に建設大臣および国土庁長官から実施許可が下り、事業が開始された。

埋蔵文化財の取り扱い、昭和50年の国土庁長官・建設省からの行政指導に則して、地域振興整備公団と岩手県・盛岡市・都南村は「覚書」およびその「確認書」において以下のように取り交わしている。

・盛岡南新都市開発整備事業に関する覚書（平成3年12月11日） 記の7（3）

県、市及び村は、環境の保全及び文化財の保護につき、協力して所要の調整を行い、事業の推進を図るものとする。

・盛岡南新都市開発整備事業に関する覚書の確認書（平成3年12月11日） 記の5

「覚書」の記の7の（3）の文化財保護における埋蔵文化財発掘調査について、国庫補助事業及び公共施設管理者負担金の対象となる都市計画道路に係る敷地の調査については、公団が県、市及び村に委託するものとし、その他の敷地については市及び村において調査するものとする。

このため、県、市及び村は、土地区画整理事業の認可までに、公団からの委託分を含めた埋蔵文化財発掘調査計画を立案し、これを県、市、村及び公団で確認の上、他機関への委託を含めた調査の実施に必要な体制を確保することにより、事業の円滑な推進を図るものとする。

なお、事業のスケジュールが調査実施者の都合により遅延した場合には、県、市及び村は、適切な方策を講ずるものとする。

協議の結果、遺跡の要調査範囲を確定する試掘調査を盛岡市教育委員会が実施し、それを受けての本調査を市、村及び公団から委託を受けて財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施するものとなった。

しかし、調査面積が広大であることから平成10年度以降は市教育委員会も本調査を実施、平成11年度からは市教育委員会も公団と受託契約を締結し、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターと市教育委員会の両者が実施してきた。

## 2 発掘調査作業の経過

盛岡南新都市開発整備事業にともなう埋蔵文化財の発掘調査は、第1表のとおり平成4年度から継続して実施している。

区画整理事業の工事計画や進捗にあわせて、埋蔵文化財包蔵地の範囲確認や遺構密度を確認するための試掘調査を本調査の前に実施し、その成果を受けて効率的な本調査を実施できるようにしている。しかし、地権者との交渉や農地補償の問題から、本調査対象の全面積を試掘調査できているわけではない。

## 3 整理作業の経過

当市教育委員会が、本事業の本調査を始めたのは、平成10年度からである。また平成11年度からは地域振興整備公団と発掘調査の受託契約を締結し公団施工範囲（都市計画道路分）の調査も実施してきた。この際は、予算措置が取れなかったことや人的な要因によって、年度ごとの報告書刊行は視野に入れず、報告書刊行は本報告として事業終了後に行うものとし、年度内はその基礎整理のみを行ってきた。

平成12年12月24日午前0時30分頃、市立厨川小学校敷地内にある文化財調査室にて漏電によるものと考えられる火災が発生し、昭和30年に建設された老朽化した木造2階建ての旧校舎であったこともあり、消火活動の甲斐もなく全焼した。当市教育委員会では昭和57年度から文化財調査室として埋蔵文化財資料整理・収蔵保管の拠点として使用してきた場所である。

当然、本事業の発掘調査成果（図面・写真・出土資料の一部）も収蔵されており、調査成果の復元もきわめて難しいものとなった。

それを受け、文化庁から埋蔵文化財センター建設事業（国庫補助）について打診を受け、平成16年6月に、盛岡市中央公園内に「盛岡市遺跡の学び館」として埋蔵文化財の資料整理・収蔵管理の拠点を設けるに至った。その間、本事業にともなう発掘調査と基礎整理作業および罹災した資料の復元作業を継続して行い、平成18年度に予算の計上および独立行政法人都市再生機構との報告書作成業務委託を締結し、本書を刊行するに至った。

報告書を刊行するに当たり、以下の指針をもって実施することとした。

- ① 平成5～12年度に調査し、罹災した資料の速やかな再整理と報告書の刊行。
- ② 平成5～12年度度の調査は、面積も広大で、かつ膨大な量の資料が罹災したこともあり、1冊の報告書として報告することは、人的・予算的に難しいため、3冊程度に分冊し優先的に報告する。
- ③ 平成13年度以降事業終了年度までの調査成果は、平成5～12年度報告終了後に、数遺跡ずつをまとめて3～4冊程度に分冊のうえ報告すること。

本報告書は、上記指針に基づく1冊目の報告書である。なお、報告にあたっては、罹災し復元不可能な部分はその旨を明記した表現を行っている。

調査年度ごとの調査内容(住宅教養、または備考)

Table with columns: 通称名 (通称), 階号, 年度, 調査方法, 調査主体, 委託者, 調査原因, 面積(m2), 野外調査期間, 抽出建群, 報告書名, RA(住居), RB(遊立), RC(見列), RD(土坑), RE(整状況), RF(戸数), RG(溝), RH(基石), RI(井戸), RJ(その他), 備考. Rows include locations like 大宮北, 宮沢, 豊科 A, 穂荷.





Table with columns: 通称名, 略号, 回数, 年度, 調査方法, 調査主体, 委託者, 調査原因, 面積(㎡), 野外調査期間, 採出遺構, 報告書等, RA:住居, RB:発立, RC:柱列, RD:土坑, RE:堅穴状(石, 灰土), RF:溝, RG:溝, RI:井戸, RZ:その他, 備考.

遺跡名	略号	次数	年度	調査方法	調査主体	委託者	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	野外調査期間	検出遺構	報告書等	遺構番号もしくは遺構数(は不明な場合・または備考有)					備考		
												RA 住居	RB 竪立	RC 柱列	RD 土坑	RE 竪穴状貯戸跡土		RF 溝	RG 溝
飯岡子川	ISW	1	H8	試掘	市教委	市	盛南関連	5,672	96.07.24-11.11	RAほか	結果報告								
		2	H10	本調査	県教委	市	環境保健C	5,600	98.04.08-06.15	RB1, RD4, RG8	県**集	001-001			001-008				
		3	H12	本調査	県教委	市	盛南関連	1,582	00.07.17-10.31										
		4	"	"	本調査	県教委	市	盛南関連	1,582	00.07.17-10.31									
		5	H15	本調査	県教委	市	盛南関連	1,258	03.06.25-09.11	RD4, RG1					038-036				
		6	"	"	本調査	県教委	市	盛南関連	4,339	03.08.01-09.11	RD18, RF1, RG5				037-054				
		7	H17	本調査	県教委	市	盛南関連	6,550	06.08.19-10.31	RA7, RD16, RG11, R11, R29					001, 020-024, 018-025-034, 057-072			007-015, 016	
		8	"	"	本調査	県教委	市	盛南関連	893	06.09.01-09.29	RA5, RB5, RC1, RD14, RE7, RG6, RZ1	006-008, 018-017, 018-019, 016-018, 020			006-008, 036-039, 036-039				016 -体調査
		9	"	"	本調査	市教委	市	盛南関連	2,907	05.07.25-09.29					009-015				
		10	"	"	本調査	市教委	市	盛南関連	3,907	06.08.04-09.13	RG10, RD(T-pit)12, R11, RA7, RB3, RD3, RG4, RH1, R	結果報告							
		11	"	"	本調査	市教委	市	盛南関連	1,818	05.11.07-12.06									
		12	"	"	検出	県教委	市	盛南関連	3,200	05.10.03-11.10	検出のみ								
		12補	H18	本調査	県教委	市	盛南関連	4,000	06.09.19-11.24	RA14, RC3, RD41, RF1, RG5, RZ19					028-041				014, 017-034
矢盛	IYM	1	H4	本調査	県教委	市	国道46号	2,280	06.06.21-07.31	RA1, RB5, RD3, RE2, R61, R									
		2	H11	本調査	市教委	個人	工業技術C	92.04.09-08.08	RA3, RD1, RG1										
		3	H15	本調査	県教委	個人	盛南地区内	130	99.08.26-09.02	RC1, RG3	県205集								
		4	"	"	本調査	市	盛南地区内	"	"	RA, RD, R1	結果報告								
		5	H16	本調査	市教委	都市機構	盛南関連	180	04.05.06-05.18	RD6, RG2									
		6	"	"	本調査	市	盛南関連	3,386	04.04.12-06.04	RD57, RE1, RG1, R11									
		7	"	"	試掘	市教委	市	盛南関連			RG, RD	結果報告							
		8	H17	試掘	市教委	市	盛南関連			RA, RB, RC, RD, RG, pit	結果報告								
		9	H18	本調査	市教委	市	盛南関連	3,055	06.04.10-05.31	RE2, RC1, RD2, RG7									
		10	"	"	本調査	市教委	市	国道46号	147	06.06.05-06.15	RG1								
		夕賀	IYK	1	H7	試掘	市教委	市	盛南関連	3,891	06.04.10-06.15	RB14, RC1, RD19, RE3, RF1, RG25, R113, RZ2							
2	H8			試掘	市教委	市	盛南関連	566	95.10.04-10.06	RG1	結果報告								
							233	96.11.18-11.19	女	結果報告									

第1表 盛南地区遺跡群 発掘調査一覧

## 4 体制

- [調査主体] 盛岡市教育委員会  
教育長 佐々木初朗（～12年度）・石川悌司（12～16年度）・八巻恒雄（16年度～）
- [調査総括] 盛岡市教育委員会 文化課  
文化課長 大崎琢夫（15年度），阿部光雄（16年度），武石幸久（17年度）
- [事務局] 主幹 高橋清明（～15年度），課長補佐 川村昇子（～16年度），武藤英富（17年度）  
文化財係長（副主幹） 千田和文  
文化財主任 津嶋知弘，神原雄一郎，権頭祐子 文化財主事 花井正香  
文化財調査員 北田公子（～16年度），野崎奈美（15年度），  
鎌田聖美（16年度～），高橋 史（17年度～）
- [事務] 盛岡市遺跡の学び館（16年度～）  
館長 山本詔夫（～16年9月），及川三治（16年10月～3月），三浦 晃（17年度～）  
館長補佐 佐藤和男，主査 杉浦雄治（17年度～），文化財調査員 永田雄介（17年度）
- [調査] 文化財主査 室野秀文，文化財主任 三浦陽一  
文化財主事 藤村茂克（～16年度），今野公顕，佐々木亮二  
文化財調査員 佐々木紀子（～16年度），岩城志麻（～16年度），  
松川光海，齋藤麻紀子（17年度），鈴木賢治（18年度）  
学芸調査員 鷹薮あゆみ（16年度～）

### [発掘調査担当者（本書詳細掲載分，氏名は調査当時）]

- |       |                |           |
|-------|----------------|-----------|
| 大宮北遺跡 | 第5次調査（平成10年度）  | 黒須靖之      |
|       | 第8次調査（平成12年度）  | 平澤祐子      |
| 小幅遺跡  | 第8次調査（平成10年度）  | 似内啓邦・黒須靖之 |
|       | 第9次調査（平成10年度）  | 似内啓邦・平澤祐子 |
|       | 第12次調査（平成11年度） | 今野公顕      |
|       | 第17次調査（平成11年度） | 津嶋知弘      |
| 宮沢遺跡  | 第5次調査（平成11年度）  | 今野公顕      |
| 鬼柳A遺跡 | 第5次調査（平成11年度）  | 今野公顕      |

発掘調査および本報告書の作成にあたり，下記の方々の協力を得た。記して感謝申し上げる。（敬称略）

### [発掘調査・整理作業]（50音順 平成17・18年度）

天沼芳子，井上勝子，金沢達也，菊池武，工藤エキ，熊谷あさ子，斎藤幸恵，斎藤三郎，佐藤准子，  
田貝恵子，竹花栄子，中島京子，樋口泰子，平賀眞利子，藤田友子，藤原亮子，南幅征子，南幅洋子，  
武蔵照子，山下摩由美

### [協力・助言]

岩手県教育委員会，財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター，  
独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所，盛岡市都市整備部盛岡南整備課，  
赤沼英男（岩手県立博物館），井上雅孝（滝沢村教育委員会），宇部則保（八戸市教育委員会），  
工藤雅樹（東北歴史博物館館長），高橋千晶（奥州市教育委員会），西野 修（矢巾町教育委員会），

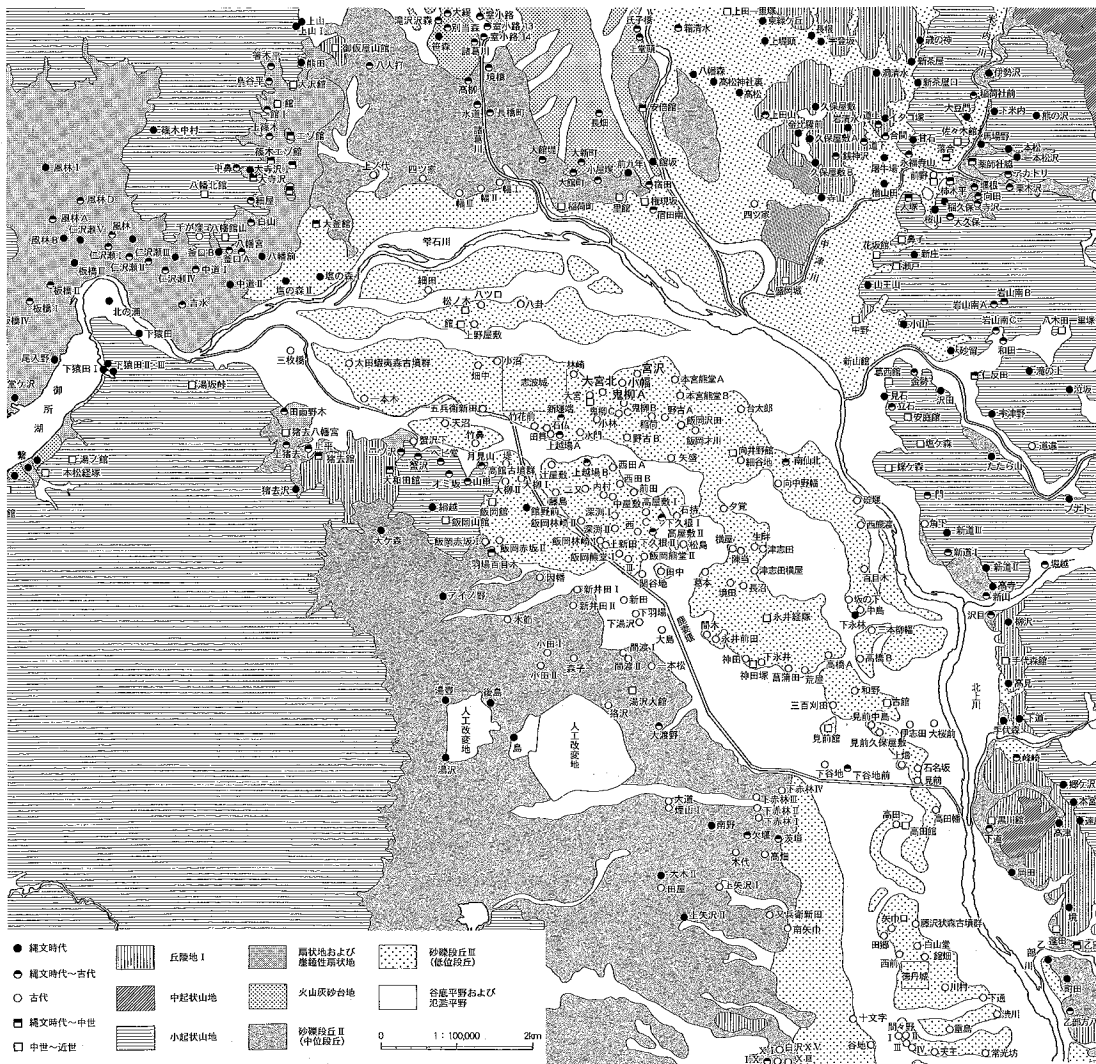


## II 遺跡群の位置と環境

### 1 地理的環境

岩手県盛岡市は岩手県の中央部に位置し、1992年4月に南に隣接する都南村と、2006年1月には北に隣接する玉山村と合併し、人口300,215人（平成19年3月1日現在、平成17年国勢調査人口に基づく推計人口）、面積886.47km<sup>2</sup>の県庁所在地である。

現在、市街地南西部の313.5 haを対象に土地区画整理事業（盛岡南新都市開発整備事業）が実施されている。事業主体は独立行政法人都市再生機構（旧地域振興整備公団）で、平成3年12月に事業認可を受け、平成7年11月に着工した。これにともない、当市教育委員会では、事業区域内の埋蔵文化財試掘調査を平成5年度から実施している。



第1図 地形分類と遺跡分布図 (1:100,000)

**遺跡群** 本遺跡群は、盛岡南新都市開発整備事業域内の16遺跡、大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡・稲荷遺跡・本宮熊堂A遺跡・本宮熊堂B遺跡・野古A遺跡・台太郎遺跡・向中野館遺跡・細谷地遺跡・南仙北遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・矢盛遺跡・夕覚遺跡が該当し、盛岡市本宮字大宮・字小幅・字宮沢・字鬼柳・字熊堂・字稲荷・字野古・字北、向中野字千刈田・字台太郎・字向中野・字八日市場・字野原・字才川・字細谷地・字鶴子・字幅、飯岡新田1地割沢田・2地割才川・3地割矢盛などに立地する。

**地形** 盛岡市は、岩手県から宮城県を南流する北上川に中津川・雫石川・築川といった支流の合流点である北上盆地の北端に位置し、本遺跡群は、北上川の西岸と北上川の支流である雫石川の南岸に広がる沖積段丘上に立地する。雫石川は奥羽山脈から東流し、鳥泊山と箱ヶ森に挟まれた北の浦付近(市内上太田)で急激に流路を狭められ、その狭窄部を抜け北上盆地に入り、北上川と合流する。雫石川の北岸には岩手山を供給源とする火山砕石流堆積物と火山灰層がのる台地が発達していることにより、狭窄部以東の南岸に流路転換が顕著に見られ、沖積段丘(砂礫段丘Ⅲ)が発達している。

沖積段丘は、水成砂礫層を基底とし、その上に水成シルト層、そして表土が覆っている。基本層はおおむねこの3層に分類されるが、砂礫層の上面高をはじめ、それぞれの層相・層厚は地点によって大きく異なる。また、このシルト層は旧河道ばかりでなく、微高地などにも堆積している。このことは、この低位沖積段丘は、雫石川が周辺の山地から供給される砂礫やシルトによって堆積され、さらに河道の定まらない雫石川の下刻や堆積を繰り返されたことによるものと言える。雫石川の旧河道は幾筋も確認されており、連続する大きなものは4条、そのほかにも網目状に細かな旧河道も確認されており、複雑な河道変遷を示す。それらに画された微高地に、古代を中心とした遺跡が分布している。

## 2 歴史的環境

本遺跡群の立地する平野部周辺には、縄文時代～古墳時代にかけての遺構遺物の発見例はわずかであり、遺跡のほとんどは7世紀中葉以降の集落遺跡である。

**縄文** 縄文・弥生時代の遺構遺物は、本宮熊堂A遺跡や台太郎遺跡で晩期を中心とする竪穴住居跡や遺物包含層が検出されている。その他の各遺跡からは遺物が散見する程度であり主体的なものではない。また、時期を特定する要素は乏しいが、飯岡才川遺跡など、多くの遺跡で陥し穴が確認されている。

**古代** 古墳時代末、7世紀中葉の遺構遺物は、数は多くはないが台太郎遺跡などで確認されている。これ以降集落が継続的に営まれる。奈良時代、8世紀中葉以降竪穴住居跡を主体とした集落跡が増加する。この時期の集落は、大型の竪穴住居跡1棟を中心としその周囲に中～小型の竪穴住居跡が数棟ずつまとまりをもって分布する傾向がある。

9世紀、平安時代初頭(延暦22(803)年)には、本地域の西に志波城(下太田方八丁他)が造営される。志波城は東北地方経営のために朝廷が造営した城柵であり、当時の社会に大きな影響を与えたと考えられる。坂上田村麻呂によって造営された志波城は、北側を流れる雫石川の度重なる洪水の被害を受け、およそ10年で文室綿麻呂の建議により徳丹城(矢巾町西徳田)

を造営し機能を移転した。その後、徳丹城は9世紀の半ばまでにはその機能を停止し、本地域も含む東北部地域は、胆沢城（奥州市水沢区九蔵田）による一城支配の体制となる。

以降、竪穴住居跡を主体とした集落数は増加の一途をたどる。それにともない竪穴住居跡の規模の大小差は縮小し、重複が著しく見られるようになる傾向がある。その中でも、向中野館遺跡の低湿地からの祭祀に関係すると考えられる遺物の出土や飯岡沢田遺跡の円形周溝墓群や火葬骨蔵器など、本地域内の使われ方の分化もみられる。

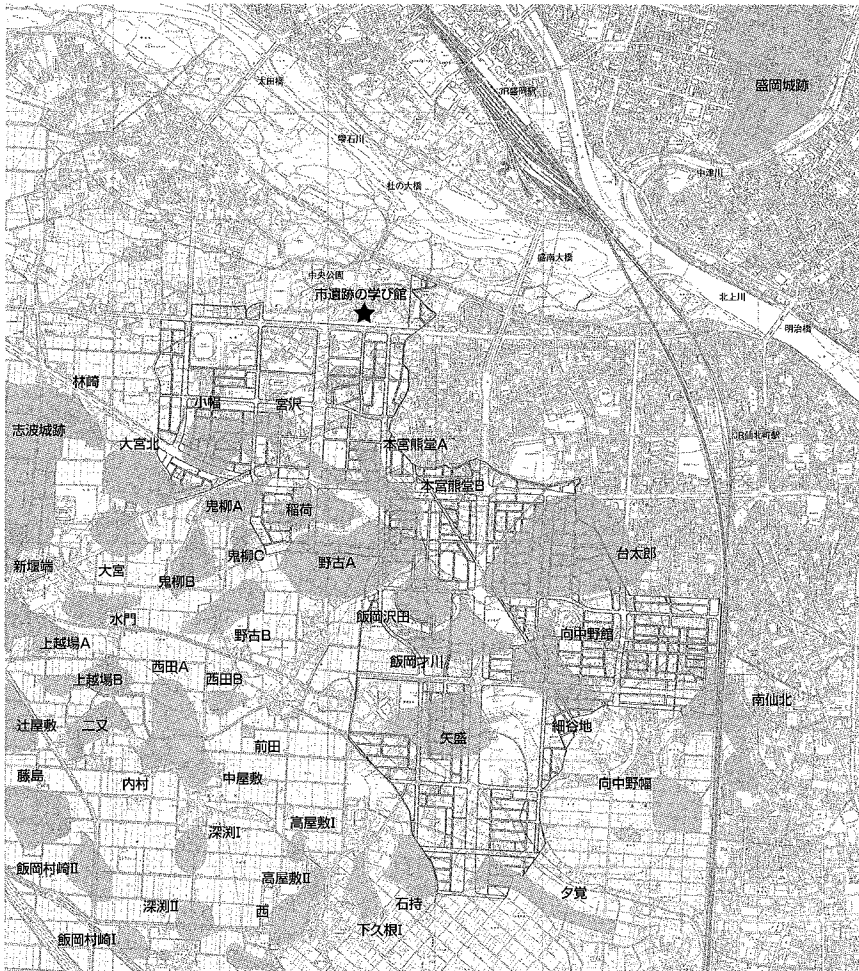
また、9世紀後葉から10世紀中葉にかけては、地域の拠点的な集落も姿を現す。細谷地遺跡では、微高地の南斜面に沿うように2×2間の総柱の掘立柱建物跡が東西に並立し、倉庫群の存在をうかがわせる。また大宮北遺跡や、本地域の北西、志波城跡の北西に隣接する林崎遺跡などで、規模の大きな官衙的な掘立柱建物跡を計画的に配置した集落も見つかっている。

11～12世紀にかけての、本地域の様相ははっきりしないが、12世紀末～13世紀初頭頃のものと思われるかわらけが、大宮遺跡の大溝跡から多量に出土している。13世紀後半には、台太郎遺跡では不整五角形のプランを持つ居館が営まれ、地域を支配した豪族の存在が想定される。さらに同遺跡では、土坑墓群や宗教施設と考えられる遺構も検出されており、出土遺物から15世紀頃までの存続が考えられる。また向中野館遺跡や矢盛遺跡でも、堀跡が検出されており、出土遺物やそのプランから16世紀代を中心とする居館跡と考えられている。

中 世

江戸時代に入ると、雫石川は現在の流路となり、旧河道の東側には奥州道中や仙北組町が開かれ、本地域は水田地帯に農家が点在する農村地帯となる。各遺跡からは曲屋などの掘立柱建物跡や土坑墓、南仙北遺跡では道路遺構などの近世の遺構が見つかり、この姿は盛南開発施行直前の本地域の様子と大きく違いが無いものと考えられる。

近 世



第2図 盛南地区遺跡群 分布図（スケールフリー）

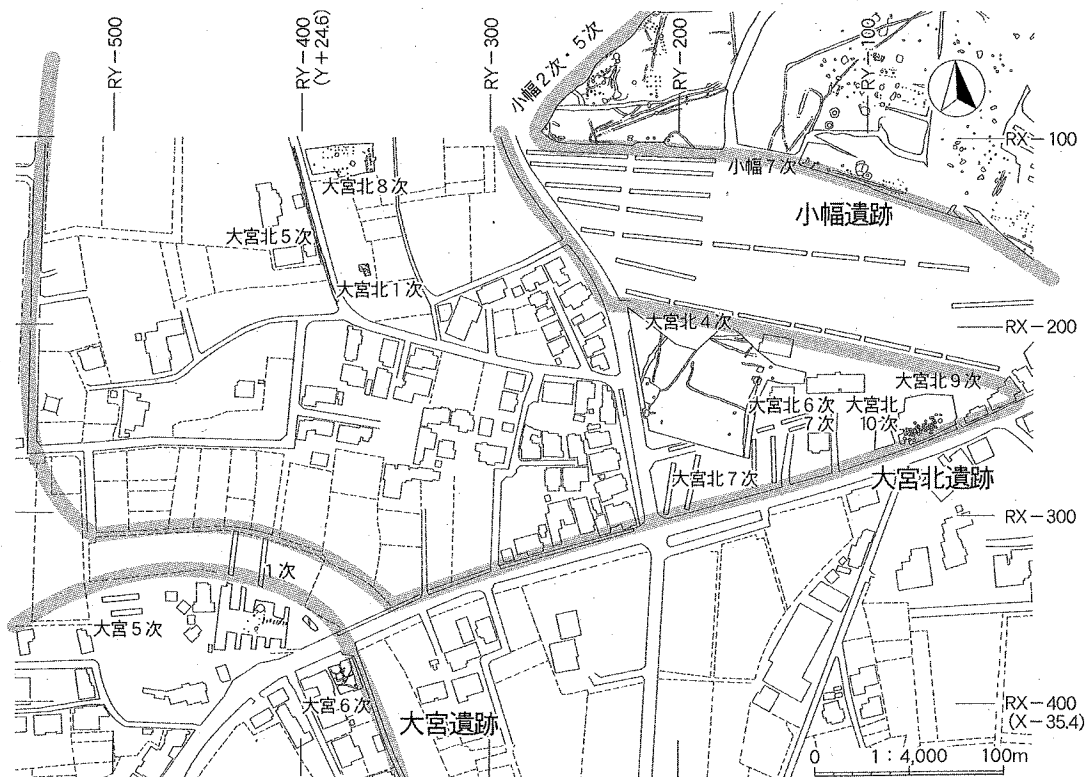
### III 調査成果

#### 1 大宮北遺跡 (第3・5・6・7・8・9次調査)

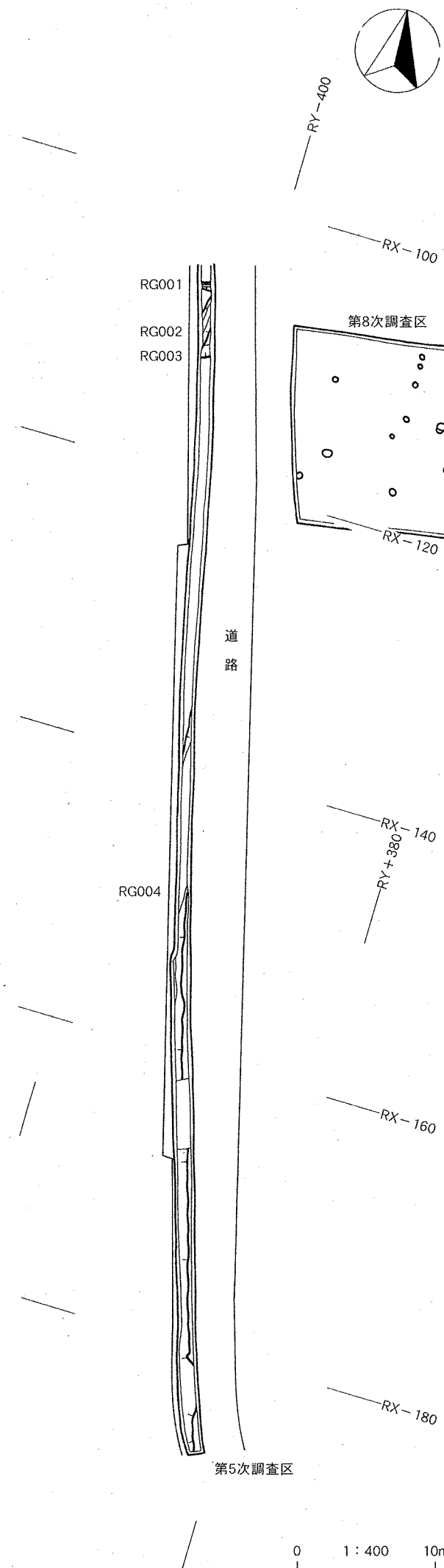
##### (1) 遺跡の概要

**位置** 大宮北遺跡は、盛岡駅から南西約2.5kmの本宮字大宮地内に位置する。盛南開発地域の北西端に位置し、現状は宅地・果樹園・田畑である。遺跡の範囲は南北約250m、東西約500mと推定され、標高は約127~129mであり、ほぼ平坦である。遺跡の北部は、雫石川の旧河道と考えられ2mほどの段丘によって画され、それ以外は1m弱の比高差が見られ他の遺跡と画される。

**周辺の遺跡** 延暦22(803)年に造営された城柵志波城跡外郭東辺から東約450mに位置し、本遺跡の北西には10世紀半ばを中心とした官衙的な掘立柱建物跡や塀跡が見つまっている林崎遺跡、南には12世紀末~13世紀初頭のもと考えられるかわらけの出土した大溝が発見されている大宮遺跡、北東には古代の集落および近世の村落跡が見つまっている小幡遺跡が、それぞれ旧河道で画されて隣接している。このうち、林崎遺跡ではコ字状に配置された掘立柱建物跡とそれを囲むように配置された塀跡をはじめ竪穴住居跡などが検出されている。10世紀半ば頃と考えられる土器が多く出土しているが、灯明皿と考えられる炭化物が付着したあかやき土器坏や「寺」字墨書が出土しており、宗教的な色彩の濃い、地域を支配した拠点的な集落だった可能性が指摘されている。これまでの調査で、本遺跡北部段丘縁には古代の集落、東部には近代の墓域などが検出されている。当市は平成5~12年度に、第3・5・6・7・8・9次にわたる調査を実施した(第1表)。



第3図 大宮北遺跡全体図 (1:4,000)



(2) 第5次調査

第5次調査区は、遺跡の北東部、位置第1次調査区の西側、第3次調査区の東側に位置する。公共下水道管敷設工事とともに、788㎡を対象に、平成10年9月1日から7日まで調査を実施し、溝跡3条などを検出した。検出面は路盤直下のシルト層で掘り込み面は失われていた。

なお諸記録は罹災しており詳細は不明な点が多い。

RG001・002・003溝跡 (第4図)

調査区北部に検出した溝跡である。RG001・003溝跡は東西方向に、RG002溝跡は南北方向に走るものである。重複関係からRG002溝跡はRG003溝跡より新しい。

規模は、検出面における上幅でRG001は0.6m、RG002は1.2m、RG003は1.6mほどをはかる。出土遺物等が罹災しており年代等は不明だが、古代以降のものと考えられる。

RG004溝跡 (第4図)

調査区中央～南部に検出した溝跡である。北東方向から南方へ調査区内で屈曲するものと考えられる。規模は、遺構の大半が調査区外に広がるため詳細は不明だが、検出面における上幅は約4mをはかるものと考えられる。出土遺物等が罹災しており年代等は不明だが、古代以降のものと考えられる。

第4図 大宮北遺跡 第5次調査区全体図 (1:400)

### (3) 第8次調査

**位置** 第8次調査区は、遺跡の北部、第1次調査の北側、第5次調査の東側に位置する。盛南開発関連代替地としての個人住宅建設にともなう調査を、平成12年6月2日から同年7月10日に、500㎡を対象に実施し、古代以降の掘立柱建物跡7棟、土坑2基、小柱穴を検出した。検出面はシルト層上面で、掘り込み面は削平されていた。調査区の東側、RY-370以東に検出したRB005~007の各遺構は、建築住宅の基礎底面が検出面に達しないよう盛土の施工をし、一部のみ精査を実施し、RY-370付近以東の遺構は地下に保存されている。各遺構の詳細な平面図や断面図等は罹災し残存していない。

#### ①検出遺構

##### R B 001掘立柱建物跡 (第5図)

**規模** 調査区北西部に検出した掘立柱建物跡である。調査区外の北側に伸びる可能性もあり、規模は南北2間もしくは3間以上、東西2間、南北総長4.65mもしくはそれ以上、東西総長4.8m、柱間は西側南北柱筋南から2.55m・2.1m、東側南北柱筋南から2.1m・2.4m、東西柱筋北側は2.4m等間、東西柱筋南側西から2.7m・2.1mをはかる。柱穴は楕円形を呈し、東西柱筋北側の中央や東西柱筋南側の中央ならびに東のものは、作り変えが見られるものもある。規模や

**時期** 柱配置から古代以降の掘立柱建物跡と考えられる。

##### R B 002掘立柱建物跡 (第5図)

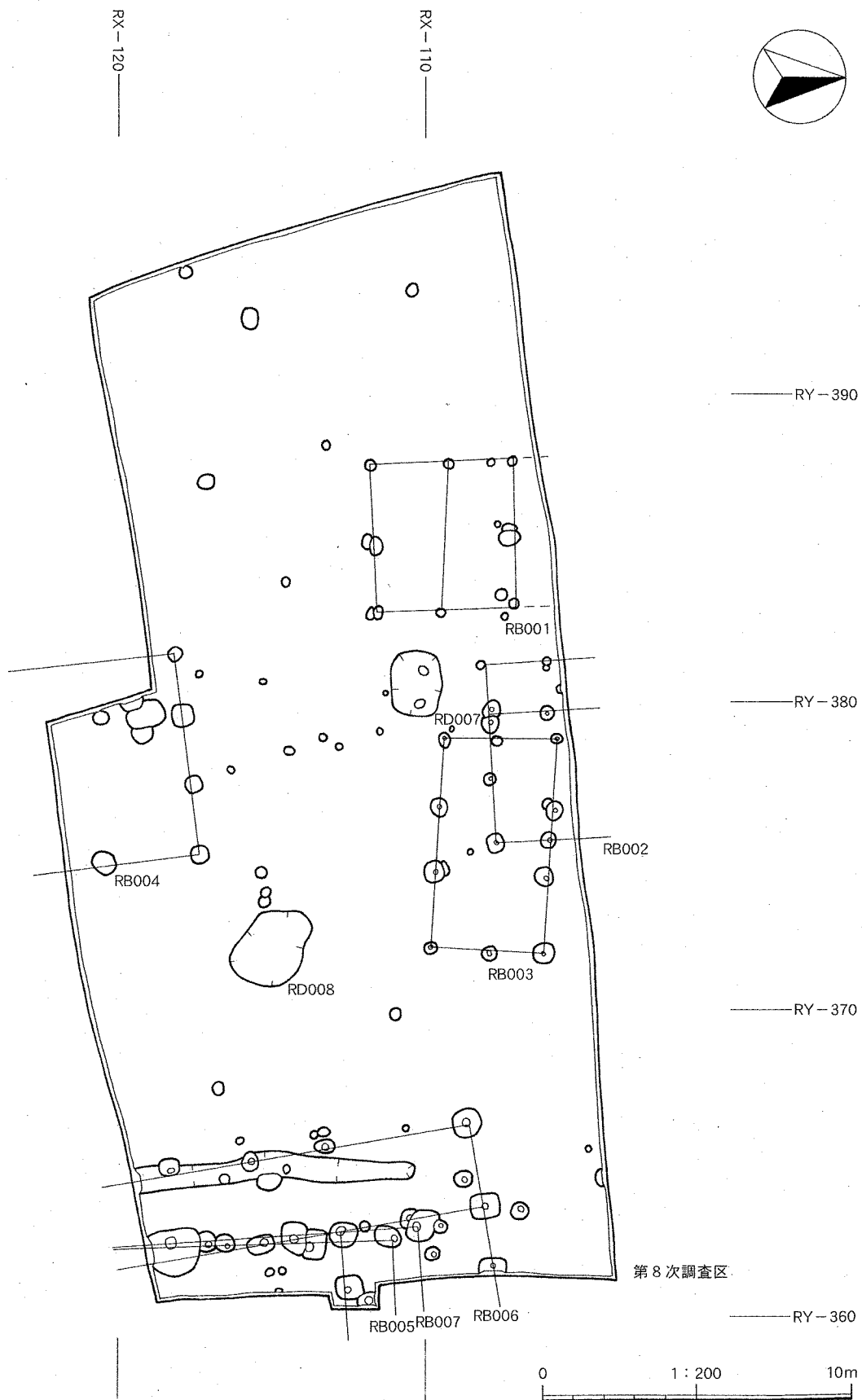
**規模** 調査区北部に検出した南北棟と考えられる掘立柱建物跡である。調査区の北側に伸びる可能性が高い。規模は桁行2間以上、梁行2間、西側桁行に1間の庇もしくは縁が付く。桁行総長2.5m以上、梁行総長5.7m、身舎の梁行長4.2m、柱間は身舎の桁行西側柱筋1.95m、同東側柱筋1.7m、身舎の梁行は2.1m等間、庇もしくは縁は桁行2.1m、梁行1.5mをはかる。身舎の柱穴は隅丸方形から楕円形を呈し、それぞれ柱痕跡を確認した。庇もしくは縁の柱穴は小ぶりで円形を呈する。規模や柱配置から古代の掘立柱建物跡と考えられる。

##### R B 003掘立柱建物跡 (第5図)

**規模** 調査区北部に検出した東西棟の掘立柱建物跡である。規模は桁行3間、梁行2間、桁行総長南側柱筋6.8、北側柱筋7.0m、梁行総長3.7m、柱間は桁行南側柱筋西側から2.25m・2.15m・

**棟方向** 2.4m、同北側柱筋西側から2.4m・2.2m・2.4m、梁行は1.85m等間をはかる。建物棟方向の傾きはW4.5° Nをしめす。柱穴は隅丸方形から楕円形を呈し、それぞれ柱痕跡を確認した。

**時期** 作り変えの確認できるものもある。規模や柱配置から古代以降の掘立柱建物跡と考えられる。



第5図 大宮北遺跡 第8次調査 全体図

#### R B 004掘立柱建物跡 (第 5 図)

規模 調査区南部に検出した南北棟と考えられる掘立柱建物跡である。調査区の南側に伸びる可能性が高い。規模は桁行 2 間以上、梁行 3 間、桁行総長 4.2m 以上、梁行総長 6.6m、柱間は桁行東側柱筋北側が 3.3m、梁行は西から 2.1m・2.25m・2.25m をはかる。身舎の柱穴は隅丸方形もしくは不整楕円形を呈する。北西隅の柱穴が他のものよりも若干規模が小さいこと、梁行の西から 1 間目の柱穴の南側に柱穴の可能性のあるピットが検出されていることから、梁行西 1 間分は庇もしくは縁の可能性もあるが、柱筋が不明瞭であり不明である。規模や柱配置から古代の掘立柱建物跡と考えられる。

#### R B 005掘立柱建物跡 (第 5 図)

規模 調査区東部に検出した南北棟と考えられる掘立柱建物跡である。重複関係から RB006・007 掘立柱建物跡より古い。調査区の東側に伸びる可能性が高い。規模は桁行 4 間以上、梁行 1 間以上、桁行総長 8.0m 以上、梁行総長 1.4m 以上、柱間は桁行柱筋が 2.7m 等間をはかる。柱穴は隅丸方形もしくは不整楕円形を呈する。桁行柱筋の西側約 2.1m の位置に、幅 0.5~0.8m ほどの溝が平行に走る。雨落ち溝の可能性もある。規模や柱配置から古代の掘立柱建物跡と考えられる。

#### R B 006掘立柱建物跡 (第 5 図)

規模 調査区東部に検出した南北棟と考えられる掘立柱建物跡である。重複関係から RB005 掘立柱建物跡より新しく、RB007 掘立柱建物跡より古い。調査区の東側に伸びる可能性が高い。規模は桁行 4 間以上、梁行 1 間以上、桁行西側柱筋に 1 間分の庇もしくは縁がつく。桁行総長 10.7m 以上、庇または縁を含んだ梁行総長 5.0m 以上、柱間は身舎桁行が 2.4m 等間、庇または縁の桁行が北から 2.1m・2.7m・2.4m・2.4m、身舎梁行は 1.8m、庇または縁の梁行は 2.7m をはかる。柱穴は隅丸方形もしくは不整楕円形を呈する。庇もしくは縁の桁行 1 間目の柱穴は、規模が特に小さい。柱穴の周辺には、足場穴のもの可能性のある小柱穴が散見する。規模や柱配置から古代の掘立柱建物跡と考えられる。

#### R B 007掘立柱建物跡 (第 5 図)

規模 調査区東部に検出した南北棟と考えられる掘立柱建物跡である。重複関係から RB005・006 掘立柱建物跡より新しい。調査区の東側に伸びる可能性が高い。規模は桁行 3 間以上、梁行 1 間以上。桁行柱筋北側 1 間分は庇もしくは縁、または間仕切りと考えられるが詳細は不明。桁行総長 8.6m 以上、梁行総長 2.4m 以上。柱間は桁行が庇もしくは縁、または間仕切りと考えられる 1 間分を含め北から 2.4m・2.4m・3.0m、梁行は 1.6m をはかる。柱穴は隅丸方形もしくは不整楕円形を呈する。規模や柱配置から古代の掘立柱建物跡と考えられる。



#### R D007土坑（第5図）

調査区中央部に検出した東西に長い不整隅丸方形を呈する土坑である。規模は長軸約2.1m、短軸約1.7mほどである。断面形は浅い皿状を呈する。底面に2口の小ピットが検出された。何らかの施設の可能性がある。出土遺物から古代の土坑と考えられる。

#### R D008土坑（第5図）

調査区中央部に検出した不整楕円形を呈する土坑である。規模は東西長軸約2.8m、南北短軸約2.2mほどである。断面形は浅い皿状を呈する。検出面および埋土中から、あかやき土器の高台付坏や坏などの、意図的に割られたようにかがえる破片が多量に出土した。土器廃棄土坑の可能性ある。出土遺物から古代の土坑と考えられる。

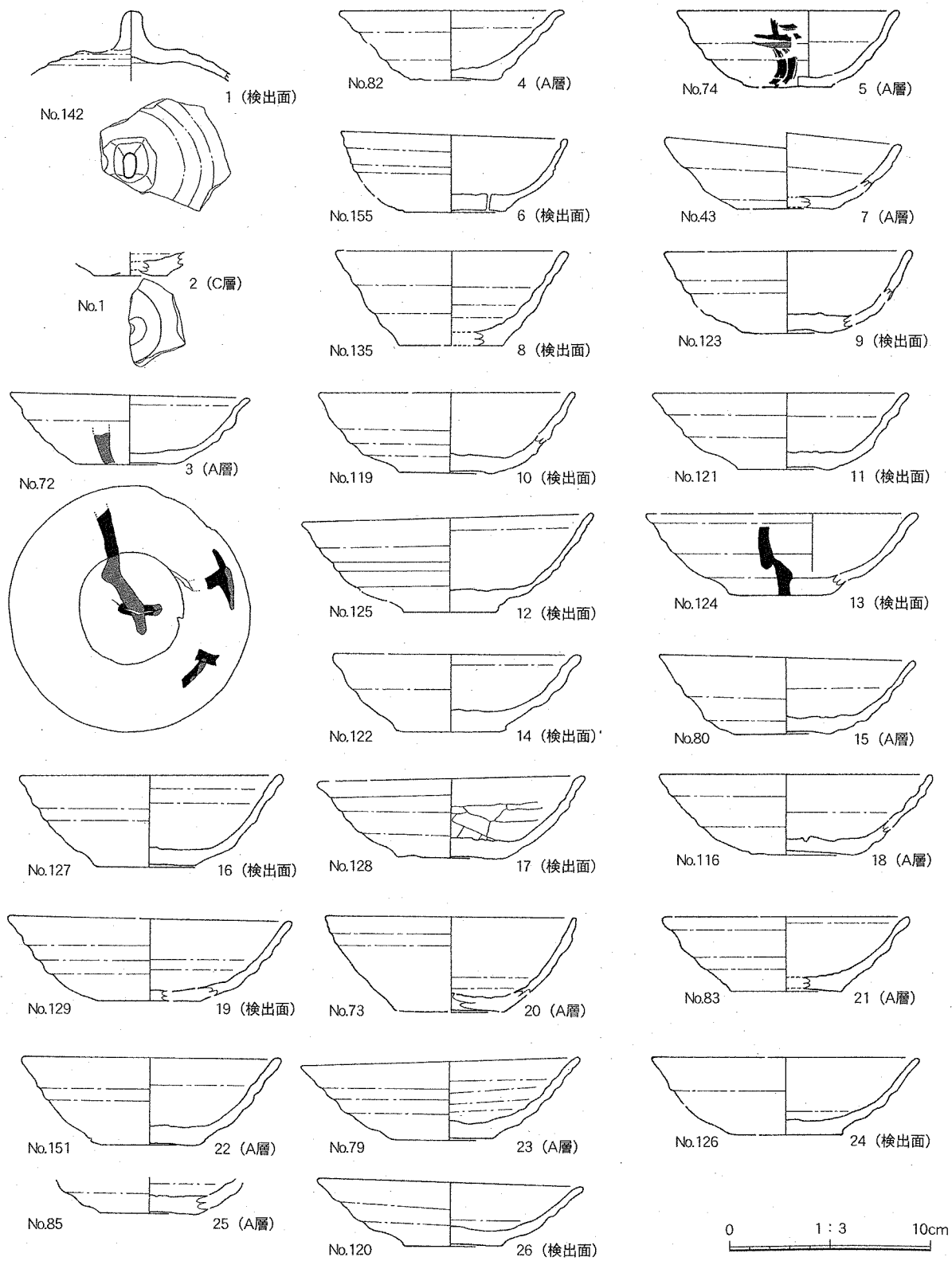
#### ②出土遺物（第6～8図・第5表）

今次調査区付近は、耕作土中に多くの土器片が散布している。調査区内において、表土中および遺構検出面、RB001・003掘立柱建物跡堀方検出面および埋土、RD007・008土坑検出面および埋土、その他小ピット検出面および埋土から、須恵器の坏・甕・長頸瓶、あかやき土器の坏・高台付坏・耳皿、土師器の蓋・坏・甕、あわせておよそコンテナ5箱分出土した。また僅かではあるが縄文土器の小破片、古代以降の砥石、古代以降の鉄釘、近世以降の陶磁器、古代以降の炭化物も出土した。

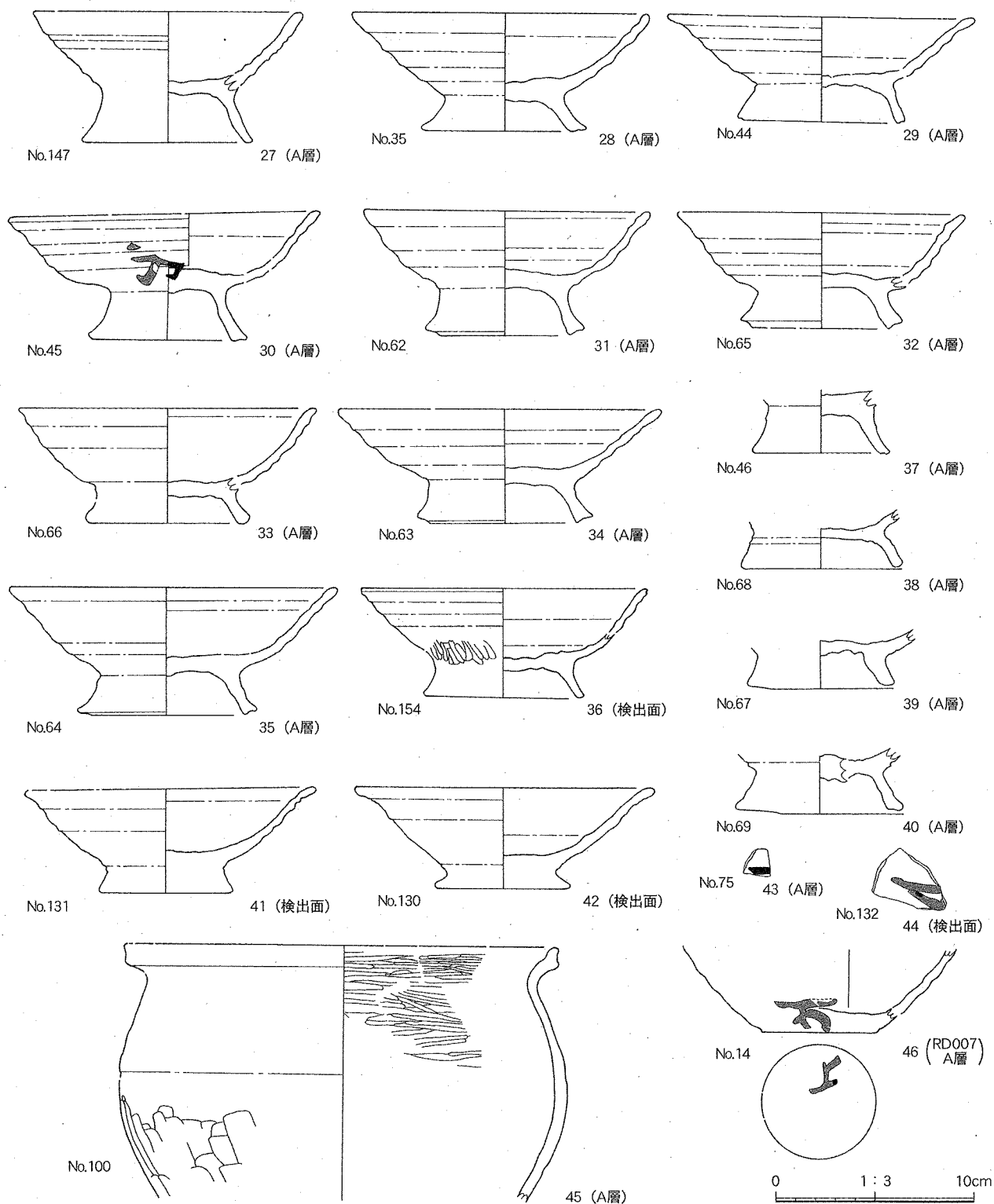
概観すると、遺構にともなわない遺物は摩滅した小破片が多く、図示できるものは少ない。RD008土坑出土のものは、接合する資料が多く出土したが、坏類に比べて甕類の出土が極めて少ない。土器廃棄の土坑と考えられる。

#### （4）第3・6・7・9次調査

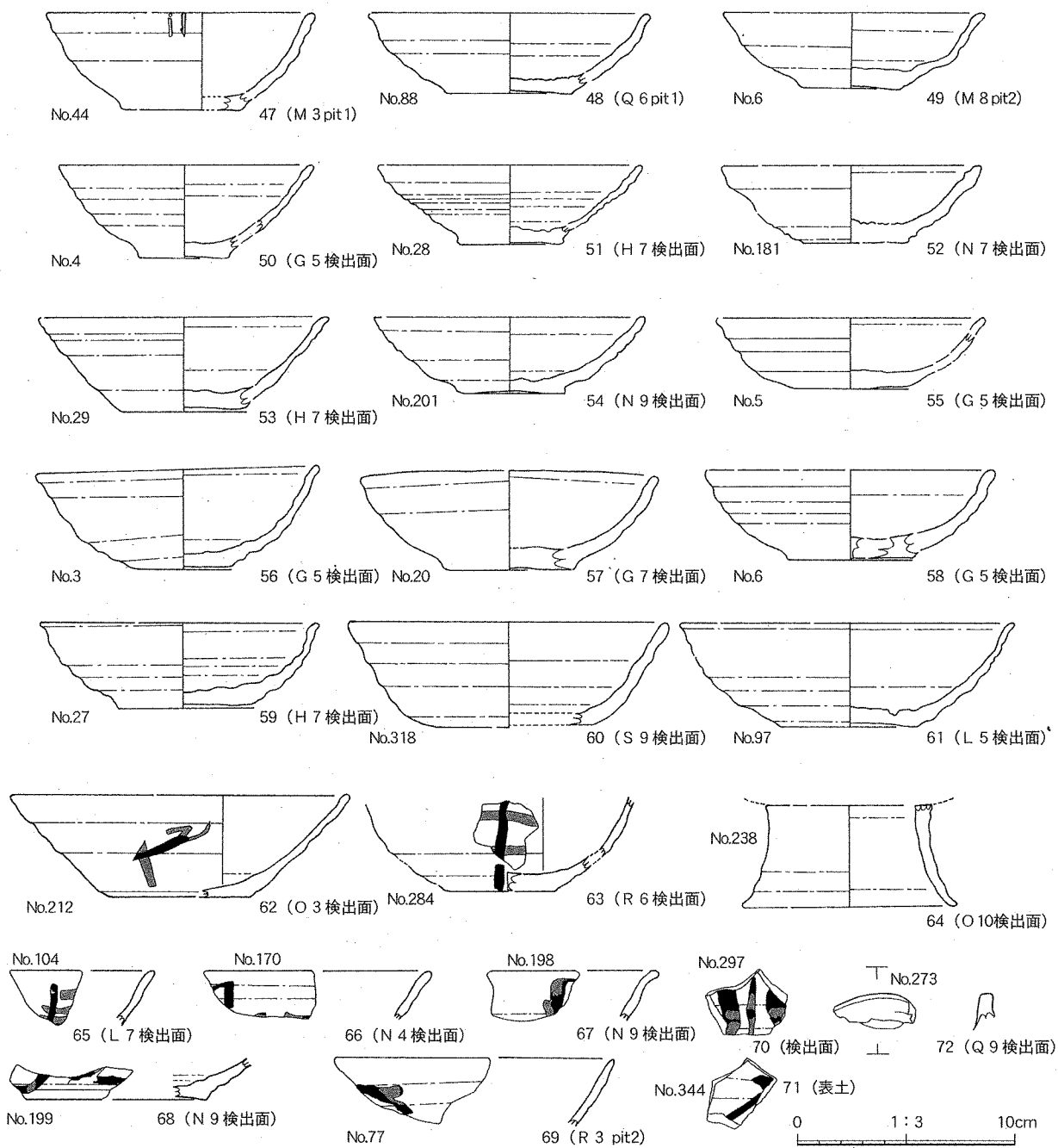
第3次調査区は、遺跡の北部、第1次調査の北側、第5次調査の西側に位置する。盛南開発  
第3次調査  
関連代替地としての個人住宅建設にともなう試掘調査を、平成3年7月13日に、41㎡を対象に  
実施し、遺構遺物は検出されなかった。第6次調査区は、遺跡の南部に位置する。盛南開発に  
第6次調査  
ともなう試掘調査を平成11年9月1日から同年9月7日まで120㎡を対象に実施し、遺構遺物  
は検出されなかった。第7次調査区は遺跡の南部に位置する。盛南開発にともなう試掘調査を  
第7次調査  
平成12年5月23日に実施し、遺構遺物は検出されなかった。第9次調査区は遺跡の東部に位置  
第9次調査  
する。盛南開発にともなう調査を平成12年5月23日から同年6月1日まで792㎡を対象に実施  
し、近世および近代の土坑墓60基を検出した。上記の詳細な平面図や断面図および出土遺物、  
諸記録等は罹災し残存していない。



第6図 大宮北遺跡 第8次調査R D008土坑出土遺物 (1:3)



第7図 大宮北遺跡第8次調査R D007・008土坑出土遺物 (1:3)



第8図 大宮北遺跡第8次調査ピット、遺構外出土遺物 (1:3)

## 2 小幅遺跡 (第1・3・8・9・12・17次調査)

### (1) 遺跡の概要

**位置** 小幅遺跡は、盛岡駅から南西約2.5kmの本宮字大宮地内に位置する。盛南開発地域の北西部に位置する。区画整理事業前は宅地・田畑・果樹園などが広がっていた。遺跡の北部から西部は、雫石川の旧河道と考えられる2mほどの段丘によって画され、それ以外は1m弱の比高差が見られ他の遺跡と画されている。遺跡の範囲は南北約250m、東西約550mと推定され、標高は約125～127mであり、ほぼ平坦である。

**周辺の遺跡** 城柵志波城跡外郭東辺から東約800mに位置し、本遺跡の南西には10世紀後半を中心とした掘立柱建物跡がみつまっている大宮北遺跡が隣接しているほか、東には宮沢遺跡、南には鬼柳A遺跡が、それぞれ旧河道によって画されている。

これまでの調査で、古代の集落および近世の集落が検出されている。当市教育委員会では平成5～12年度に、盛南開発にともなう発掘調査を、第1・3・8・9・12・17次にわたって実施した(第9図・第1表)。遺構は、ほぼ後世の耕作等による削平を受けている。各遺構の諸記録や各図・出土遺物が罹災した。

### (2) 竪穴住居跡 (RA)

縄文時代の竪穴住居跡を1棟(RA041)、古代の竪穴住居跡を14棟(RA019～031, 039)を検出した。

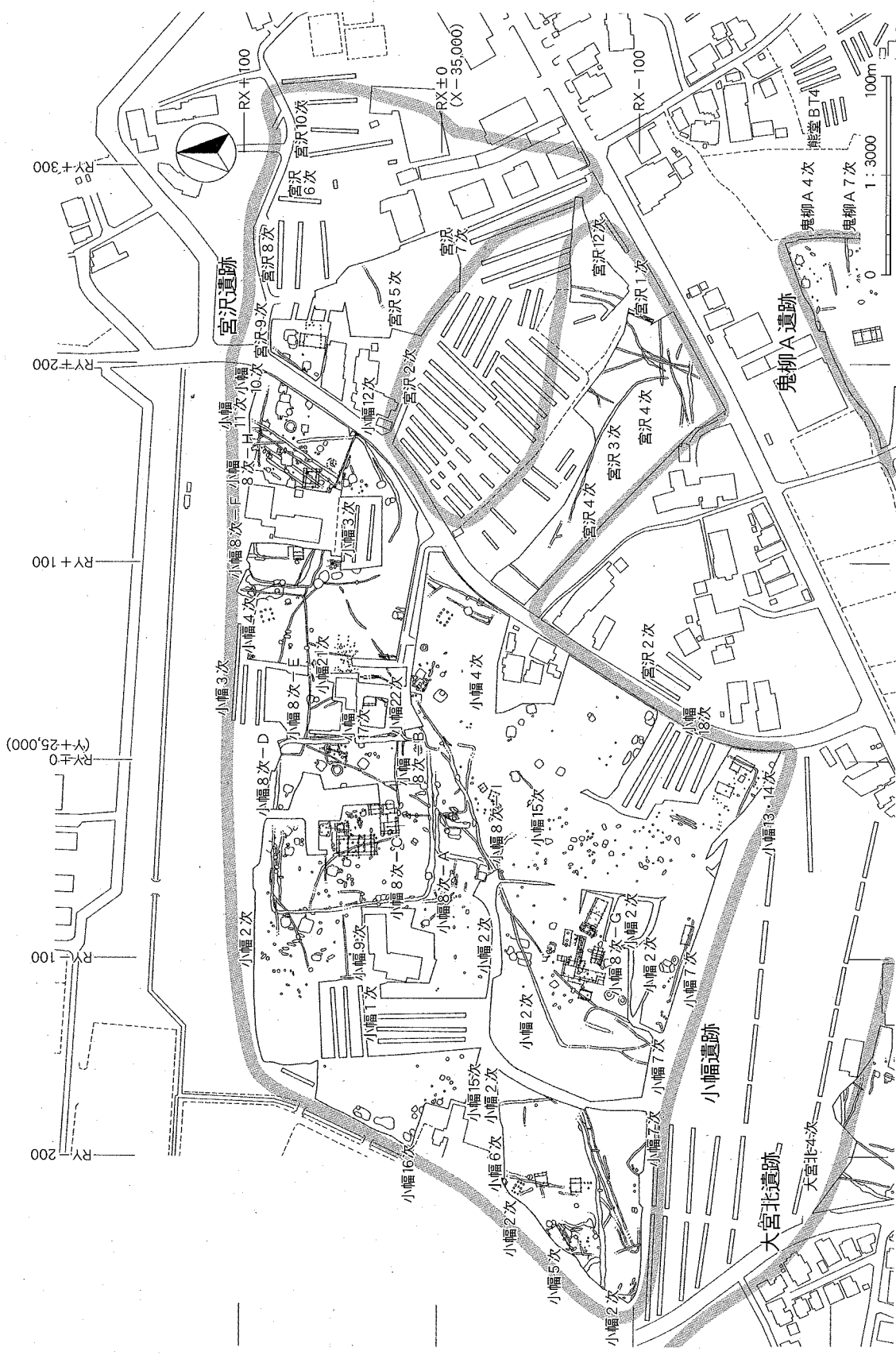
#### RA041竪穴住居跡 (第10図)

<b>位置</b>	H区	<b>平面形</b>	不正円形	<b>規模</b>	4.60m×5.20m×0.00m
<b>主軸方向</b>	N00° E	<b>重複関係</b>	RD316土坑に切られる	<b>埋土</b>	削平
<b>壁</b>	削平	<b>床</b>	地山面	<b>炉</b>	石囲炉
				<b>遺物</b>	なし

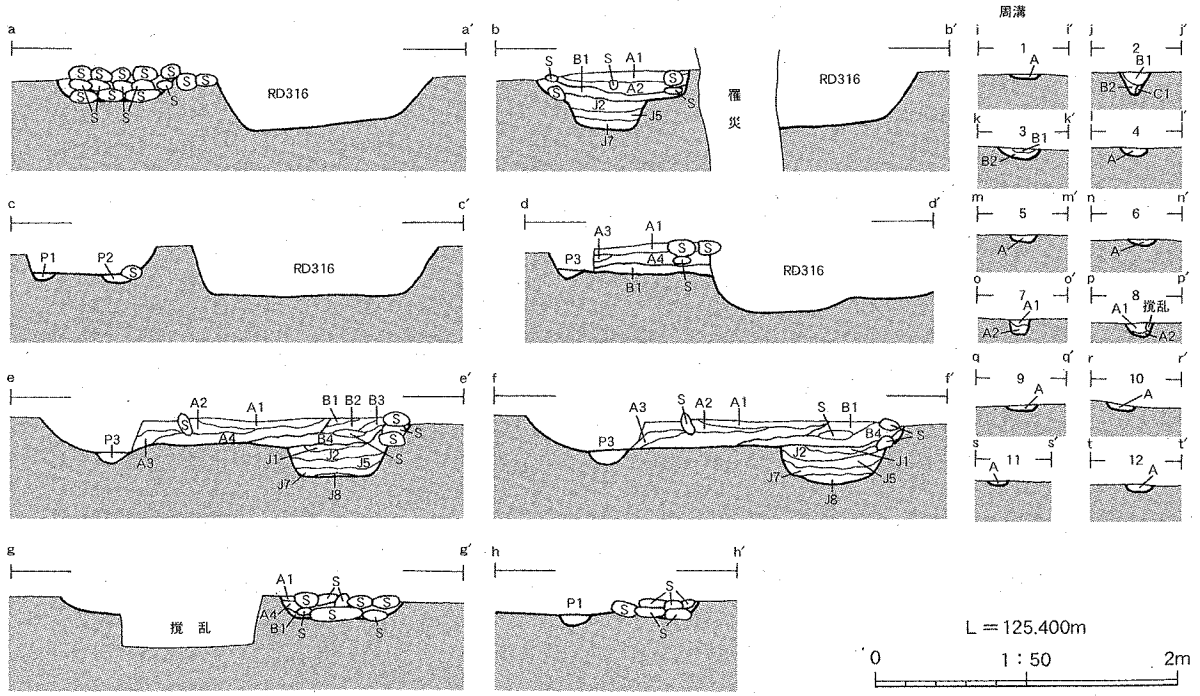
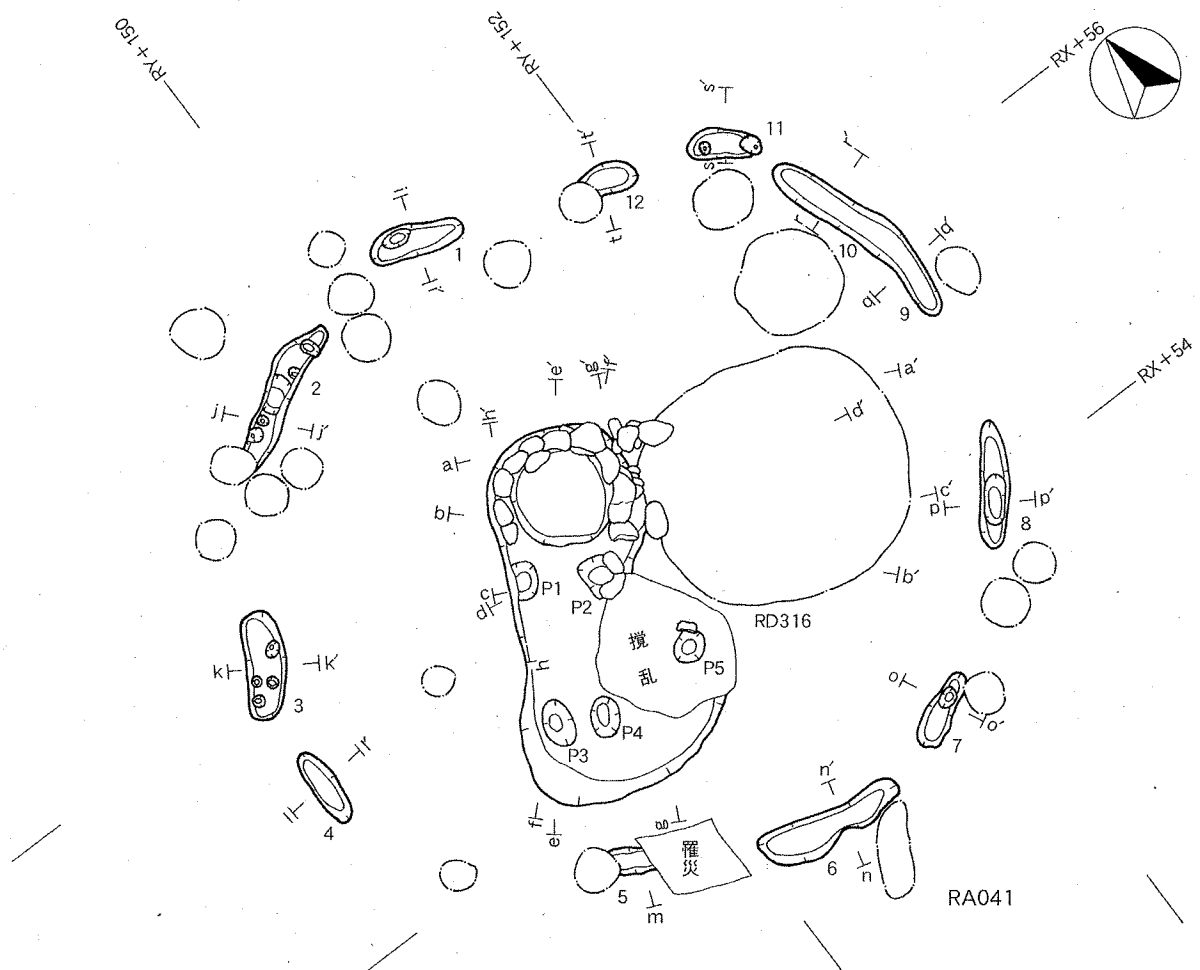
削平されており、炉と周溝のみが残存。縄文時代晩期の竪穴住居跡と考えられる。

#### RA019竪穴住居跡 (第11・12図)

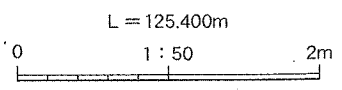
<b>位置</b>	C区	<b>平面形</b>	方形	<b>主軸方向</b>	E18° S
<b>規模</b>	東西5.18m, 南北4.94m, 検出面からの深さ30～38cm				
<b>重複関係</b>	RD227・228土坑に切られる				
<b>埋土</b>	A, Bの2層に大別され、各層はさらに細別。				
<b>床</b>	褐色土に暗褐色土を含む平坦な床構築土(D層)の上面。ほぼ全面が硬化(D2層)。				
<b>カマド</b>	東辺北寄りに1基。南基底部のみ残存。煙道形態は掘り込み式か。煙道は長さ1.42m, 幅60cm, 検出面からの深さは約60cm。煙道部は床面よりも若干窪み、底面はわずかに煙出しに向かって傾斜。構築土は褐色土(K層)を主体。煙道内は暗褐色土褐色土を主体に焼土炭化物を含む流入土(J層)が堆積。焚口は、前面に径約1.0m程度の焼土を検出。				
<b>ピット</b>	床面及び壁面に15口検出。支柱穴はP3・7・12と考えられる。P8・9・10は壁際にあることから、出入口の柱穴の可能性もある。				

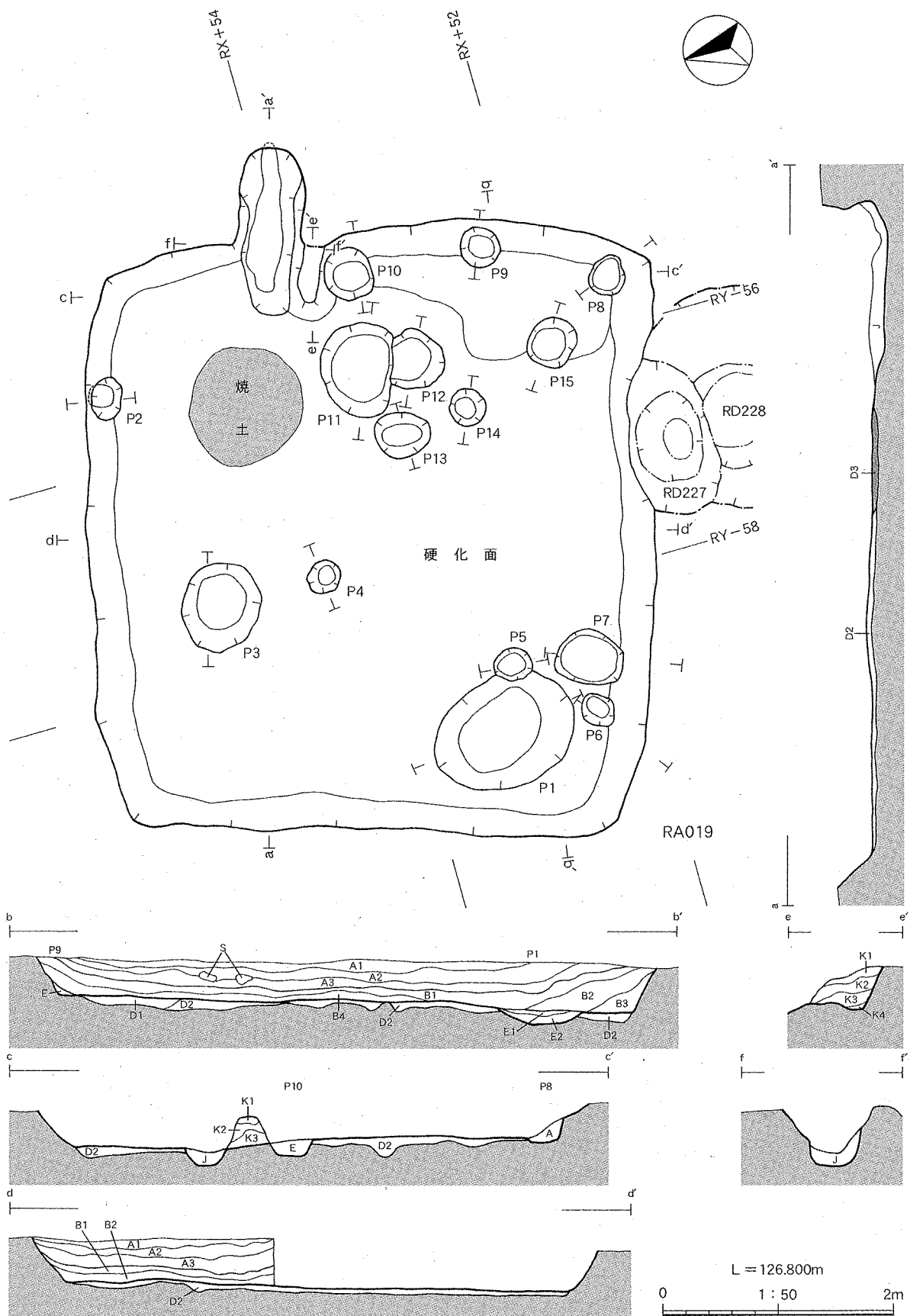


第9図 小幡遺跡・宮沢遺跡全体図 (1:3,000)



第10图 小幅遺跡 R A041 竖穴住居跡





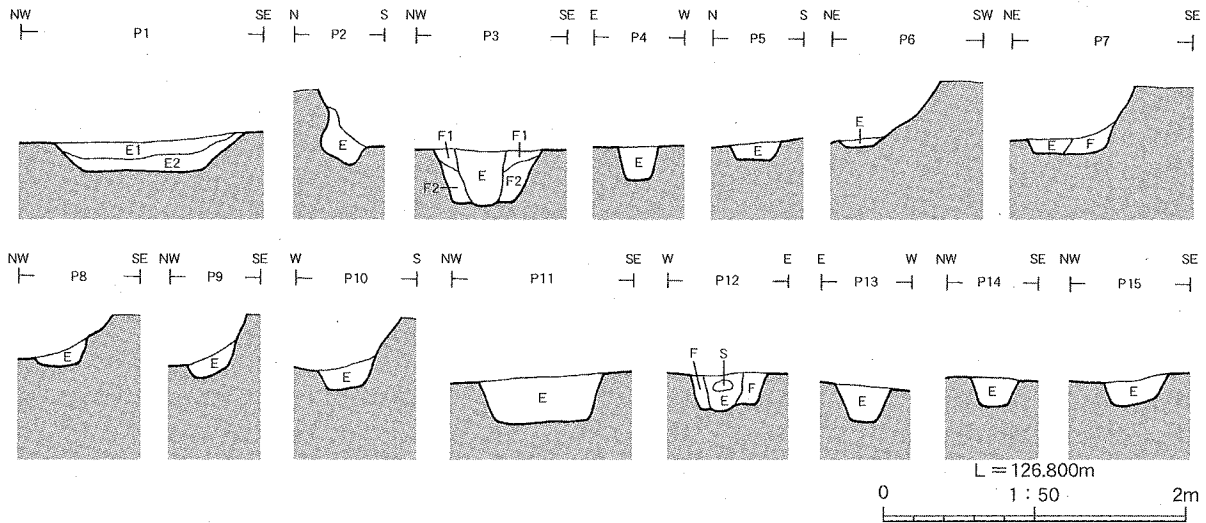
第11图 小幅遺跡 R A019 竖穴住居跡平面図・断面図



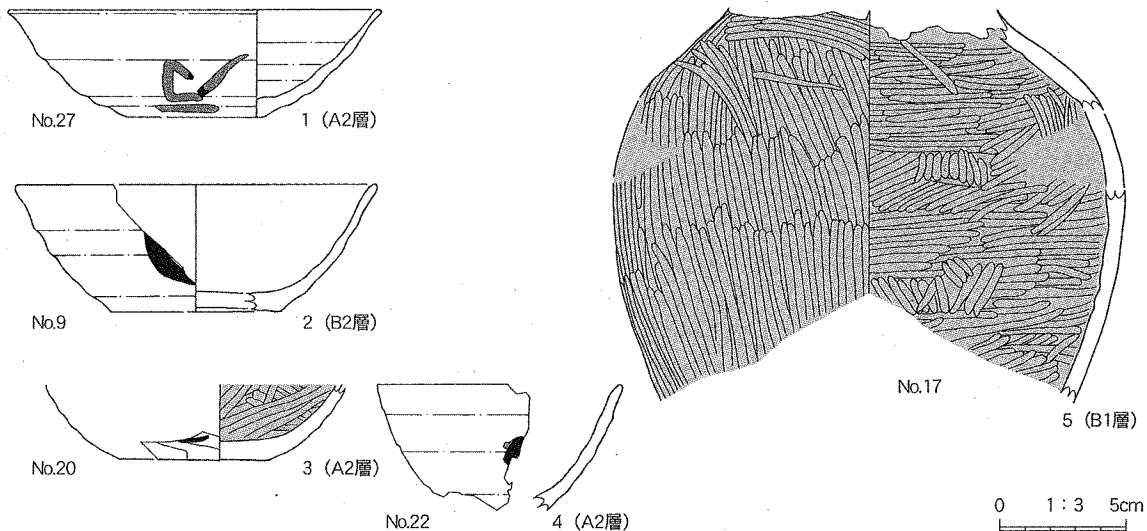
遺物（第13図・第6表） 須恵器の坏・大甕，あかやき土器の坏，土師器の坏・甕などが出土。凶化できたものは5点。1は須恵器の坏である。底部糸切無調整。体部外面に墨書がある。倒位で「万」と読める。2・4はあかやき土器の坏である。2は口縁部から底部まで1/3ほど残存。底部糸切無調整。体部外面に墨書が認められる。4は口縁部から体部の一部が残存。体部外面に墨書が認められる。3は土師器の坏である。ロクロ整形，内面ヘラミガキ，黒色処理が施される。体部外面に墨書が認められる。5は土師器の球胴状の壺（？）である。頸部から体部まで残存している。内外面共にヘラミガキ，黒色処理が施される。

R A 020 竪穴住居跡（第14図）

位置 C区 平面形 方形 主軸方向 E4° N  
 規模 東西3.50m，南北3.57m，検出面からの深さ30~42cm 重複関係 なし  
 埋土 A，B，Cの3層に大別され，各層はさらに細別。  
 床 褐色土に暗褐色土を含む平坦な床構築土（D層）の上面。硬化面が認められるが構築土の差異は明確ではない。

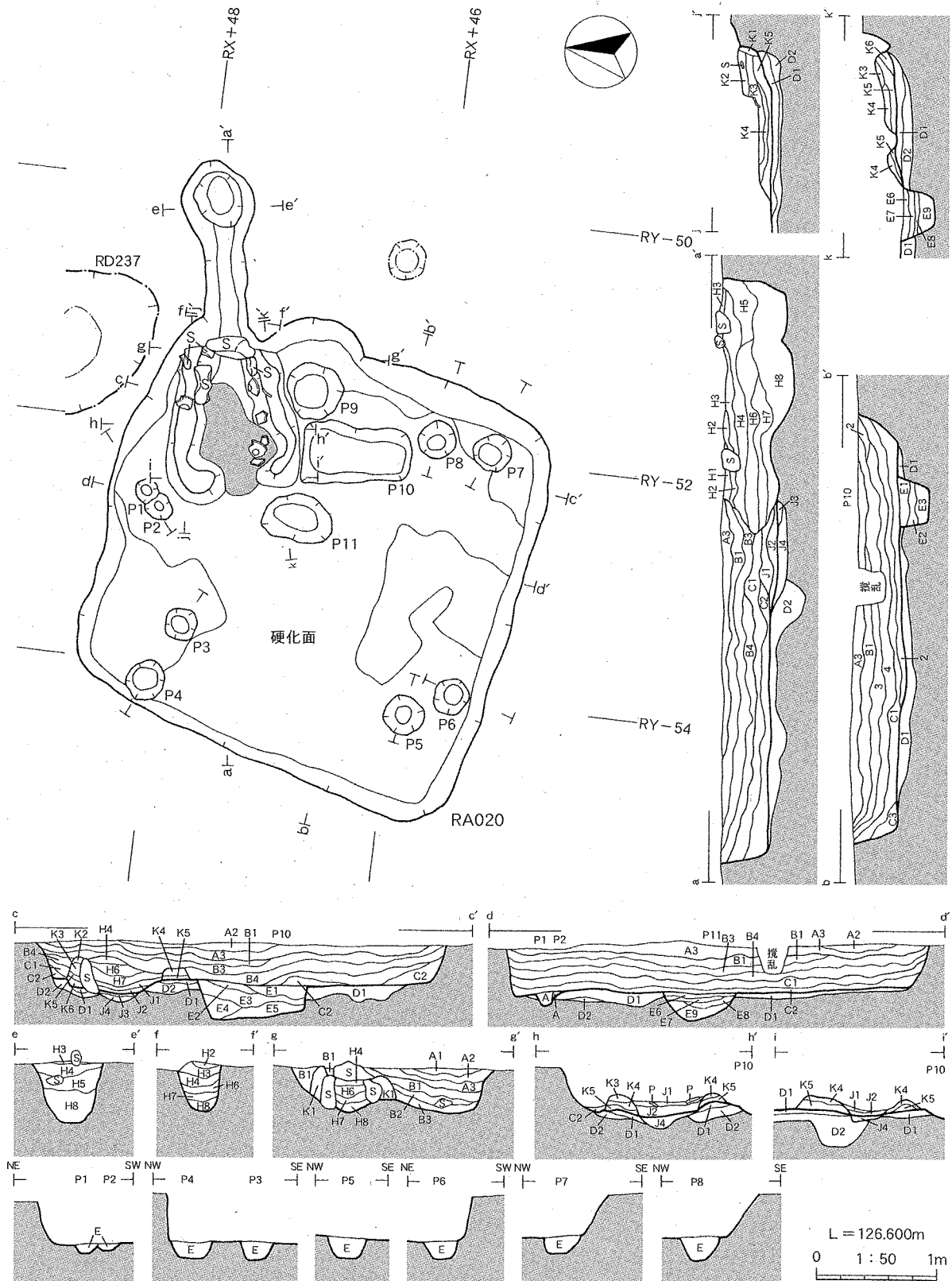


第12図 小幡遺跡 R A 019 竪穴住居跡断面図



第13図 小幡遺跡 R A 019 竪穴住居跡出土遺物

カマド 北東隅に東向きに1基。煙道形態は掘り込み式か。煙道は長さ1.54m、幅30~35cm、検出面からの深さは約38~58cm。煙道部は床面よりも一部高まりを持ち、煙出しに向かって傾斜。煙出しはピット状に窪む。基底部構築土は褐色土（K層）を主体。カマド埋土（J層）は暗褐色土褐色土を主体に焼土炭化物を含む。煙道は、褐色土を主体とした崩壊土および流入土（H層）が堆積。焚口は基底部にはさまれた径90×60cm程度の焼土を検出。基底部周辺には礫や土器が



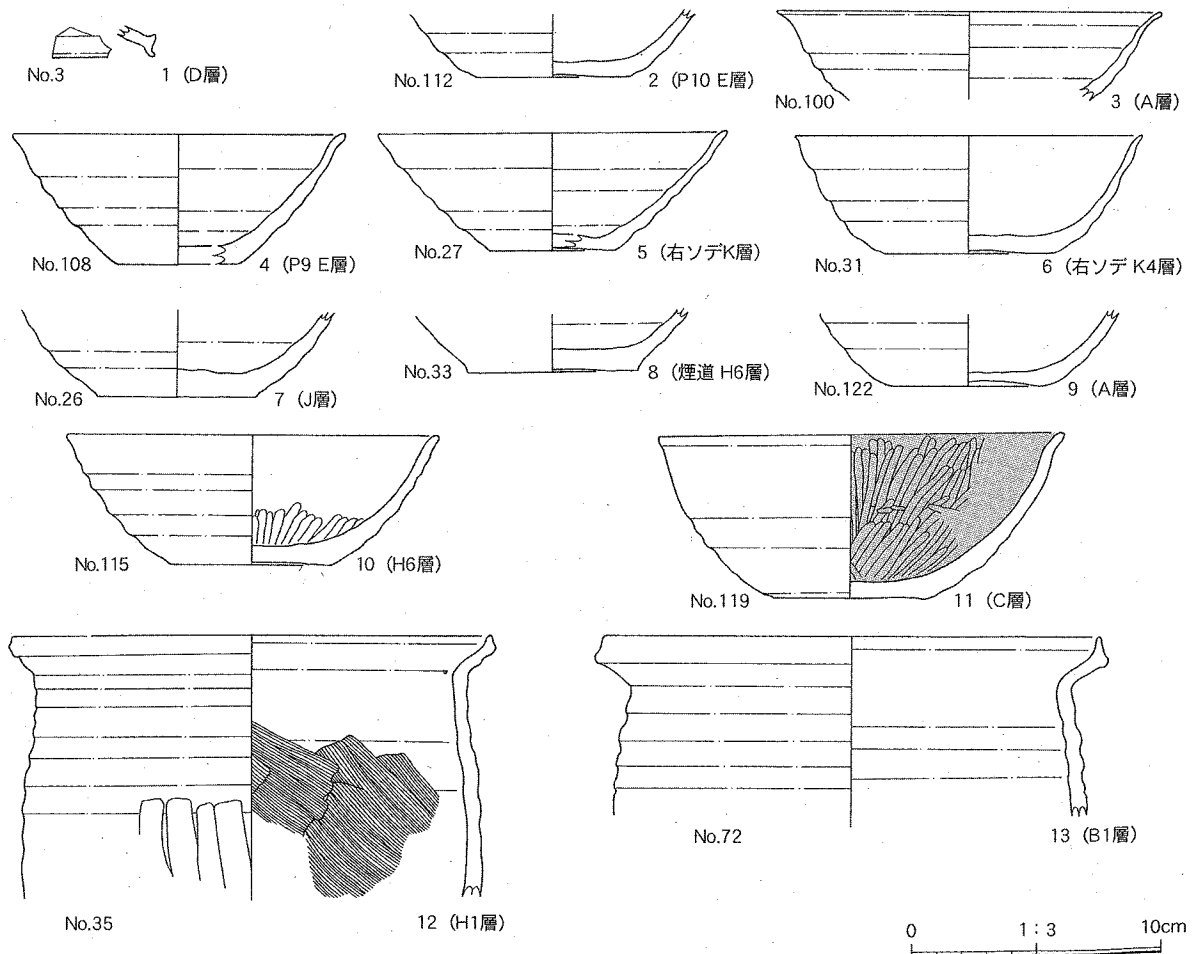
散乱。

ピット 床面及び壁面に11口検出。支柱穴はP 1～8と考えられる。それぞれ2口ずつセットになっており、作り変えの可能性がある。P 9・10は貯蔵穴の可能性ある。

遺物(第15図・第6表) 須恵器の坏蓋・坏・甕, あかやき土器の坏・甕, 土師器の坏・甕・長頸瓶, またカマド脇貯蔵穴から砥石が出土。図化できたものは土器13点。1は須恵器の坏蓋である。口縁部の小破片である。2・3は須恵器の坏である。4～9はあかやき土器の坏である。10・11は土師器の坏である。ロクロ整形・内面にはヘラミガキが施される。12・13はあかやき土器の甕である。体部外面はヘラケズリ, 内面はヘラナデ, 口縁部は外反し直立する。

RA021竪穴住居跡(第16図)

位置	C区	平面形	方形	主軸方向	E4° S
規模	東西6.04m, 南北5.64m, 検出面からの深さ30~42cm			重複関係	なし
埋土	A, B, Cの3層に大別され, 各層はさらに細別。				
床	褐色シルト地山層上面。構築土は無い。				
カマド	東辺南寄りに1基。煙道形態は掘り込み式。煙道は長さ1.2m, 幅74~80cm, 検出面からの深さは約38~58cm。煙道部は床面よりも一部高まりを持ち, 煙出しに向かって傾斜。基底部は河原石を一部芯材とし褐色土(K層)で構築。カマド埋土は, 天井部崩壊土(H層)と流入堆積土(J層)である。暗褐色土・褐色土を主体に焼土粒を含む。焚口は, 基底部にはさまれた範囲に焼土浸透層(L層)を検出。基底部上には一部天井部の芯材とされたと考えられる礫が残				



第15図 小幡遺跡RA020竪穴住居跡出土遺物

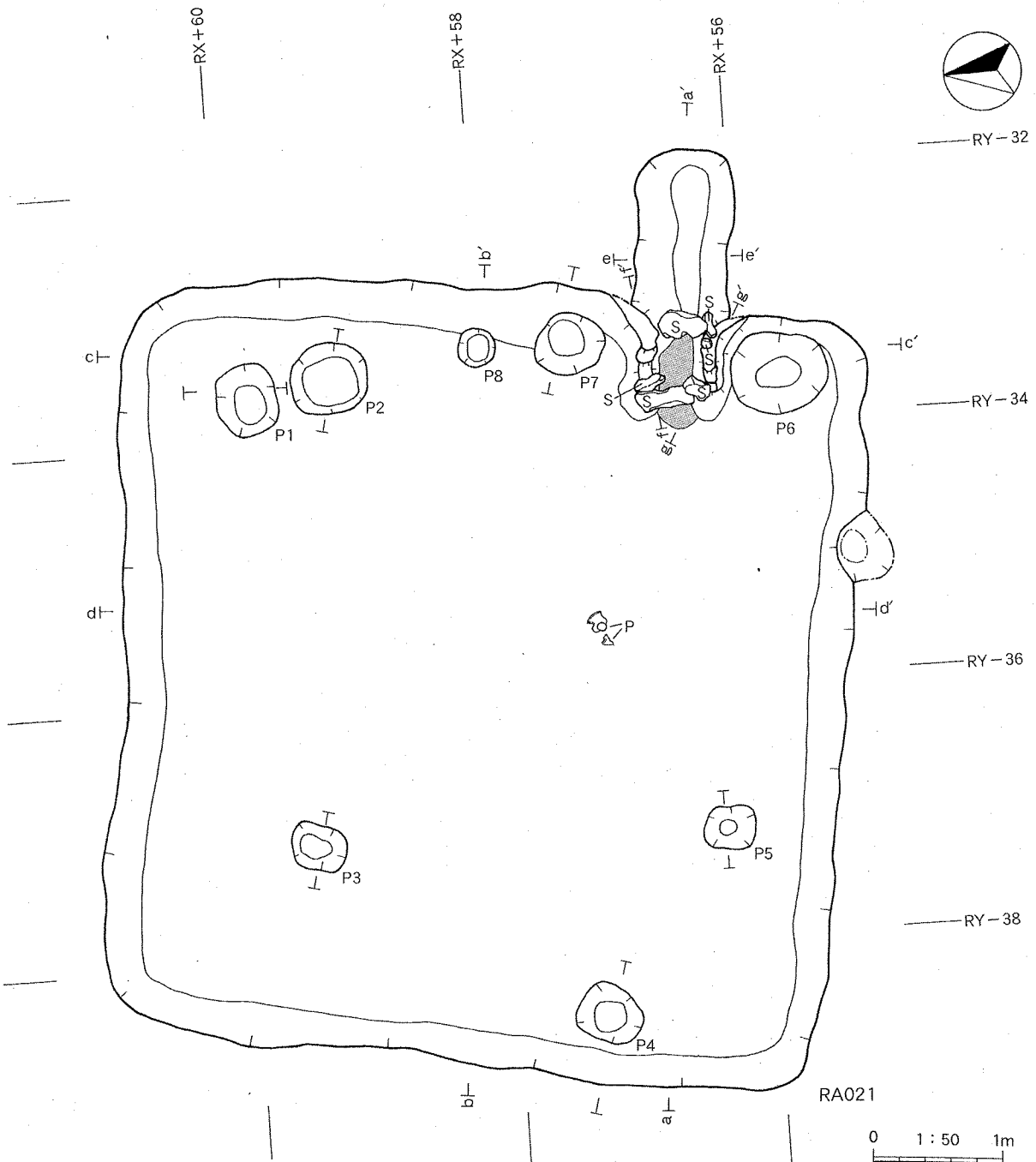
存。

ピット 床面及び壁面に8口検出。主柱穴はP1～5, 7・8と考えられる。作り変えの可能性がある。  
P6は埋土の状況から貯蔵穴と考えられる。

遺物 すべて罹災し残存しない。

### RA022竪穴住居跡(第18図)

位置 C区 平面形 方形 主軸方向 不明  
規模 南北2.96m, 東西2.58m, 検出面からの深さ4cm未満  
重複関係 RB015掘立柱建物跡・RC002柱列跡と重複し, それらより古い。  
埋土 ほぼ削平されている。A層。  
床 褐色土に暗褐色土を含む平坦な床構築土(D層)の上面。硬化面との差異は明確ではない。



第16図 小幅遺跡RA021竪穴住居跡平面図

カマド 平面図罹災のため不明だが、断面図Cにカマド流入堆積土（J層）が見られることから、北東寄りにあった可能性が高い。

ピット 平面図罹災のため不明だが、断面図Cに1口確認できる。

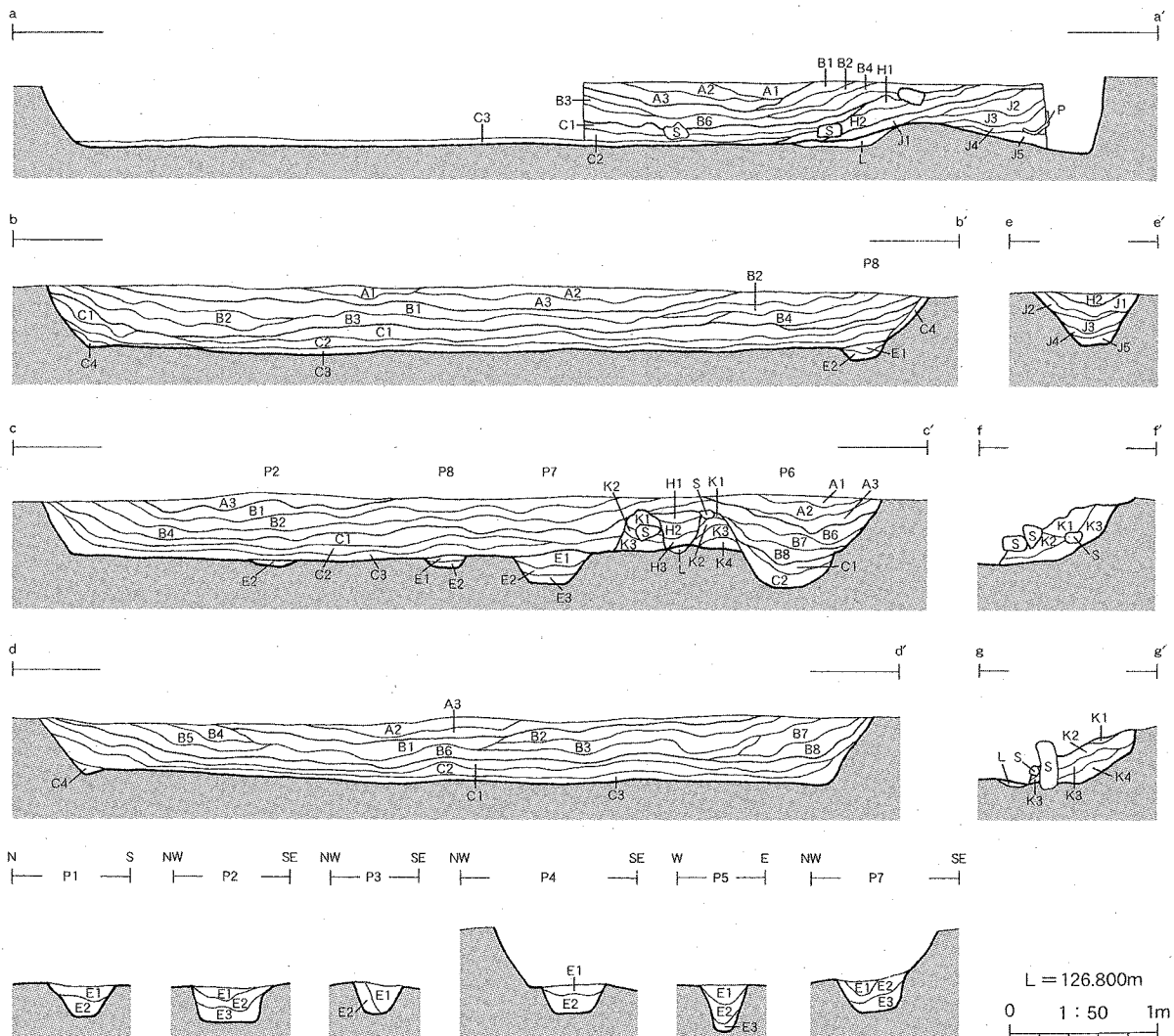
遺物 すべて罹災し残存しない。

R A023竪穴住居跡（第19図）

位置 C区 平面形 方形 主軸方向 W9° N  
 規模 東西3.60~3.68m, 南北3.89m, 検出面からの深さ43~50cm 重複関係 なし  
 埋土 A, B, Cの3層に大別され, 各層はさらに細別。

床 褐色土に暗褐色土を含む平坦な床構築土（D層）および一部地山シルト層の上面。中央部に硬化面が認められる。

カマド 西辺中央に1基。煙道形態は掘り込み式で天井部が一部残存。煙出しがやや北向きに屈曲。煙道部はほぼ平坦で、長さ1.48m, 幅42cm, 検出面からの深さは約38~58cm。煙出しはピット状に径42cm, 検出面からの深さ51cm。埋土は褐色土を主体とした天井部（I層）および天井崩壊土（H層）、暗褐色土に焼土・炭化物を含む流入土（J層）が堆積。基底部分は礫を芯材に褐色土（K層）で構築。燃焼部は基底部にはさまれた径80×40cm程度の焼土浸透層（L層）を検出。中心やや壁寄りに径約6cmの礫を支脚としている。



第17図 小幅遺跡 R A021竪穴住居跡断面図

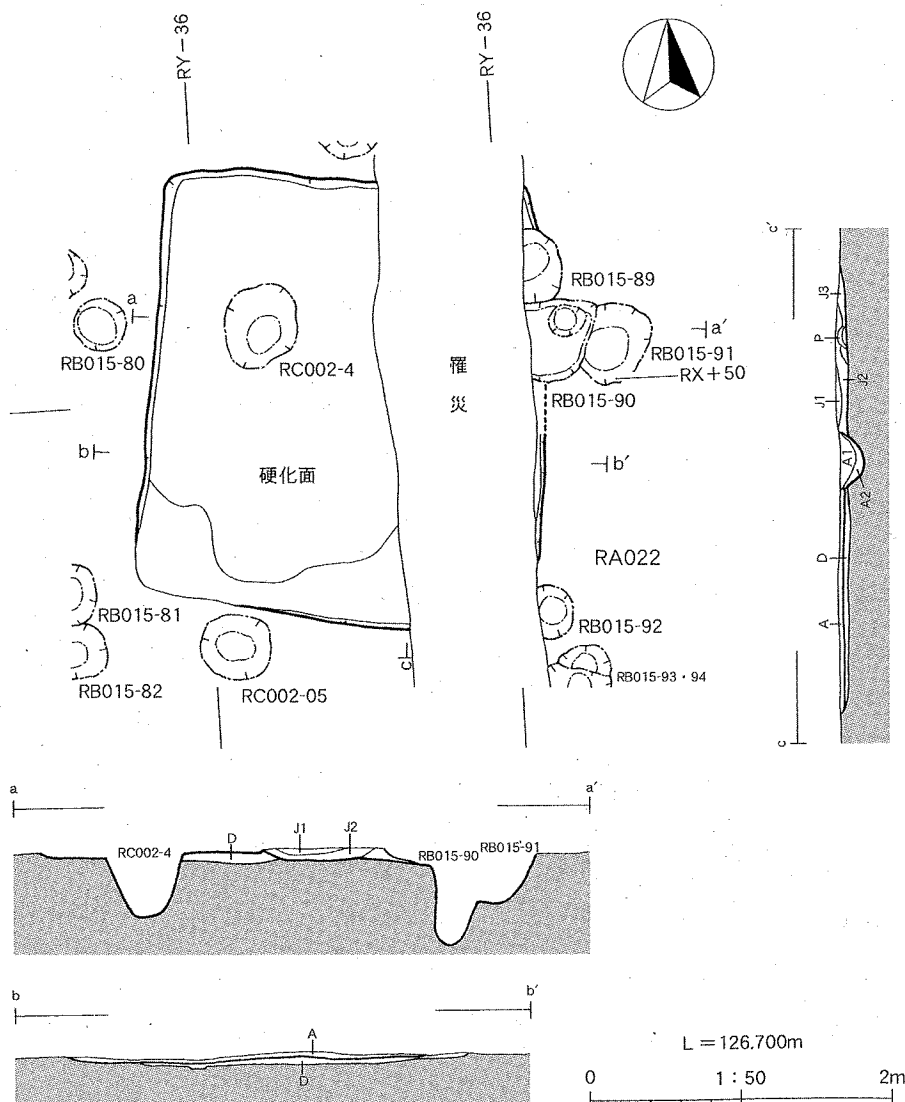
遺物 (第20図・第6表) 須恵器の坏・甕, あかやき土器の坏・甕, 土師器の坏・甕, 軽石が出土。図化できたのは土器2点。1は須恵器の坏である。口縁部から底部まで約1/4残存。底部糸切無調整。内外面に火襷痕跡確認。2は土師器の甕である。口縁部はヨコナデ, 体部外面は縦方向の強いヘラナデおよび一部ヘラミガキ, 内面は横方向の弱いヘラナデが施される。

RA024竪穴住居跡 (第21図)

北半を第8次, 南半を第17次で調査。

位置 C区 平面形 方形 主軸方向 N40° E  
 規模 南北4.24m, 東西4.64m 重複関係 北半は後世の削平をひどく受ける。  
 埋土 断面図が罹災し不明。北半は後世の削平をひどく受ける。  
 カマド 北東辺南寄りに1基。煙道底部のみ残存。長さ64cm, 幅32cm。煙出し径40cm。  
 地床 炉 床面中央やや東寄りに径30~38cmほどの焼土を確認。  
 ピット 南東壁寄りに2口。P1は貯蔵穴の可能性もあるが不明。

遺物 (第22図・第6表) 須恵器の坏・壺・甕, あかやき土器の坏・甕, 土師器の坏・甕, 軽石が出土。図化できたのは土器3点。1は須恵器の坏である。口縁部から底部まで約1/2残存。底部糸切無調整。2は須恵器の壺である。底部糸切無調整。3は土師器の甕である。口縁部から体部まで残

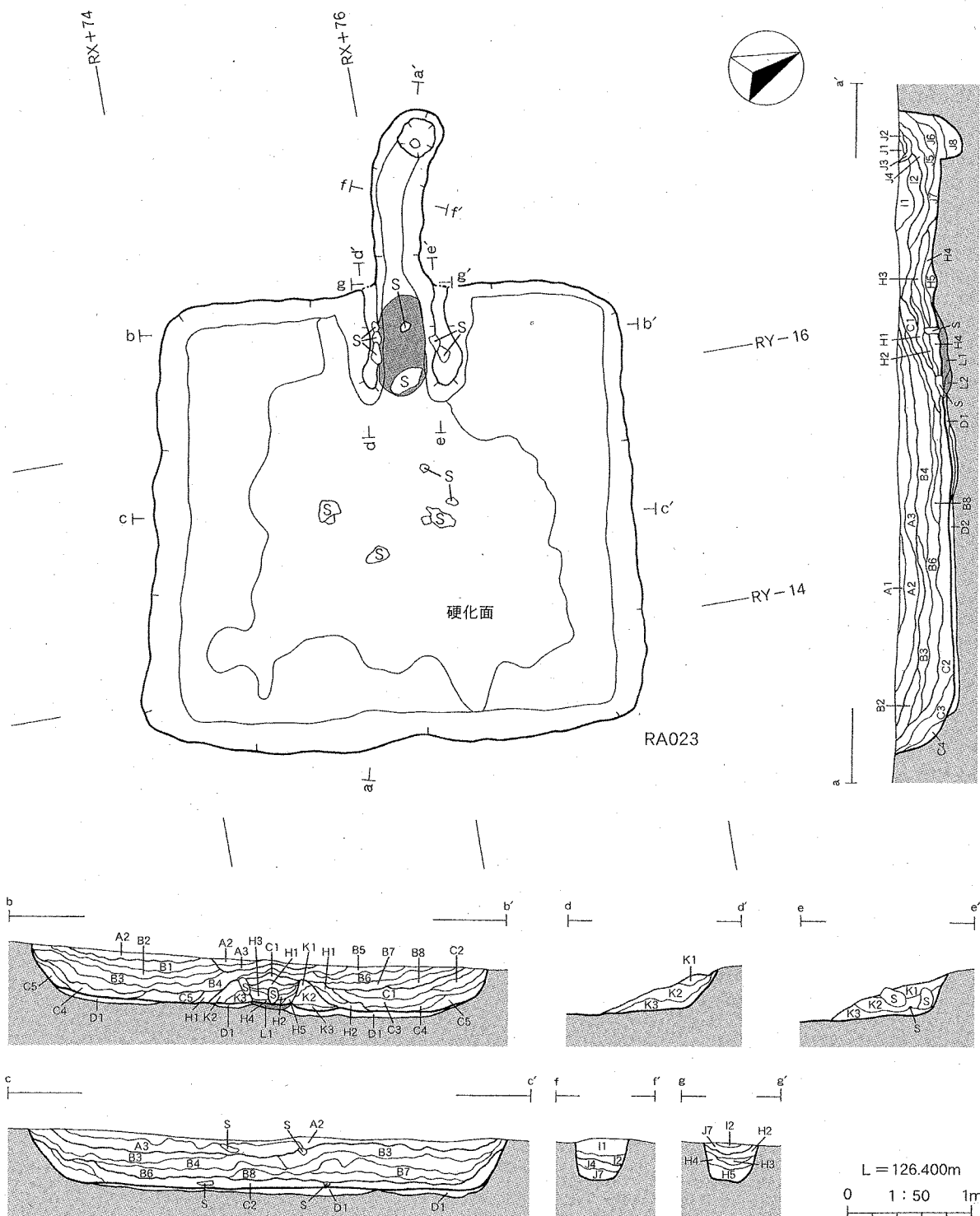


第18図 小幡遺跡 RA022竪穴住居跡

存。頸部に弱い段が認められる。口縁部はヨコナデ、体部外面は縦方向のヘラナデ、内面は横方向のヘラナデが施される。

RA025竪穴住居跡 (第23図)

位置 C区 平面形 方形 主軸方向 W24° N  
 規模 東西3.22m, 南北3.11m, 検出面からの深さ6~24cm  
 重複関係 RG041と重複し古い。  
 埋土 A, B, Cの3層に大別され, 各層はさらに細別。

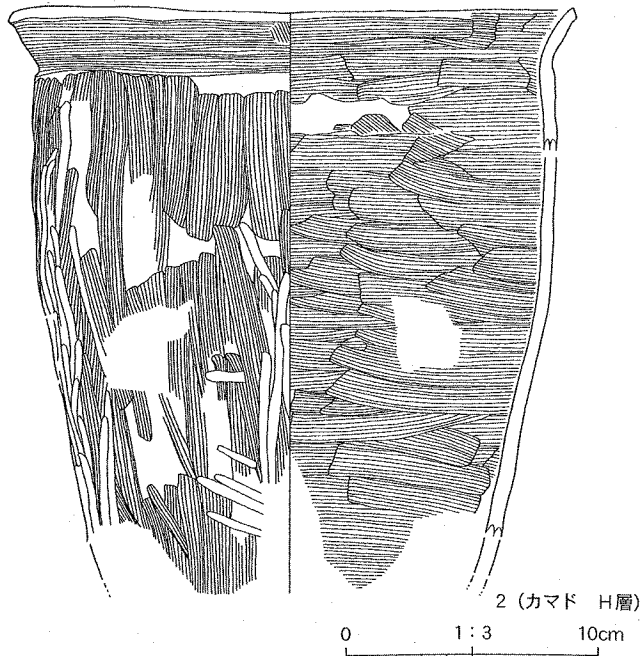
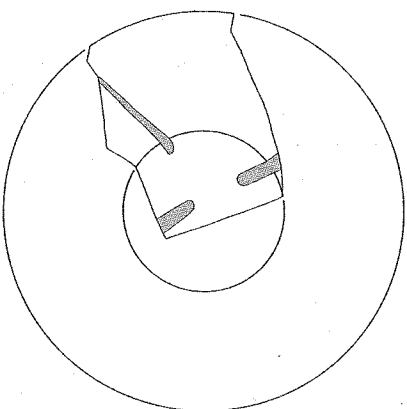
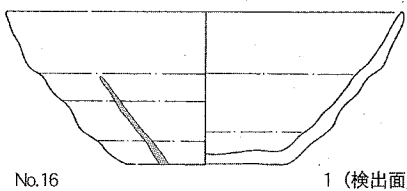
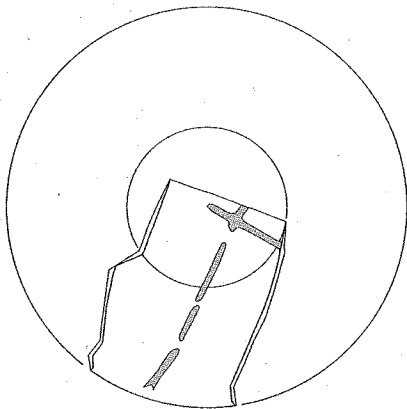


第19図 小幅遺跡 RA023竪穴住居跡

- 床 地山シルト層の上面。構築土は認められない。
- カマド 西辺中央に1基。煙道形態は掘り込み式。煙道部は火床面から一段低くなりほぼ平坦に延びる。長さ1.15m、幅36cm、検出面からの深さは約7~9cm。煙出しはピット状で径39cm、検出面からの深さ41cm。埋土は暗褐色土に焼土・炭化物を含む流入土（J層）が堆積。基底部および火床面下に構築土（L層）を確認。基底部は褐色土（K層）で構築。火床面は基底部奥に径0.2m程度の焼土浸透層（L1層）を検出。
- ピット 床面中央東寄りに1口検出（P1）。用途は不明だが、人為堆積土で埋没している。
- 遺物 床面および埋土、検出面からあかやき土器の坏・甕、土師器の坏・甕が出土。いずれも小破片であり図化できたものはないが、あかやき土器の坏の底部は糸切無調整。土師器の坏はロクロ整形、外面にヘラナデ、内面はヘラミガキ・黒色処理が施されるものである。

R A 026 竪穴住居跡（第25図）

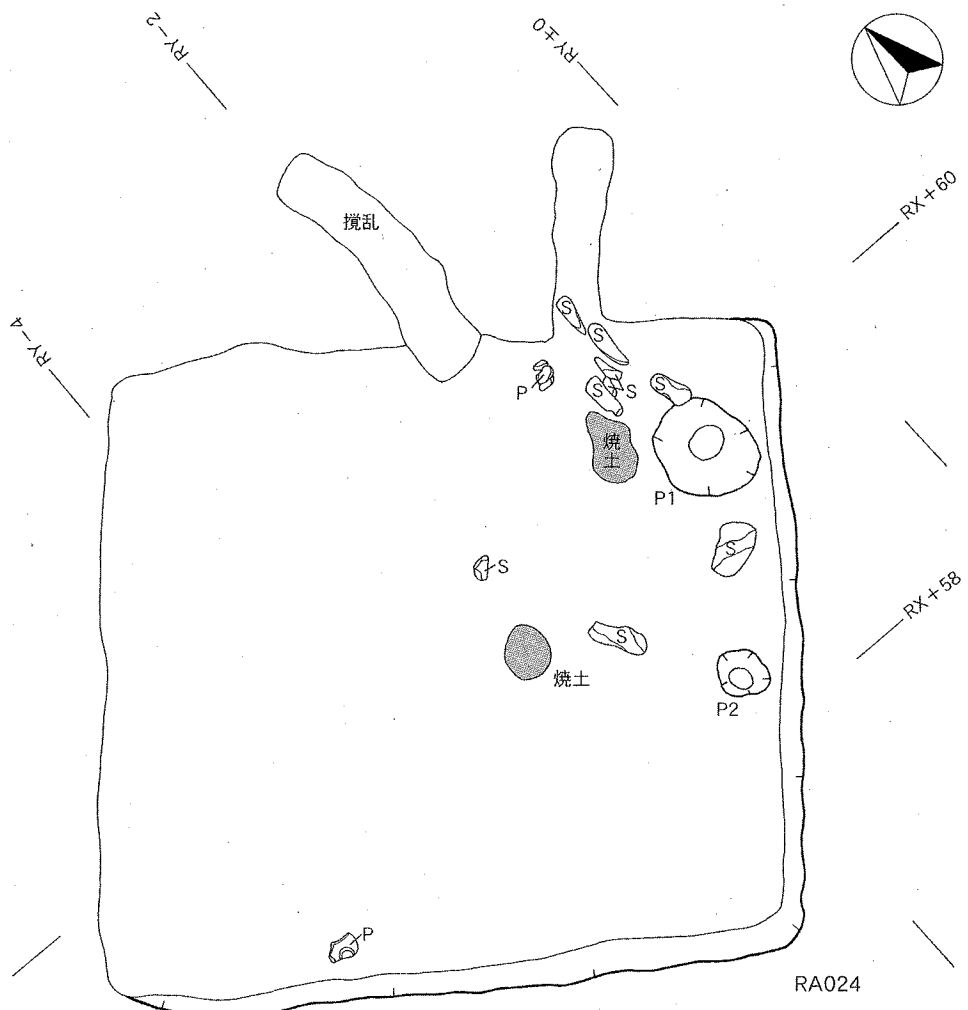
- 位置 C区 平面形 方形 主軸方向 W43° N
- 規模 東西5.42m、南北4.76m、検出面からの深さ39~42cm 重複関係 なし
- 埋土 A~Dの4層に大別され、各層はさらに細別。D層は壁面崩壊土。



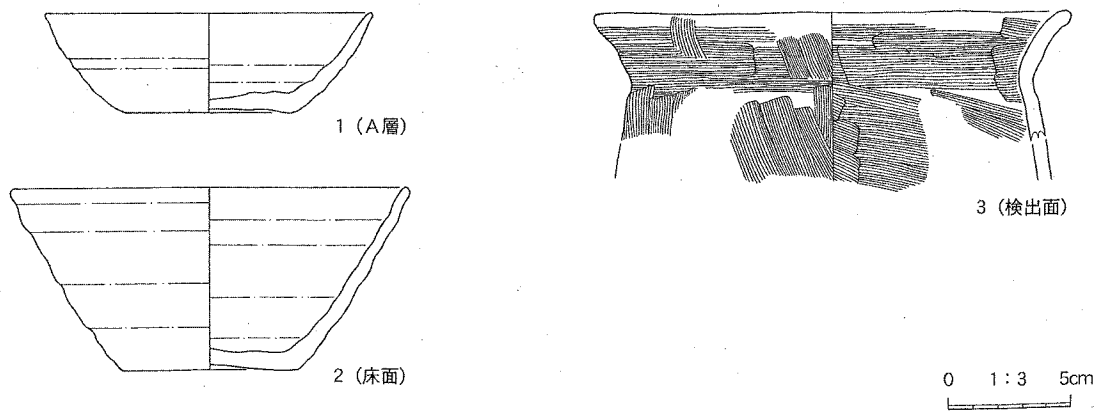


床 構築土（L層）および一部地山シルト層の上面。カマドからP2にかけては、構築面上の床面が固く締まるが、中央部P1周辺の非構築面上においては、周辺よりも締まりがない。

カマド 西辺中央に1基。煙道形態は割り貫き式。煙道部は火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜する。長さ1.15m，幅36cm，検出面からの深さは約7～9cm。煙出しはピット状で径39cm，検



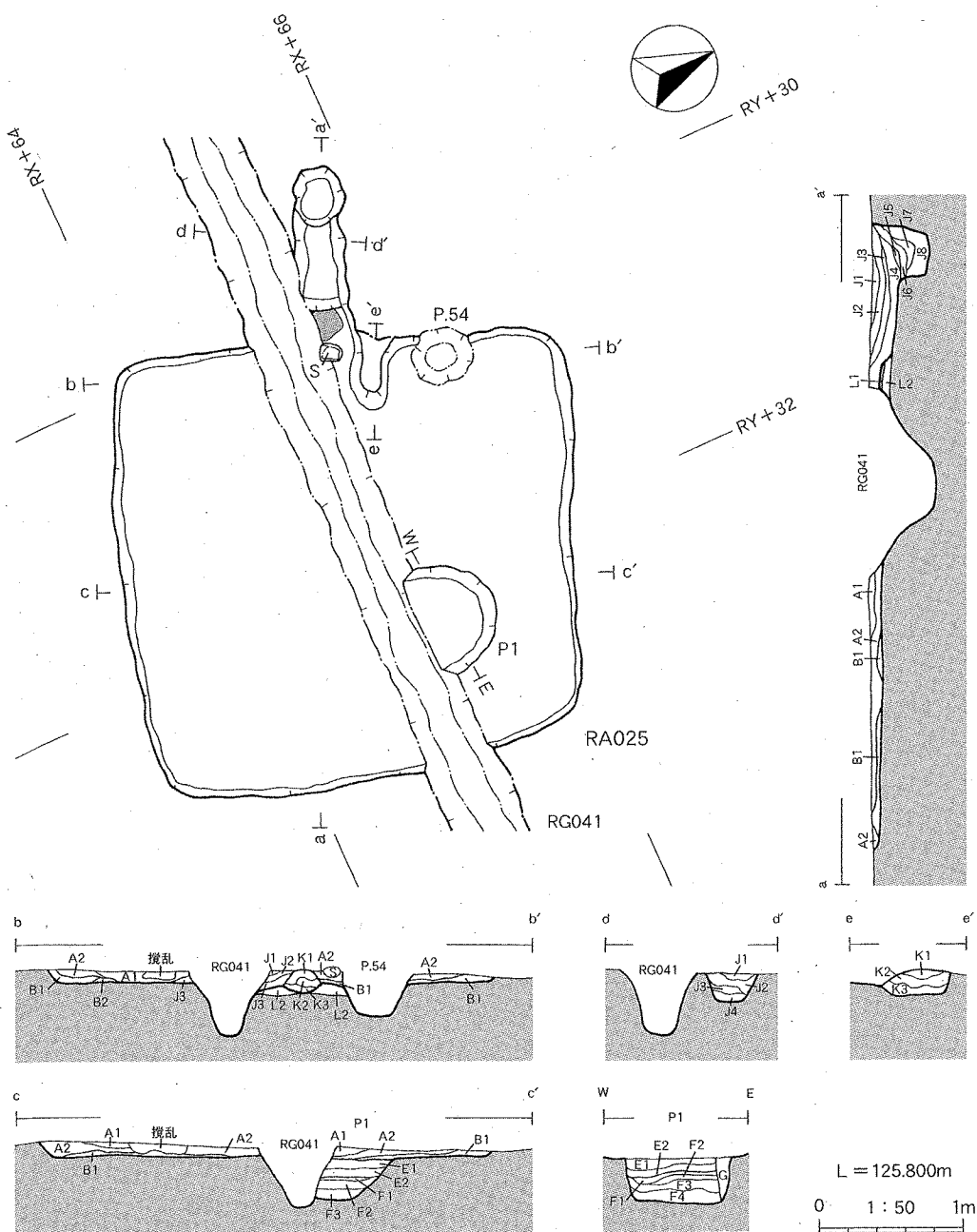
第21図 小幅遺跡 R A 024 竪穴住居跡



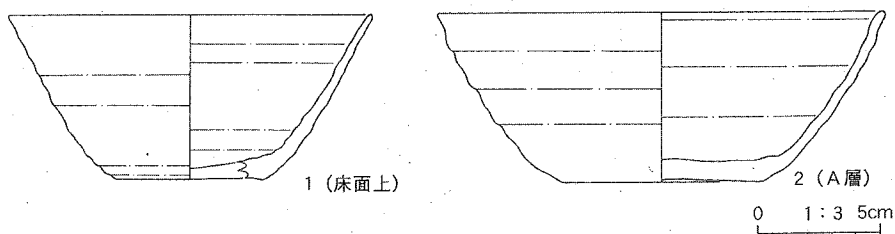
第22図 小幅遺跡 R A 024 竪穴住居跡出土遺物

出面からの深さ41cm。埋土は暗褐色土に焼土・炭化物を含む流入土（J層）が堆積。基底部および火床面下に構築土（L層）を確認。基底部は褐色土（K層）で構築。火床面は基底部奥に径20cm程度の焼土浸透層（L1層）を検出。

ピット 床面中央に1口（P1）と南東壁際に1口（P2）検出。共に浅いが柱穴と考えられる。

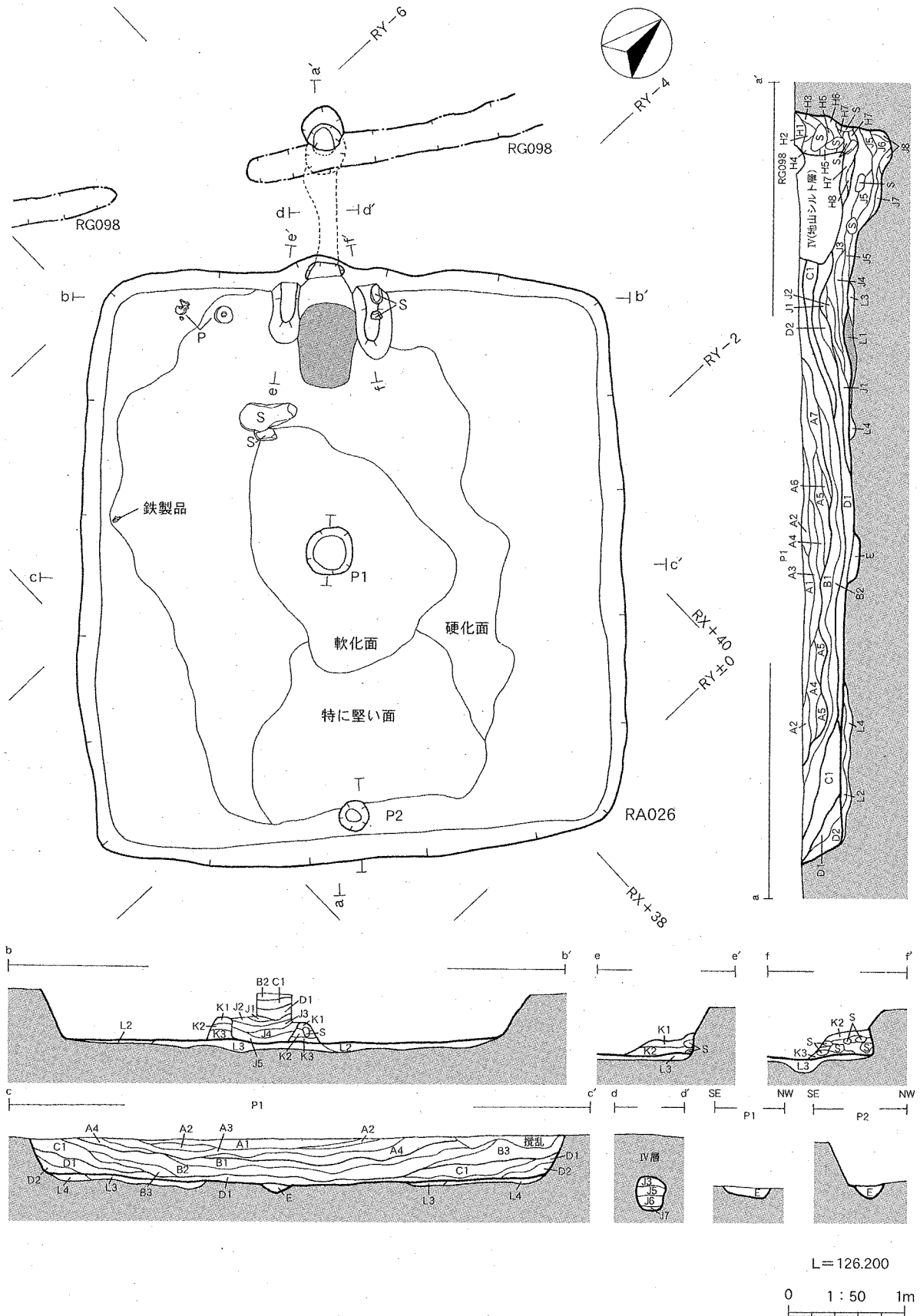


第23図 小幅遺跡 R A 025 竪穴住居跡



第24図 小幅遺跡 R A 026 竪穴住居跡出土遺物

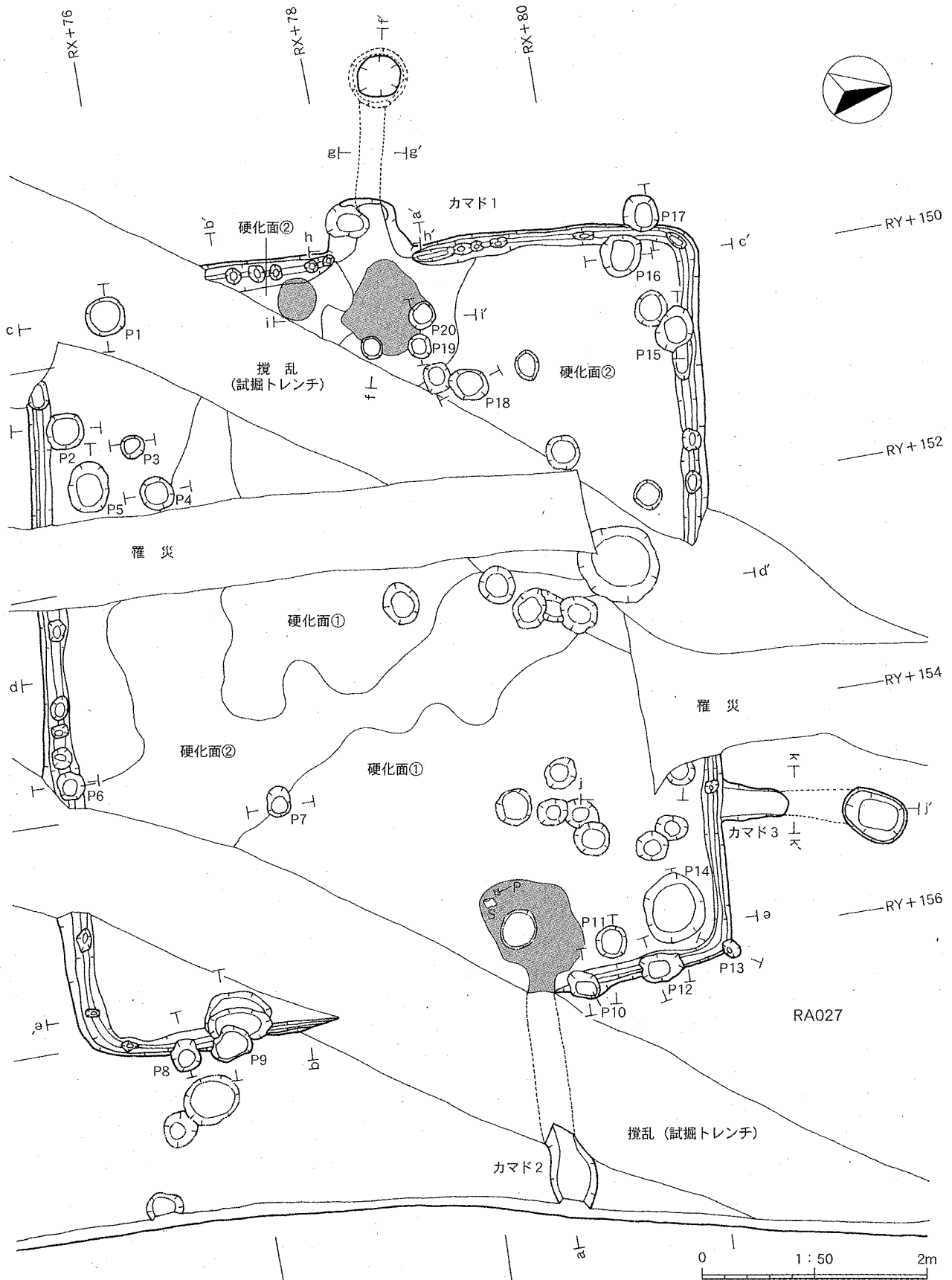
遺物（第24図・第6表） 床面および埋土，検出面から須恵器の坏・甕，あかやき土器の坏・甕，土師器の坏・甕が出土。1は須恵器の坏である。底部は糸切，底部から体部下端に回転ヘラケズリ再調整を施す。2はあかやき土器の坏である。底部糸切無調整。



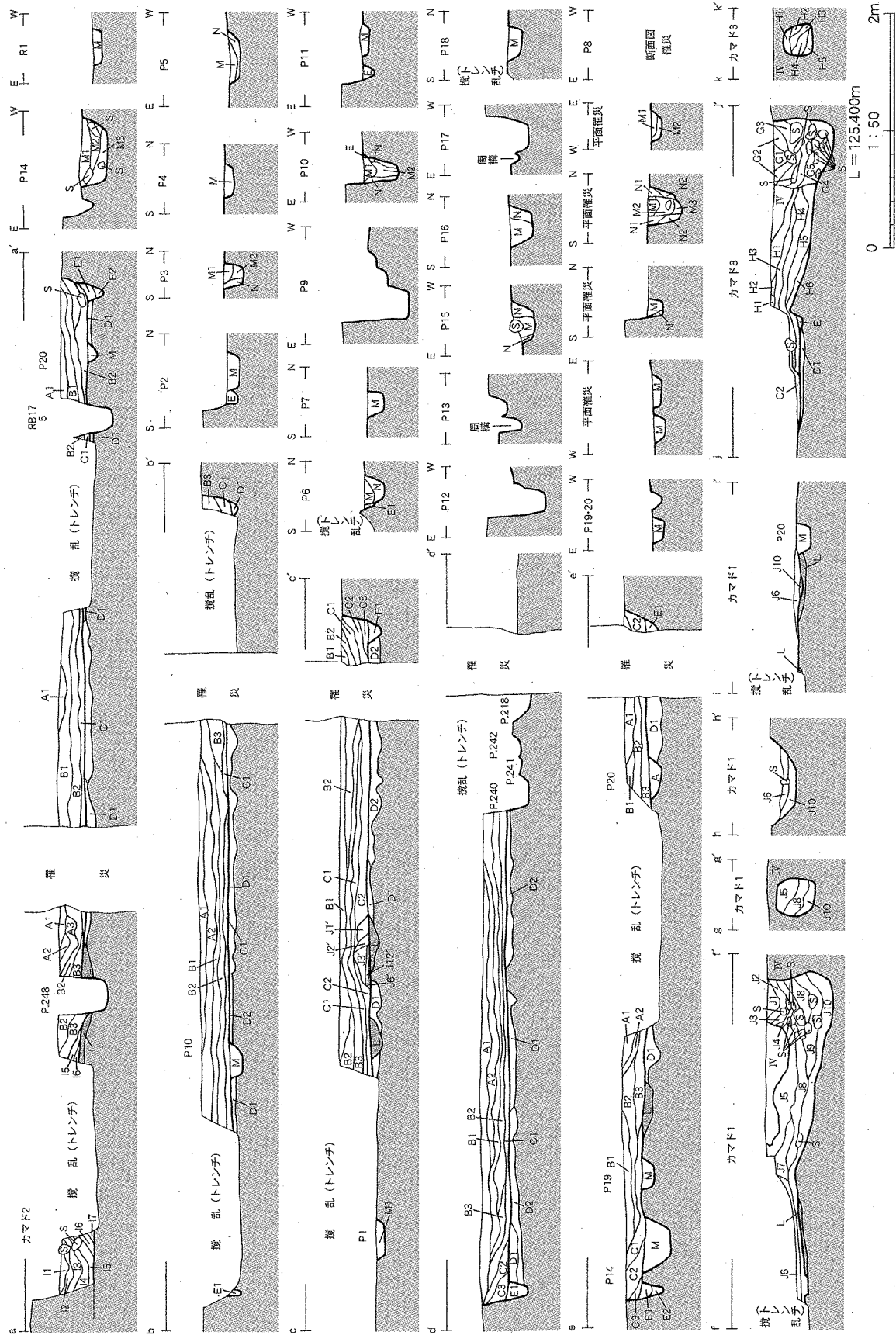
第25図 小幡遺跡 R A026 竪穴住居跡

R A027竪穴住居跡（第26・27図）

位置	C区	平面形	方形	主軸方向	W18° N
規模	東西6.76m, 南北6.02m, 検出面からの深さ26~32cm			重複関係	なし
埋土	A~Cの3層に大別され、各層はさらに細別。				
床	構築土（D層）上面。ほぼ全面にわたり構築面上に硬化面①（D1層）、②（D2層）を検出。構築土の違いが認められる。				
周溝	各辺の壁面直下に周溝を検出した。埋土（E層）は壁面崩壊褐色土に暗褐色土を含む。底面には小規模なピットが連続している部分や柱穴が掘り込まれている部分もあり、壁面部材の据え方の可能性がある。				
カマド	西・北・東の各辺に1基ずつ、計3基検出。平面形や残存状況、埋土の状況などから、カマド3→2→1の順に構築されたものと考えられる。				
カマド1	西辺中央に検出。煙道形態は刳り貫き式。煙道部天井が一部残存。煙道部は火床面から煙出しに向かって傾斜する。長さ1.78m, 幅32cm, 検出面からの深さは約26~51cm。煙出しはピット状で上端径38cm, 中端径57cm, 底面径42cm, 検出面からの深さ58cm。埋土は暗褐色土に褐色土・焼土・炭化物を含む流入土および崩壊土（J層）が堆積。基底部は残存しないが、P19と20が基底部芯材として使われた礫の据方痕跡の可能性がある。径88×82cmにわたって、わずかに凹んだ火床面（L層）を確認。また南側にも径35cm程度の焼土を検出したが、カマド1との関連は不明。				
カマド2	東辺北寄りに検出。煙出し部は調査区外に延び検出していない。また煙道部は攪乱を受けている。長さ1.9m以上, 幅30~40cm, 検出面からの深さ約29cm。埋土は暗褐色土を主体とし褐色土・焼土が混入する流入土（I層）が堆積。基底部は残存しない。火床面は1.0×0.7mにわたって焼土および焼土浸透層（L層）を確認。				
カマド3	北辺東寄りに検出。煙道形態は刳り貫き式。煙道部天井が一部残存。煙道部は火床面との境界部が高まり、煙出しに向かって傾斜する。長さ1.64m, 幅約24cm, 検出面からの深さは約18~36cm。煙出しは平面形が楕円形を呈するピット状でやや東に傾く。上端径58×42cm, 底面径34×24cm, 検出面からの深さ51cm。埋土は暗褐色土に褐色土・焼土・炭化物を含む流入土および崩壊土（H層・G層）が堆積。基底部や火床面は残存せず、住居内壁周溝が構築されている。				
ピット	床面および壁際に計20口検出。柱穴はP1・2・3・5・6・8・9・10・12・13・15・16と考えられ、P8・9・10・12は出入口に関連するものの可能性がある。P14はカマド2もしくはカマド3に付随する貯蔵穴と考えられる。埋土はおおむね2層（M層・N層）に大別。				
遺物（第28図・第6表）	検出面・埋土・床面・構築土等から、須恵器の坏・甕、あかやき土器の坏・甕、土師器の坏・甕が出土した。磨滅した小破片が多く、図化できたものは7点。1~3はあかやき土器の坏である。1の底部切り離しは静止糸切無調整。4・5はロクロ整形の土師器の坏である。共に内面はヘラミガキ・黒色処理が施される。4は口縁部外面にヘラミガキ調整が施される。底部は回転糸切の後、体部下端に手持ちヘラケズリの再調整が施される。5の底部は回転糸切、ヘラナデ、体部下端から底部端に手持ちヘラケズリの再調整が施される。6はあかやき土器の甕である。頸部から底部まで残存。体部中程以下の外面は一部ヘラナデののち全面にヘラケズリ、内面は縦方向のヘラナデの後、横方向のヘラナデが施される。体部外面下方から外				



第26図 小幡遺跡 R A027 竪穴住居跡平面図

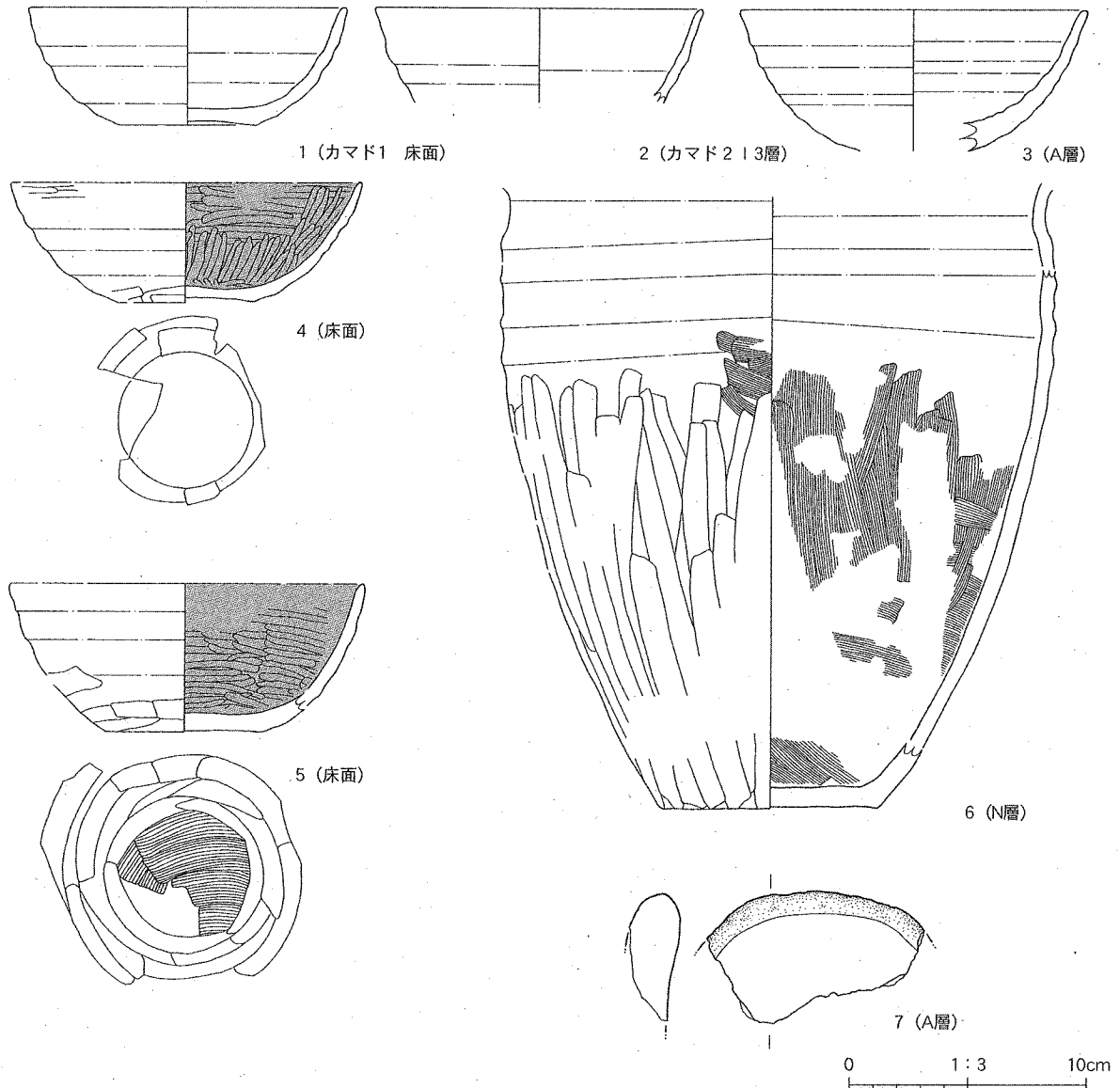


第27図 小幡遺跡 RA027 竪穴住居跡断面図

底面に二次焼成が認められる。7は軽石の砥石である。1面に使用痕跡が認められる。

R A 028竪穴住居跡 (第29図)

位置 C区 平面形 方形 主軸方向 N10° W  
 規模 南北2.1m, 東西2.16m, 検出面からの深さ16~30cm 重複関係 なし  
 埋土 A・Bの2層に大別され, 各層はさらに細別。  
 床 構築土 (D層) 上面。中央南寄から北辺にわたり構築面上に硬化面を検出。  
 カマド 北辺中央やや東寄りに1基検出。煙道形態は刳り貫き式。煙道部天井が一部残存。煙道部は住居北辺の壁面中ほどから掘り込まれ, 火床面との境界部が高まり, 煙出しに向かって傾斜する。長さ98cm, 幅15~26cm, 検出面からの深さは約21~40cm。煙出しは上端径30×28cm, 底面径42cm程, 検出面からの深さ38cm。埋土は暗褐色土に褐色土・焼土・炭化物を含む流入土および崩壊土 (J層) が堆積。基底部は褐色土 (K層) および一部地山を削りだして構築。火床面は基

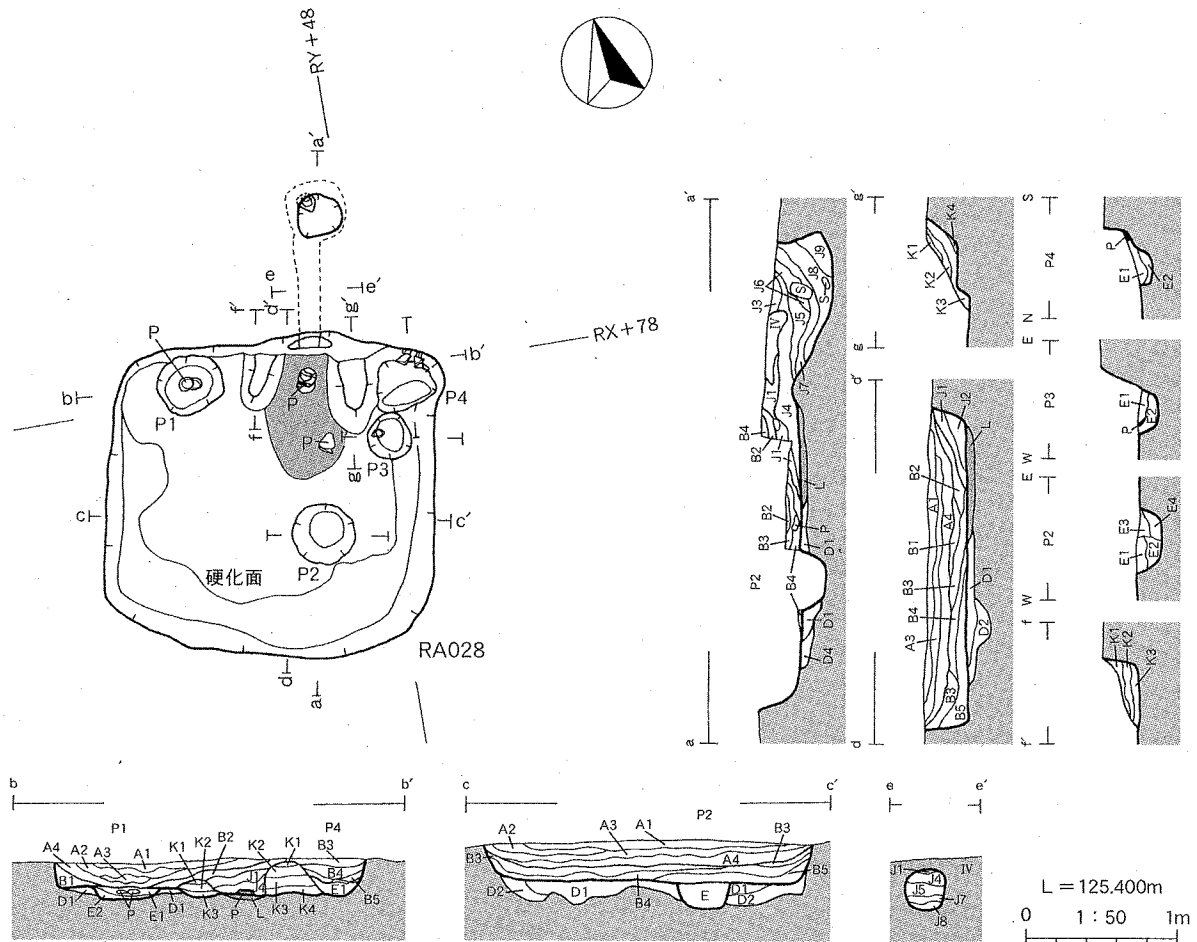


第28図 小幡遺跡 R A 027竪穴住居跡出土遺物

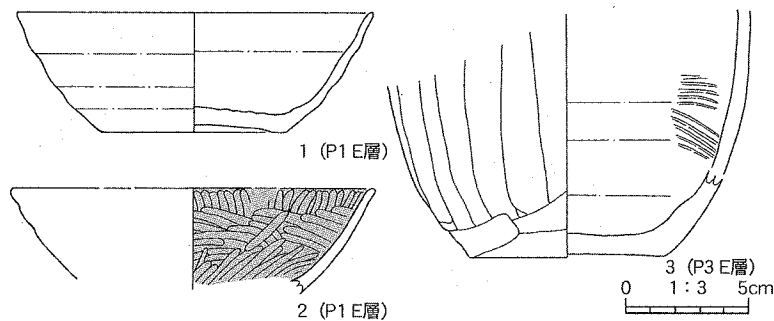
底部間に80×42cmの範囲に焼土および焼土浸透層（L層）を確認。基底部分には土師器甕が伏せて設置されていた。支脚と考えられる。

ピット 床面および壁際に計4口検出。P2は柱穴、P1・3・4は土器片が出土している。貯蔵穴と考えられる。

遺物（第30図・第6表） 検出面・埋土・床面・構築土等から、須恵器の坏・甕、あかやき土器の坏・甕、土師器の坏・甕が出土した。磨滅した小破片が多く、図化できたものは7点。1～3はあかやき土器の坏である。1の底部切り離しは静止糸切無調整。4・5はロクロ整形の土師器の坏である。共に内面はヘラミガキ・黒色処理が施される。4は口縁部外面にヘラミガキ調整が施される。底部は回転糸切の後、体部下端に手持ちヘラケズリの再調整が施される。5の底部は回転



第29図 小幡遺跡 R A 028 竪穴住居跡



第30図 小幡遺跡 R A 028 竪穴住居跡出土遺物



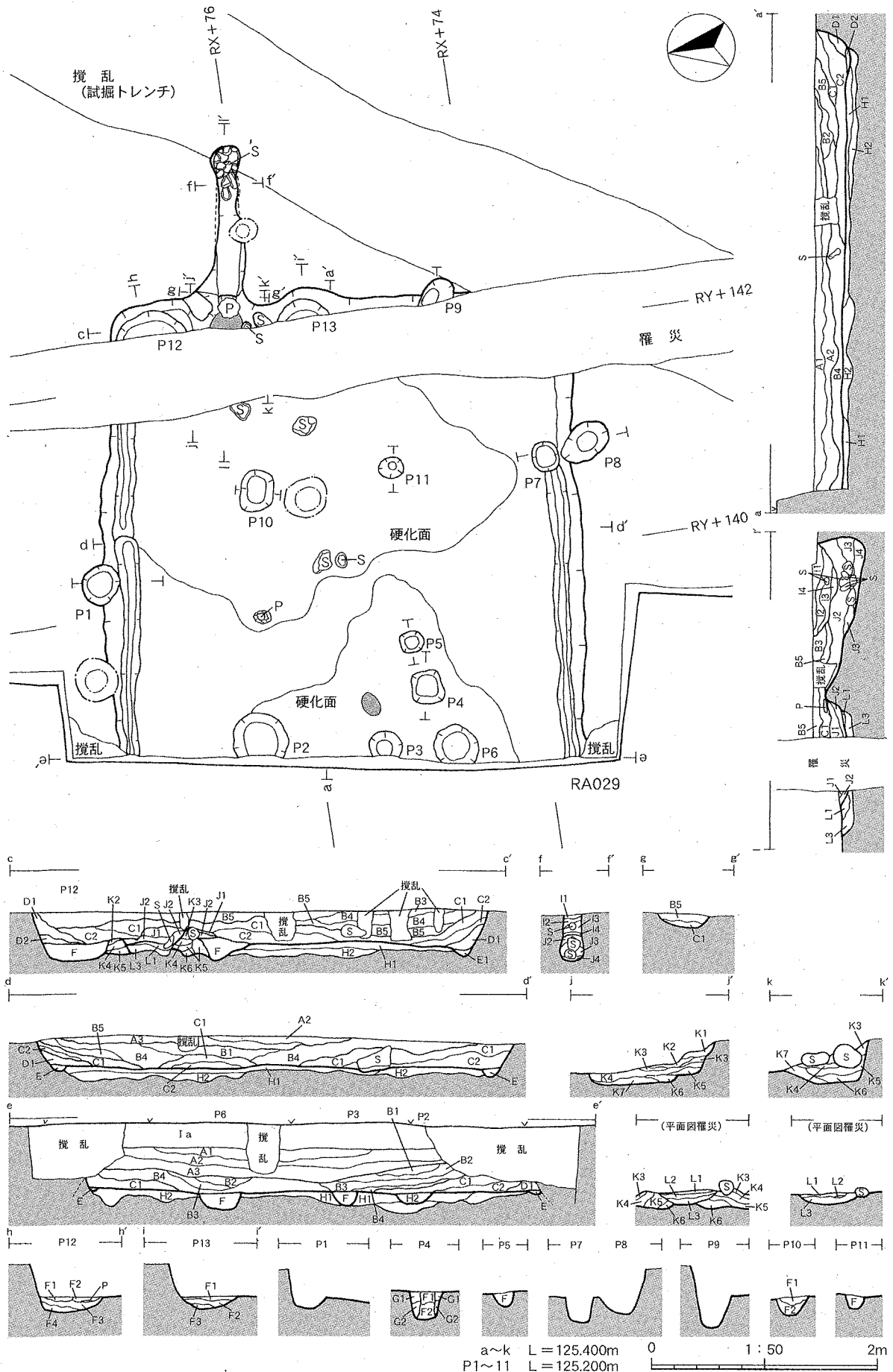
糸切、ヘラナデ、体部下端から底部端に手持ちヘラケズリの再調整が施される。6はあかやき土器の甕である。頸部から底部まで残存。体部中程以下の外面は一部ヘラナデののち全面にヘラケズリ、内面は縦方向のヘラナデの後、横方向のヘラナデが施される。体部外面下方から外底面に二次焼成が認められる。7は軽石の砥石である。1面に使用痕跡が認められる。

#### RA029 竪穴住居跡 (第31図)

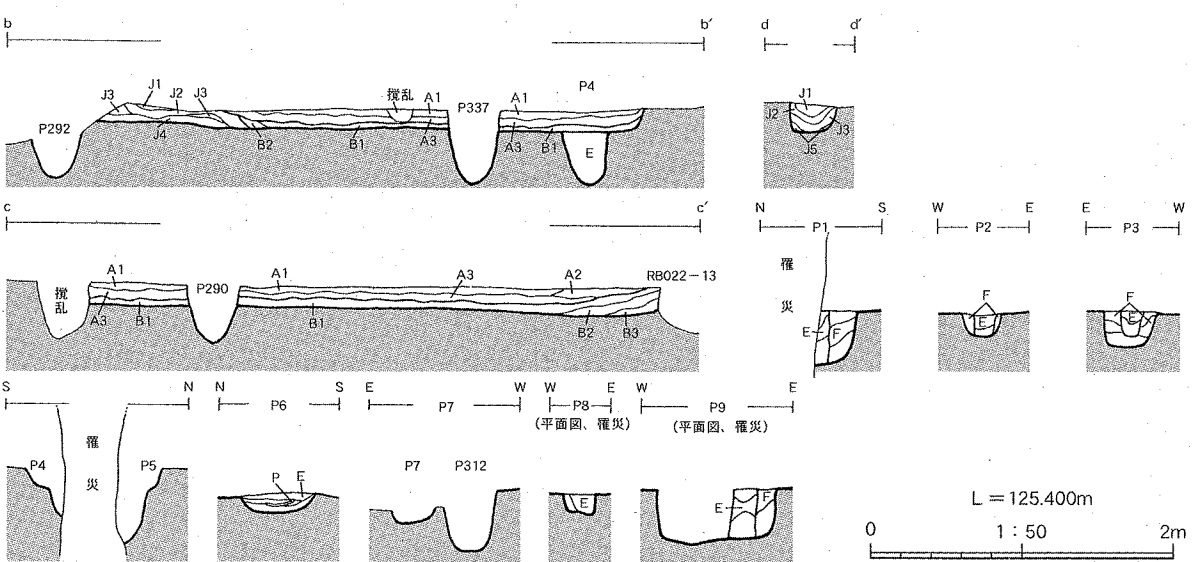
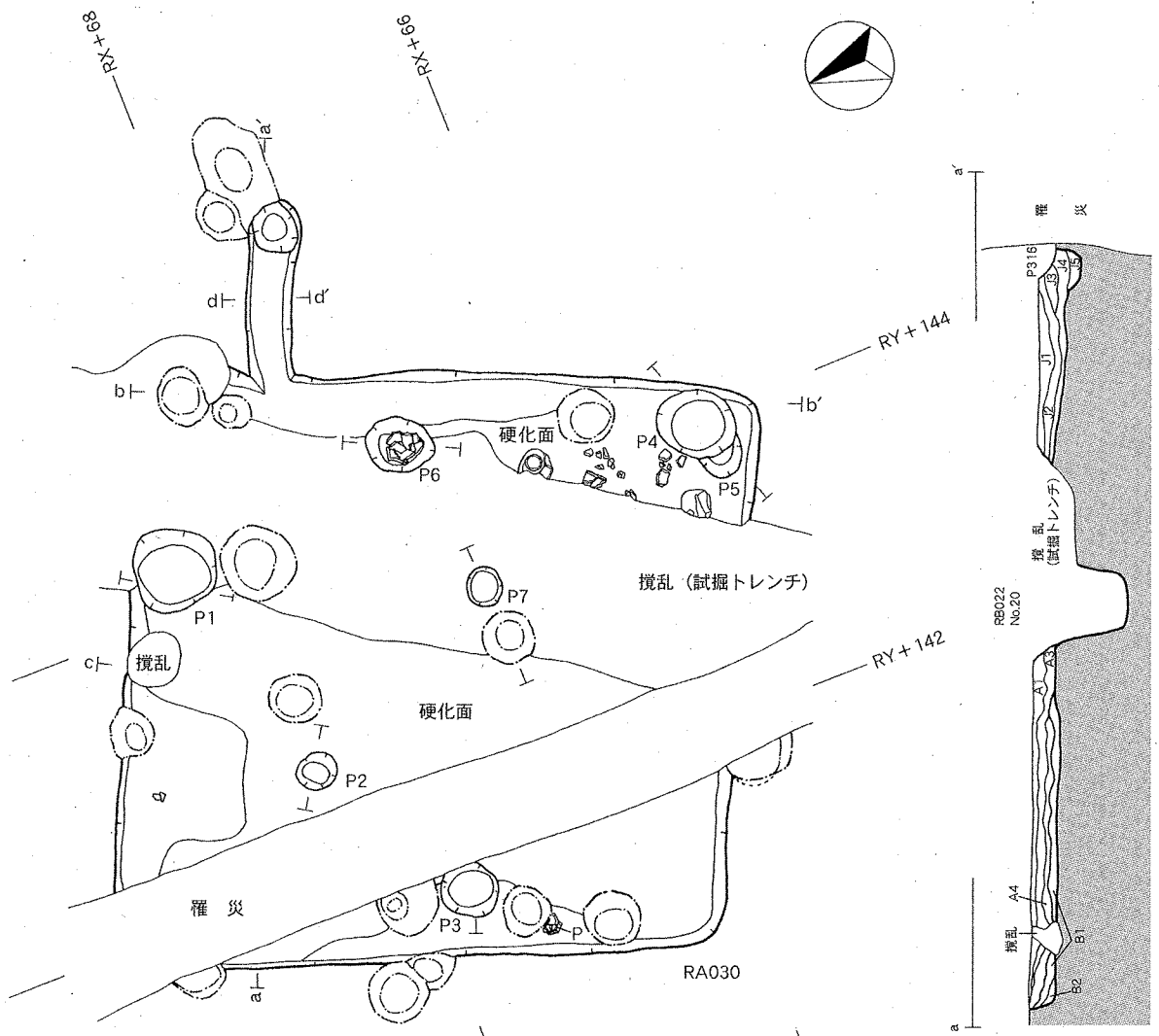
- 位置 C区 平面形 方形 主軸方向 E10° N
- 規模 東西4.22m以上, 南北4.28m, 検出面からの深さ32~42.3cm 重複関係 なし
- 埋土 A~Dの4層に大別され, 各層はさらに細別。
- 床 構築土(H層)上面。構築面上に硬化面(H1層)を検出。
- 周溝 カマドが構築されている辺以外の壁面直下に周溝を検出した。埋土(E層)は壁面崩壊褐色土に暗褐色土を含む。壁面部材の据え方の可能性がある。
- カマド 東辺北寄りに1基検出。煙道形態は掘り込み式。煙道部は火床面との境界部が高まり, 煙出しに向かって傾斜する。長さ1.32m, 幅28cm, 検出面からの深さは約12~43cm。煙出しは径26cm, 検出面からの深さ45cm。埋土は暗褐色土に褐色土・焼土・炭化物を含む流入土(J層)および褐色土を中心とした崩壊土(I層)が堆積。煙出し埋土中ほどには礫が堆積しており, 廃棄時に投げ込んだものではなく, 煙出しの壁面を礫で補強していた可能性がある。基底層は褐色土(K層)および礫で構築。火床面は基底層間に焼土および焼土浸透層(L層)を確認。平面詳細は罹災し不明。
- ピット 床面および壁際に計13口検出。P12・13は貯蔵穴と考えられる。
- 遺物(第34図・第6表) 検出面・埋土・床面・構築土等から, 須恵器の坏・甕, あかやき土器の坏・甕, 土師器の坏・甕が出土した。図化できたものは5点。1は須恵器の坏である。糸切無調整。2~3はあかやき土器の坏である。底部糸切後に, 2は底部の一部をヘラケズリ再調整, 3は体部下端の一部を手持ちヘラケズリの再調整を施す。4はあかやき土器の甕である。器面の摩滅が著しいが, 体部外面はタタキ調整の後ハケメ, 内面は横方向のハケメ調整が施されている。5は土師器の甕である。非ロクロ整形。頸部に弱い段がみえる。口縁部はヨコナデ, 体部外面はヘラケズリ, 体部内面はヘラナデの調整が施される。

#### RA030 竪穴住居跡 (第32図)

- 位置 C区 平面形 方形 主軸方向 E24° S
- 規模 東西4.18m, 南北3.95m, 検出面からの深さ15~20cm
- 重複関係 RB022掘立柱建物跡と重複し, 古い。
- 埋土 A・Bの2層に大別され, 各層はさらに細別。
- 床 地山シルト層上面。構築土は確認できない。床面の大半に硬化面を確認。
- カマド 東辺北寄りに1基検出。煙道形態は掘り込み式。煙道部は床面からほぼ平坦に延び, 煙出しに向かってわずかに傾斜する。長さ1.11m, 幅31cm, 検出面からの深さは約13~19cm。煙出しは径38cm, 検出面からの深さ30cmのピット状。埋土は暗褐色土に褐色土・焼土・炭化物を含む流入土(J層)が堆積。基底層, 火床面は残存しない。



第31図 小幅遺跡 RA029 竪穴住居跡



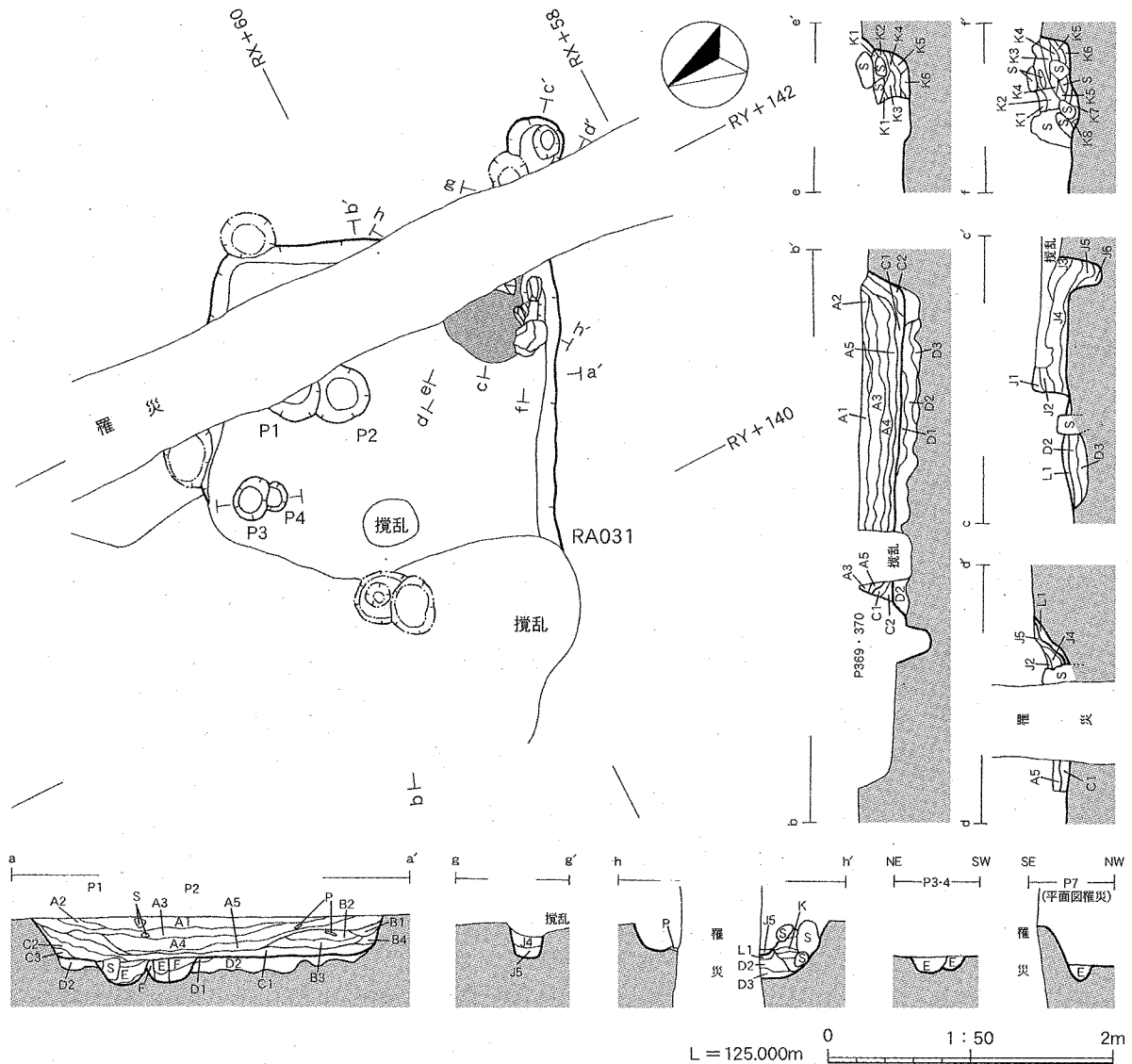
第32図 小幅遺跡 R A 030 竪穴住居跡

ピット 床面および壁際に計9口検出。P6はカマド脇の貯蔵穴と考えられる。

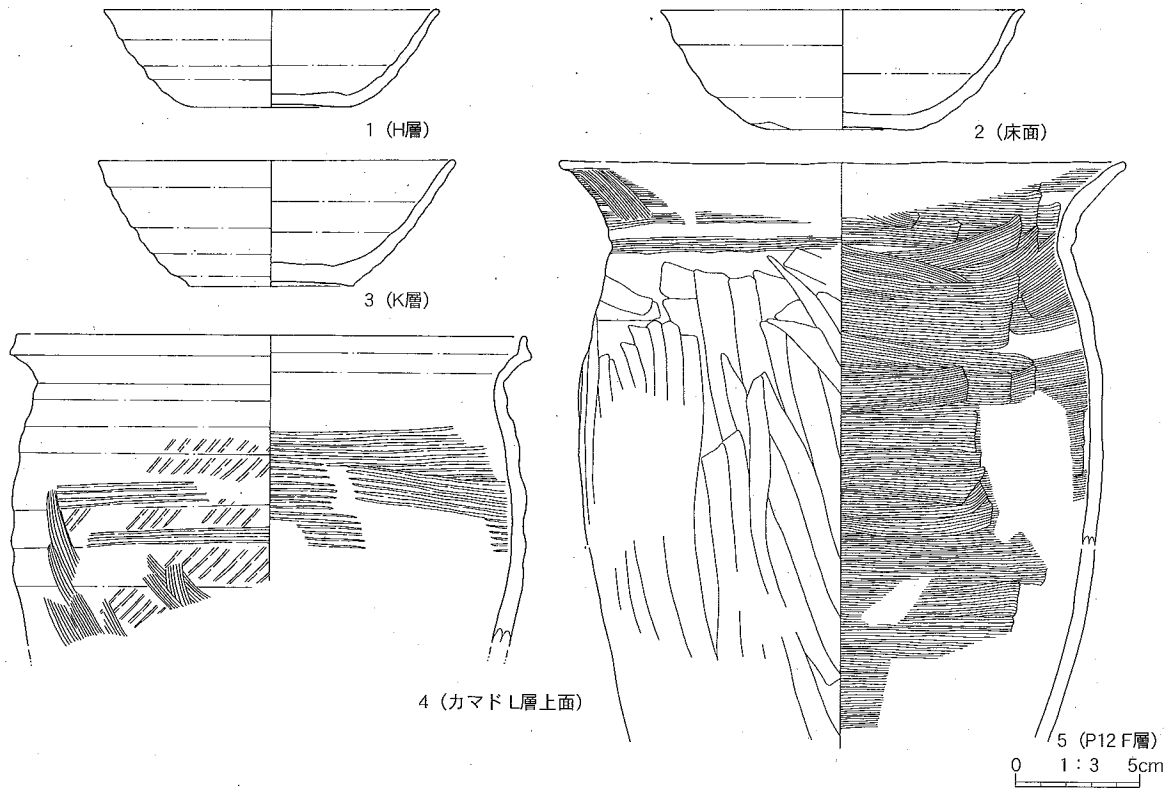
遺物（第35図・第6表） 検出面・埋土・床面等から、須恵器の坏・甕，あかやき土器の坏・甕，土師器の坏・甕が出土した。図化できたものは5点。1～2は土師器の坏である。ロクロ整形。内面黒色処理・ヘラミガキ。2の底部中央には、焼成後に内側から穿孔されている。3～5は土師器の甕である。3の体部外面はヘラケズリ，一部ヘラナデ，内面はヘラナデ。4の口縁部はヨコナデ，体部外面はヘラケズリ，体部内面はヘラナデ。5の体部は内外面ともにヘラナデ。5の底部は，中心部に砂が多く付着するいわゆる砂底土器である。

RA031竪穴住居跡（第33図）

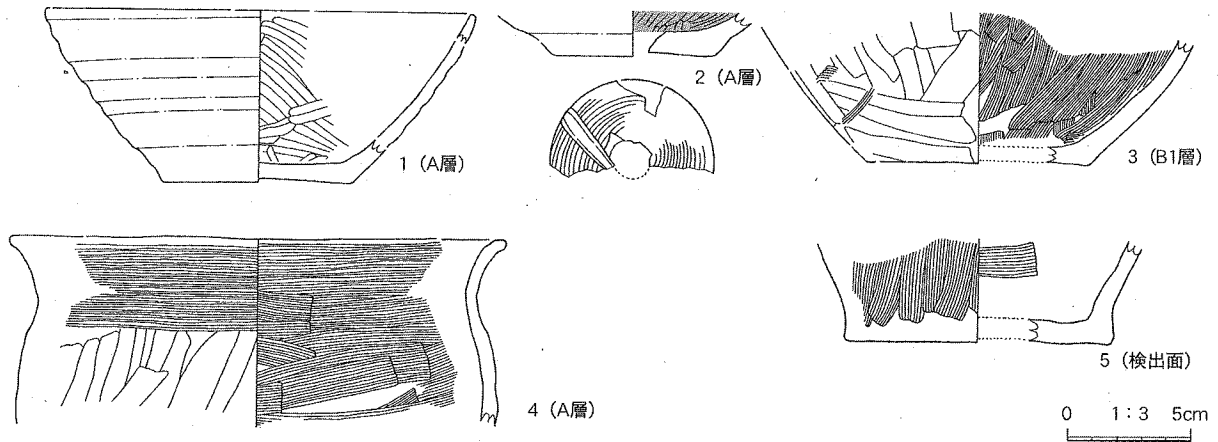
位置	C区	平面形	方形	主軸方向	E29° S
規模	東西2.3m以上，南北2.49m，検出面からの深さ38～42cm			重複関係	なし
埋土	A～Cの3層に大別され，各層はさらに細別。				



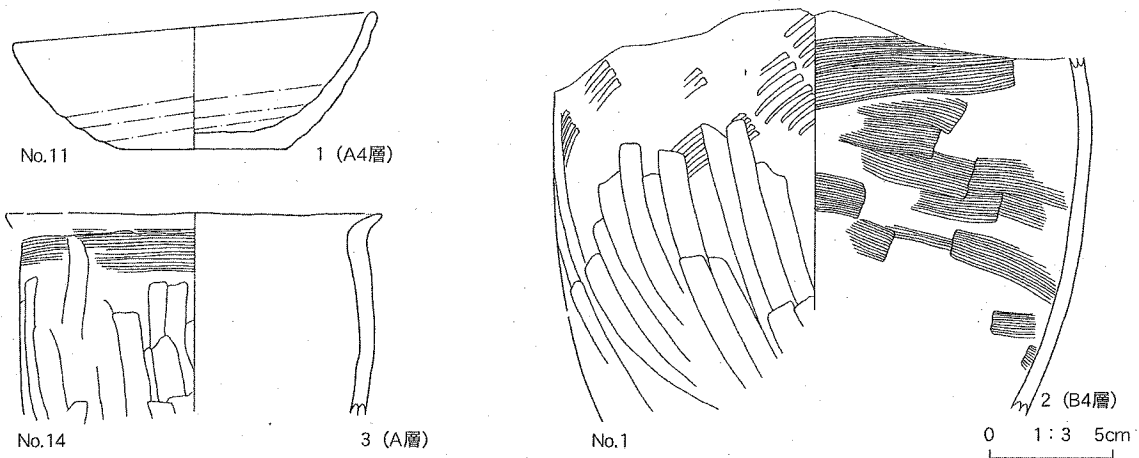
第33図 小幡遺跡RA031竪穴住居跡



第34図 小幡遺跡 R A 029 竪穴住居跡出土遺物



第35図 小幡遺跡 R A 030 竪穴住居跡出土遺物

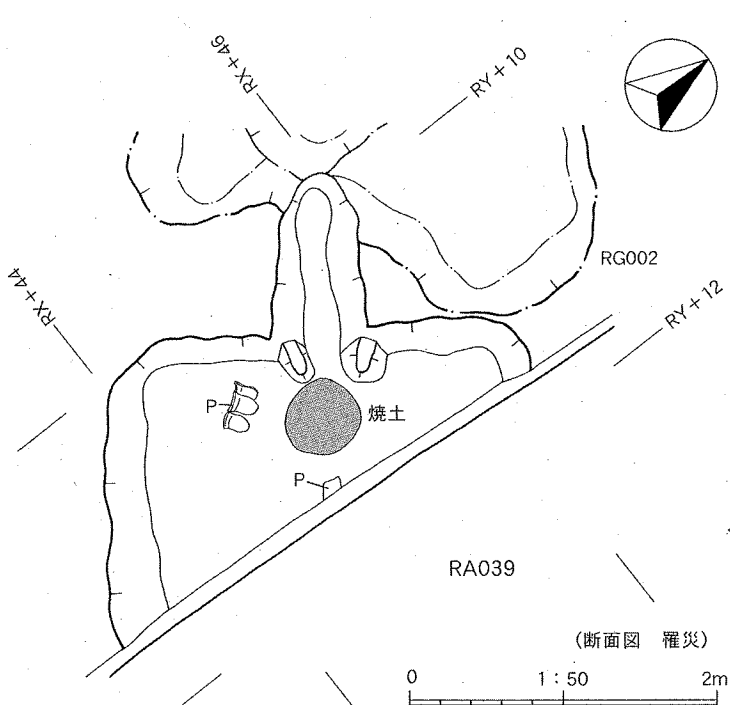


第36図 小幡遺跡 R A 031 竪穴住居跡出土遺物

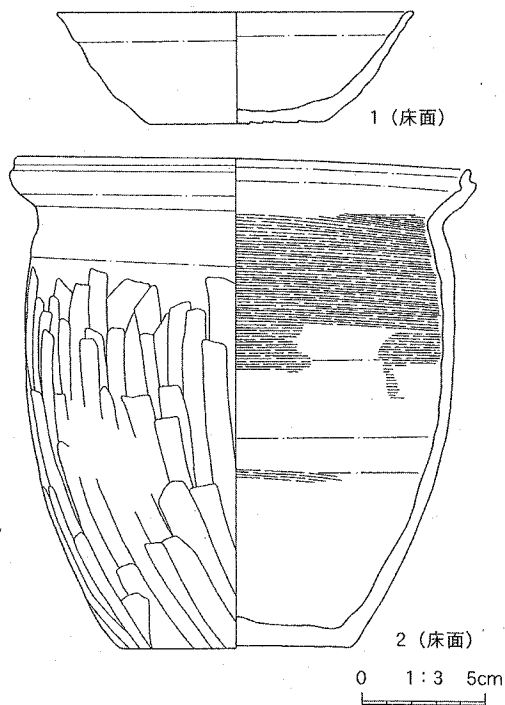
- 床 構築土 (D1~3層) 上面。
- カマド 東辺南端隅に1基検出。煙道形態は掘り込み式。煙道部は床面からほぼ平坦に延びる。長さ約1.10m, 幅20cm, 検出面からの深さは約20~24cm。煙出しは, 上端径40cm, 下端径18×25cm, 検出面からの深さ45cmのほどのピット状。埋土は暗褐色土に褐色土・焼土・炭化物を含む流入土 (J層) が堆積。
- ピット 床面に4口検出。
- 遺物 (第36図・第6表) 検出面・埋土・床面等から, あかやき土器の坏・甕, 土師器の坏・甕が出土した。  
1はあかやき土器の坏である。2はあかやき土器の甕である。体部外面はタタキの後ヘラケズリ, 体部内面はヘラナデの調整が施される。3は土師器の甕である。頸部にヨコナデ, 体部外面はヘラケズリが施される。

RA039竪穴住居跡 (第37図)

- 位置 C区 平面形 方形 主軸方向 N38° W
- 規模 北西-南東1.8m以上, 北東-南西2.8m 重複関係 なし
- 埋土 (断面図等罹災のため不明)
- カマド 北西壁中央に1基検出。煙道形態は掘り込み式と考えられる。煙道部は床面からほぼ平坦に延びる。長さ約1.05m, 幅40~60cm。基底部全面に火床面を確認。
- 遺物 (第38図・第6表) 床面等から, 須恵器の坏, あかやき土器の甕が出土した。1は須恵器の坏である。回転ヘラ切り無調整。2はあかやき土器の甕である。体部外面はヘラケズリ, 体部内面はカキメ調整が施される。



第37図 小幡遺跡 RA039竪穴住居跡



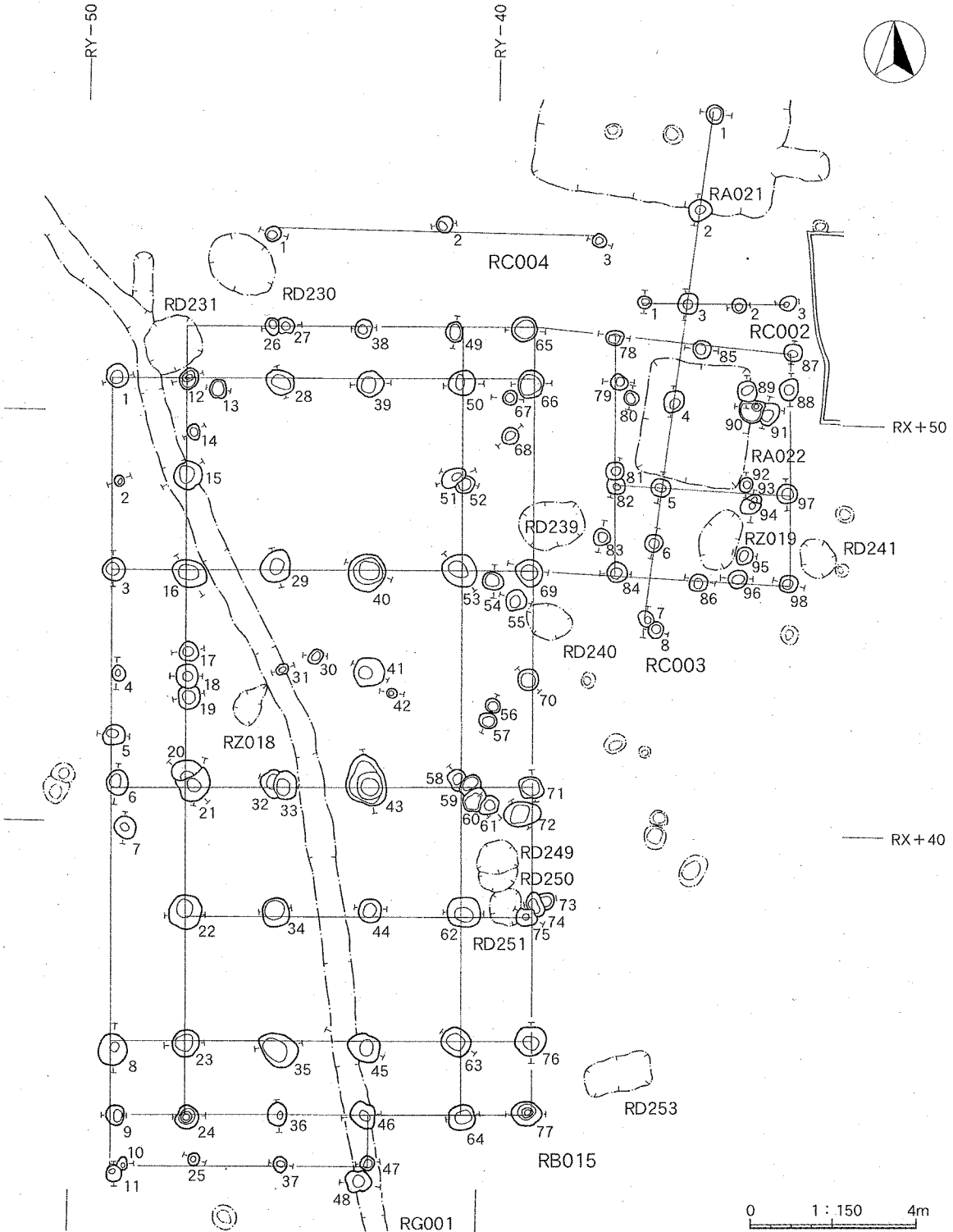
第38図 小幡遺跡 RA039竪穴住居跡出土遺物

(3) 掘立柱建物跡 (RB) ・一本柱列 (RC)

掘立柱建物跡15棟 (RB015~23, 027~032), 一本柱列3条 (RC002~004) を検出した。

R B015掘立柱建物跡 (第39・40図, 第2表)

桁行7間・梁間3間で構成される南北棟の主屋と北東側に桁行3間・梁間3間の付属屋, 南西側に1間の下屋がつく掘立柱建物跡である。付属屋は, 南に振れる。主屋は4ないし5間の



第39図 小幅遺跡 R B015掘立柱建物跡, R C002, 003, 004柱列跡平面図

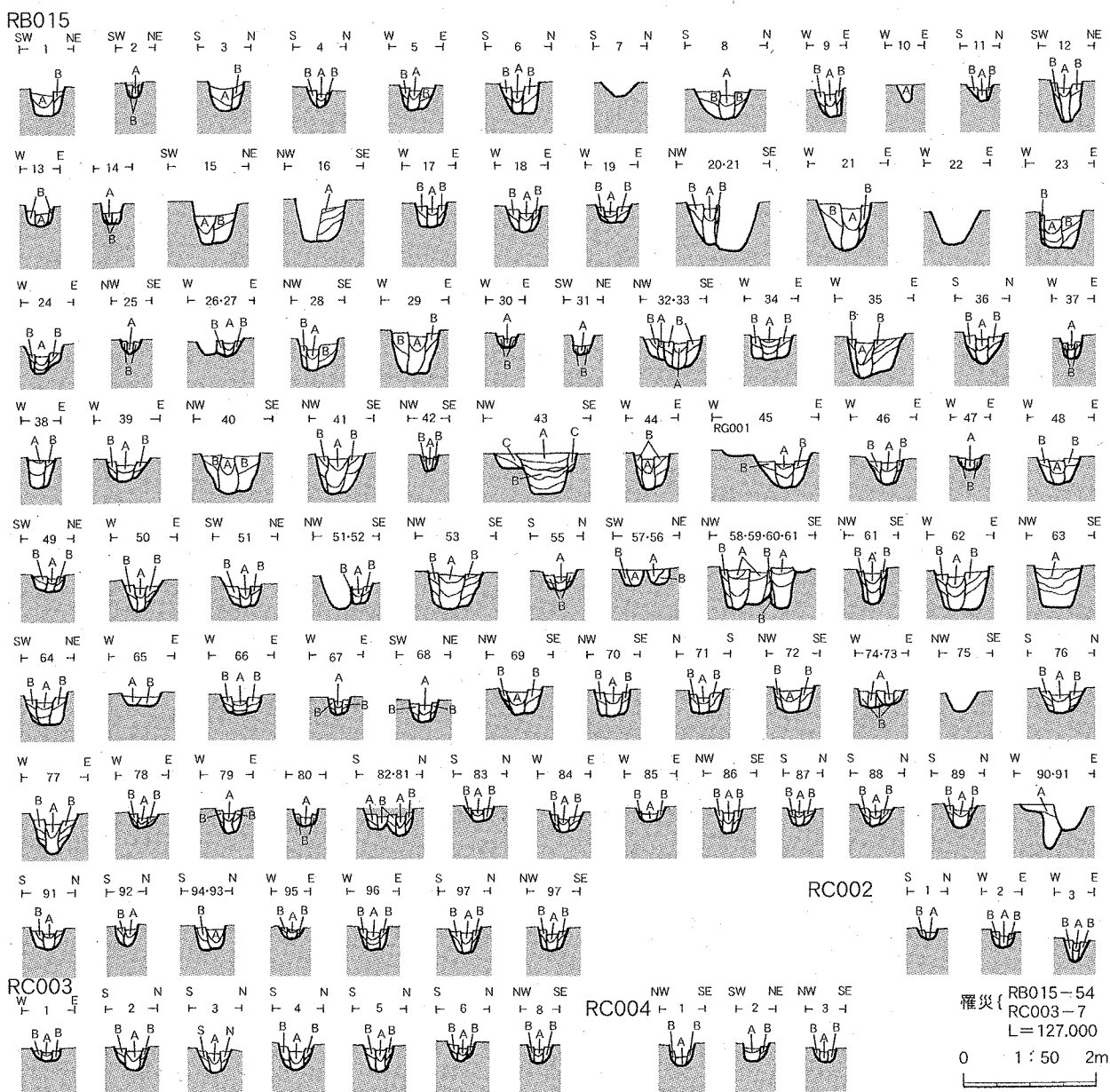
間仕切りがある。構造から近世以降の建物跡と考えられる。

**R C 002・003・004一本柱列跡 (第39・40図, 第2表)**

RC002と004の一本柱列は、RB015建物跡の北側に平行していることから、RB015付属の施設と考えられ、下屋などを構成する可能性もある。RC003一本柱列は、RB015、RC002、004よりも新しい可能性がある。

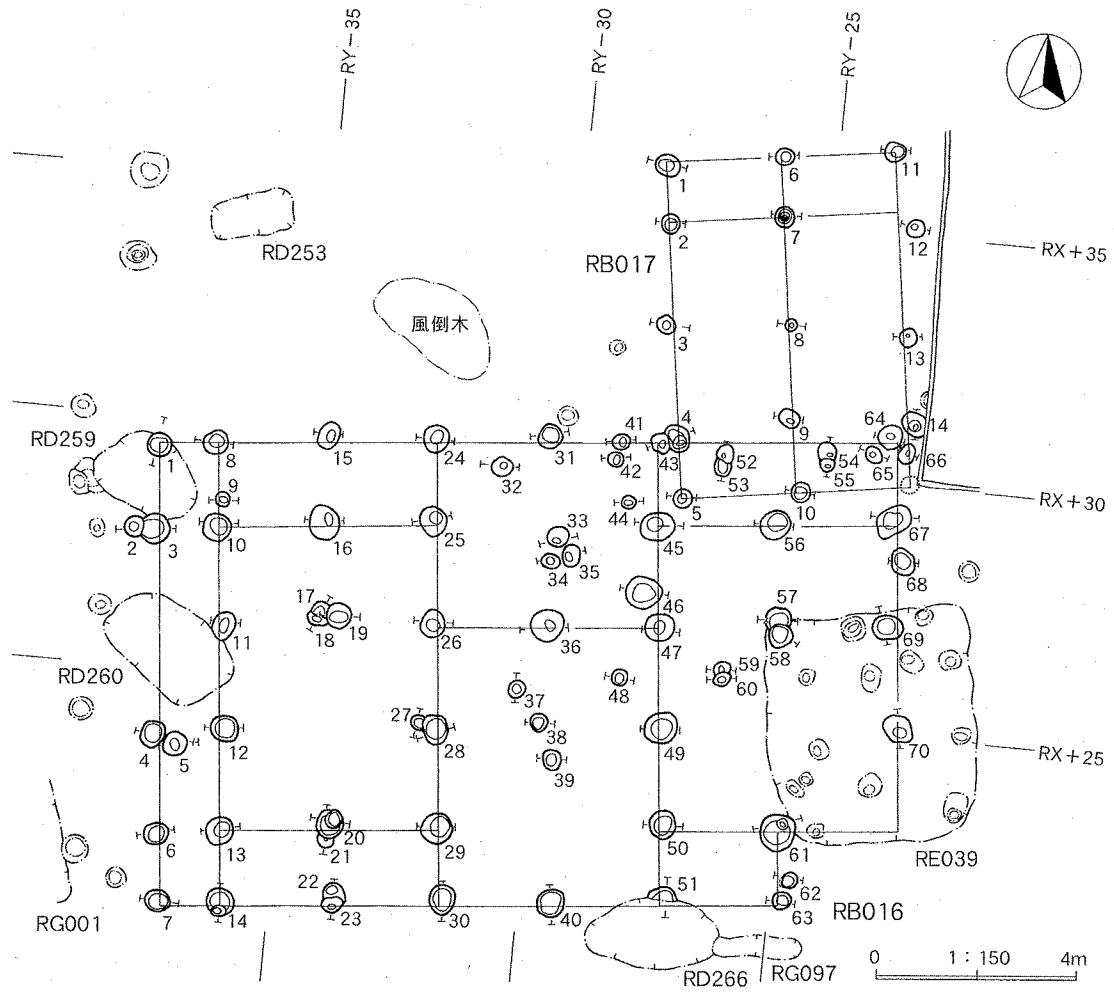
**R B 016掘立柱建物跡 (第41・42図, 第2表)**

桁行7間・梁間5間で構成される東西棟の掘立柱建物跡である。南東隅に出入口、中央から西側が互い違い田の字型の部屋に分かれる。構造から近世(17世紀末以降)の建物跡と考えられる。



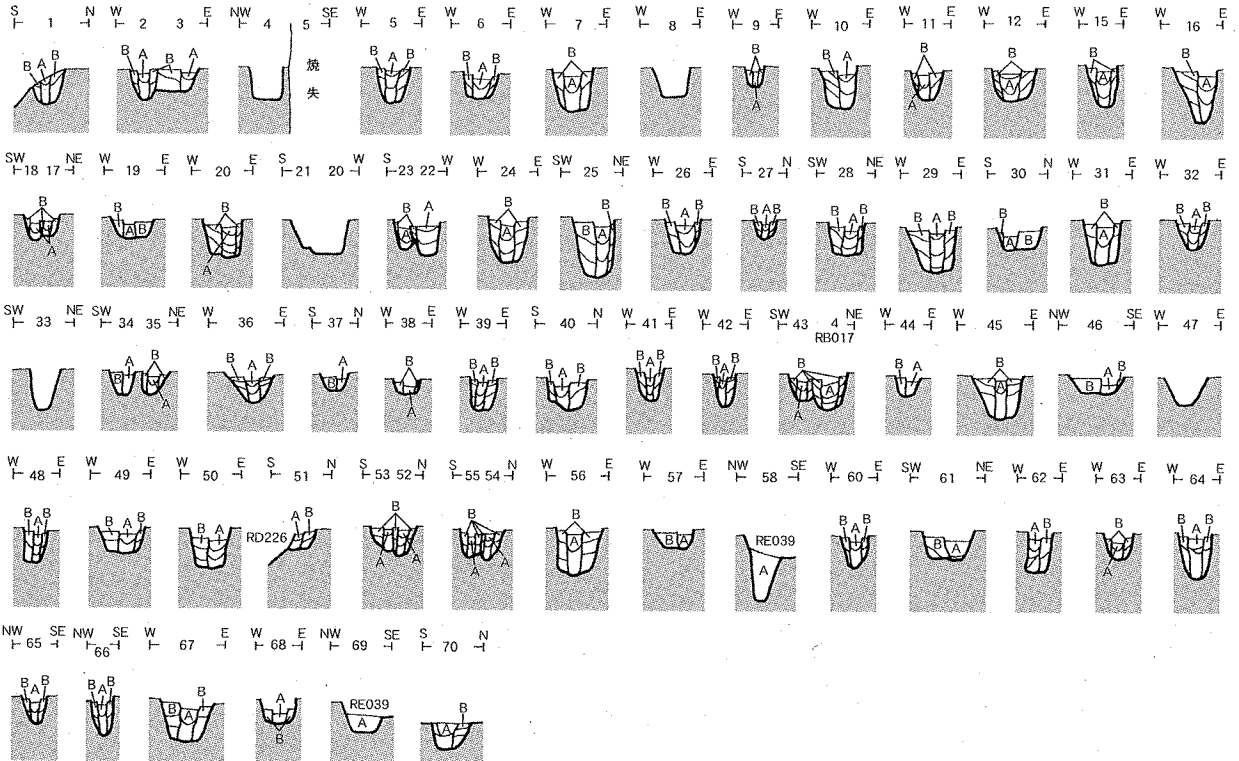
第40図 小幅遺跡 R B 015掘立柱建物跡, R C 002, 003, 004柱列跡断面図



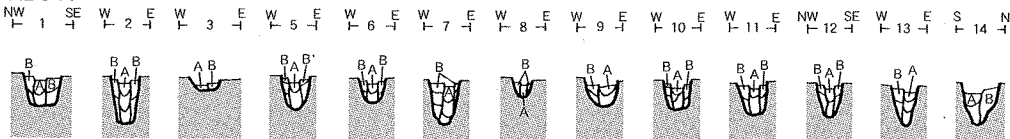


第41图 小幅遺跡R B016, 017掘立柱建物跡平面図

RB016



RB017



罹災  
RB013-014-059  
L = 127.000m  
0 1:100 2m

第42图 小幅遺跡R B016, 017掘立柱建物跡断面図

**R B 017掘立柱建物跡**（第41・42図，第2表）

桁行4間・梁間2間で構成される南北棟の掘立柱建物跡である。RB016建物跡よりも新しい。構造などから近世以降の建物跡と考えられる。

**R B 018掘立柱建物跡**（第43図，第2表）

桁行3間・梁行3間で構成される東西棟の掘立柱建物跡である。RG113と重複し古い。北側桁行柱筋の西から1間目に間柱が入ると考えられる。構造等から近世以降の建物跡と考えられる。

**R B 019掘立柱建物跡**（第44図，第2表）

桁行3間・梁行3間で構成される南北棟の掘立柱建物跡である。RG099溝跡と重複し新しい。北から1間目に間仕切り等が配置されていた可能性がある。構造等から近世以降の建物跡と考えられる。

**R B 020掘立柱建物跡**（第44図，第2表）

桁行2間・梁行2間で構成される正方形の掘立柱建物跡である。総柱の建物跡の可能性もあるが、内部に柱穴は確認できなかった。本建物跡の北西に位置するRA024堅穴住居跡と方向が酷似する点や構造等から、古代の建物跡の可能性もある。

**R B 021掘立柱建物跡**（第45図，第2表）

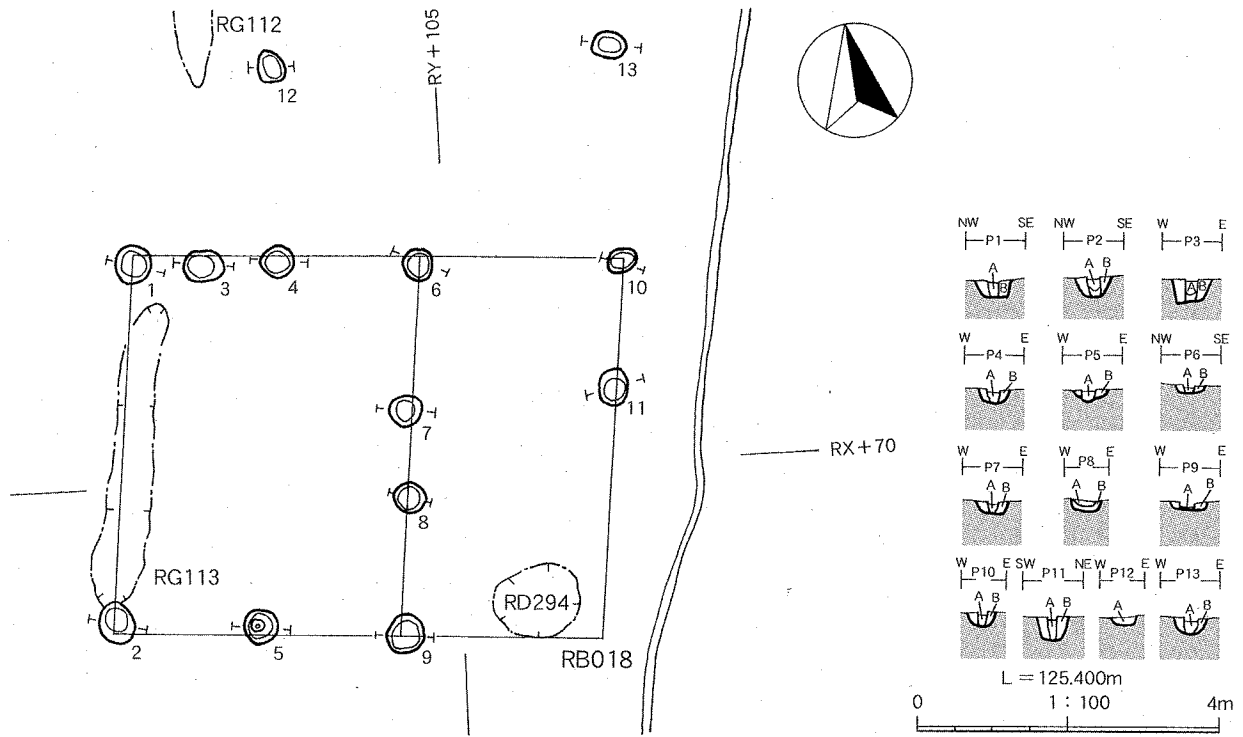
桁行1間・梁行1間で構成される正方形の掘立柱建物跡である。南側柱筋は建替えのある可能性がある。構造や周辺の状態から、近世以降の建物跡と考えられる。

**R B 022掘立柱建物跡**（第46図，第2表）

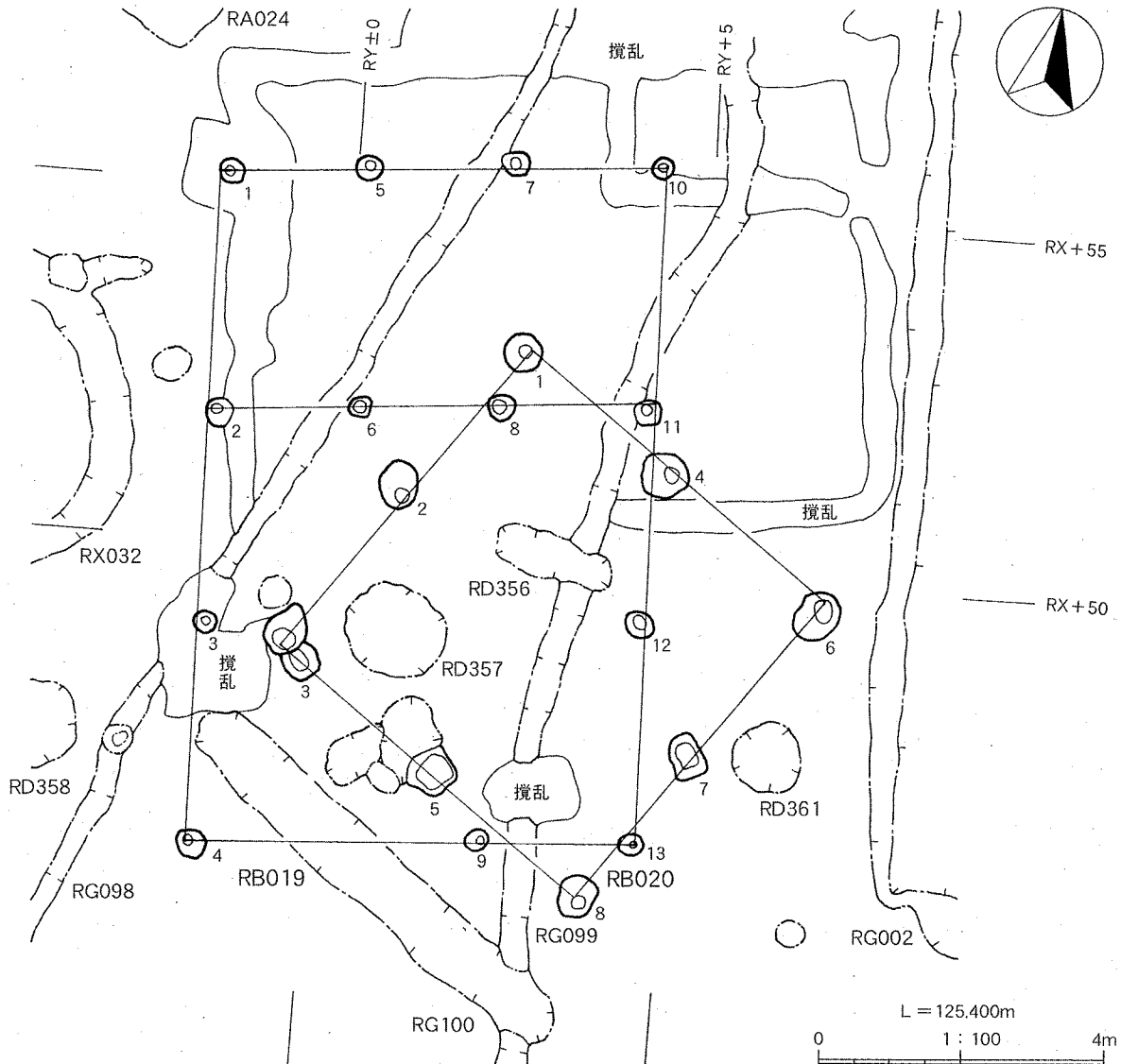
桁行5間・梁行3間の東西棟で南北に1間ずつ庇もしくは縁のつく掘立柱建物跡である。南側柱筋は建替えのある可能性がある。構造や周辺の状態から、近世以降の建物跡と考えられる。

**R B 023掘立柱建物跡**（第47図，第2表）

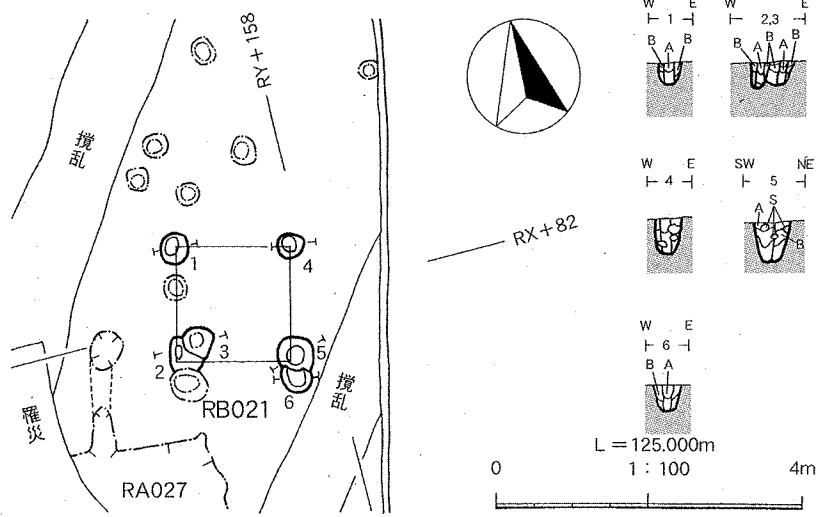
桁行3間・梁行1間の南北棟の掘立柱建物跡である。桁行柱筋には柱筋溝状遺構が検出されている。地覆もしくは壁材の据付痕もしくは抜き取り痕の可能性もある。近世以降の建物跡と考えられるRB029建物跡などと方向が揃うことや周辺の状態から、近世以降の建物跡と考えられる。



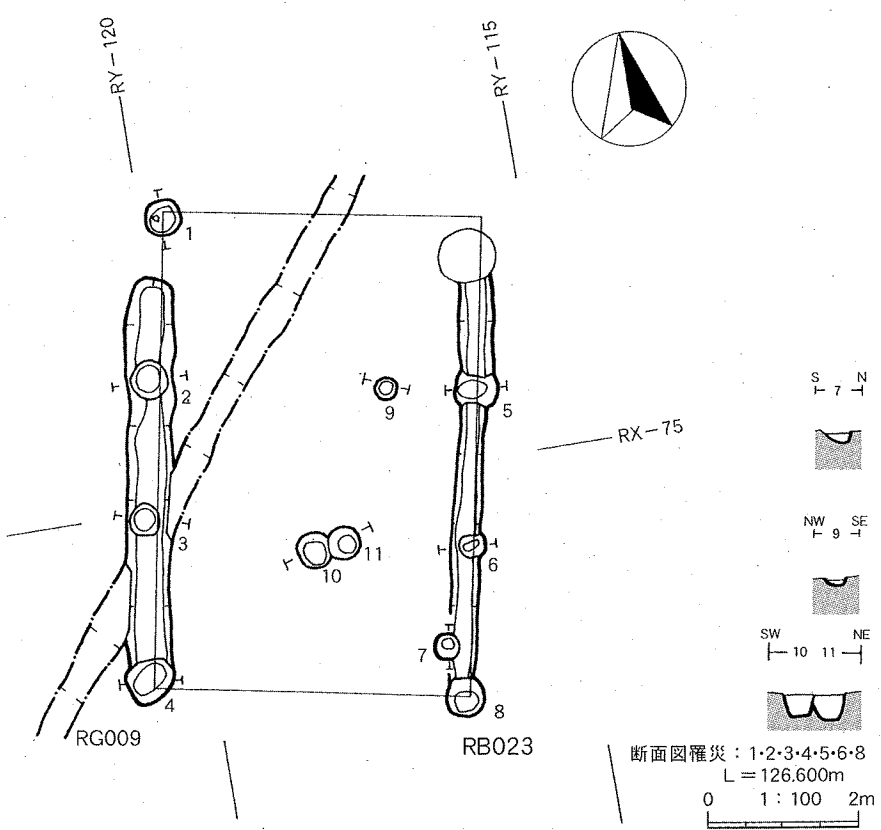
第43図 小幅遺跡 R B 018掘立柱建物跡



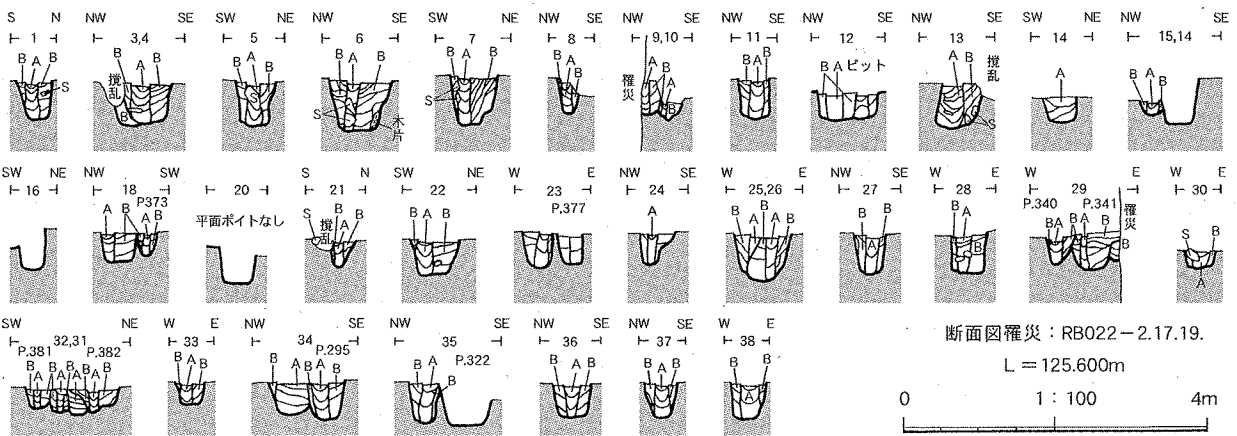
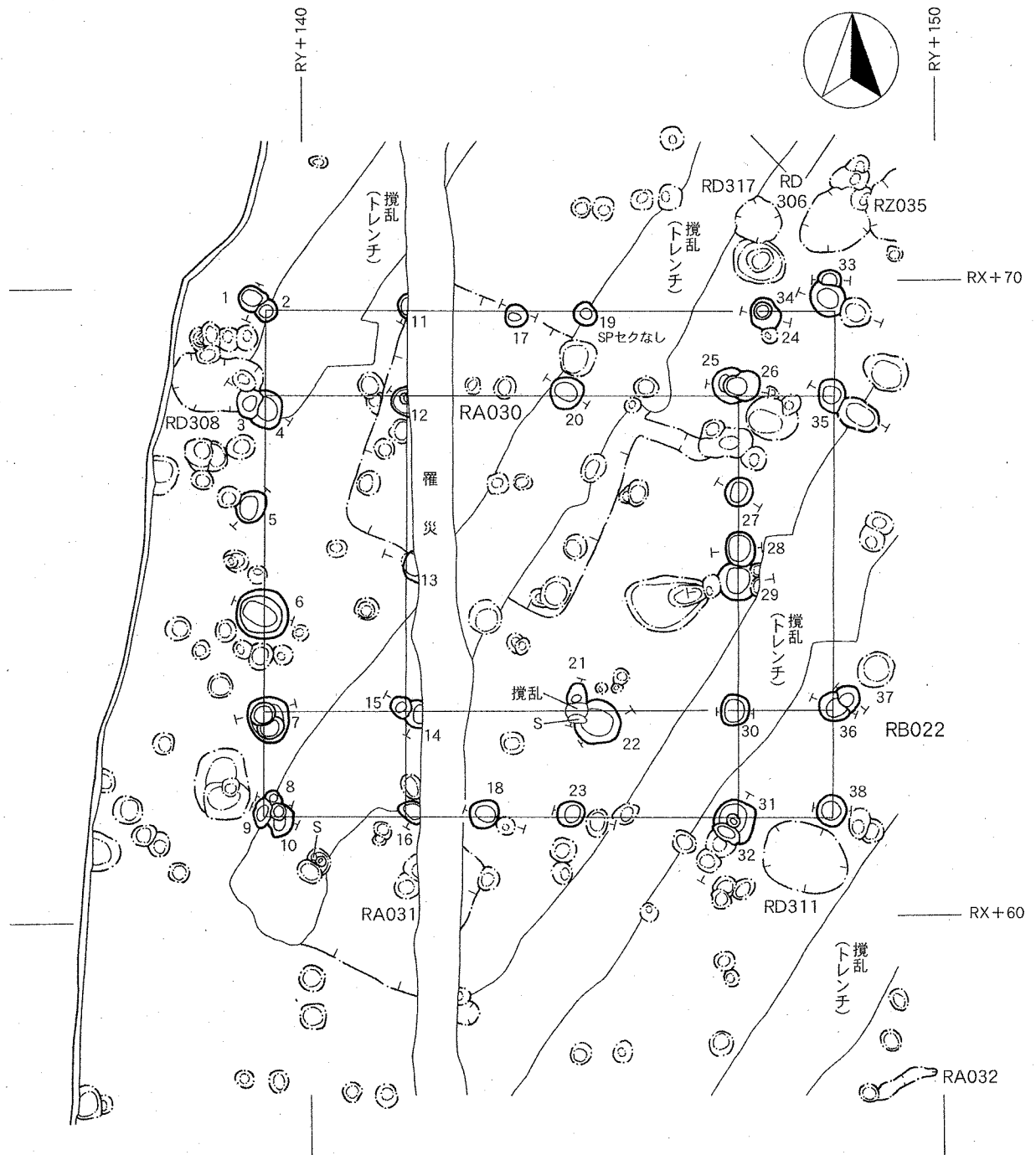
第44図 小幅遺跡 R B 019, 020掘立柱建物跡



第45図 小幅遺跡 R B 021掘立柱建物跡



第46図 小幅遺跡 R B 023掘立柱建物跡



第47図 小幅遺跡R B 022掘立柱建物跡

R B027掘立柱建物跡 (第48・49図, 第2表)

桁行2間・梁行2間の南北棟で、間仕切りをもつ掘立柱建物跡である。RB028建物跡と一部重複し、RB028建物跡よりも新しい。構造や周辺の状況から、近世以降の建物跡と考えられる。

R B028掘立柱建物跡 (第48・49図, 第2表)

桁行15間・梁行3間の東西棟の身舎に、南西側に桁行7間・梁行3間の南北棟がつくL字形の平面形、いわゆる曲り家状を呈する掘立柱建物跡である。身舎南側柱筋の西端に1間分の下屋がつき、玄関部と考えられる。曲り家西側柱筋の北から2間目に桁行3間梁行1間分の下屋がつく。建物の一部が調査範囲外であるが、身舎は4回の建替が認められる。RB027建物跡と重複し、古い。構造や周辺の状況から、近世以降の建物跡と考えられる。

R B029掘立柱建物跡 (第48・49図, 第2表)

桁行6間・梁行2間の東西棟で南に2間の庇もしくは縁のつく掘立柱建物跡である。構造や周辺の状況から、近世以降の建物跡と考えられる。

R B030掘立柱建物跡 (第50図, 第2表)

桁行6間・梁行2間の南北棟の掘立柱建物跡である。構造や周辺の状況から、近世以降の建物跡と考えられる。

R B031掘立柱建物跡 (第50図, 第2表)

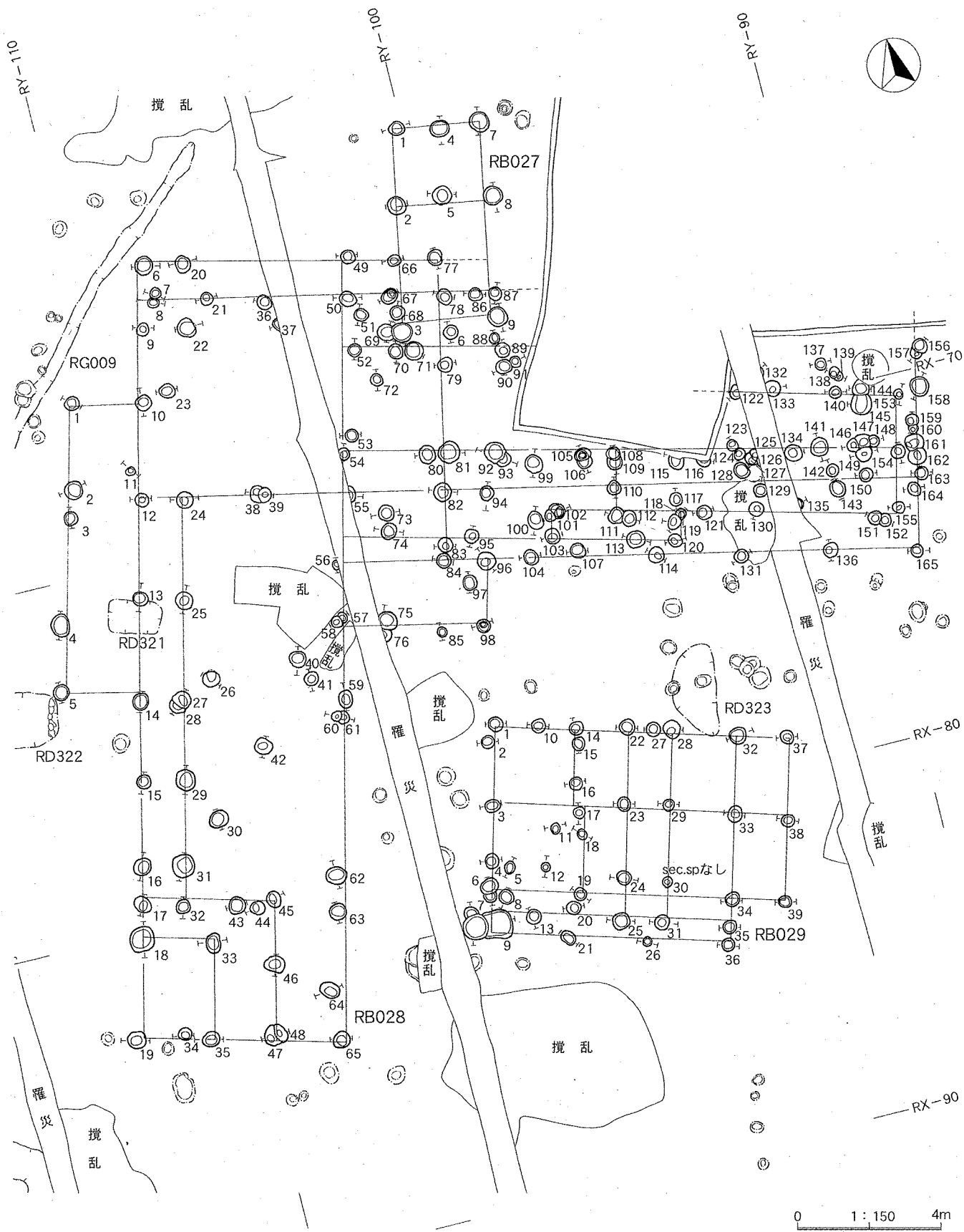
桁行6間・梁行1間の南北棟の掘立柱建物跡である。構造や周辺の状況から、近世以降の建物跡と考えられる。

R B032掘立柱建物跡 (第51図, 第2表)

桁行7間・梁行3間の東西棟の掘立柱建物跡である。柱穴の重複関係から同位置同規模の2時期の変遷がある。桁行北側柱筋に1間分の庇がつく。桁行柱筋4間目に間仕切りがつく。構造や周辺の状況から、近世以降の建物跡と考えられる。

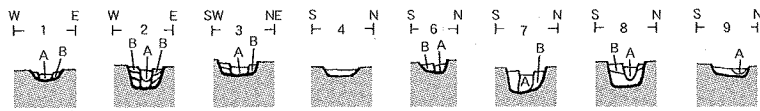
遺構名	位置		棟方向	総長 (m/尺)		身舎構造		柱間寸法 (m)		新旧関係 (旧→新)	備考	
	区	RX		RY	桁行総長	梁行総長	桁行柱間	梁行柱間	桁行柱間			梁行柱間
RB015 主屋			N1° W	17.9/59	6.7/22	7間	3間	2.4・2.4・5.2・3.0・3.0・1.8・1.2	2.4・2.1・2.1		北東に付属屋。南西に下屋。	
付属屋				6.3/21	5.6/18.5	3間	3間	2.1・2.1・2.1	0.9・2.4・2.1			
RB016			E4.5° N	14.7/48.5	9.2/30.5	7間	5間	1.05・2.1・2.3・2.3・2.1・2.4・2.4	1.7・1.8・1.8・2.1・1.7	→RB017		
RB017			N6.5° W	6.7/22	9.2/30.5	4間	2間	1.2・2.1・2.25・1.05	2.25・2.25	RB016→		
RB018	F	+75	+100	E3.5° N	6.5/21.5	5/16.5	3間	1間	1.8・1.8・2.7	5.1		
RB019	C	+55	-5	N1.5° W	9.4/31	6.3/21	3間	3間	3.3・3.0・3.0	2.1・2.1・2.1		
RB020	C	+50	±0	N35.5° E	5.4/18	5.4/18	2間	2間	2.7・2.7	2.7・2.7		
RB021		+84	+160	N14.5° E	1.5/3	1.5/3	1間	1間	1.5	1.5		
RB022	H	+70	+145	E1° S	8.9/29.5	7.9/26	5間	3間	北 2.25・1.7・1.05・2.9・1.1 南 2.25・1.25・1.3・2.6・1.5	1.65・1.65・1.65		南北に1間ずつ庇か縁 (北1.3・南1.65)
RB023	G	-68	-118	N10° E	3.1/10	2.1/7	3間	1間	1.1・0.9・1.1	2.1		地覆長押もしくは壁据付痕
RB027	G	-62	-102	N10.5° E	5.9/20	2.4/8	2間	2間	2.1・3.8	1.2・1.2		
RB028-A	G	-64	-108									
RB028-B	G	-64	-108									
RB028-C	G	-64	-108									
RB029	G	-84	-102	E16° S	8.3/27.5	5.2/17	6間	3間	1.2・1.05・1.5・1.2・1.8・1.5	2.1・2.4・0.6		
RB030	G	-70	-86	N19° E	7.4/24.5	3.2/10.5	6間	2間	東 0.75・2.25・1.2・1.2・1.5・1.5 西 1.1・1.1・1.1・1.1・1.1・1.9	北 1.35・1.65 南 1.65・1.5	31→	
RB031	G	-70	-86	N18° E	8.2/27	3.3/10	6間・5間	1間	東 1.2・1.2・1.8・2.1・1.5・1.5 西 1.5・0.9・1.8・2.1・1.8	北 3.2 南 3.3	→30	
RB032	G	-72	-82	E17.5° S	13.8/45.5	6.7/22	6間	4間	2.55・2.55・2.1・2.1・2.1・2.25	東 0.9・0.9・2.1・2.4 西 0.9・1.2・2.1・2.4		2時期

第2表 小幅遺跡 掘立柱建物跡一覧

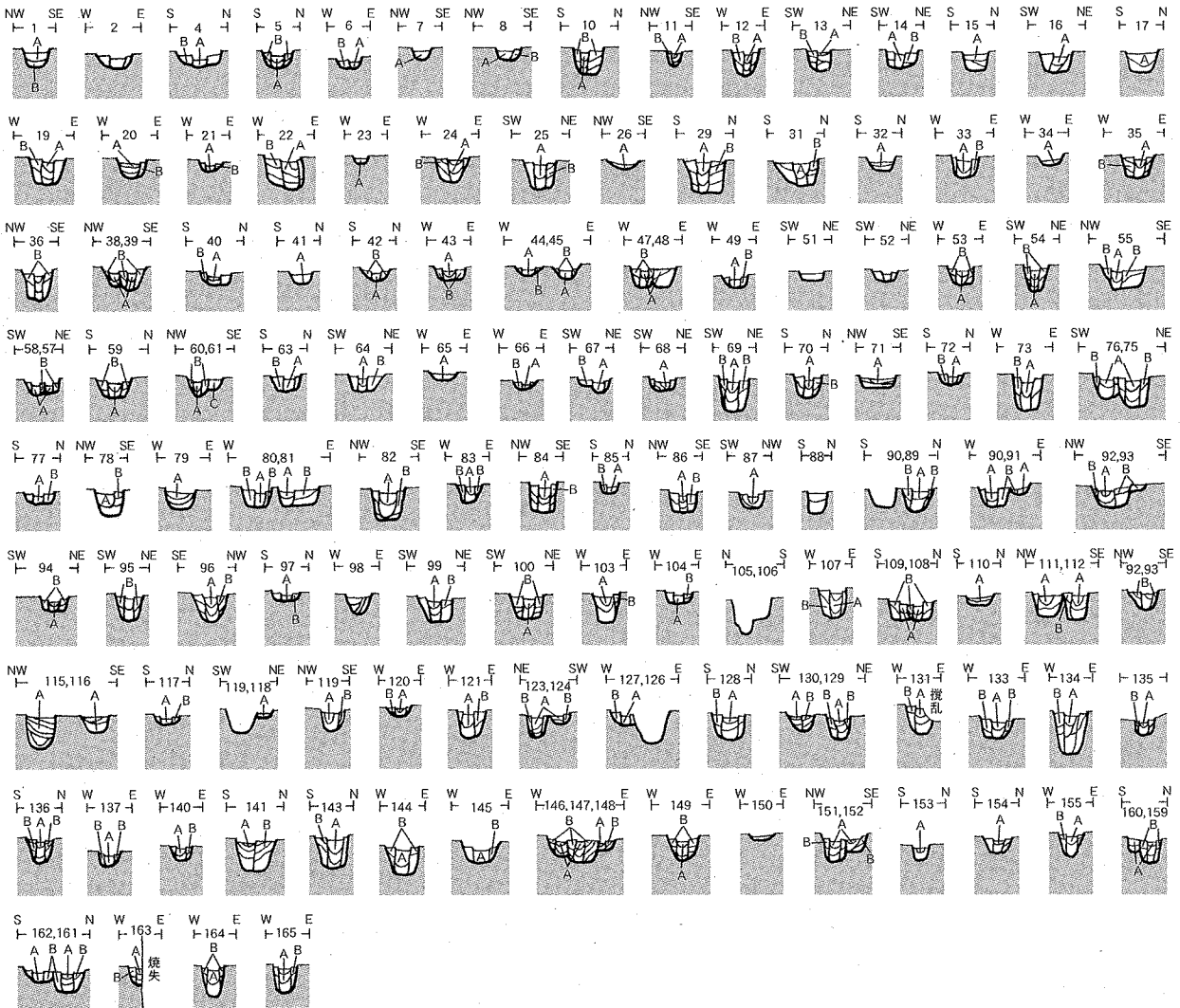


第48図 小幅遺跡 R B 027, 028, 029掘立柱建物跡平面図

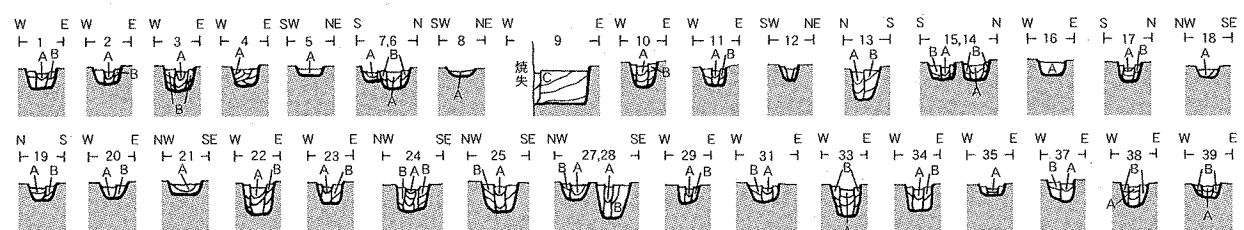
RB027



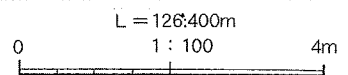
RB028



RB029

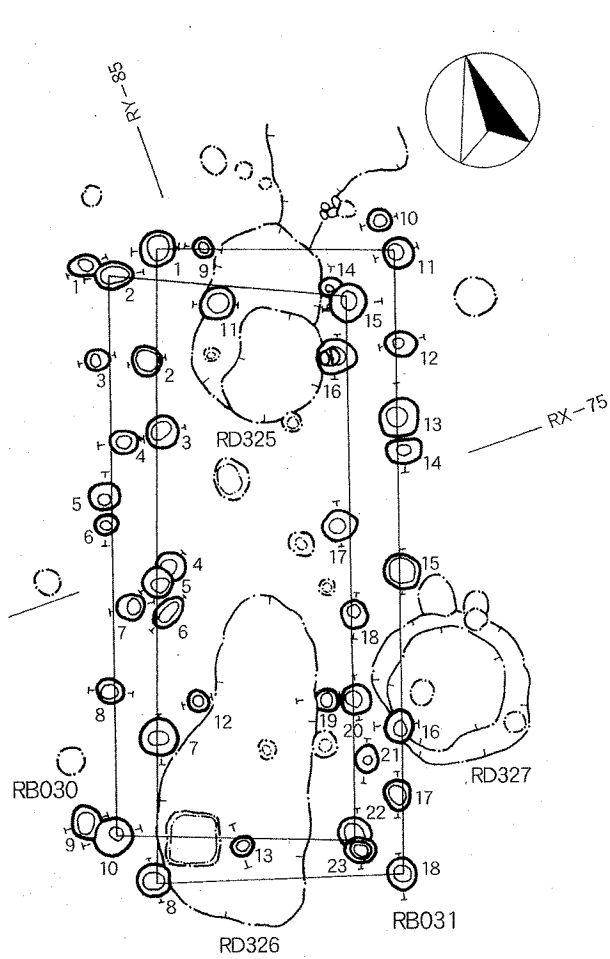


罹災した断面図：RB027-5 RB029-26,30,32,36  
 RB028-3,9,18,27,28,30,37,46,50,56,62,74,101,102,113,122,125,132,138,139,142,156,157,158

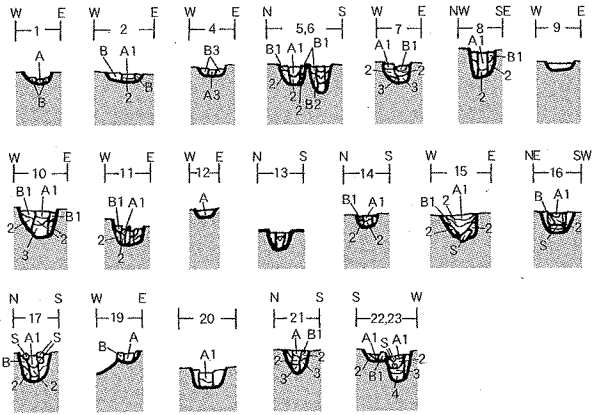


第49図 小幅遺跡 R B 027, 028, 029掘立柱建物跡断面図

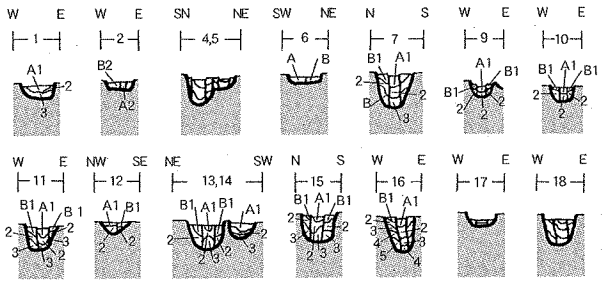




RB030

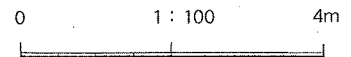


RB031

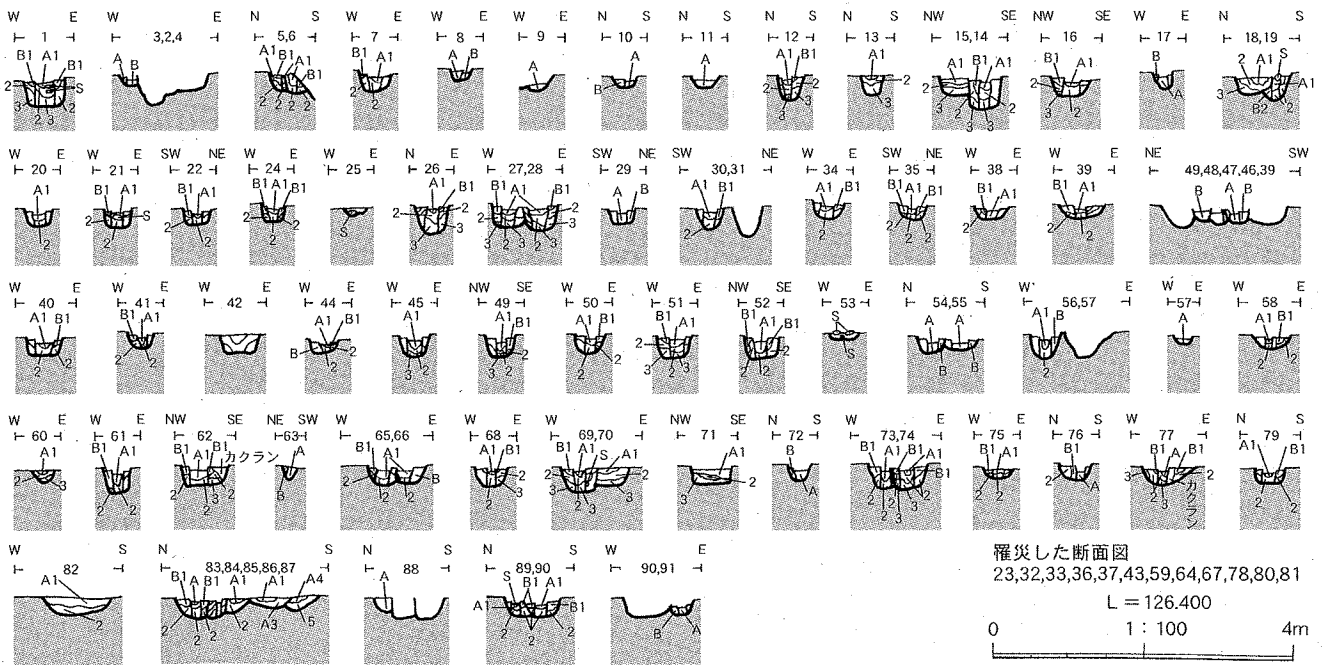
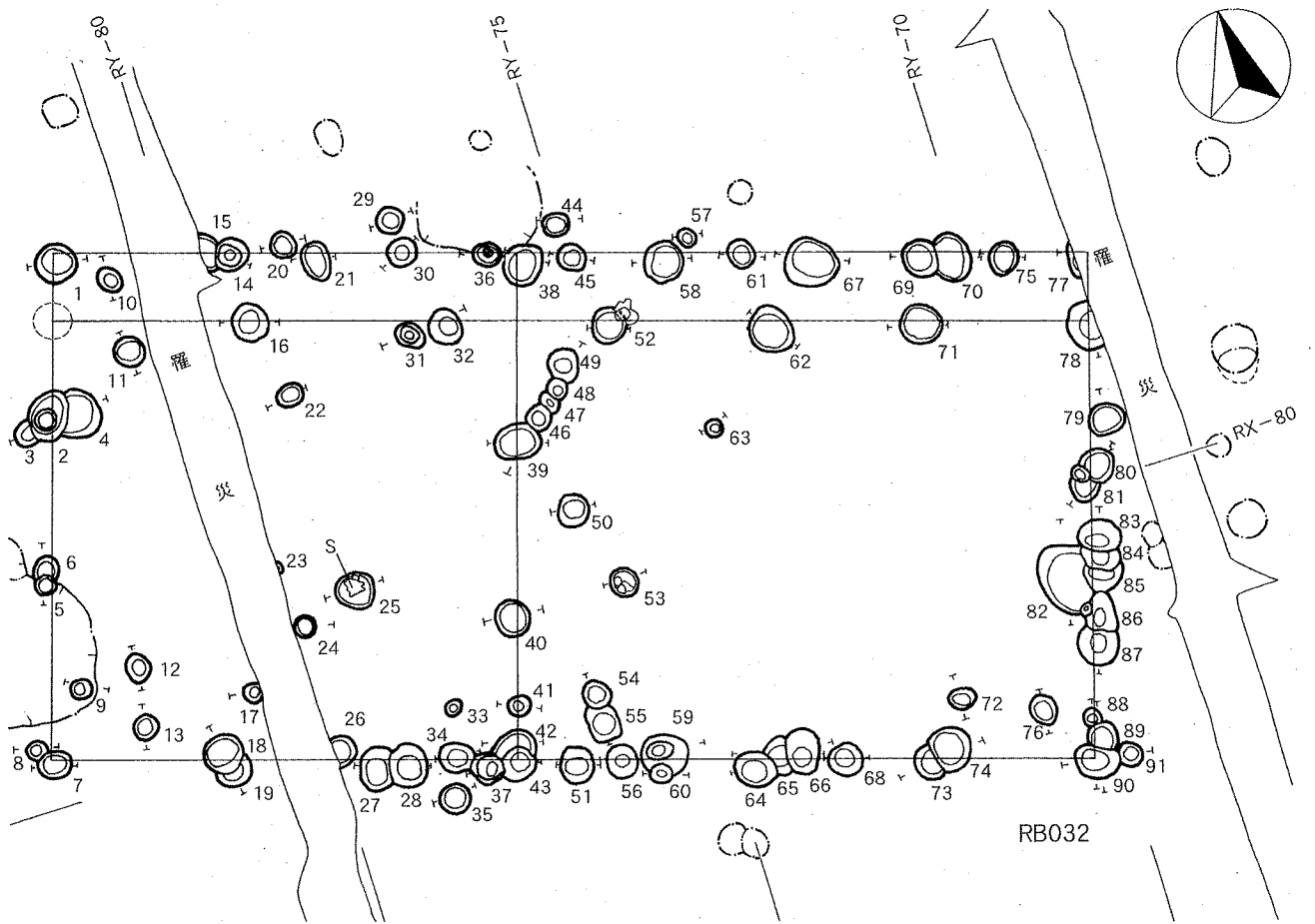


罹災した断面図 (RB030-3  
RB031-3)

L = 126.400m



第50図 小幅遺跡 R B 030, 031掘立柱建物跡



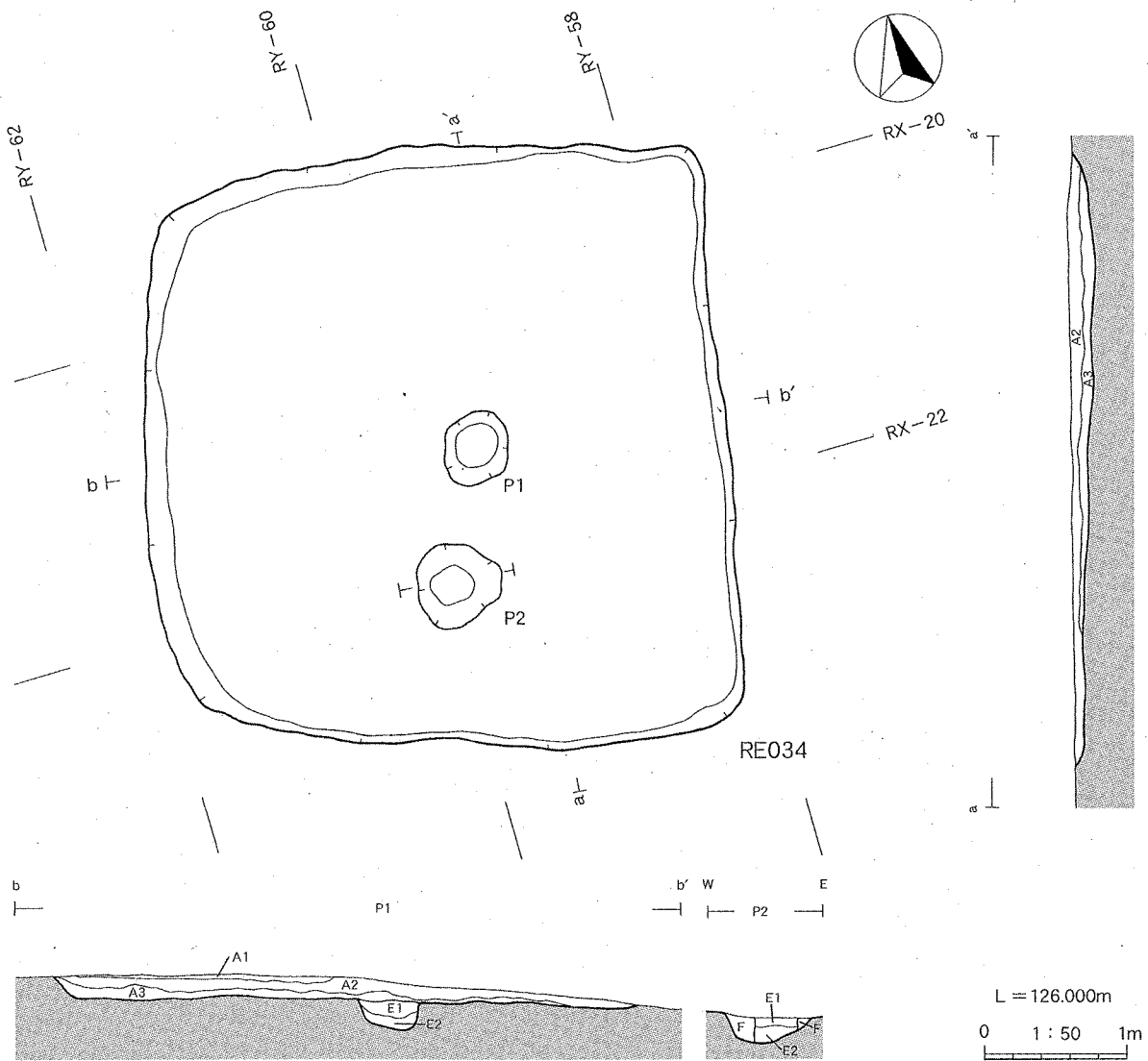
第51図 小幅遺跡 R B032掘立柱建物跡

(4) 竪穴建物跡 (RE)

竪穴建物跡 9 棟 (RE034~042) を検出した。

RE034竪穴建物跡 (第52図)

南北4.2m, 東西4.1mの方形を呈する。検出面から床面までの深さは、8~18cmをはかる。埋土は自然堆積である。床面はほぼ平坦で、壁面は皿状を呈する。床目中央やや南寄りに小ピット2口を検出した。柱穴と考えられる。近世以降の室の可能性がある。



第52図 小幅遺跡 R E 034竪穴建物跡

#### RE035・36・37 竪穴建物跡 (第53図)

3棟重複して確認された。古い順に、RE037→036→035に構築されたものである。おおむね南北2.3～2.5m、東西2.04～2.5mをはかり、方形を呈する。検出面から床面までの深さは5～24cmをはかり、RE036が最も深い。近世以降の室の可能性はある。

#### RE038 竪穴建物跡 (第54図)

南北に突出部を持つ南北方向の竪穴建物跡である。突出部も含め南北3.31m、東西1.95mをはかる。不整長方形を呈する。検出面から床面までの深さは72～94cmをはかり、床面は北側にむかって緩やかに深くなる。検出面から突出部底面までの深さは30～34cmをはかる。埋土は自然堆積である。壁面下の床面に6口の小平坑を検出した。桁行2間、梁行1間の柱穴と考えられる。南北の突出部は出入口部と考えられるが、同時に南北共にあったのか、片方ずつ新旧関係があるのかは不明である。中近世以降の遺構の可能性はある。

#### RE039 竪穴建物跡 (第55図)

南北4.6m、東西4.1mをはかり、方形を呈する。検出面から床面までの深さは28～30cmをはかる。埋土は自然堆積である。床面は平坦であり、柱穴と考えられる小平坑をつなぐように壁下周溝と、内側に壁面とほぼ平行に1条の溝がめぐる。P6・7・8は棟持柱の可能性はある。中近世以降の遺構の可能性はある。

#### RE040 竪穴建物跡 (第56図)

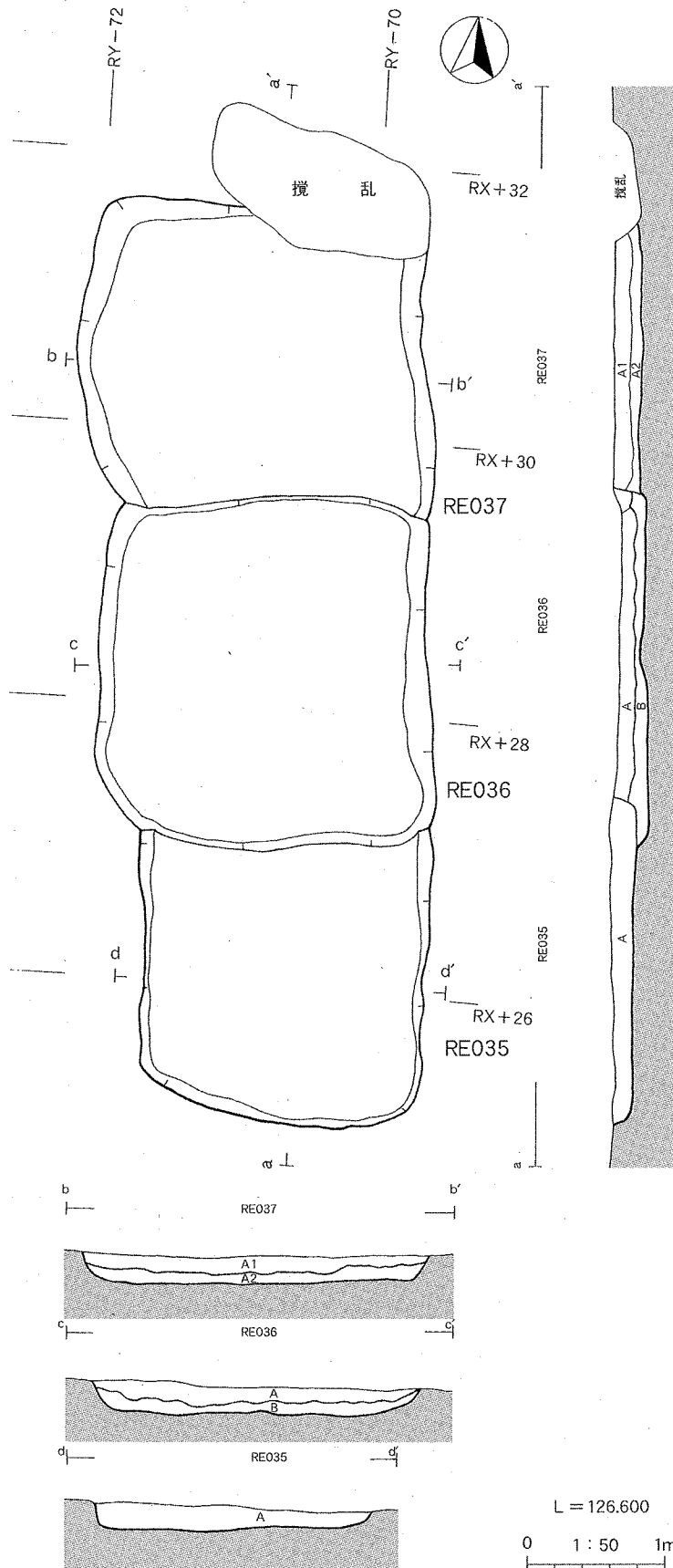
平面形は方形で、北東隅に突出部をもつ。南北3.18m、東西2.5m、突出部も含めると東西2.8m以上をはかる。検出面から床面までの深さは10～18cmをはかる。埋土は自然堆積である。床面はほぼ平坦である。中近世以降の遺構の可能性はある。

#### RE041 竪穴建物跡 (第56図)

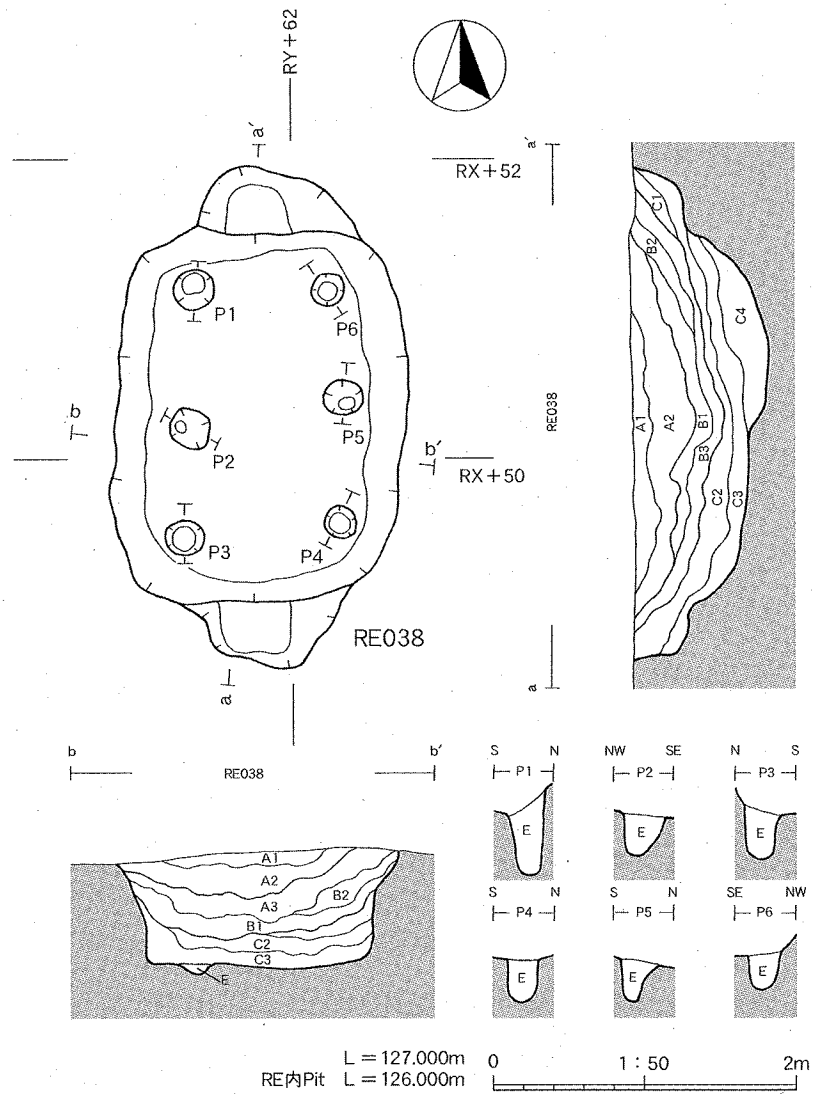
調査区外に大半が位置し、その北東隅だけを検出した。平面形は方形と考えられ、検出面から床面までの深さは15～20cmをはかる。埋土は自然堆積である。古代以降の可能性はある。

#### RE042 竪穴建物跡 (第56図)

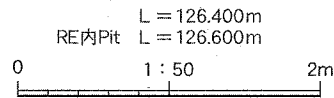
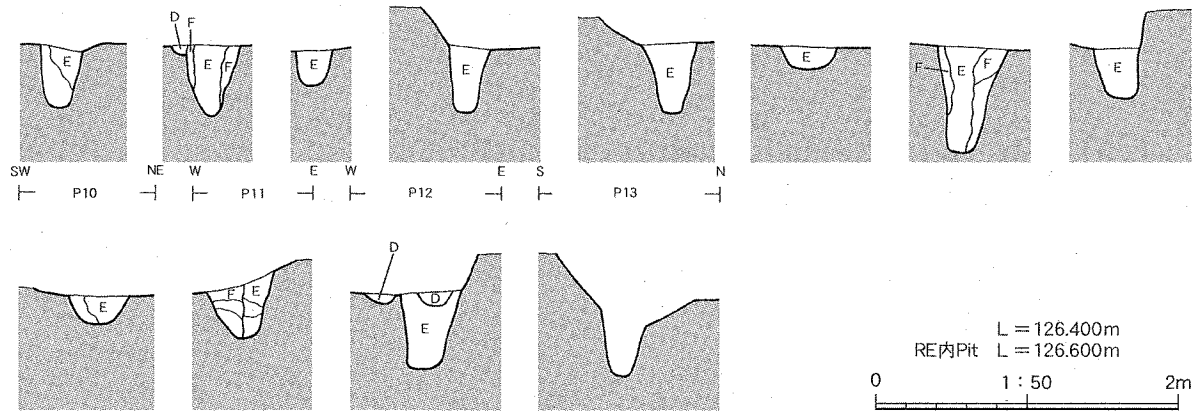
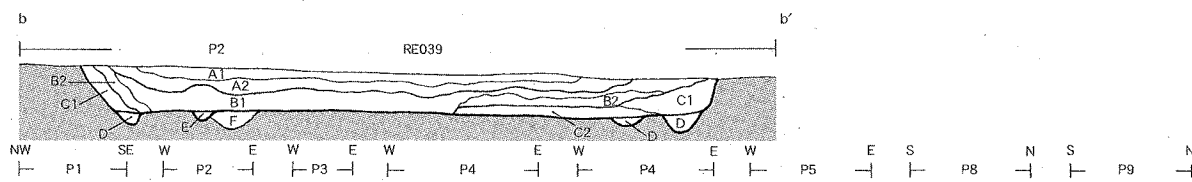
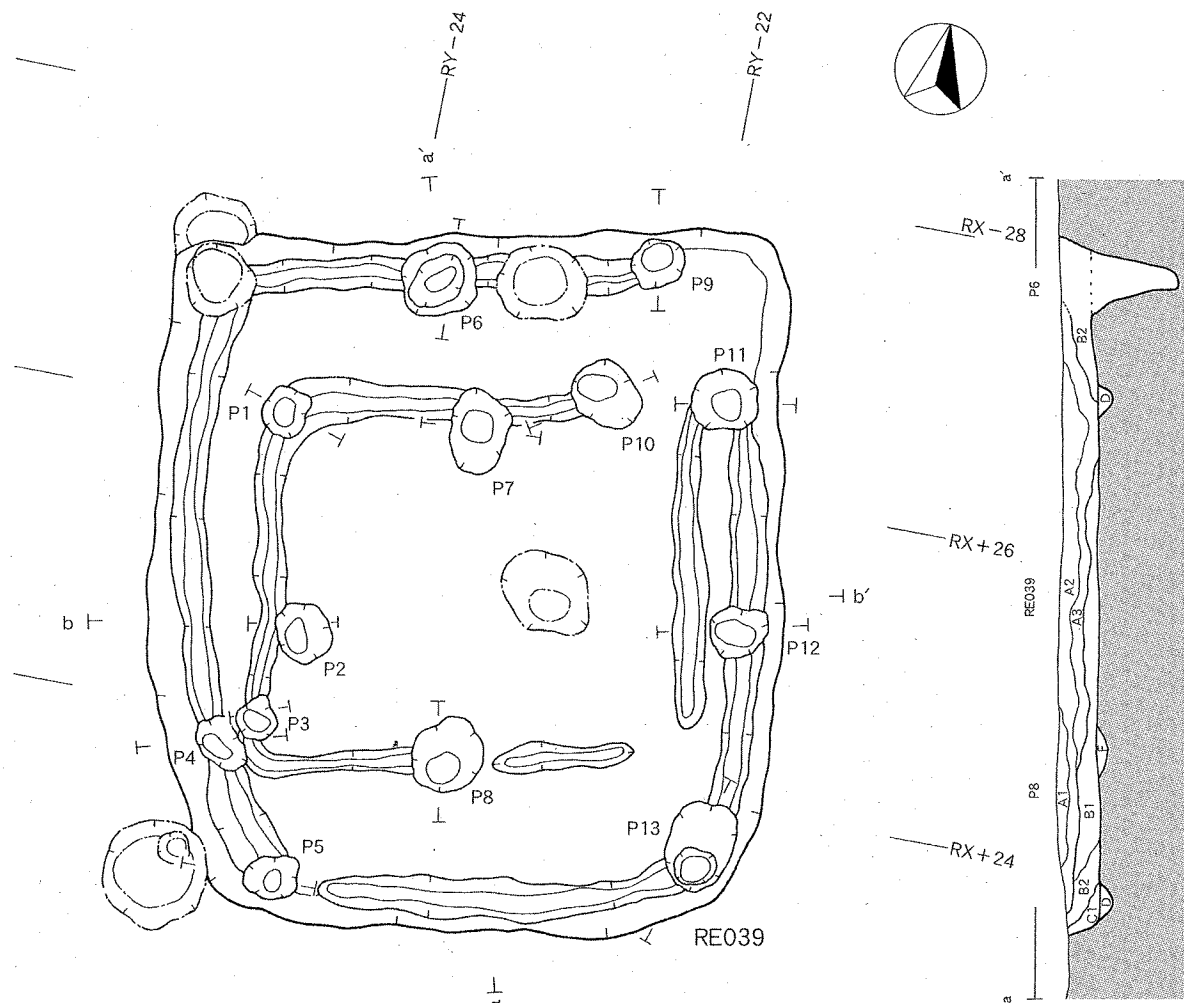
調査区外に大半が位置し、その西端だけを検出した。平面形は方形と考えられる。南北6.3m、東西1.2m以上をはかる。検出面から床面までの深さは約28cmをはかる。埋土は自然堆積である。床面はほぼ平坦である。古代以降の遺構の可能性はある。



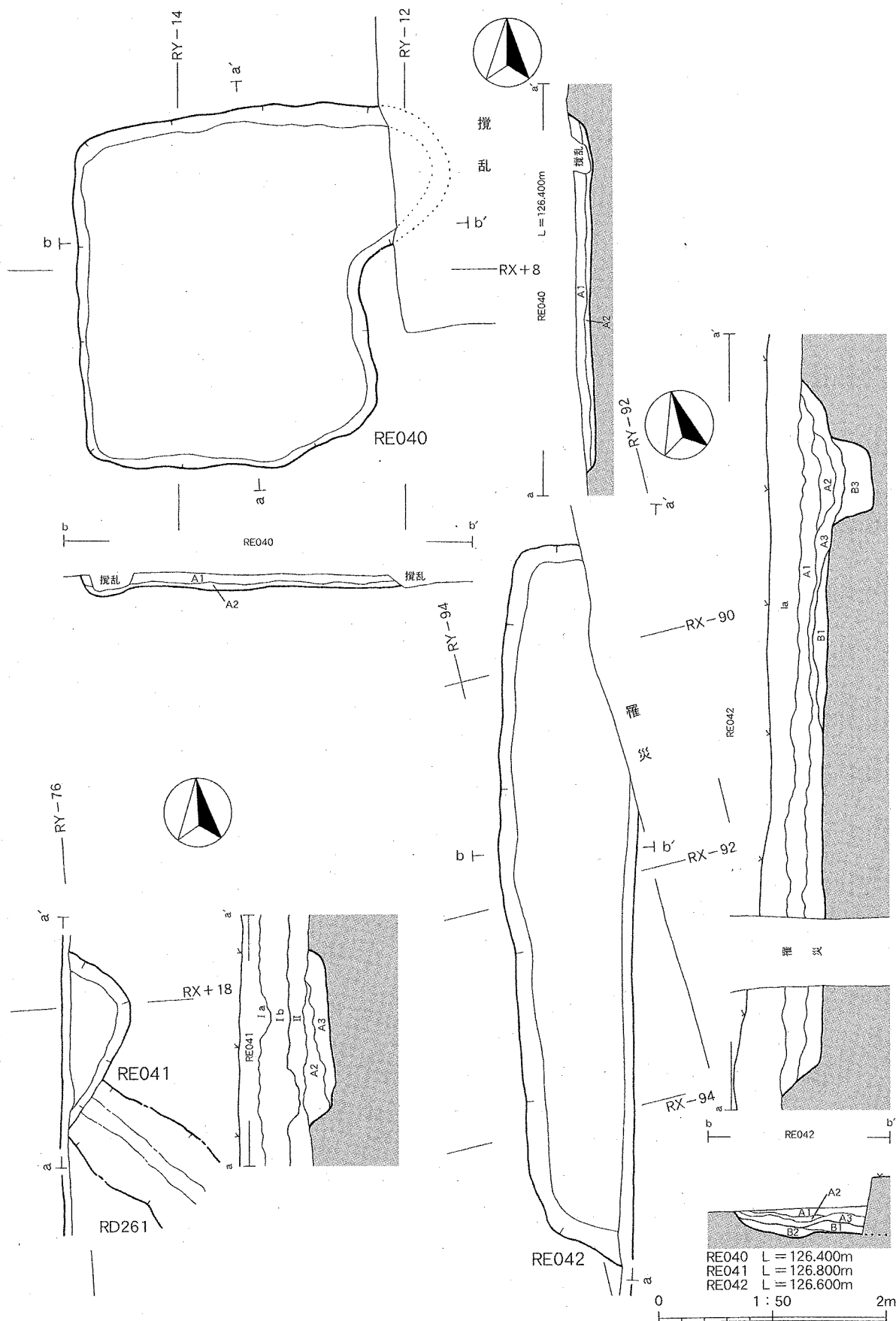
第53図 小幅遺跡 R E 035, 036, 037 竪穴建物跡



第54図 小幅遺跡 R E 038 竪穴建物跡



第55図 小幅遺跡 R E 039 竪穴建物跡



第56図 小幅遺跡 R E 040, 041, 042 竖穴建物跡



## (5) 井戸跡 (R I)

井戸跡 3 基 (RI006・007・008) を検出した。

### R I 006井戸跡 (第57図)

平面形は長軸1.7m, 短軸1.42mほどをはかる円形を呈する。検出面から底面までの深さは、62cmをはかる。埋土は自然堆積である。底の壁際には壁周溝が確認された。底面に木片を検出した。中近世以降の井戸の可能性はある。

### R I 007井戸跡 (第57図)

平面形は長軸2.62m, 短軸2.42mほどをはかる円形を呈する。検出面から底面までの深さは、1.68mをはかる。埋土は自然堆積で、上層部には礫を含む。底面に木片を検出した。断面径はフラスコ状を呈するが、崩壊したものと考えられる。中近世以降の井戸の可能性はある。

### R I 008井戸跡 (第58図)

長軸1.2m, 短軸1.1mほどをはかる円形を呈する。検出面から底面までの深さは、1.2~1.3mをはかる。埋土はA・B・C層は自然堆積で、下層部のD層は、井戸構築時に井戸枠をおさえるために埋め戻した人為堆積土と考えられる。A層は崩壊流入土と考えられ、礫を多く含む。底面やや南東寄りに井戸枠が残存していた。中近世以降の井戸の可能性はある。

## (6) 円形周溝 (R X)

円形周溝 3 基 (RX032・039・040) を検出した。

### R X 032円形周溝 (第60図)

平面形は4.7mほどをはかる円形を呈する。溝は幅40~60cm, 検出面から底面までの深さ14~24cmをはかる。埋土は自然堆積である。

### R X 039円形周溝 (第59図)

平面形は長軸5.2m, 短軸4.7mほどをはかる不整楕円形を呈する。溝は幅1.0~1.8m, 検出面から底面までの深さ30~50cmをはかる。埋土は自然堆積である。

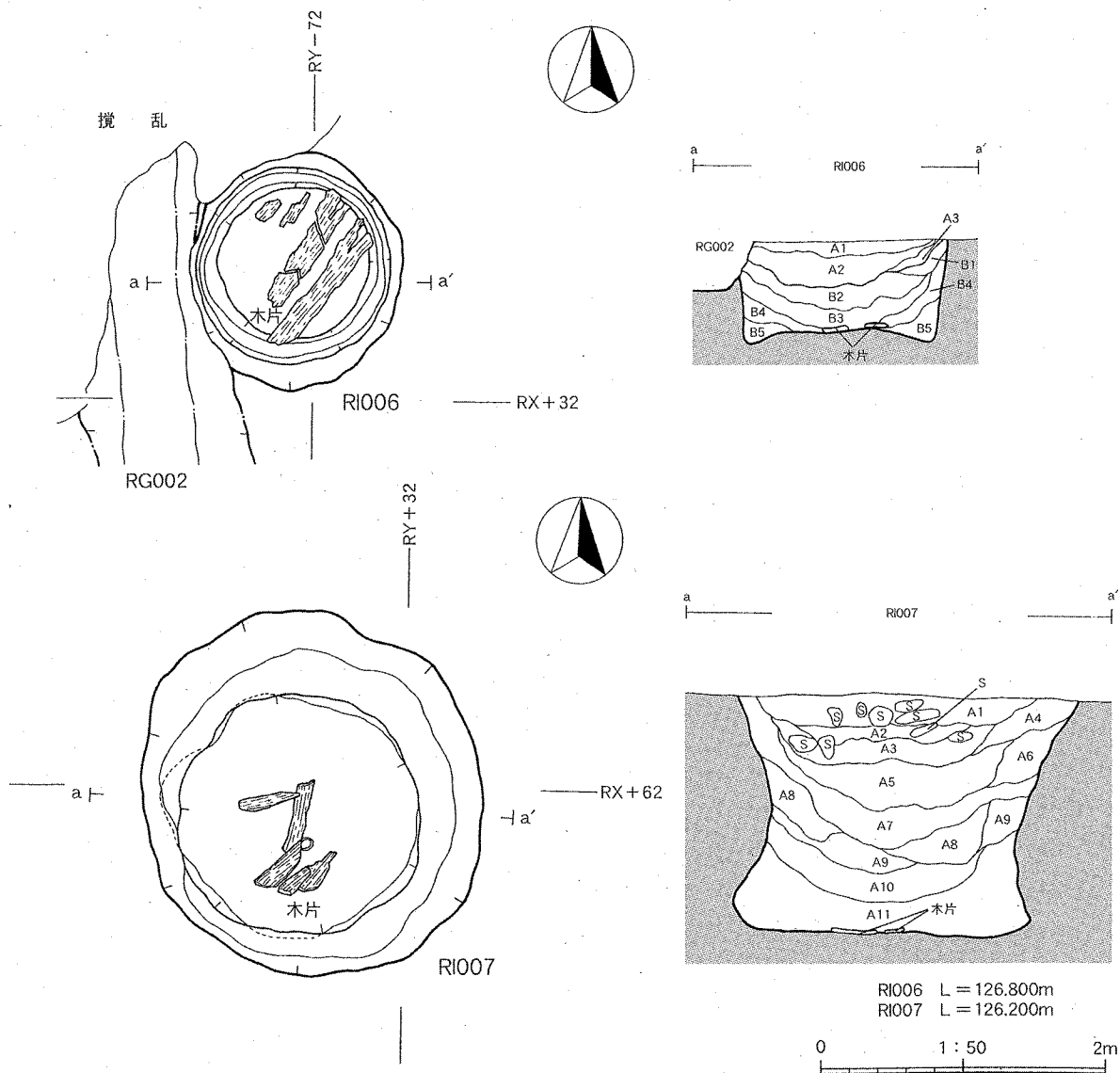
### R X 040円形周溝 (第61図)

平面形は長軸4.4m, 短軸3.5mほどをはかる楕円形を呈する。溝は幅58~92cm, 検出面から底面までの深さ8~18cmをはかる。埋土は自然堆積である。

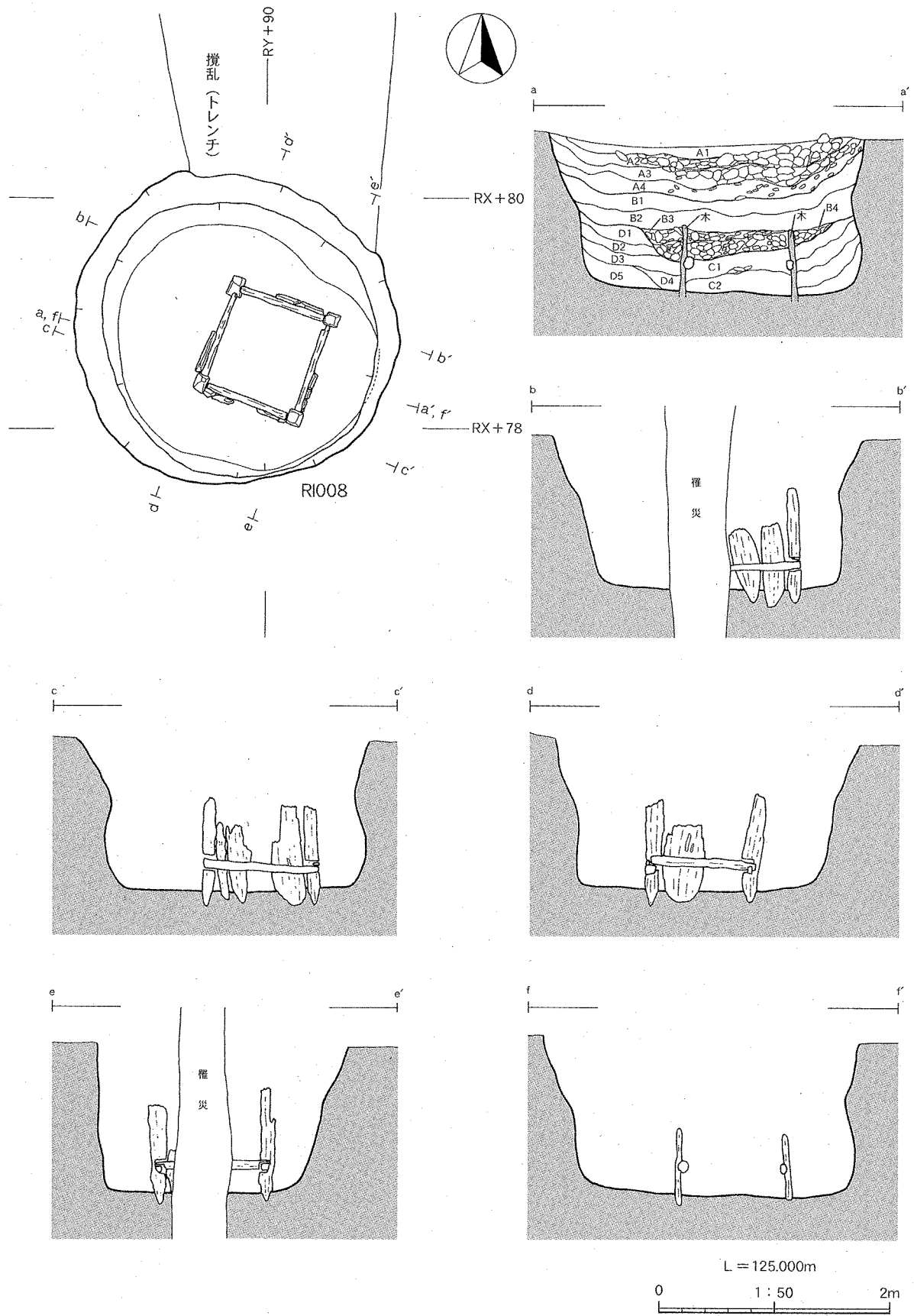
(7) 土坑 (RD・RZ) (第62~84図 第3・4表)

土坑は121基検出した。詳細は第62~84図および第3・4表のとおりである。RZは、埋土に焼土層を含むものに付した。

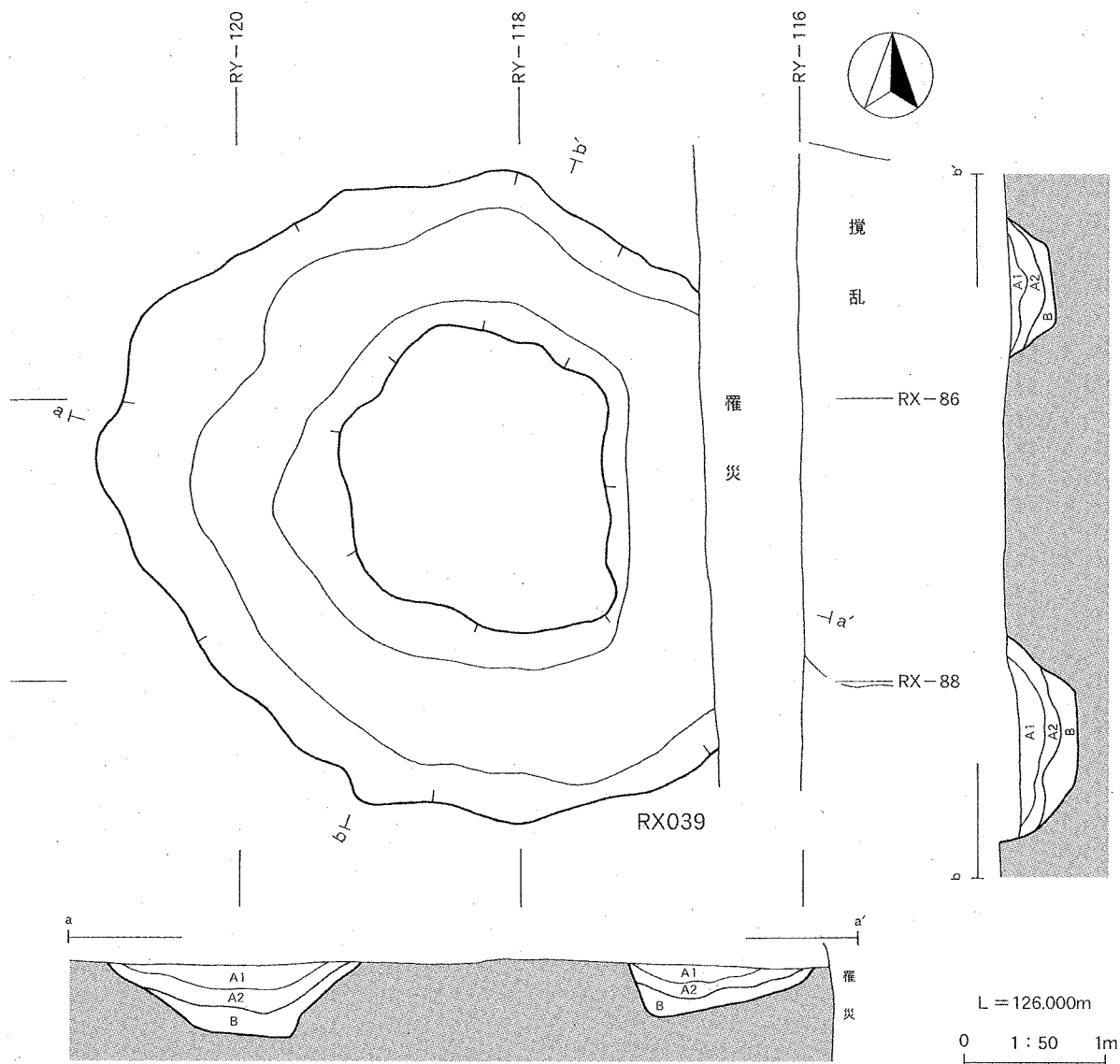
RD246・247・261・275は、形状から縄文時代以降の陥し穴と考えられる。RD272は、壁面に袋状ピットをもつ古代の土坑墓の可能性はある。RD276は、その形状から中世以降の素掘りの井戸の可能性はある。RD323はその形状から風倒木痕の可能性はある。RD329は、床面も壁面も木製板で覆われており近現代の室(むろ)の可能性はある。



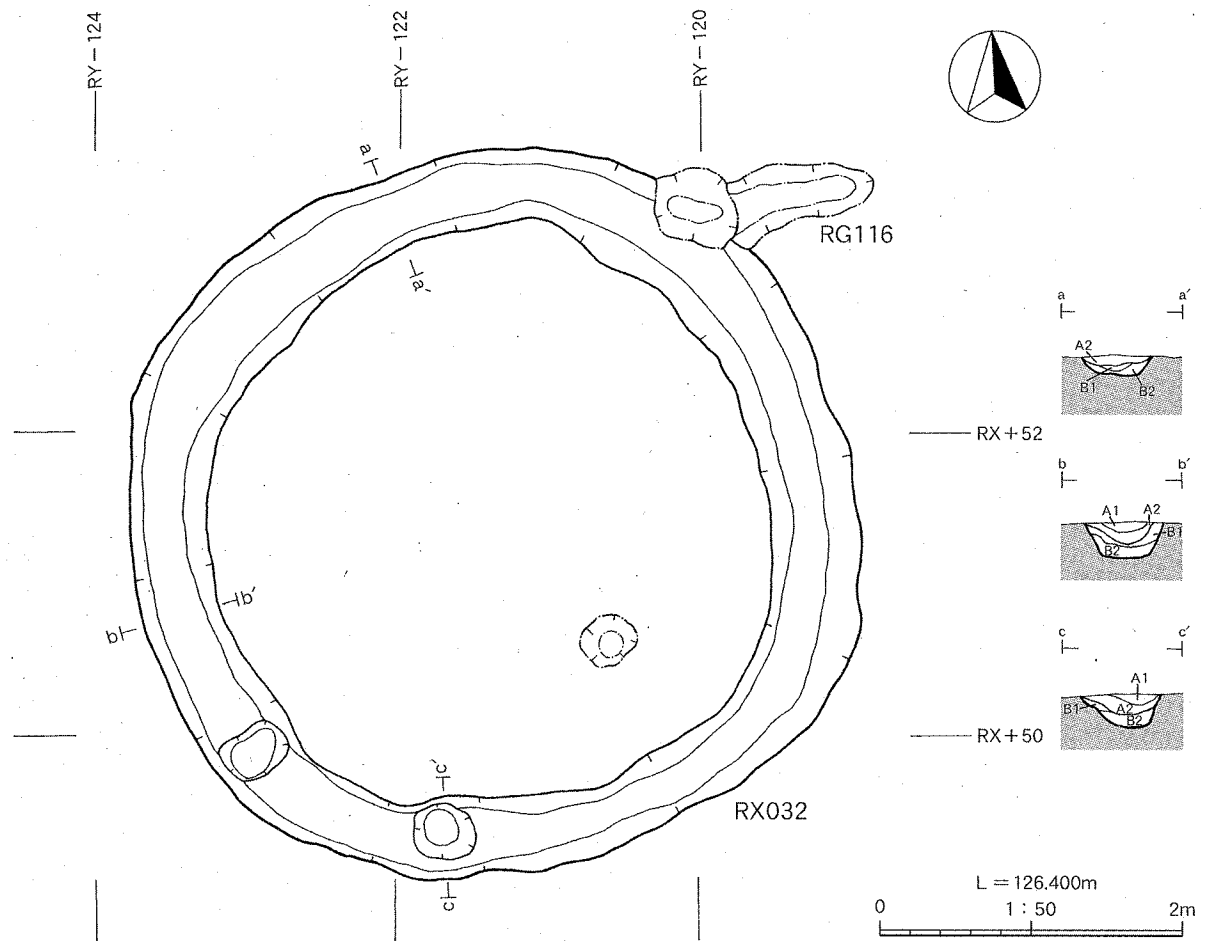
第57図 小幅遺跡RI006, 007井戸跡



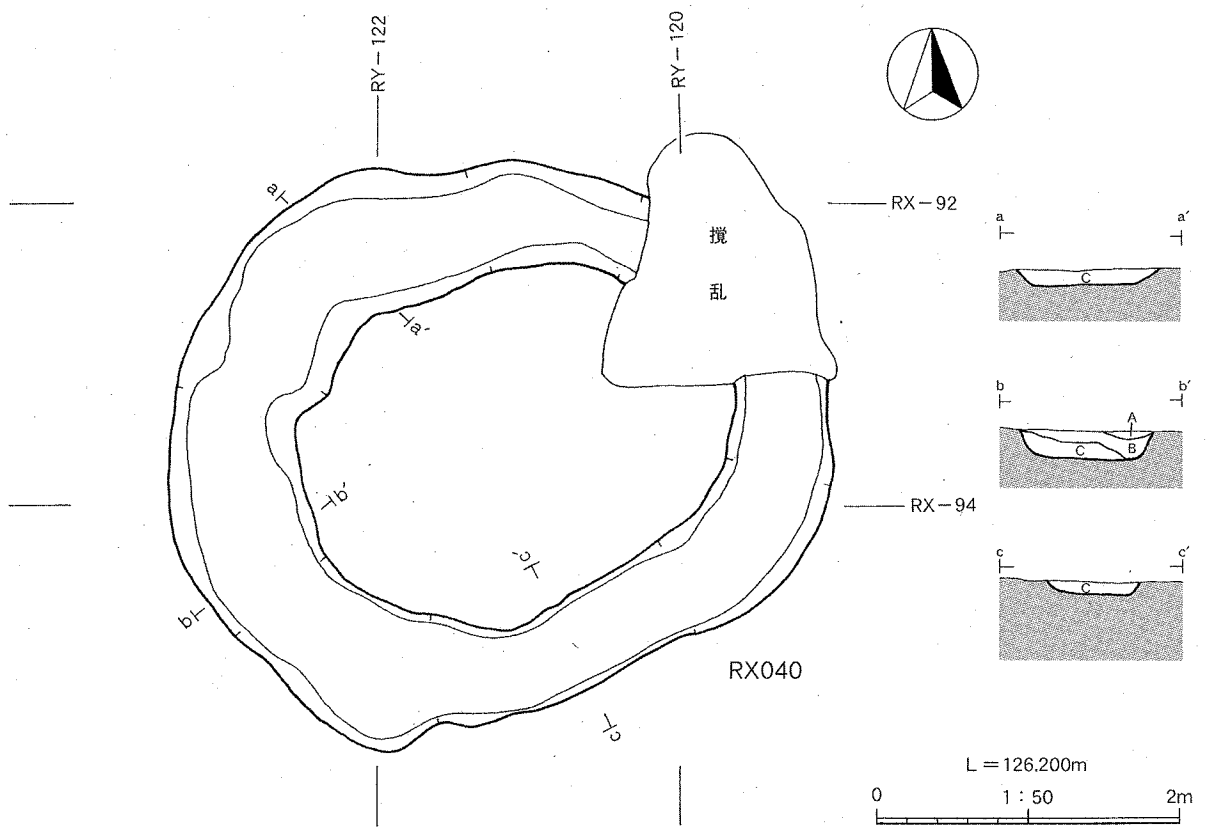
第58図 小幅遺跡R1008井戸跡



第59図 小幅遺跡RX039円形周溝



第60図 小幅遺跡 R X 032円形周溝



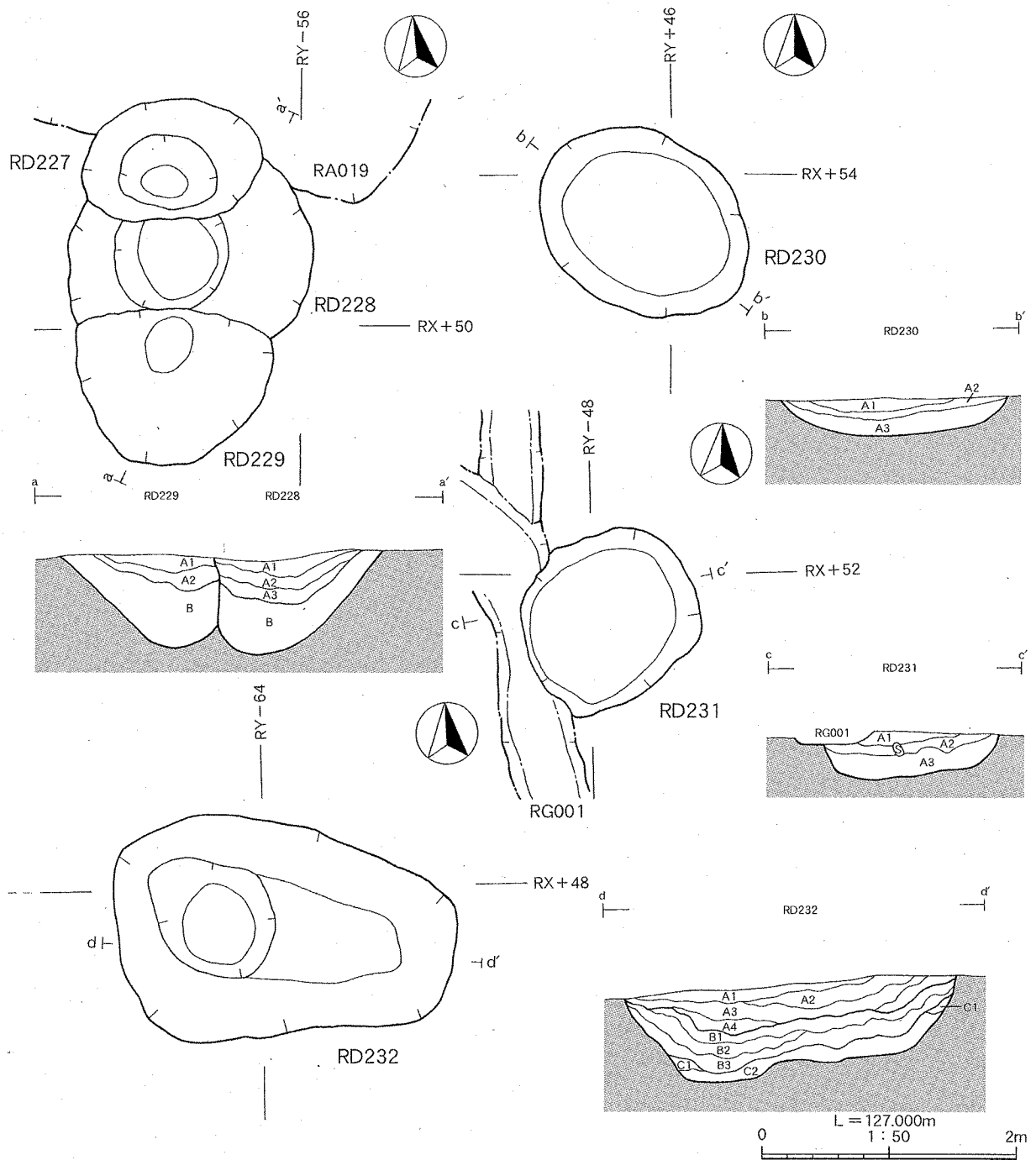
第61図 小幅遺跡 R X 040円形周溝

遺構名	位置		平面形	規模		検出面からの深さ	主軸方向	遺物
	RX	RY		長軸 (m)	短軸 (m)			
RD227	+50	-56	不整楕円形	1.40	0.97	0.94	E15° N	あかやき・坏・甕 陶磁器
RD228	+50	-56	楕円形	0.7 以上	1.93	0.74	N0°	
RD229	+50	-56	不整楕円形	1.22 以上	1.54	0.73	S0°	
RD230	+50	-56	楕円形	1.80	1.33	0.30	W35° N	土師器・坏, 甕
RD231	+50	-56	方形	1.41	1.31	0.37	E28° N	土師器・坏 須恵器・甕
RD232	+50	-56	不整長方形	2.76	1.71	0.74	E23° N	
RD233	+46	-62	不整楕円形	0.92	0.63	0.40	E40° N	
RD234	+46	-62	ほぼ円形	1.90	1.79	0.60	E43° N	土師器・坏 須恵器・甕
RD235	+46	-60	不整楕円形	1.28	1.27	0.32	W36° N	
RD236	+46	-64	不整長方形	1.54	1.26	0.48	W21° N	
RD237	+50	-62	不整楕円形	1.56	1.18	0.55	N42° W	
RD238	+50	-52	不整長方形	1.93	1.30	0.85	N0°	
RD239	+48	-36	不整長方形	1.64	1.14	0.60	E21° N	土師器・坏
RD340	+46	-56	不整楕円形	1.16	0.99	0.32	W32° N	
RD241	+42	-32	長楕円形	3.38	1.47	0.26	N43° W	
RD242	+40	-32	不整楕円形	1.42	1.40	0.13	E8° N	
RD243	+40	-36	不整長方形	1.50	0.95	0.15	N38° W	
RD244	+48	-34	楕円形	1.00	0.93	0.35	W5° N	
RD245	+44	-28	不整楕円形	2.80	1.13	0.20	N7° E	
RD246	+42	-72	長楕円形	3.66	1.70	0.71	N6° E	
RD247	+42	-70	不整長方形	1.32 以上	1.19	0.62	N33° E	
RD248	+36	-52	不整楕円形	2.17	0.98	0.50	N42° W	
RD249	+40	-40	不整楕円形	1.05	0.48	0.48	E30° N	
RD250	+40	-40	不整楕円形	0.90	0.44	0.50	E21° N	
RD251	+40	-40	不整楕円形	0.90	0.74	0.21	N0°	
RD253	+36	-38	不整長方形	1.69	0.84	0.27	E18° N	
RD254	+38	-32	不整楕円形	0.90 以上	0.98	0.28	E38° N	
RD255	+38	-32	不整楕円形	1.49 以上	1.09	0.32	N42° E	
RD256	+38	-32	不整楕円形	1.10	0.98	0.22	E28° N	
RD257	+28	-64	楕円形	1.77	1.59	0.58	N23° W	
RD258	+24	-46	不整楕円形	2.25	1.55	0.66	W44° N	
RD259	+30	-36	不整楕円形	2.16	1.52	0.64	W25° N	
RD260	+26	-38	不整長方形	2.55	1.63	0.58	W34° N	
RD261	+18	-76	不整長方形	1.94 以上	0.79	0.49	W44° N	
RD262	+16	-72	不整長方形	2.64	1.10	0.67	N13° W	
RD263	+20	-46	不整楕円形	2.60	1.22	0.70	W4° N	
RD264	+14	-44	不整楕円形	2.42	1.31	0.70	N42° E	
RD265	+14	-44	不整楕円形	2.60	1.24	0.43	N37° E	
RD266	+18	-26	不整楕円形	2.61	1.40	0.75	E7° N	
RD267	+20	-24	不整長方形	2.67	1.35	0.67	W30° N	
RD268	+18	-28	不整長方形	2.74	1.31	0.79	N32° W	
RD269	+16	-26	不整楕円形	2.05	1.17	0.67	E10° N	
RD270	+12	+26	不整楕円形	1.33 以上	1.10	0.51	N0°	土師器・坏
RD271	+14	-32	不整楕円形	1.63	1.24	0.52	E25° N	
RD272	+6	-36	不整長方形	3.24	1.60	0.53	N38° W	
RD273	+6	-30	不整長方形	2.20	1.02	0.54	E7° N	
RD274	+6	-24	不整楕円形	1.75	1.05	0.55	W2° N	
RD275	+6	-58	不整長方形	3.50	0.63	0.56	N10° E	
RD276	+80	-24	ほぼ円形	2.11	2.10	1.26	N0°	
RD277	+76	-10	ほぼ円形	0.62	0.60	0.60	N0°	
RD278	+58	-12	不整楕円形	3.25	2.18	0.43	W17° N	
RD279	+50	-14	不整長方形	3.12	0.8	0.25	N10° W	
RD280	+48	-14	ほぼ円形	0.92	1.52 以上	0.28	N23° W	
RD281	+38	+2	ほぼ円形	1.20	1.13	0.35	N0°	
RD282	+36	+2	ほぼ円形	1.89	1.21	0.4	N0°	土師器・坏, 中国青磁碗
RD283	+34	+2	不整楕円形	1.70	1.22	0.13	E8° N	
RD284	+32	+2	不整楕円形	1.34	1.19	0.25	N24° N	
RD285	+32	+2	不整楕円形	0.79	0.24 以上	0.23	N0°	
RD286	+26	+12	不整長方形	1.08 以上	0.87	0.25	W43° N	
RD287	+22	+4	ほぼ円形	1.07	1.02		N0°	
RD288	+12	-6	不整長方形	3.90	1.82	0.36	N28° E	
RD289	+4	-14	不整楕円形	3.9	2.63	0.73	N24° W	
RD290	+4	-12	不整長方形	1.73	0.83	0.21	N33° W	陶磁器・国産青磁 皿, 染付椀
RD291	+4	-10	不整長方形	1.94	1.08	0.39	N40° W	
RD292	+4	-12	不整楕円形	1.38	1.14	0.96	N20° W	
RD293	+94	-104	不整長方形	3.51 以上	1.47	1.47	E2° N	
RD294	+70	-106	不整楕円形	1.12	0.97	0.27	E20° N	

第3表 小幅遺跡 土坑一覧(1)

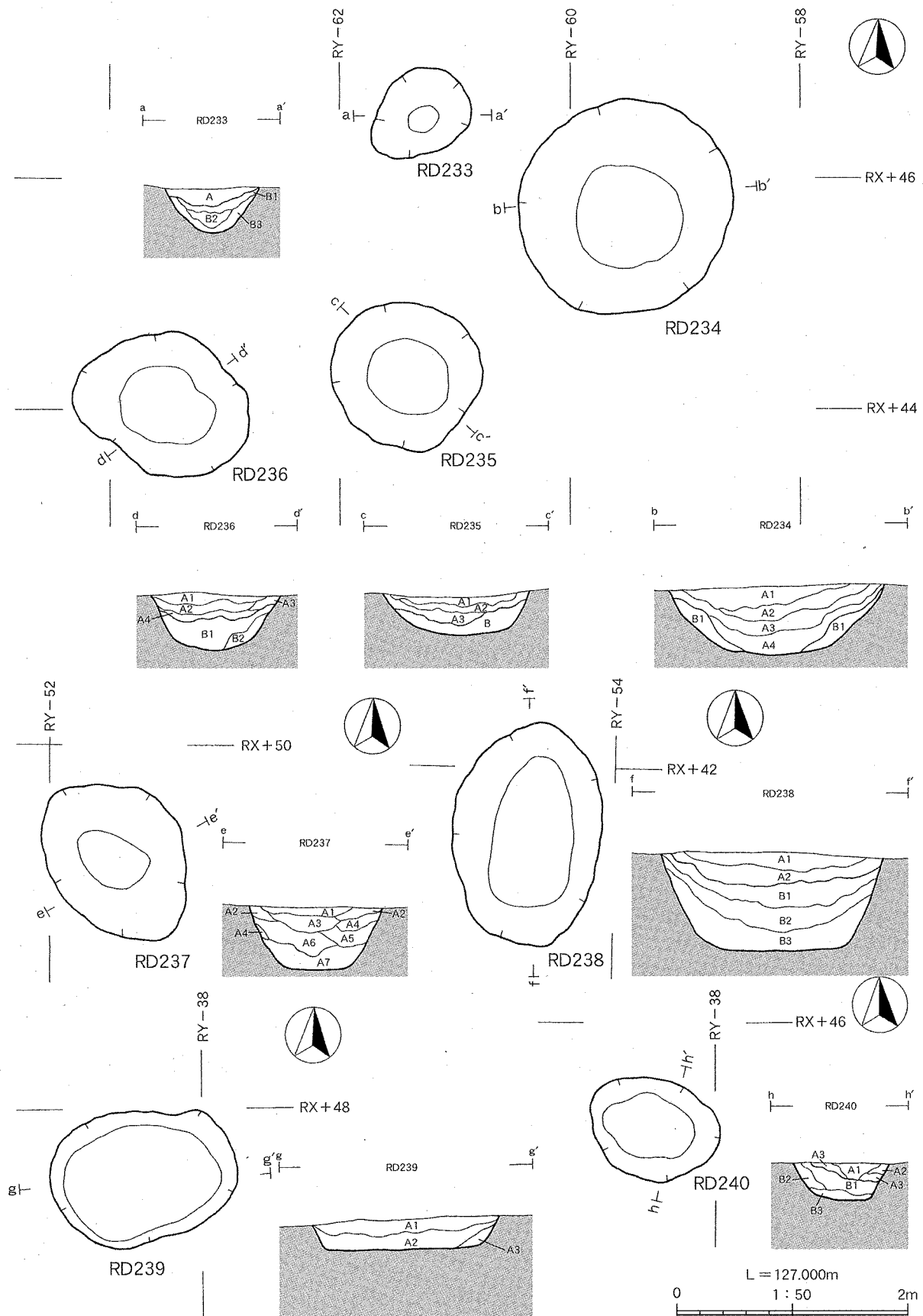
遺構名	位置		平面形	規模		検出面からの深さ	主軸方向	遺物
	RX	RY		長軸 (m)	短軸 (m)			
RD295	+58	+88	不整楕円形	5.08	4.75	0.4	E43° N	土師器・坏, 肥前染付椀, 国産染付, 国産陶器皿
RD296	+56	+90	不整楕円形	5.90	5.36	0.39	W13° N	
RD297	+94	+148	不整楕円形	0.57	0.70	0.48	W40° N	
RD299	+64	+150	不整楕円形	1.42	1.39	0.25	N0°	
RD300	+96	+158	不整楕円形	2.75	1.61 以上	0.53	N18° N	あかやき・坏・甕, 陶磁器
RD301	+90	+156	不整楕円形	1.89	0.40	0.4	W26° N	
RD302	+88	+156	不整形	0.74	0.30	0.3	E44° N	
RD303	+88	+154	不整楕円形	2.40	1.77	0.18	N30° N	
RD304	+80	+146	不整形	1.80	1.04	0.30	N5° N	
RD305	+72	+152	ほぼ円形	0.68	0.64	0.27	N0°	
RD306	+72	+148	不整楕円形	1.38	0.96	0.36	E44° N	
RD307	+72	+150	不整長方形	1.43 以上	2.58	0.27	E35° N	あかやき・坏・甕
RD308	+70	+138	不整長方形	1.44	0.81	0.33	W1° N	須恵器・甕
RD309	+68	+156	不整楕円形	1.46 以上	1.31	0.30	N0°	
RD310	+70	+156	不整楕円形	2.2 以上	1.12	0.33	N43° W	土師器・坏, あかやき・坏
RD311	+62	+148	不整楕円形	1.35	1.07	0.26	W18° N	
RD312	+58	+158	不整楕円形	3.45	1.84 以上	0.55	N0°	須恵器・坏・甕, あかやき・坏・甕
RD313	+54	+138	不整楕円形	1.36	1.29	0.22	E34° N	あかやき・坏
RD314	+56	+140	不整長方形	1.89 以上	1.17	0.17	W19° N	あかやき・坏, 須恵器・坏
RD315	+56	+142	不整長方形	1.32 以上	1.00	0.12	W16° N	かわらけ・小皿
RD316	+52	+150	不整形	1.77	1.60	0.44	W18° N	土師器・坏
RD317	+68	+146	ほぼ円形	0.74	0.73	0.07	W25° N	
RD318	-58	-124	不整長方形	2.17	0.94	0.24	N33° W	
RD319	-60	-122	不整楕円形	1.54	1.00	0.27	W8° N	
RD320	-58	-118	不整楕円形	1.33	0.64	0.21	W25° N	
RD321	-70	-108	不整長方形	1.50	0.9	0.12	W20° N	相馬灰釉椀, 国産染付
RD322	-72	-112	不整楕円形	1.96	1.55	0.31	W13° N	
RD323	-76	-96	不整楕円形	2.58	1.27	0.34	N11° W	
RD324	-70	-80	不整楕円形	1.82 以上	1.78	0.29	W9° N	
RD325	-72	-84	不整楕円形	2.61	1.71	0.30	N28° E	
RD326	-76	-84	不整長方形	4.27	2.02	0.31	N24° E	
RD327	-76	-84	不整楕円形	2.22	1.97	0.58	N0°	
RD328	-74	-76	不整楕円形	1.72	0.87 以上	0.17	W23° N	
RD329	+27	-74	不整楕円形	1.41	1.36	0.65	N0°	
RD330	+42	-74	不整楕円形	1.58	1.26	0.39	N18° N	
RD331	+44	-78	不整楕円形	0.65	0.58	0.24	W34° N	
RD332	+40	-98	ほぼ円形	0.86	0.78	0.14	N16° N	
RD333	+40	-88	不整楕円形	0.76 以上	1.02	0.33	N26° N	
RD355	-968	+140	不整形	3.68	2.82	0.42	N35° N	
RD356	-948	+140	不整楕円形	0.88	0.76	0.07	W41° N	
RD357	-948	+144	不整楕円形	1.26	1.06	0.34	N43° W	
RD358	+48	+2	不整楕円形	1.70	0.59	0.49	N20° W	
RD359	+46	±0	不整楕円形	1.42	1.28	罹災	W27° N	
RD360	+48	-4	不整楕円形	1.52	0.88	罹災	E8° N	
RD361	+48	+6	不整楕円形	1.06	0.58	罹災	N30° N	
RD362	+48	±0	不整楕円形	1.26	0.76	罹災	N0°	
RD363	+48	±0	不整楕円形	1.00	0.98	罹災	N34° N	
RZ018	+44	-46	不整楕円形	1.10	0.67	0.23	N34° N	須恵器・坏
RZ019	+48	-46	不整長方形	1.53	0.97	0.17	N31° N	あかやき・坏
RZ020	+42	-32	不整楕円形	1.33	0.90	0.44	N6° N	
RZ024	+42	-34	不整形	0.97	0.82	0.14	N0°	土師・坏, 甕
RZ025	+44	-34	不整長方形	1.53	0.26	0.26	E25° N	土師・坏, 甕, 焼成粘土塊
RZ026	+42	-36	不整楕円形	1.43	1.09	0.29	N25° N	
RZ027	+42	-34	不整長方形	1.74	1.05	0.23	N21° N	あかやき・坏

第4表 小幅遺跡 土坑一覧 (2)

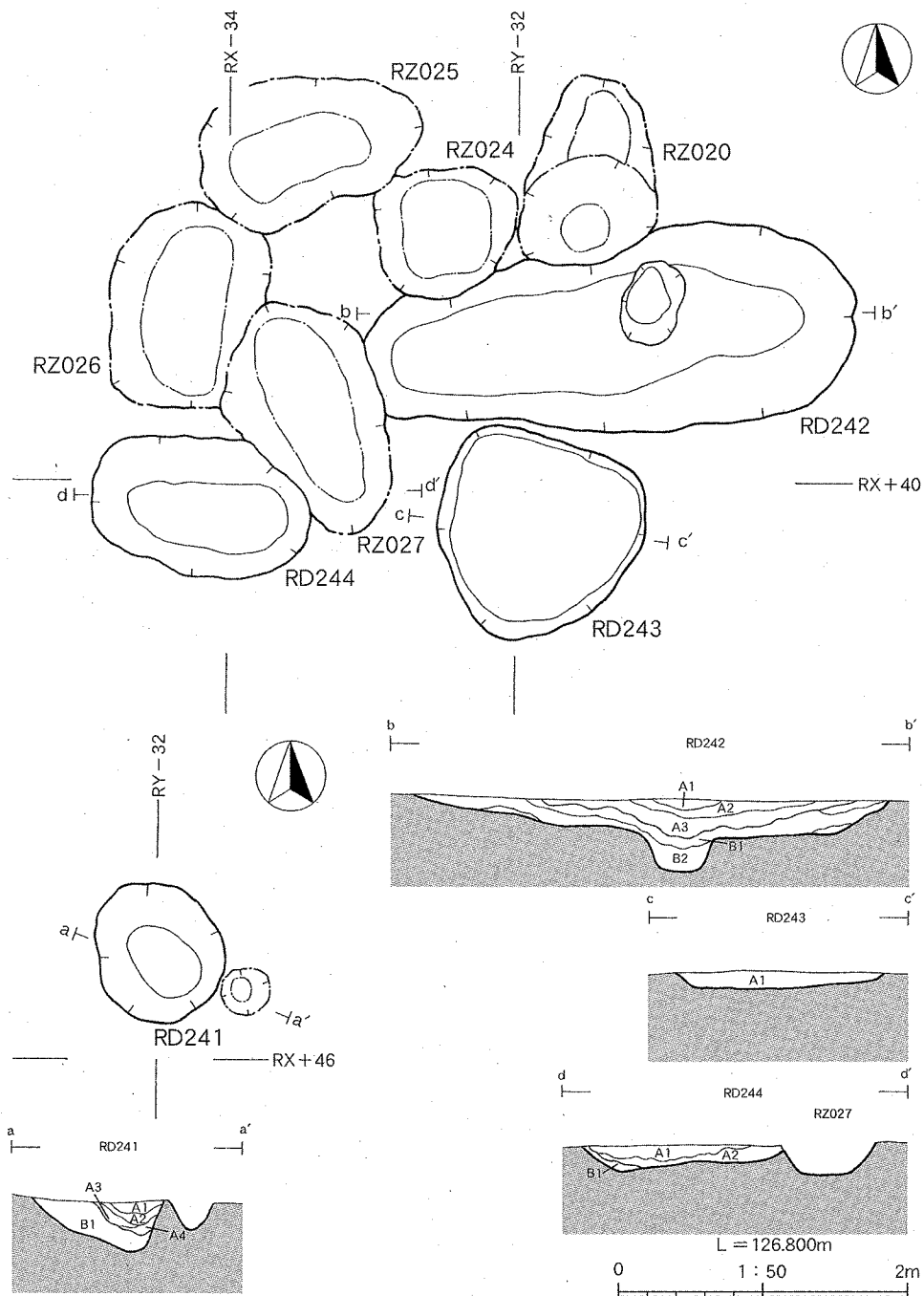


第62図 小幅遺跡RD227, 228, 229, 230, 231, 232土坑

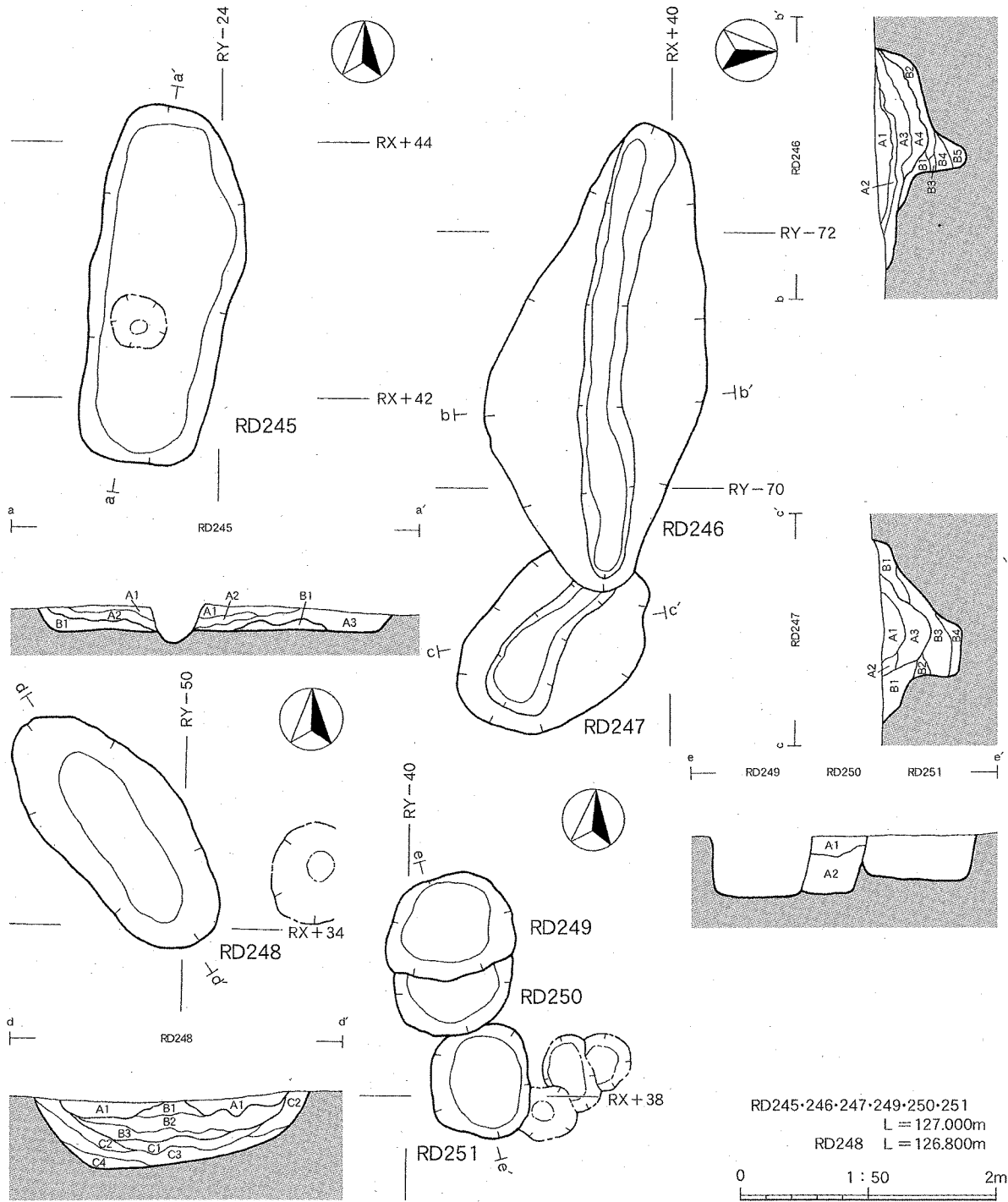




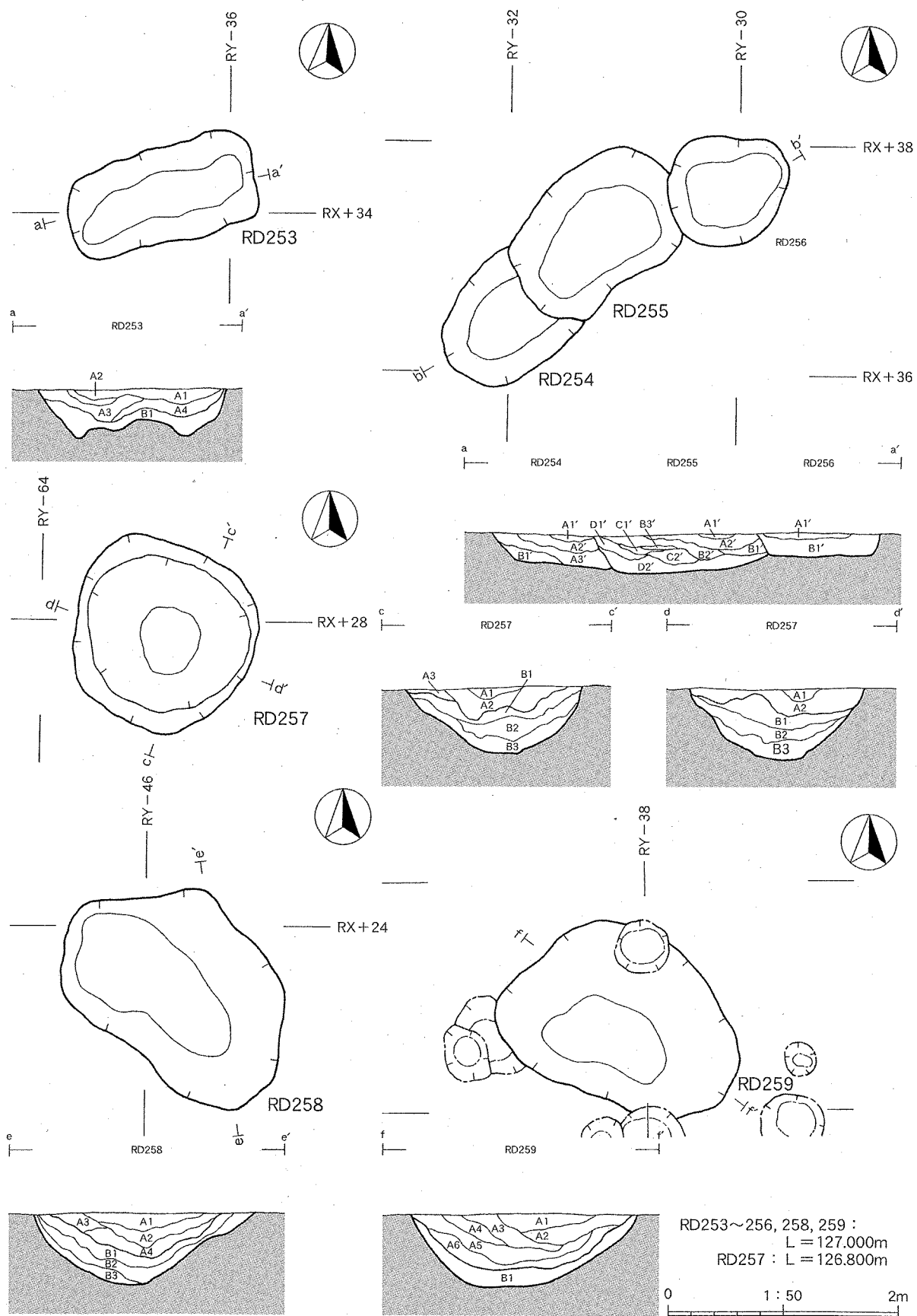
第63图 小幅遺跡 R D 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240土坑



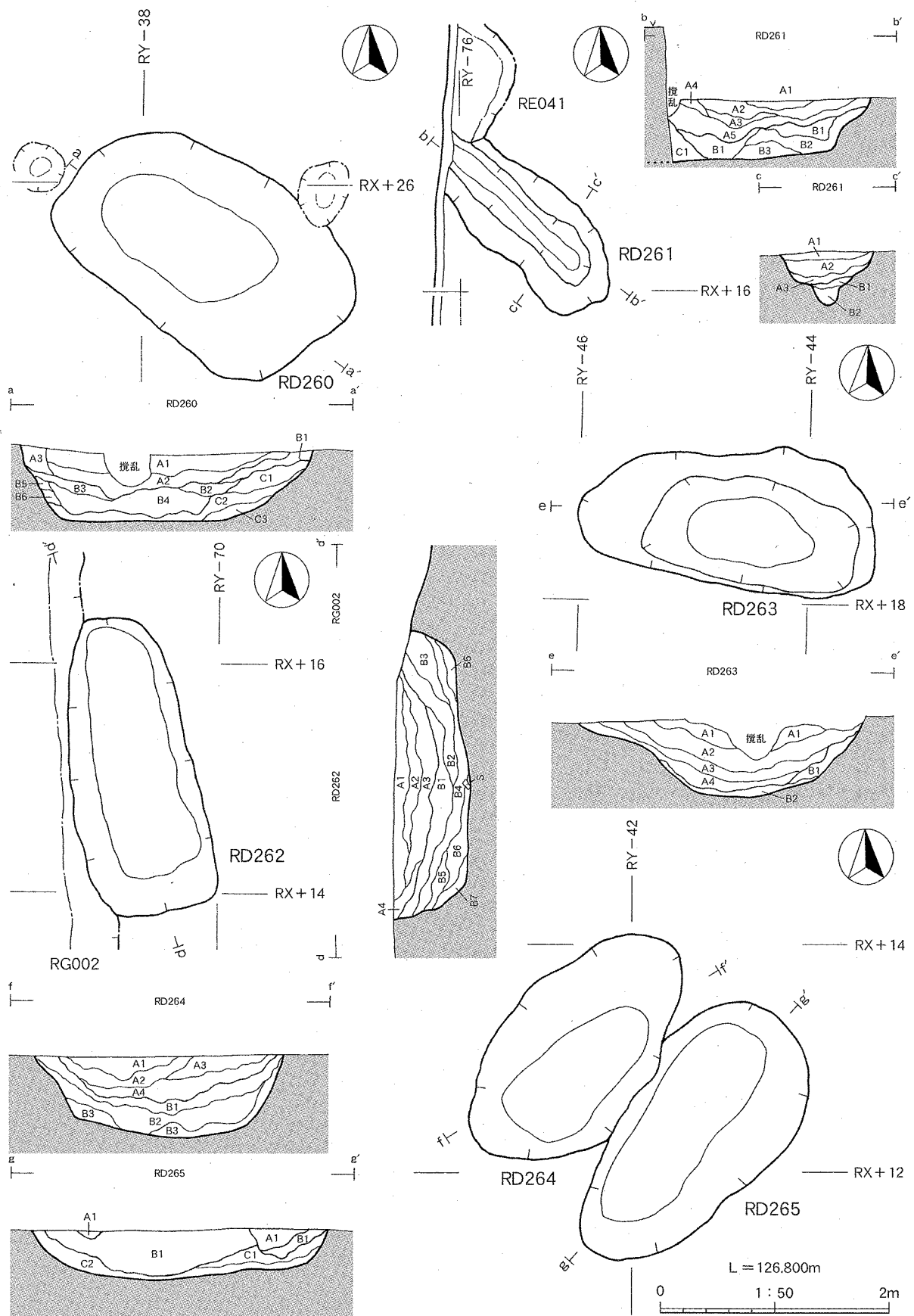
第64图 小幅遺跡 R D 241, 242, 243, 244土坑



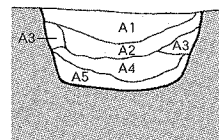
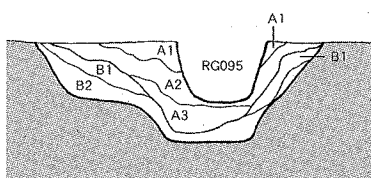
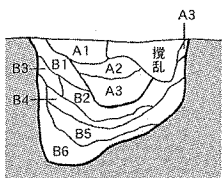
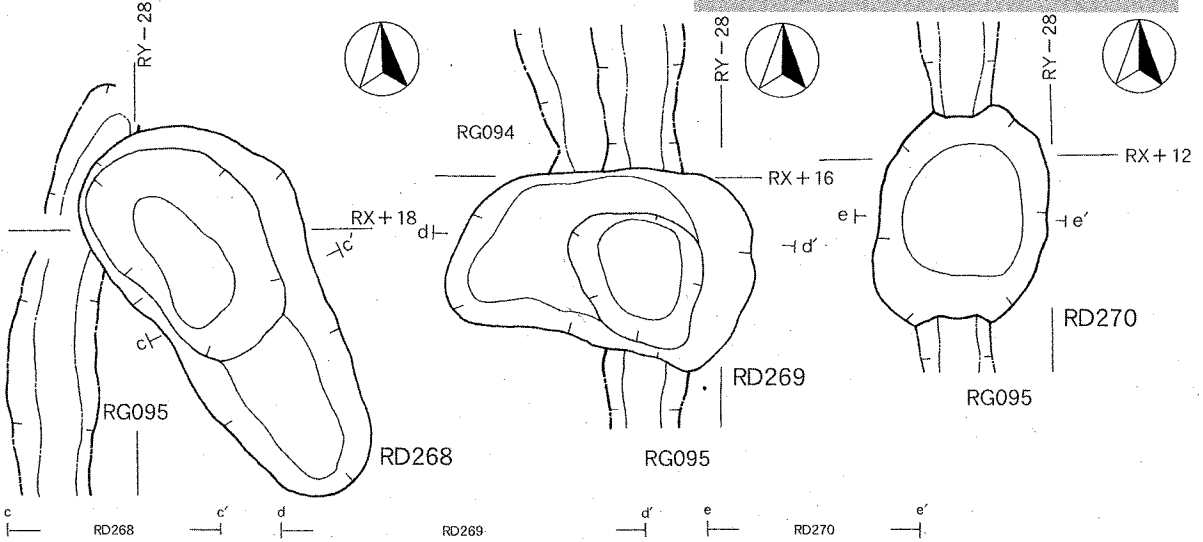
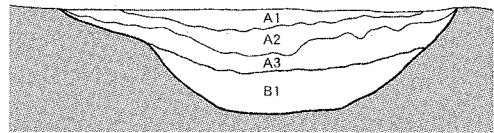
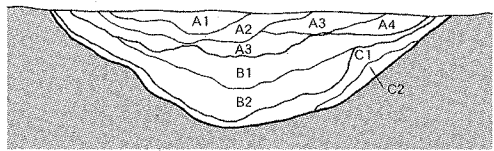
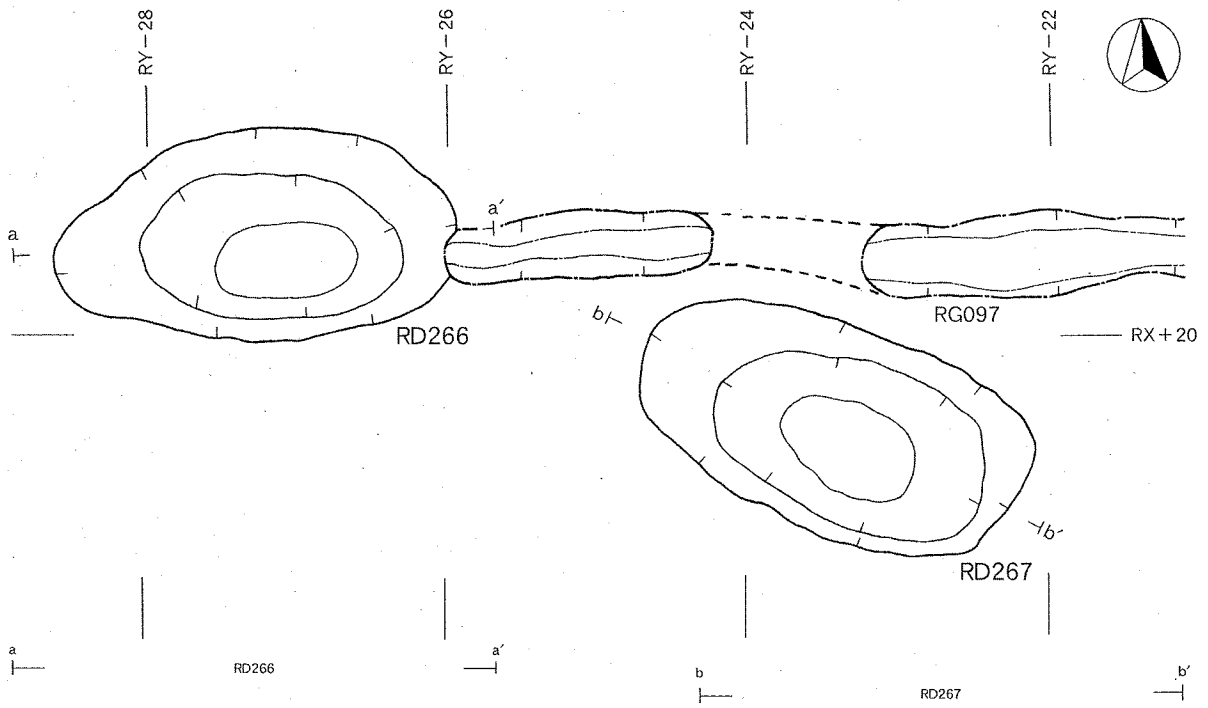
第65图 小幅遺跡 R D 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251土坑



第66图 小幅遺跡 R D 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259土坑

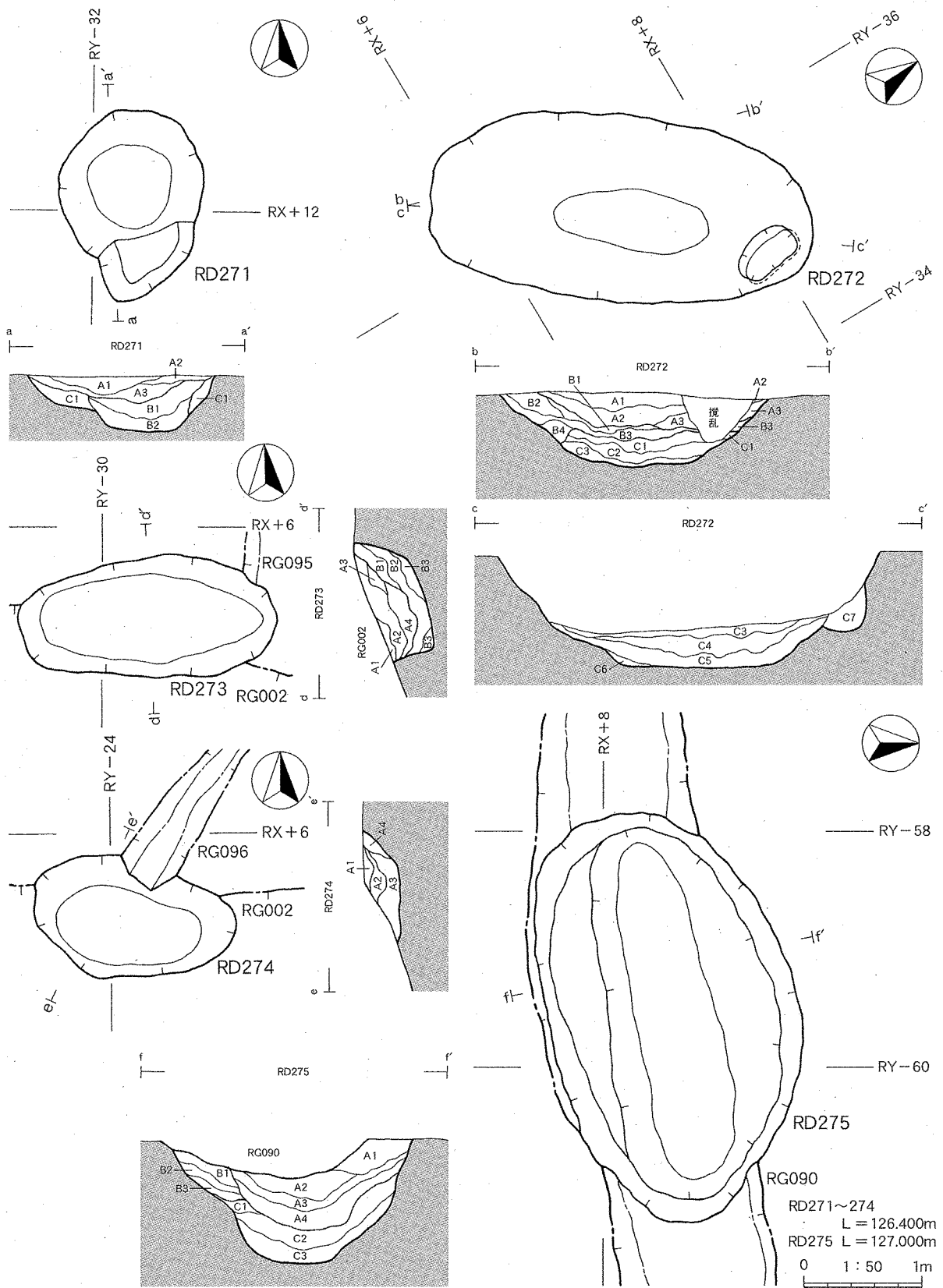


第67图 小幅遺跡 R D260, 261, 262, 263, 264, 265土坑

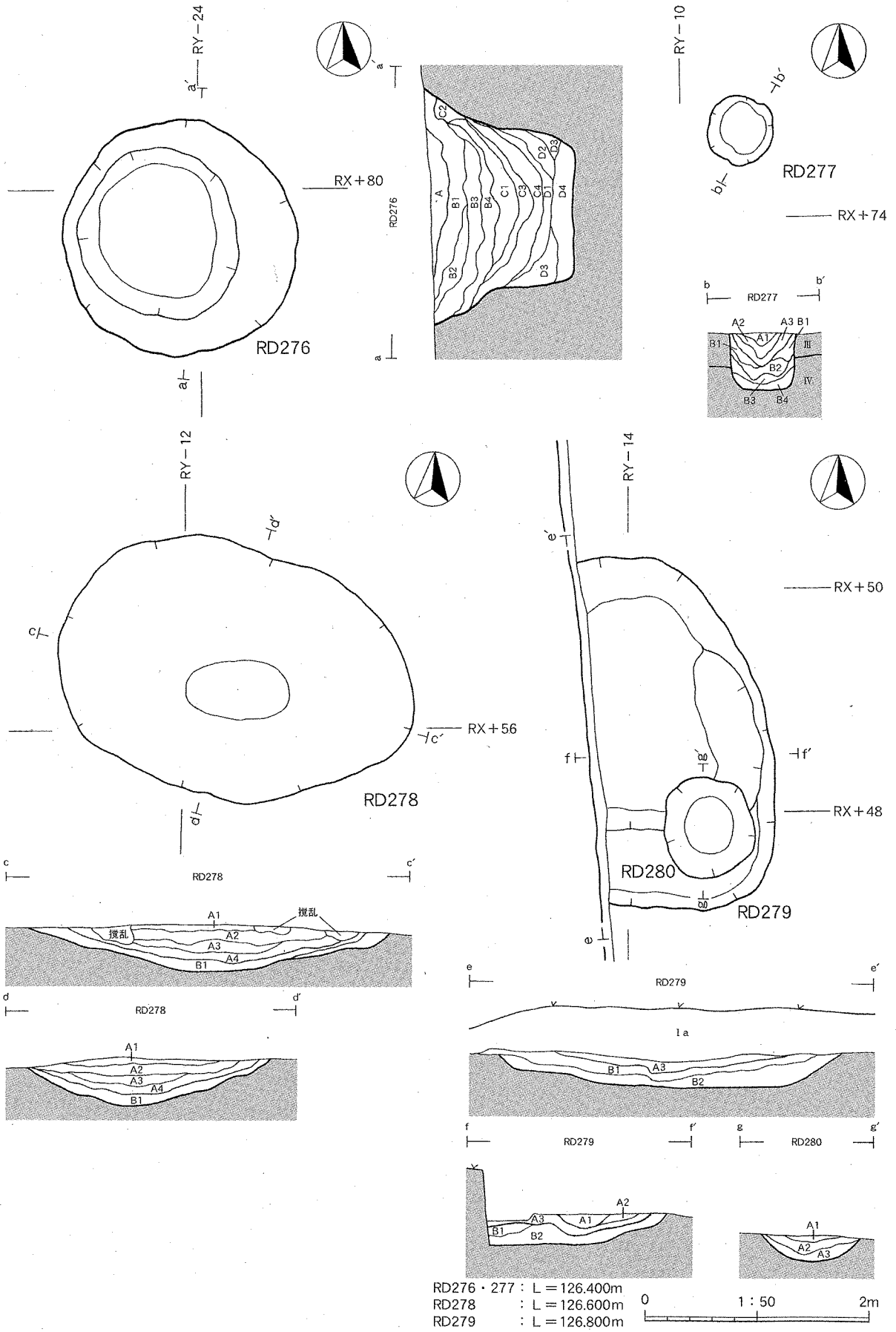


L = 128.600m  
0 1:50 1m

第68图 小幅遺跡R D 266, 267, 268, 269, 270土坑

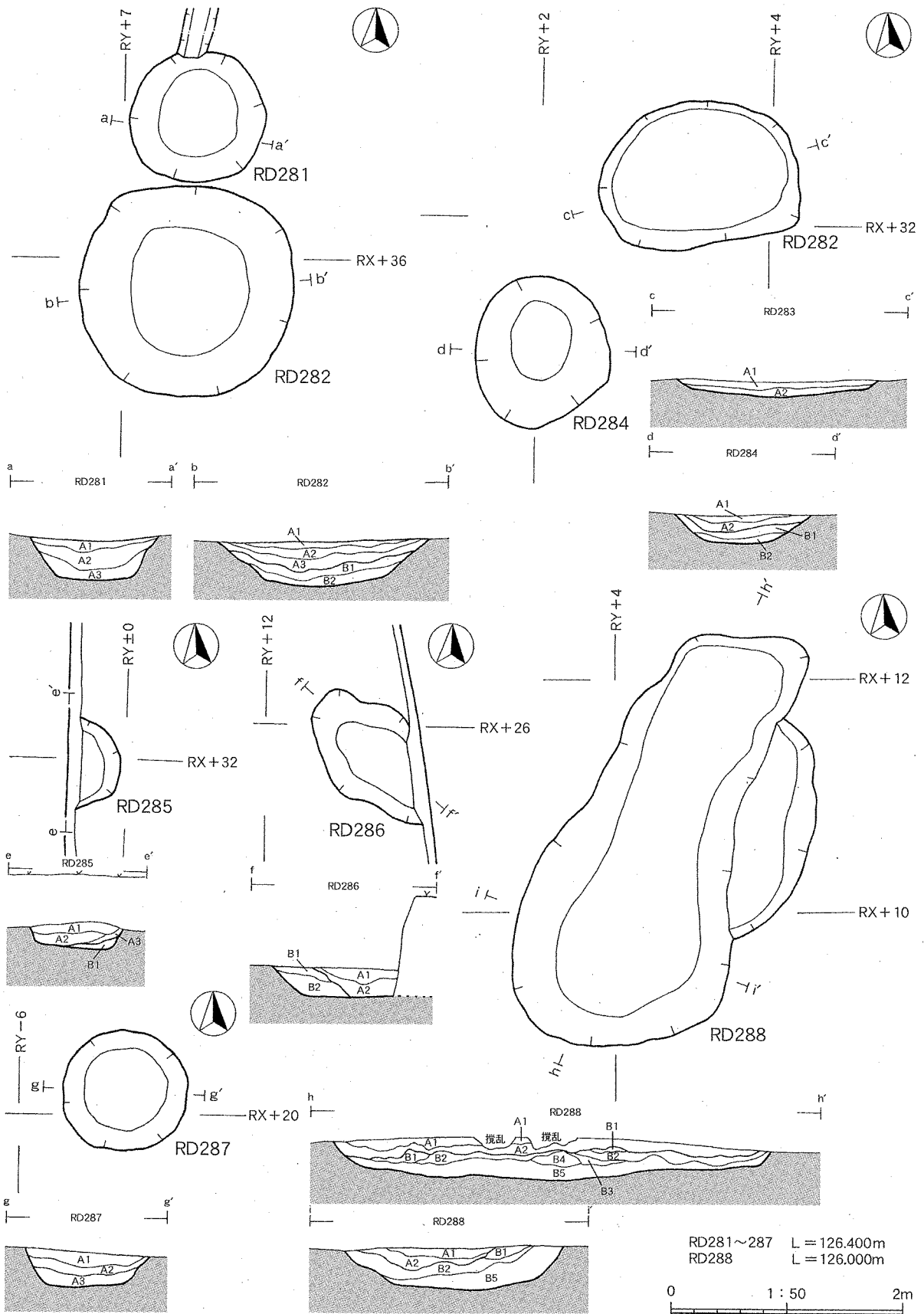


第69图 小幅遺跡 R D 271, 272, 273, 274, 275土坑

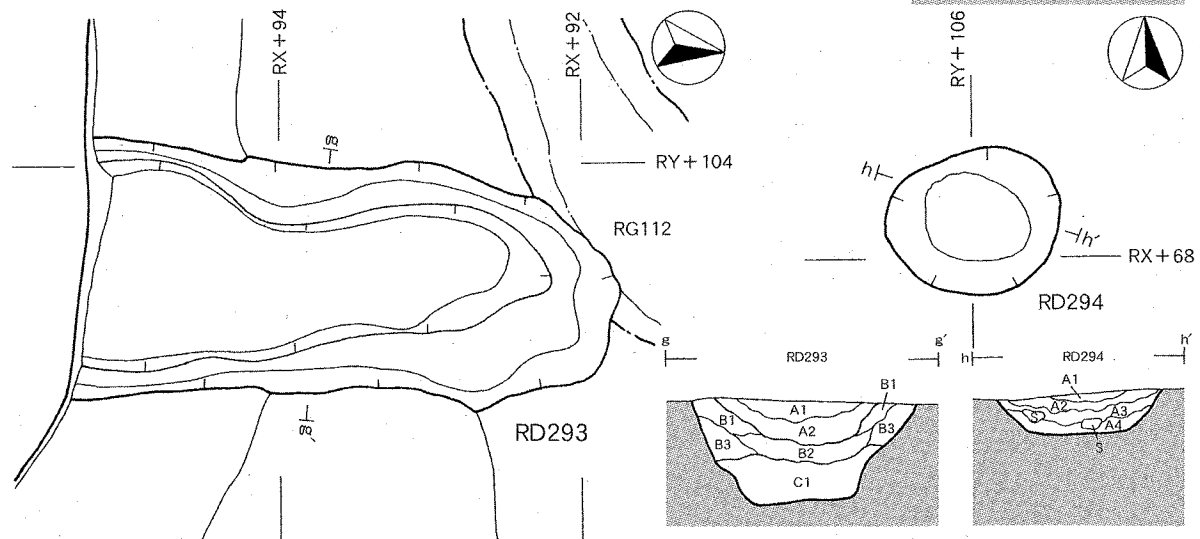
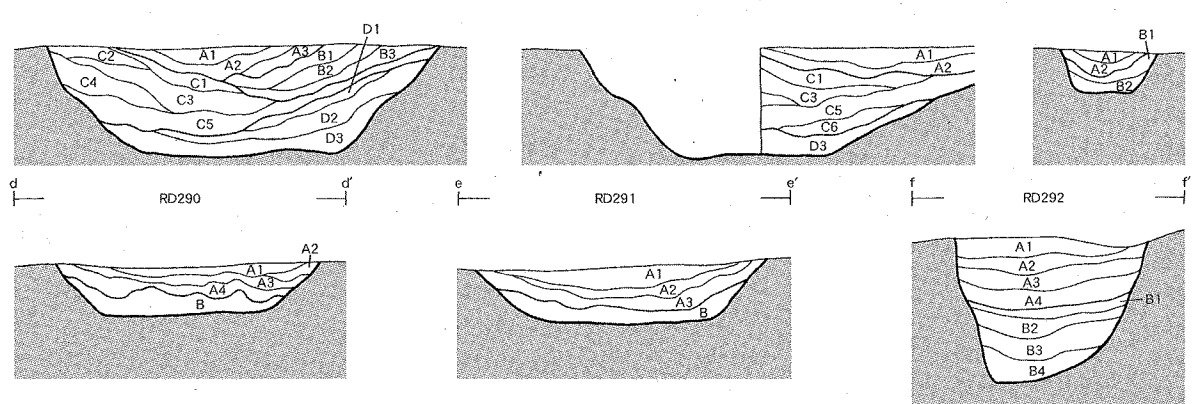
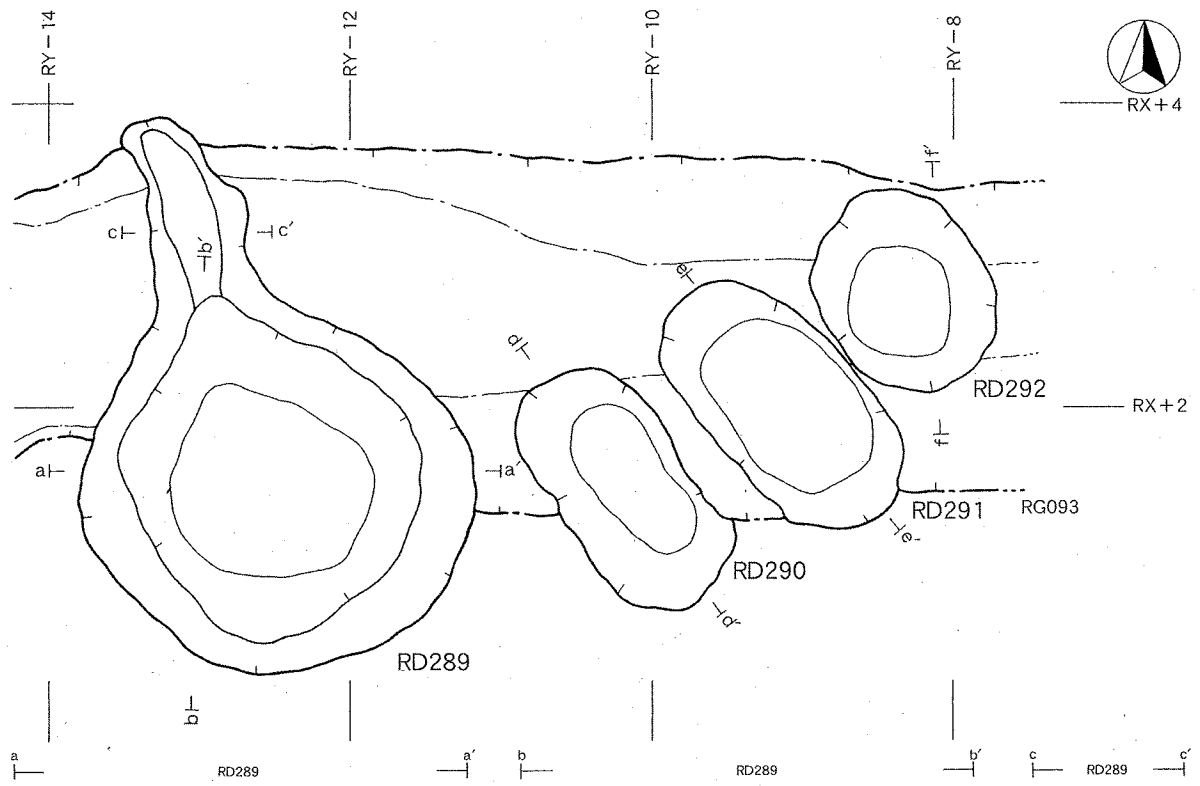


第70图 小幅遺跡R D276, 277, 278, 279, 280土坑

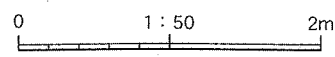




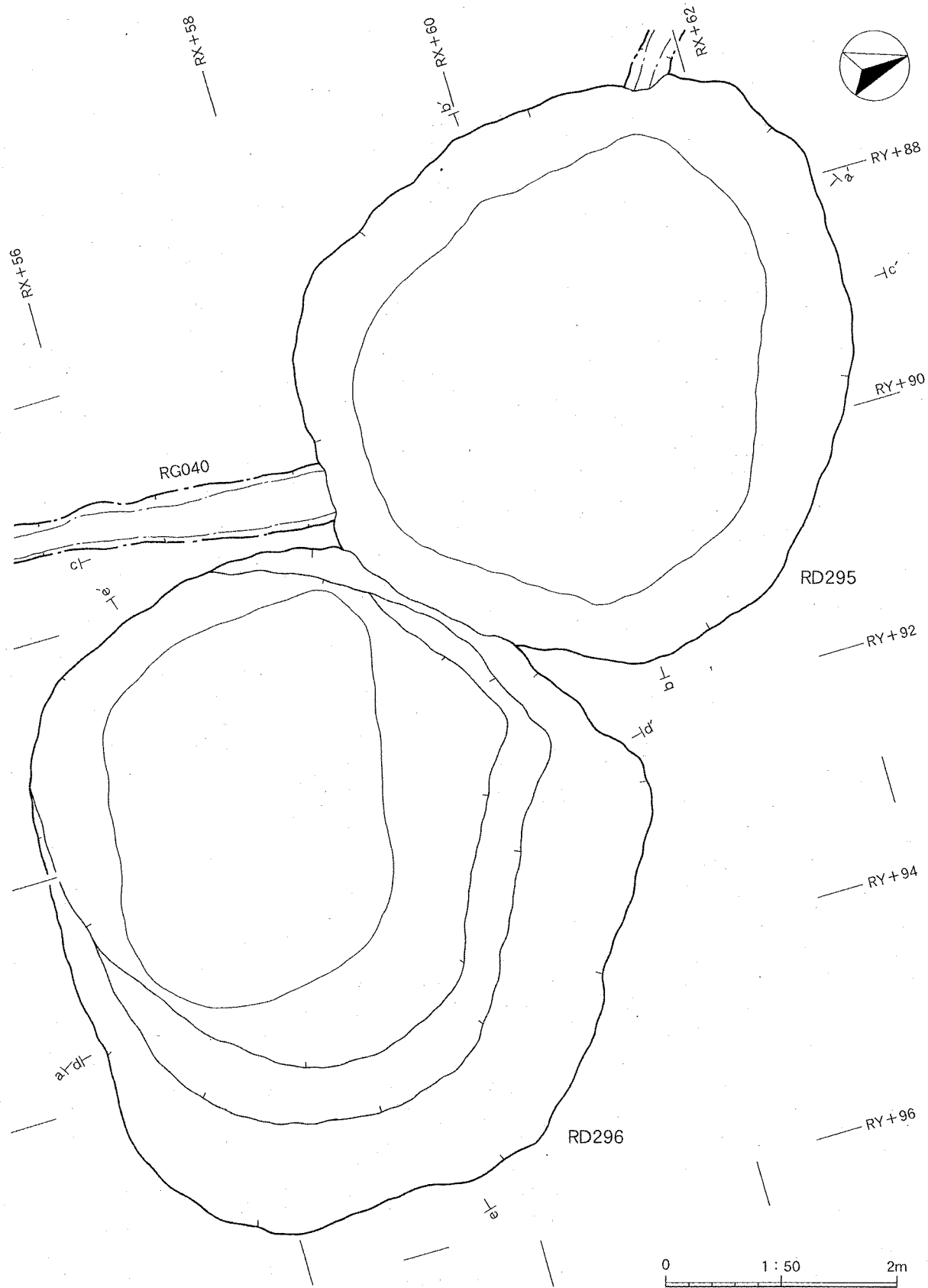
第71圖 小幅遺跡 R D 281, 282, 283, 274, 285, 286, 287, 288土坑



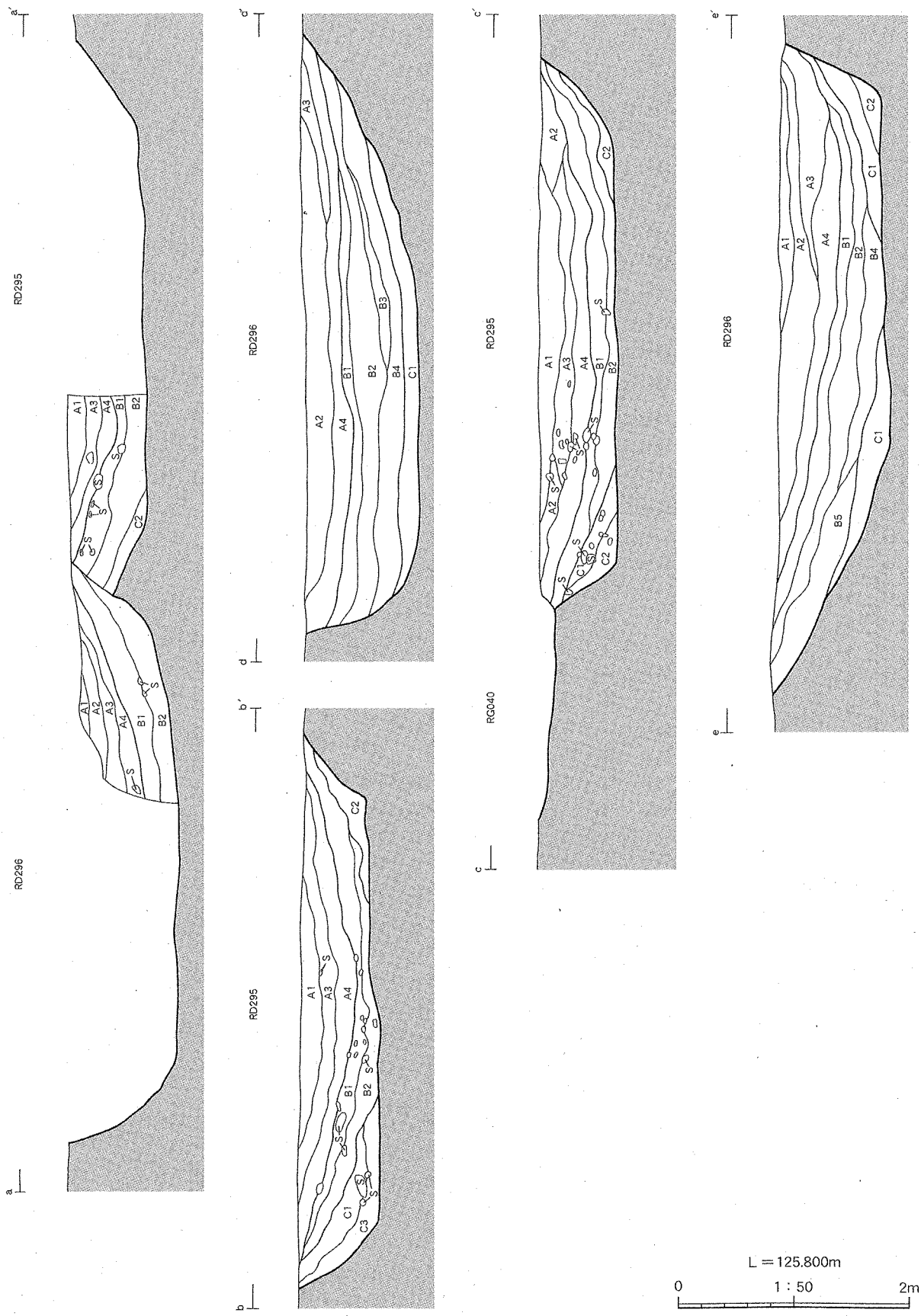
RD289~292 L = 126.200m  
 RD293, 294 L = 125.200m



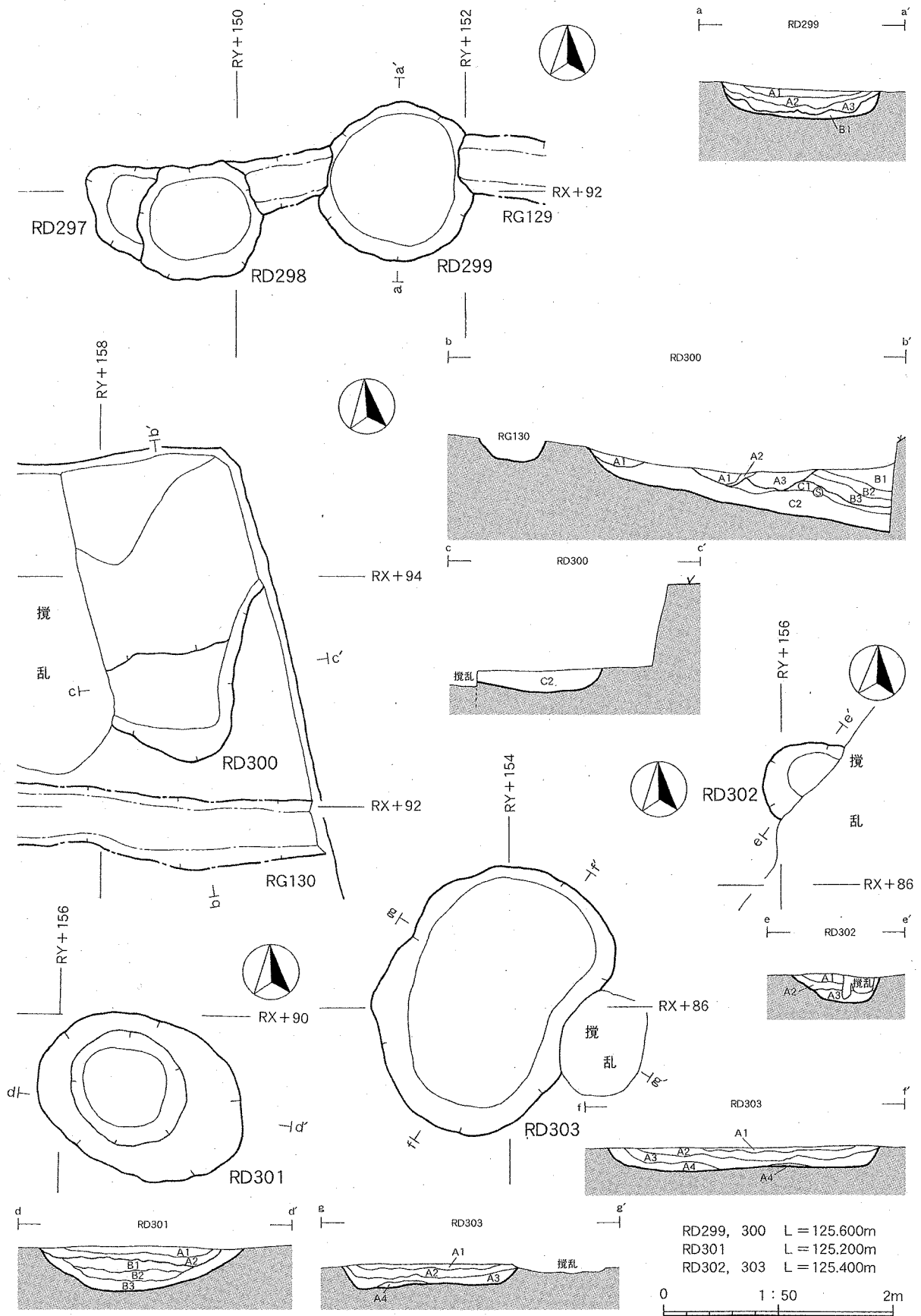
第72图 小幅遺跡 R D 289, 290, 291, 292, 293, 294土坑



第73图 小幅遺跡 R D 295, 296土坑平面图

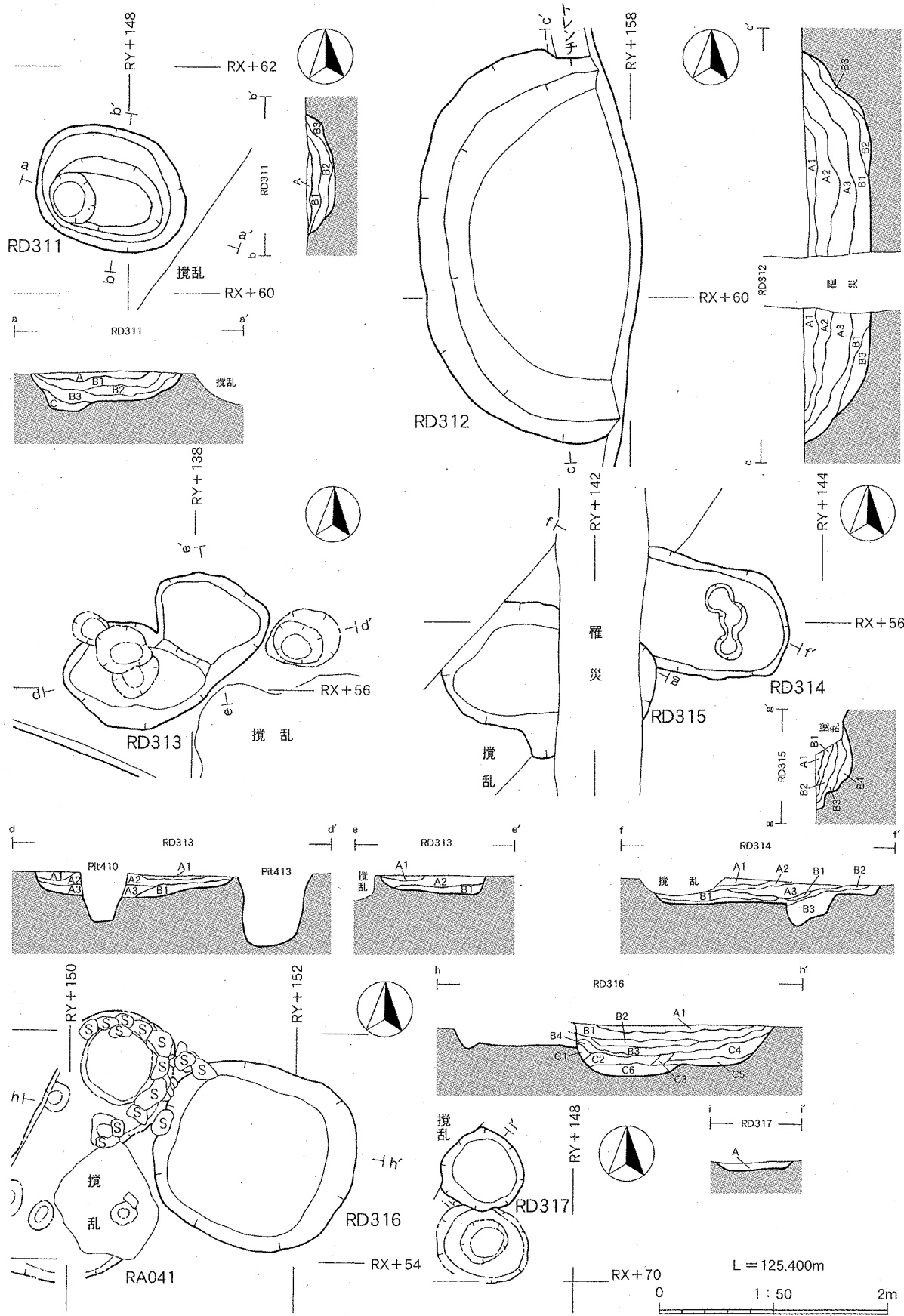


第74图 小幅遺跡 R D 295, 296土坑断面图

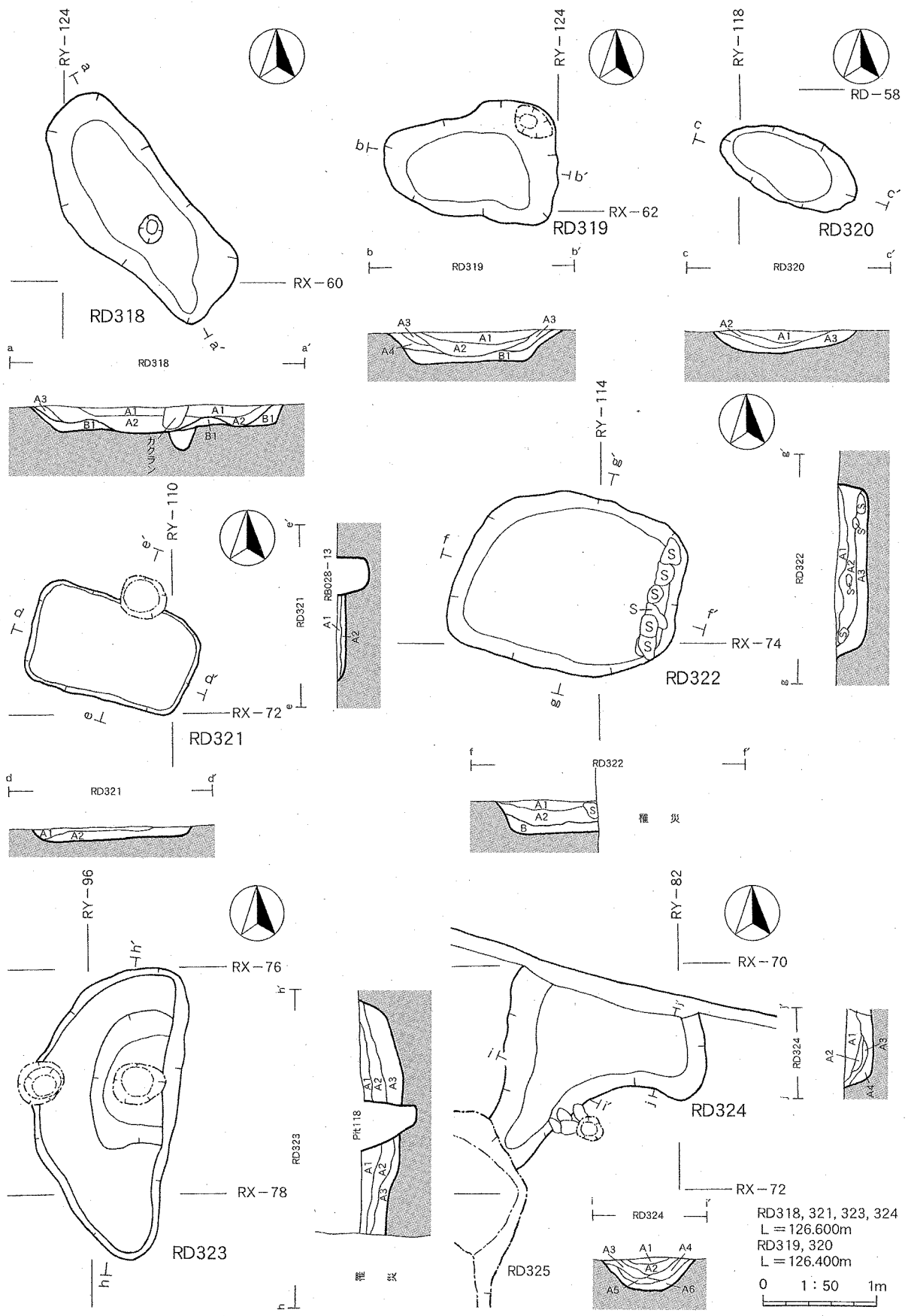


第75图 小幅遺跡 R D 297, 298, 299, 300, 301, 302, 303土坑



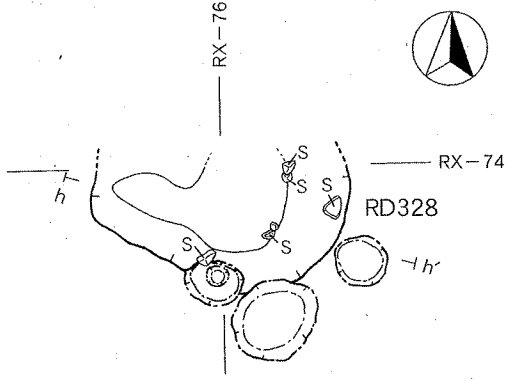
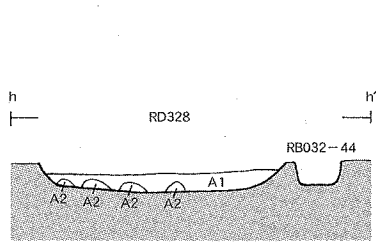
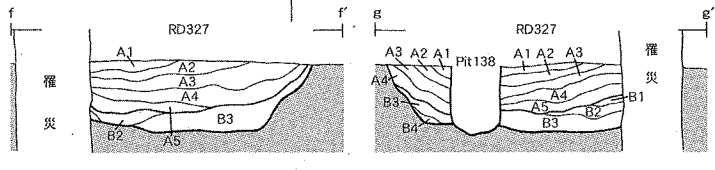
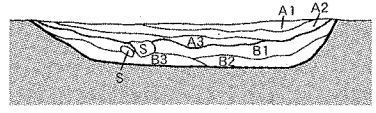
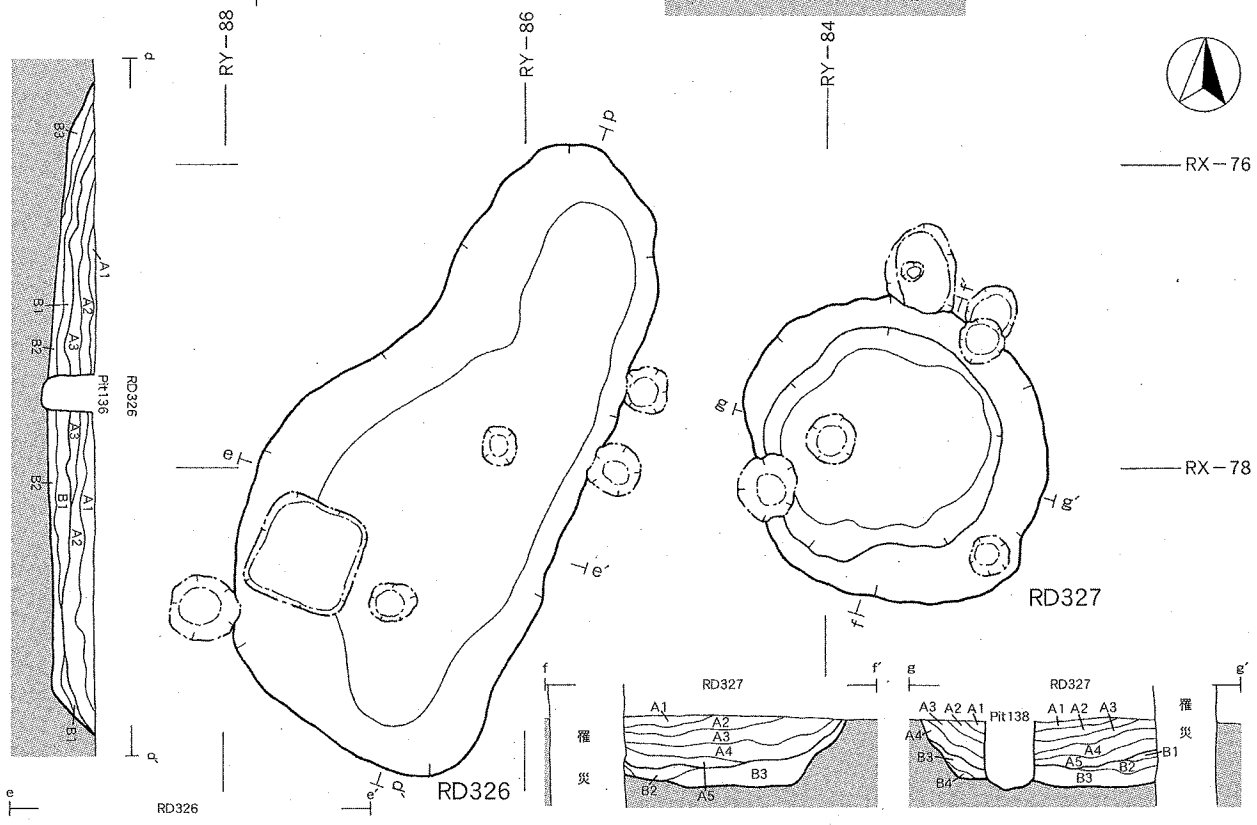
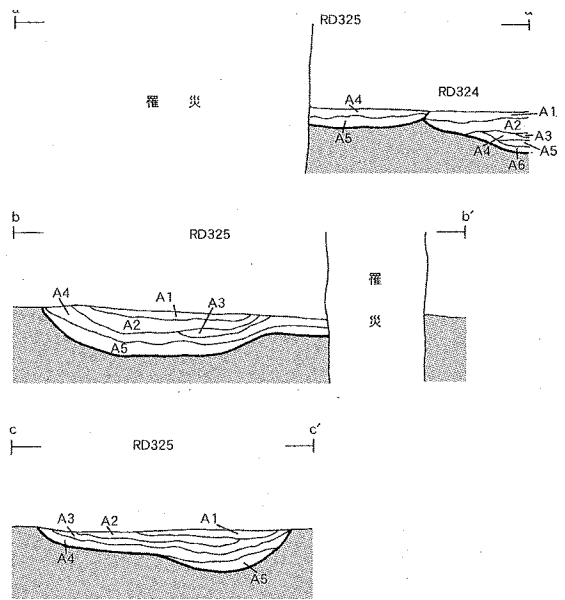
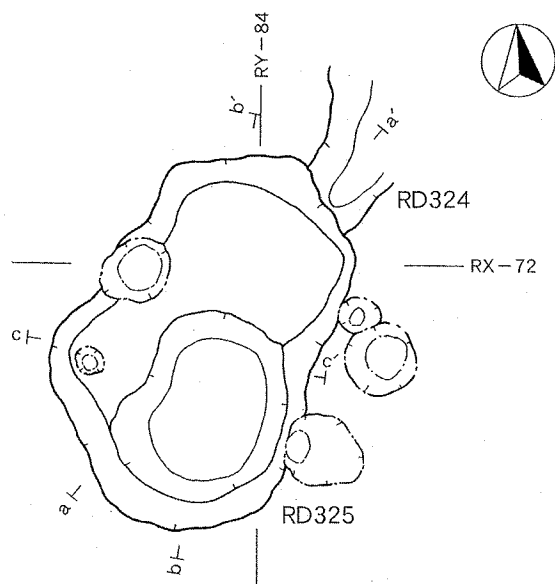


第77图 小幅遺跡 R D311, 312, 313, 314, 315, 316, 317土坑



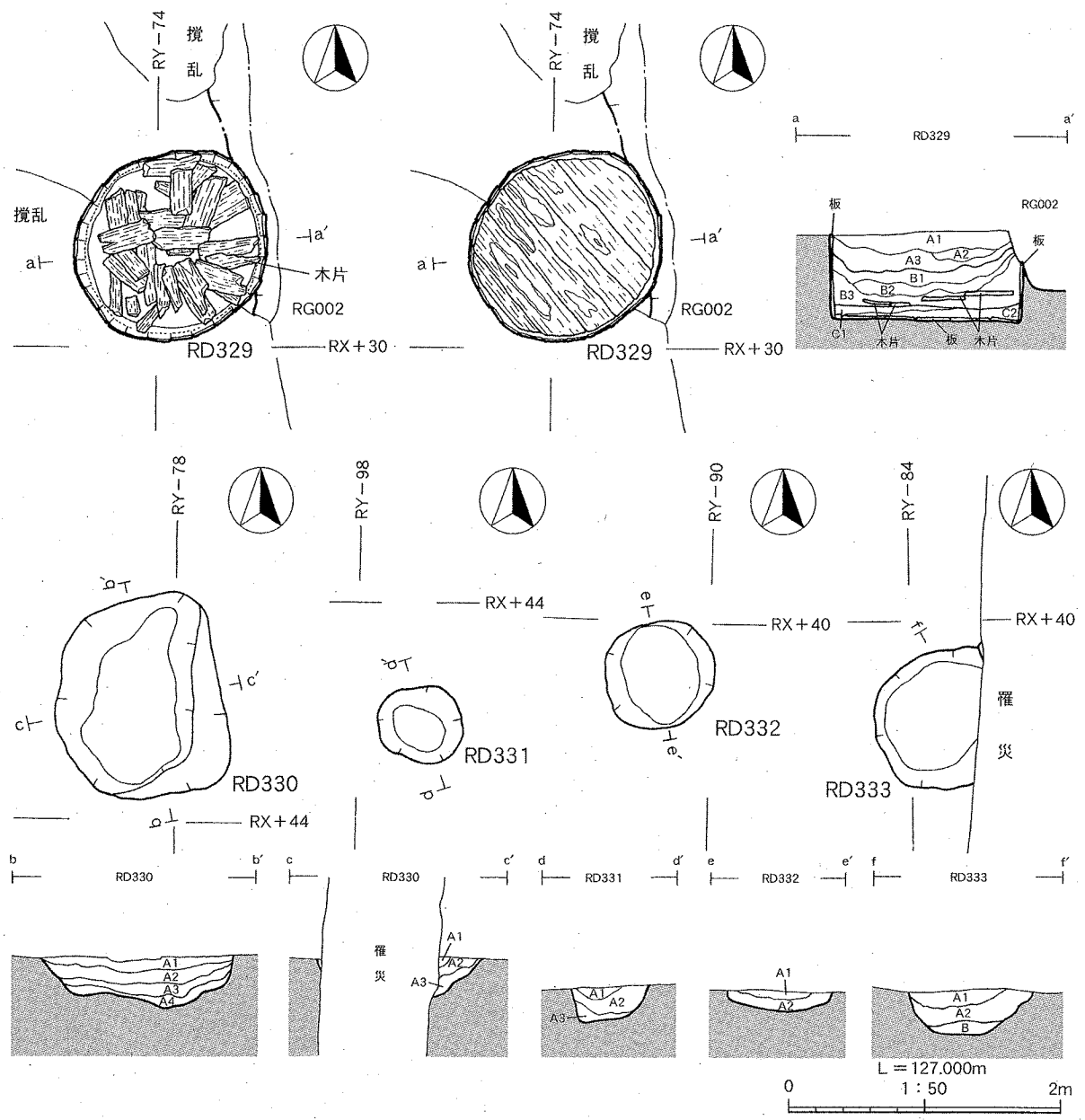
第78圖 小幅遺跡 R D 318, 319, 320, 321, 322, 323, 324土坑



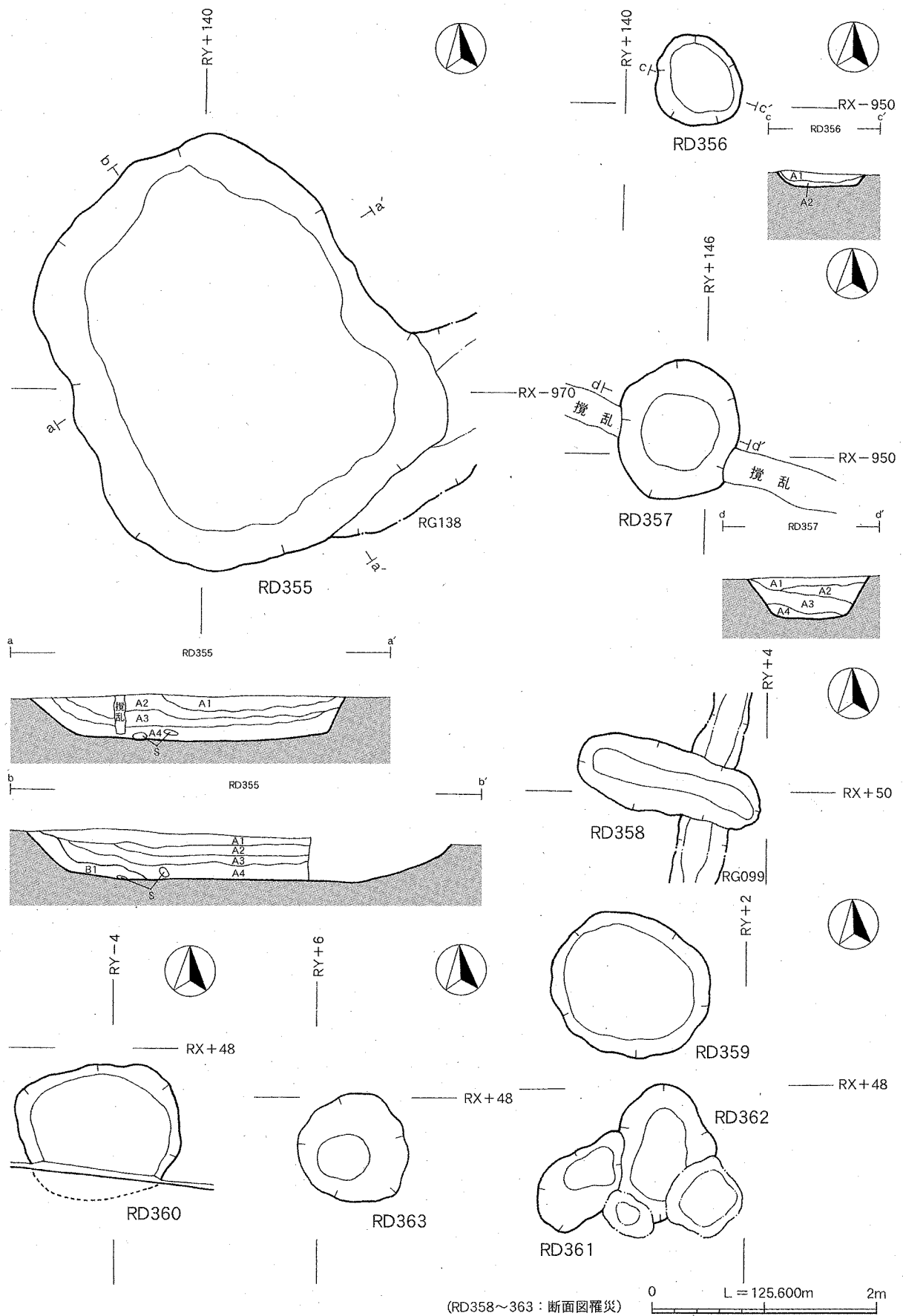


RD325 126,400m  
 RD326, 327, 328 126,200m  
 0 1:50 1m

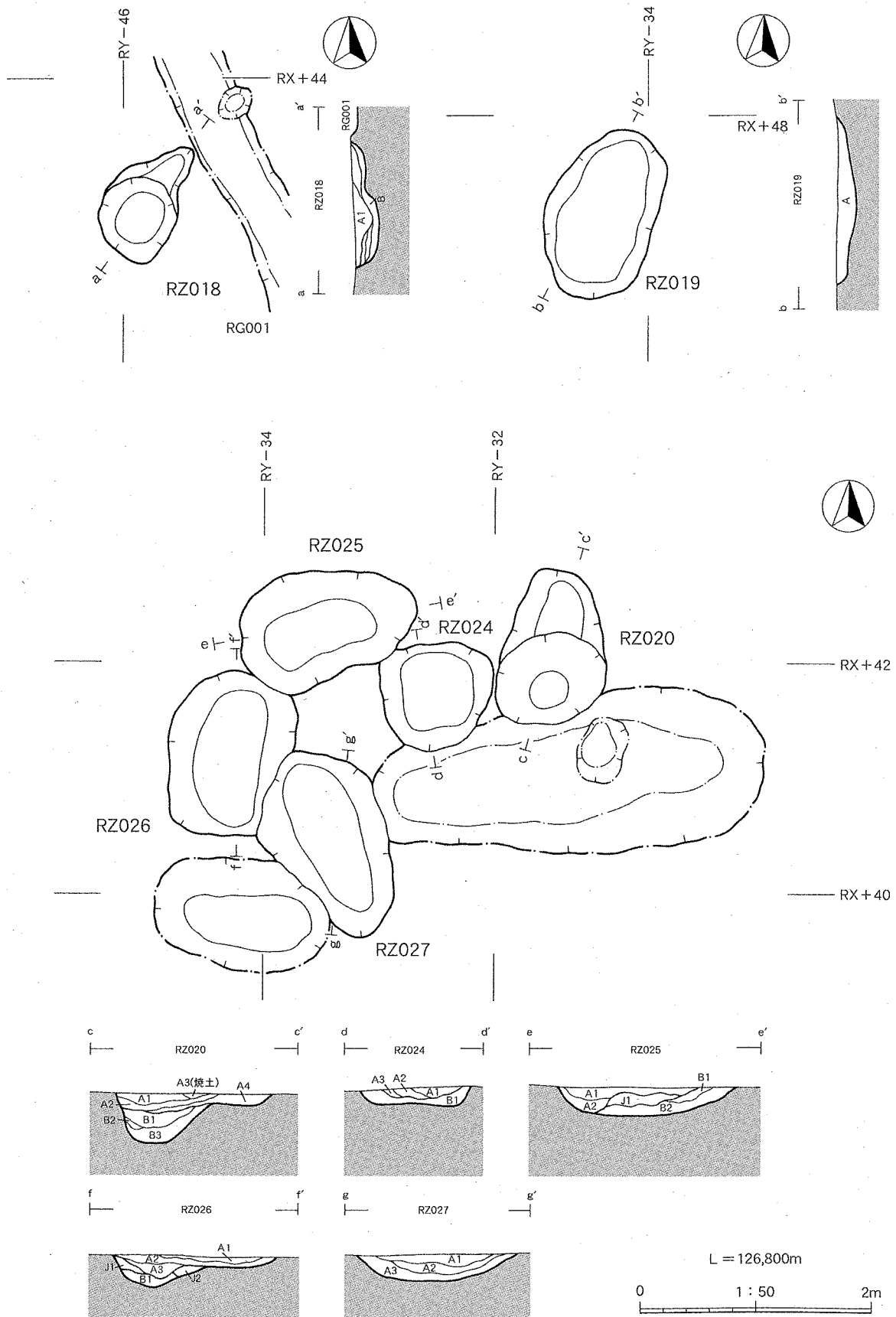
第79图 小幅遺跡 R D 325, 326, 327, 328土坑



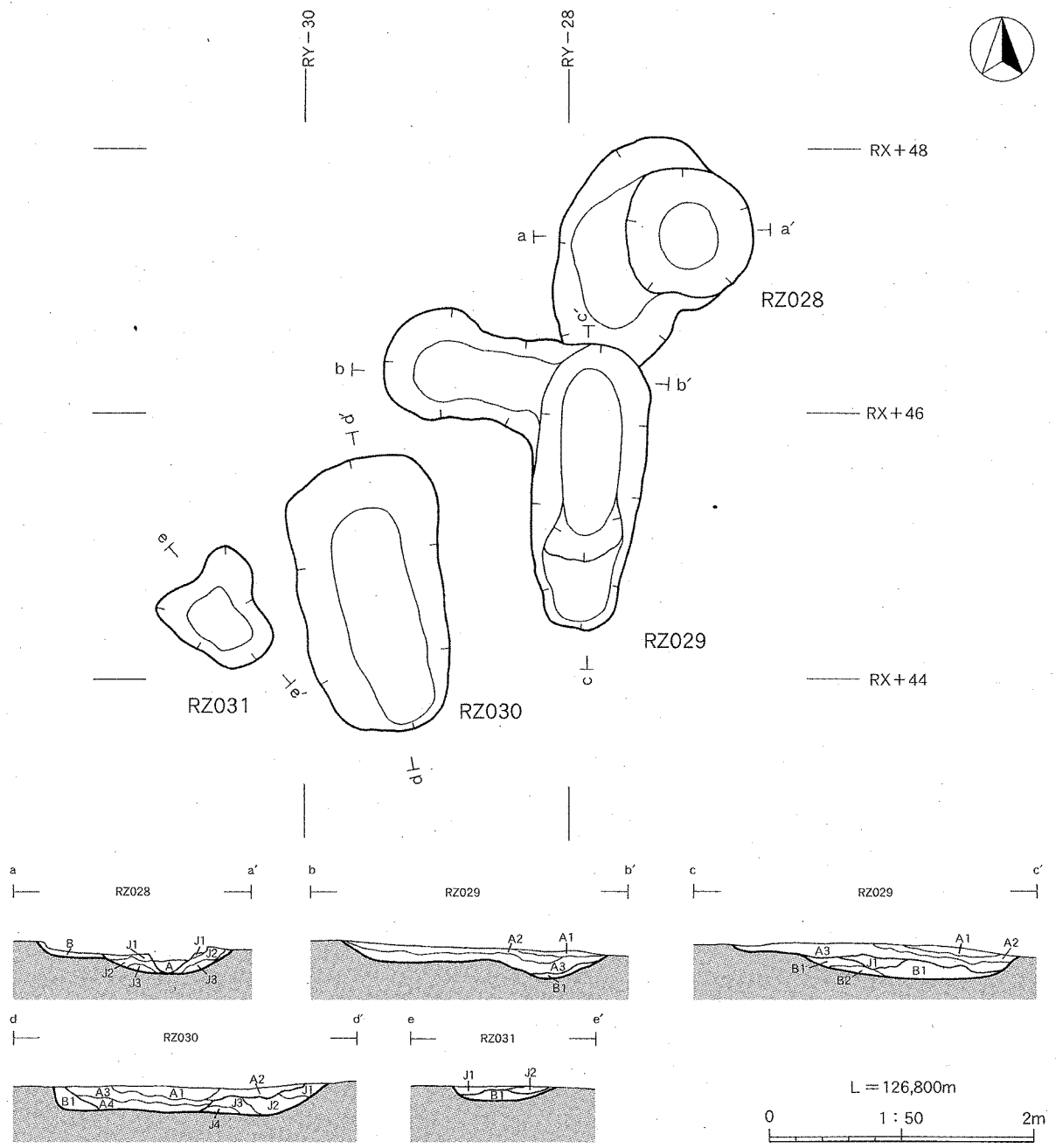
第80图 小幅遺跡 R D 329, 330, 331, 332, 333土坑



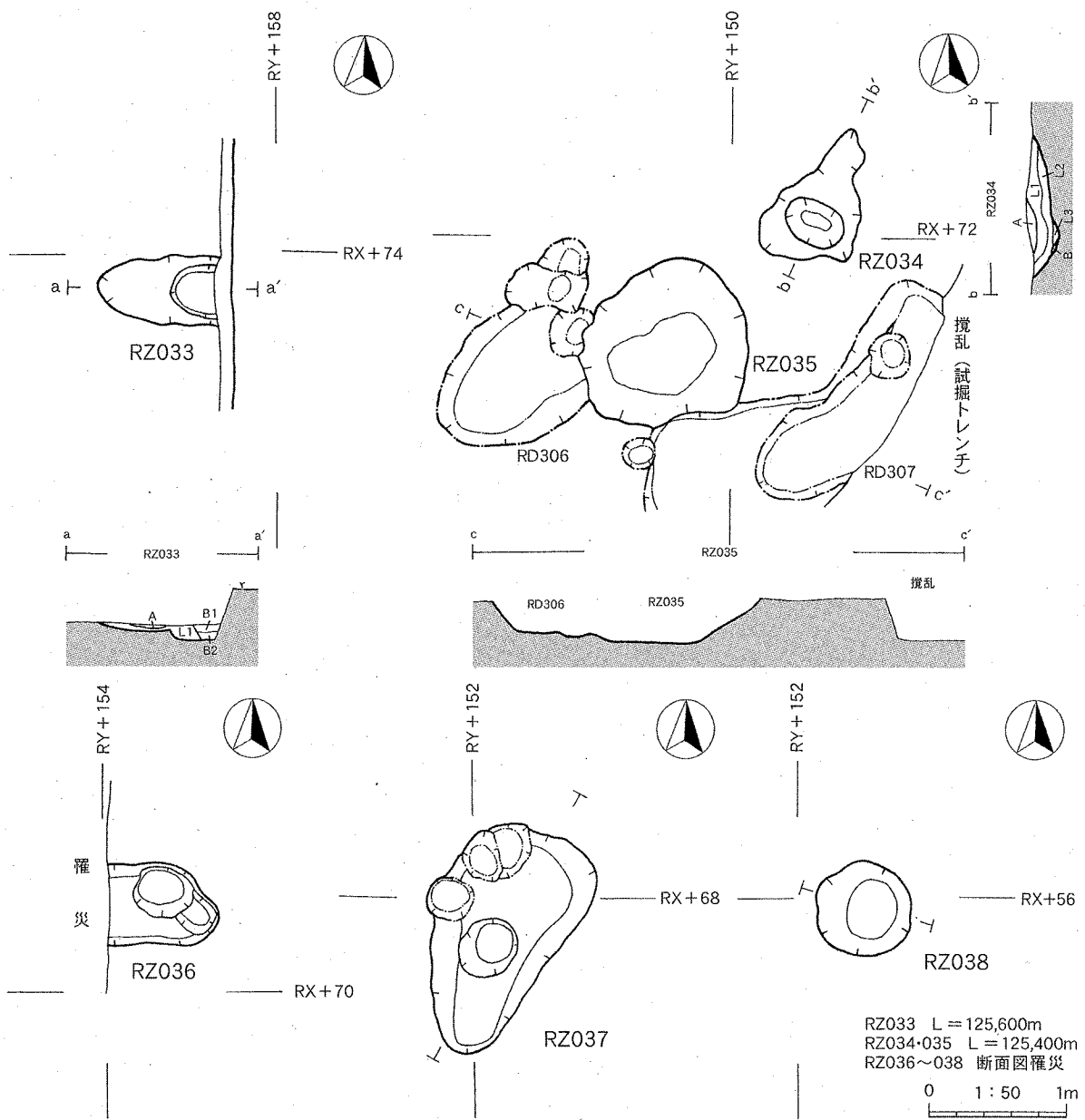
第81図 小幅遺跡 R D 355, 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363土坑



第82图 小幅遺跡 R Z 018, 019, 020, 024, 025, 026, 027土坑



第83図 小幅遺跡 R Z 028, 029, 030, 031土坑



第84図 小幅遺跡 R Z 033, 034, 035, 036, 037, 038土坑

#### (8) 溝跡 (RG) ・小ピット (第85～94図)

調査区内で検出された溝跡は大きく3種類に大別できる。①近世の屋敷を囲郭する比較的規模の大きな溝 (RG002・101・093), ②古代以降の地形に沿った溝, ③そのほか, である。

以下, 主なものを概観する。

##### RG002溝跡・RG101溝跡 (第85・86・87・88図)

両溝跡とも, 上端幅約1.2～2.5m, 下端幅0.5～1.2m, 検出面から底面までの深さ20～80cmほどをはかる。埋土は自然堆積である。RG002の断面形は一部皿状を呈するが, RG002・101ともにおおむね箱状を呈する。遺跡北部において, 一辺約80mを方形に区画しており, 東辺ほぼ中央部において幅2～3mにわたって途切れており, 囲郭内部への出入口部と考えられる。囲郭内部には, RB015・016・017の近世期と想定される3棟の建物跡が確認されており, これらにともなう溝跡と考えられ, 近世村落の一端を示す遺構と考えられる。

##### RG093溝跡 (第85・87図)

平面形は一部不整形だが, 上端幅約0.4～1.5m, 下端幅0.5～1.2m, 検出面から底面までの深さ30～90cmほどをはかる。埋土は自然堆積である。断面形は一部皿状を呈するが, おおむね箱状を呈する一部RG002南辺と平行に延びるが, 東・南は不明瞭となる。北側で幅1.1mほど途切れる。近世村落の一端を示す遺構の一部と考えられる。

##### RG041溝跡 (第88・89図)

上端幅約50～70cm, 下端幅20～40cm, 検出面から底面までの深さ20～80cmほどをはかる。埋土は自然堆積である。断面形は一部皿状を呈するが, 西方では薬研状を呈する。RG002と重複し, 新しい。遺跡北部において, 一辺約80mを方形に区画しているが, 北半は調査区外であり, 調査区内には本溝の区画にともなう遺構は検出されておらず, 詳細は不明である。近世以降のものと考えられる。

##### RG100溝跡 (第88図)

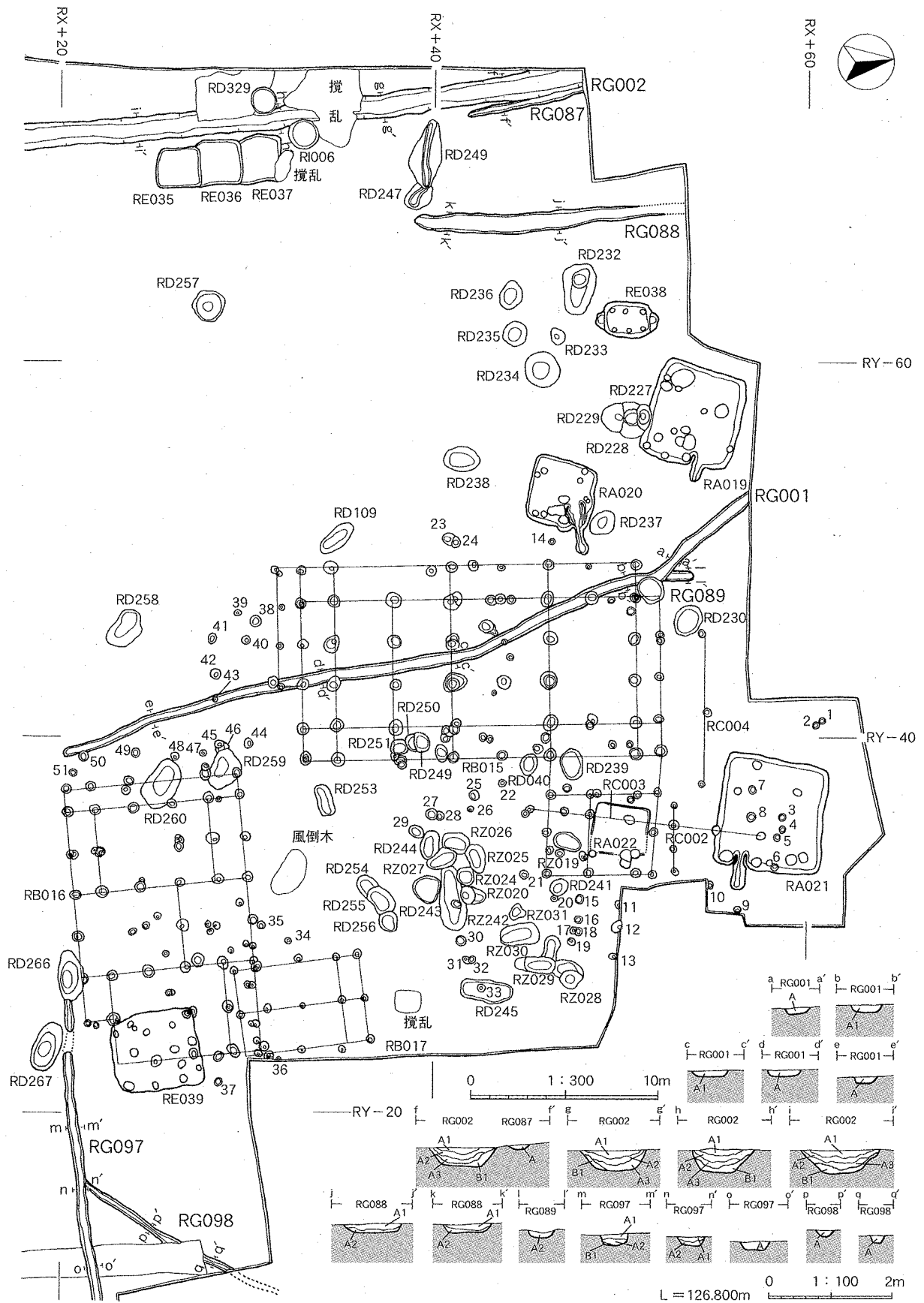
上端幅約80cm, 下端幅50～60cm, 検出面から底面までの深さ40cmほどをはかる。埋土は自然堆積である。断面形は箱状を呈する。RG099溝跡と重複し, 古い。RB022建物跡の南西柱筋と平行に6.6mに渡って延びる。RB022建物跡の雨落溝にしては規模が大きく詳細は不明だが, RB022建物跡にともなう溝跡と推測され, 古代の溝跡と考えられる。

##### RG009溝跡・RG098溝跡 (第88・90図)

両溝跡とも, 上端幅約30～40cm, 下端幅10～20cm, 検出面から底面までの深さ10～30cmほどをはかる。埋土は自然堆積である。断面形は箱状を呈する。遺跡の北東から南西に, 地形に沿って延びる。



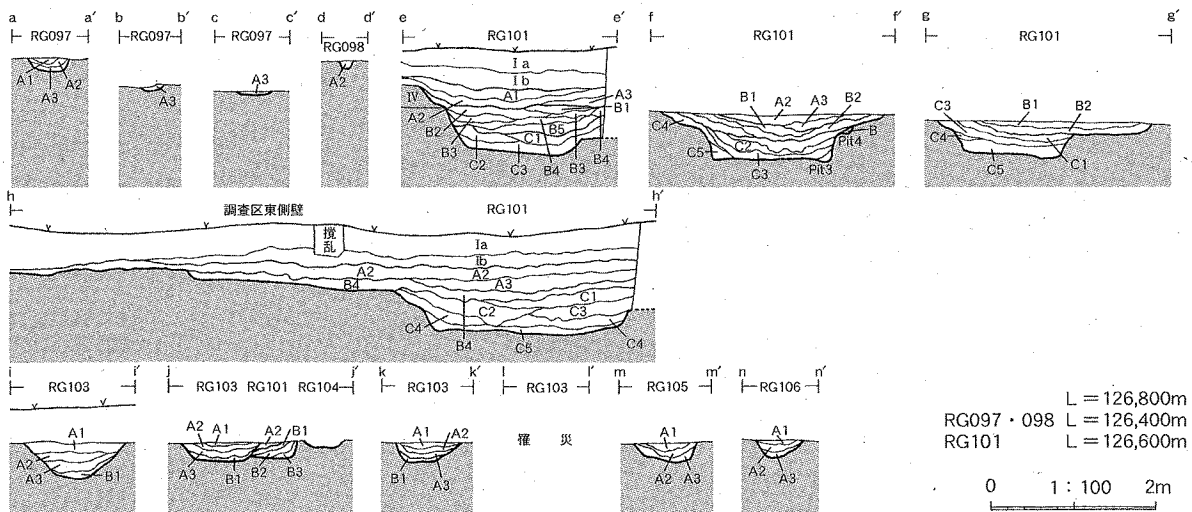
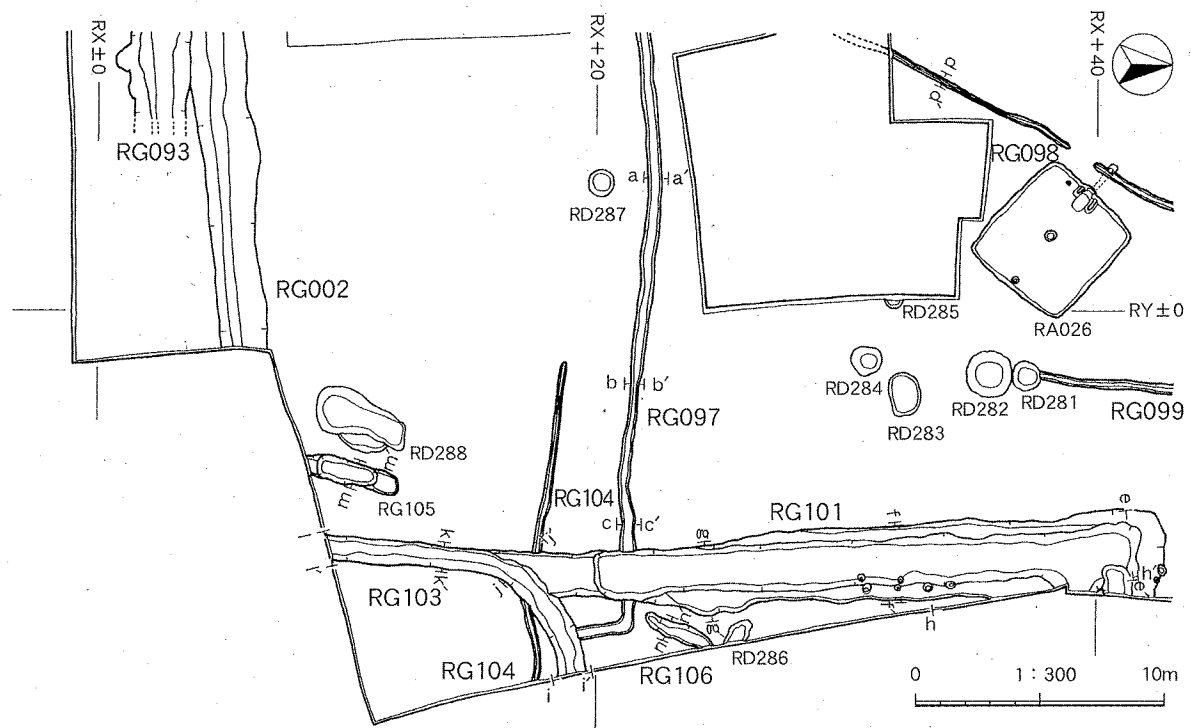




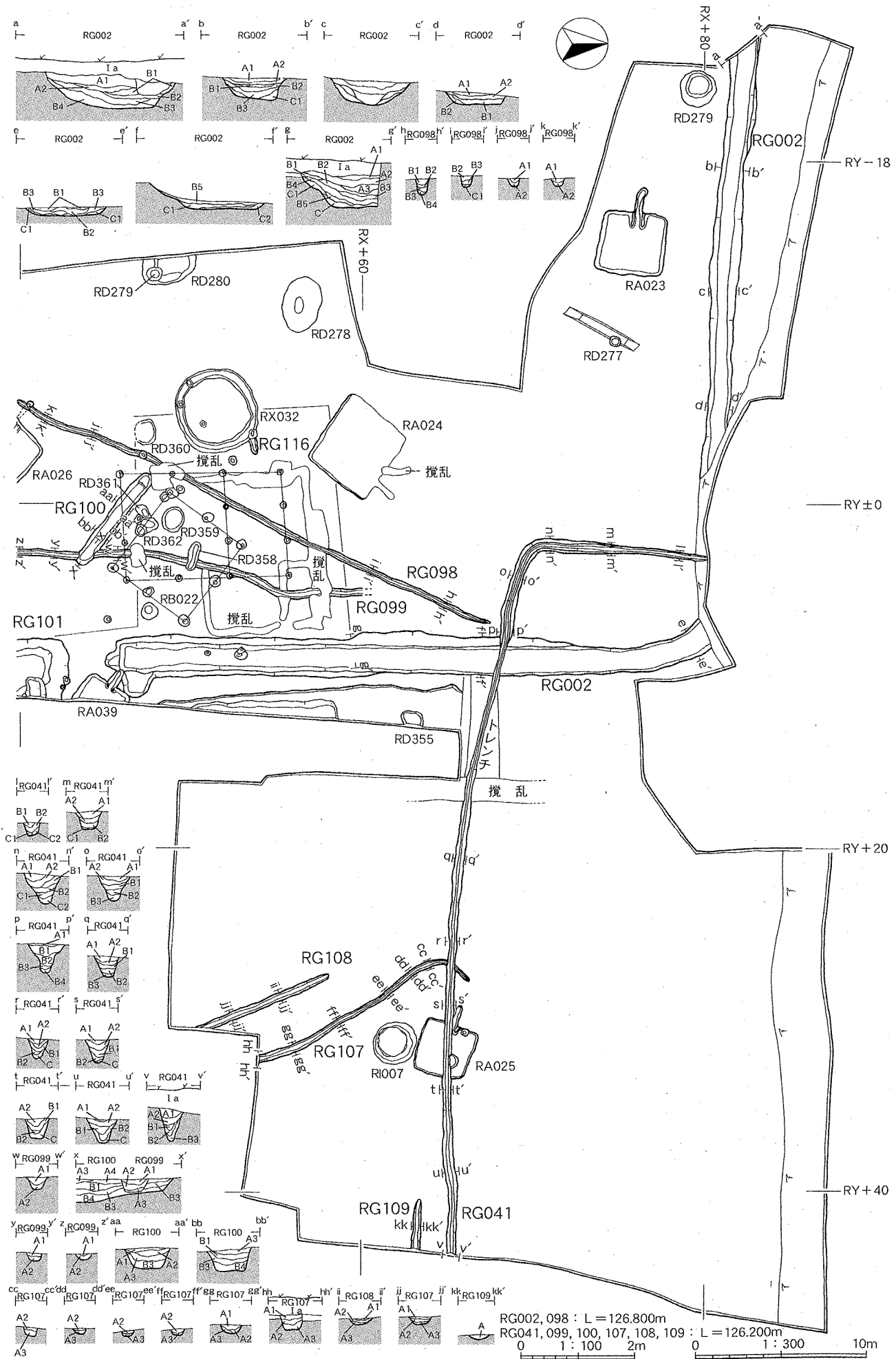
第86図 小幡遺跡A～E区全体図(2), 溝跡, 小ピット

小ピット (第85~94図)

調査区内から、約497口以上検出した。図面等が罹災しており全てを復元できていない。おむね柱穴となるもの、杭跡、用途不明、に分類できる。



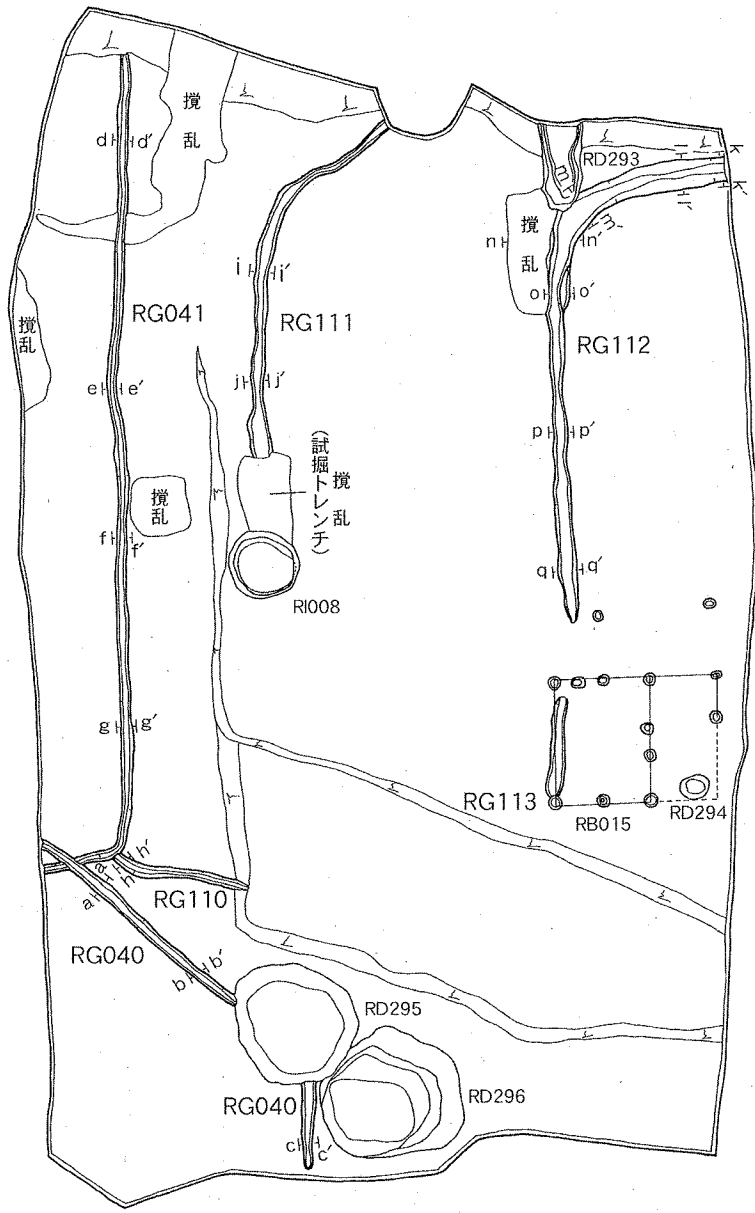
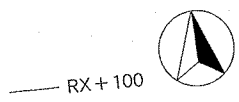
第87図 小幡遺跡A~E区全体図(3), 溝跡, 小ピット



第88図 小幡遺跡 A~E 区全体図 (4), 溝跡, 小ピット

RY+80

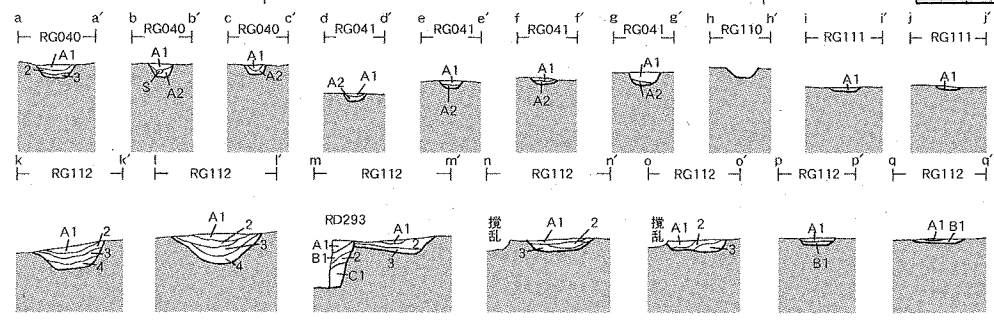
RY+100



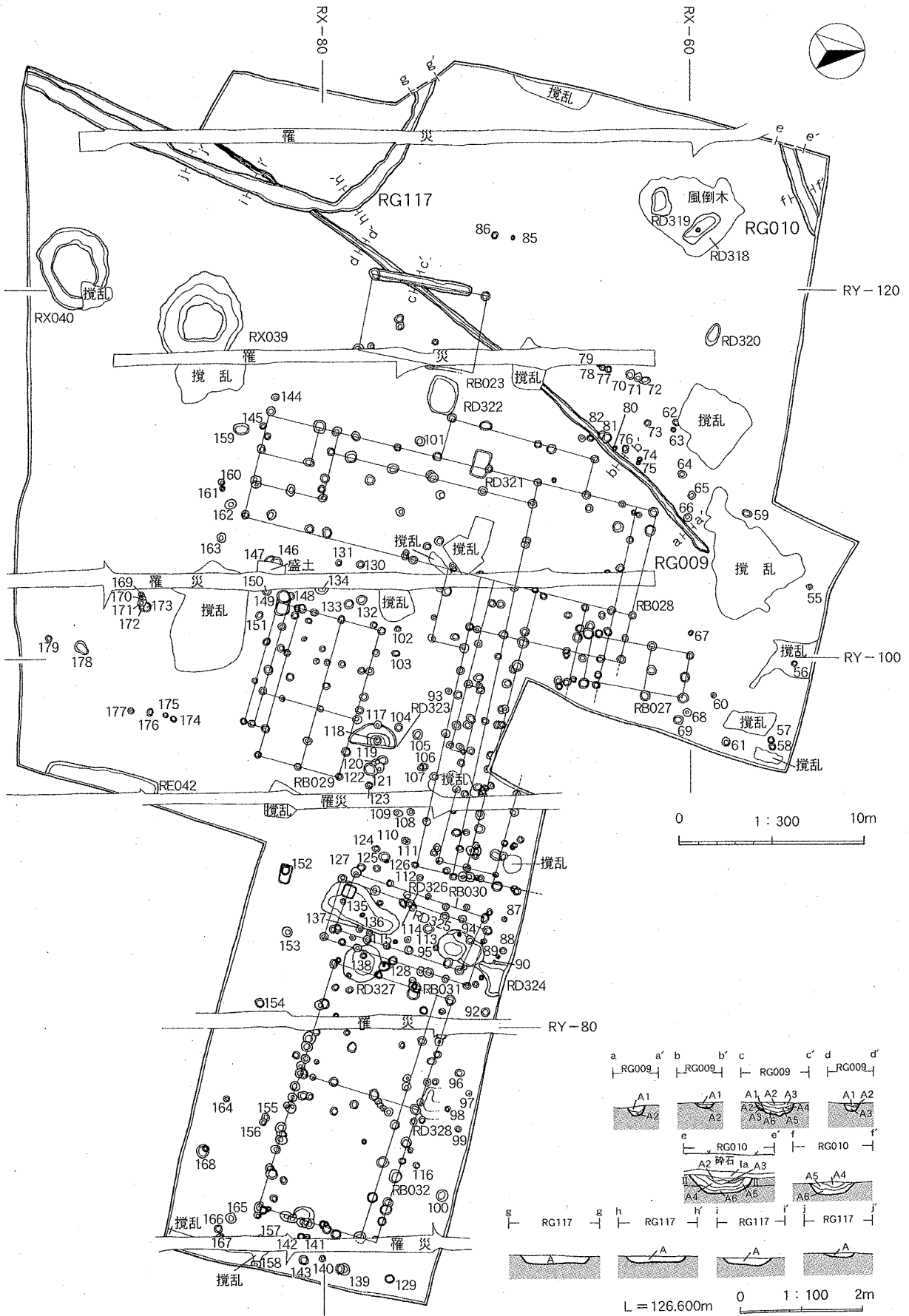
RX+80

RX+60

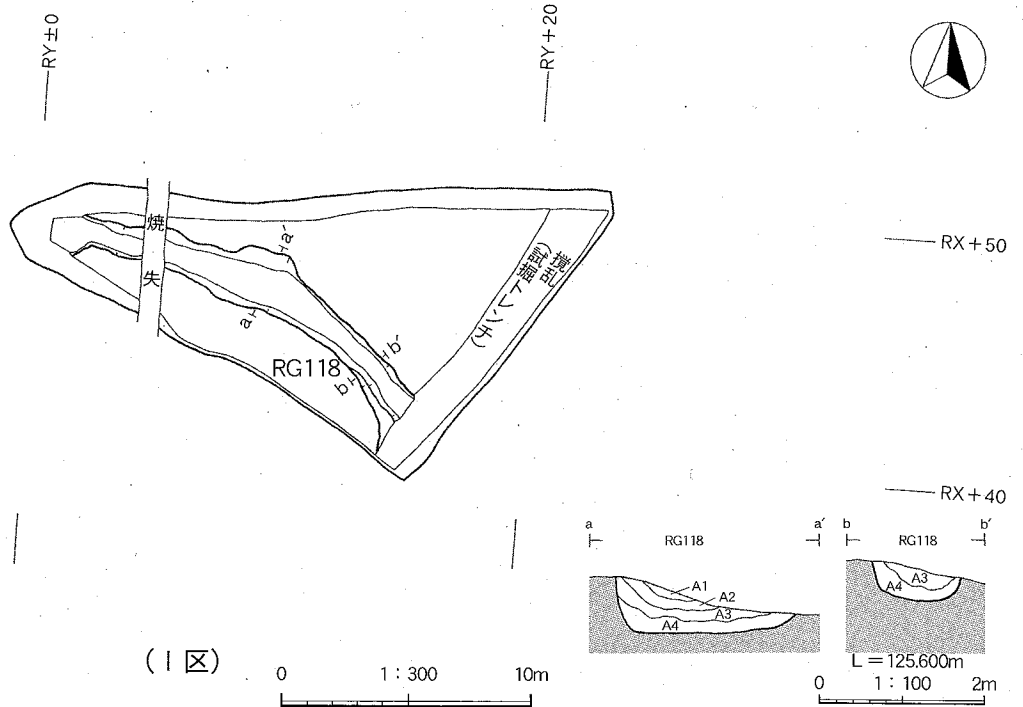
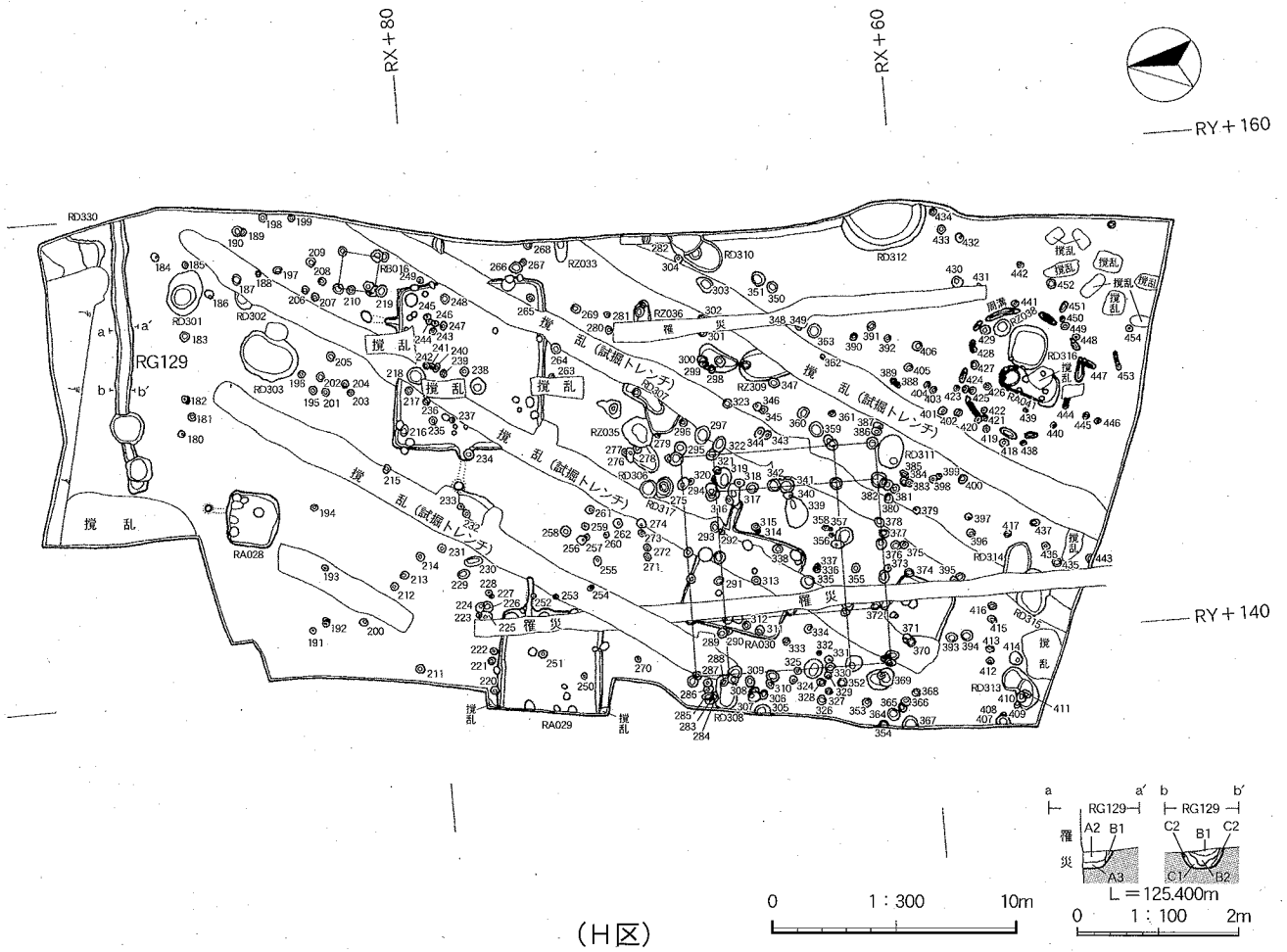
0 1:300 10m



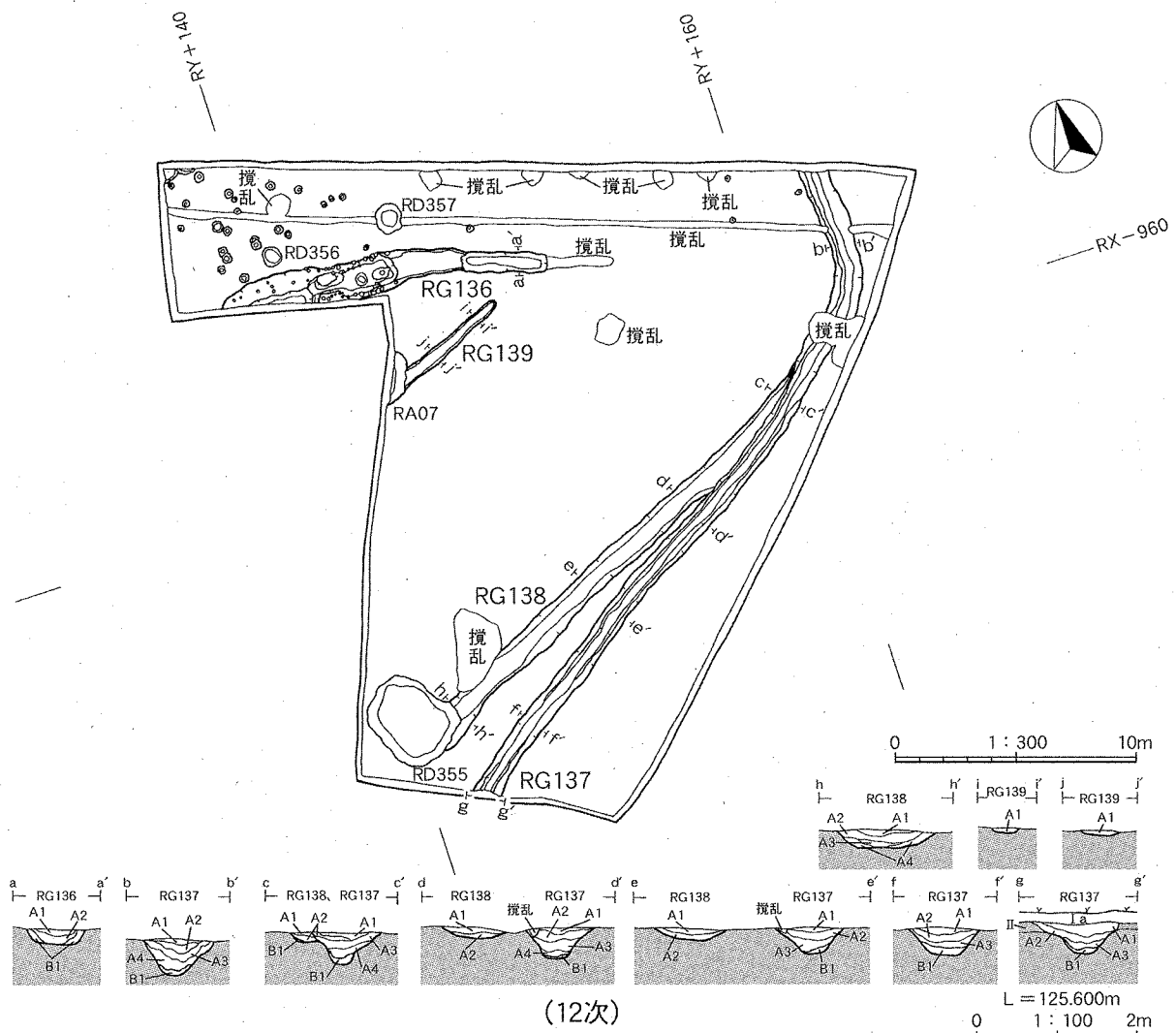
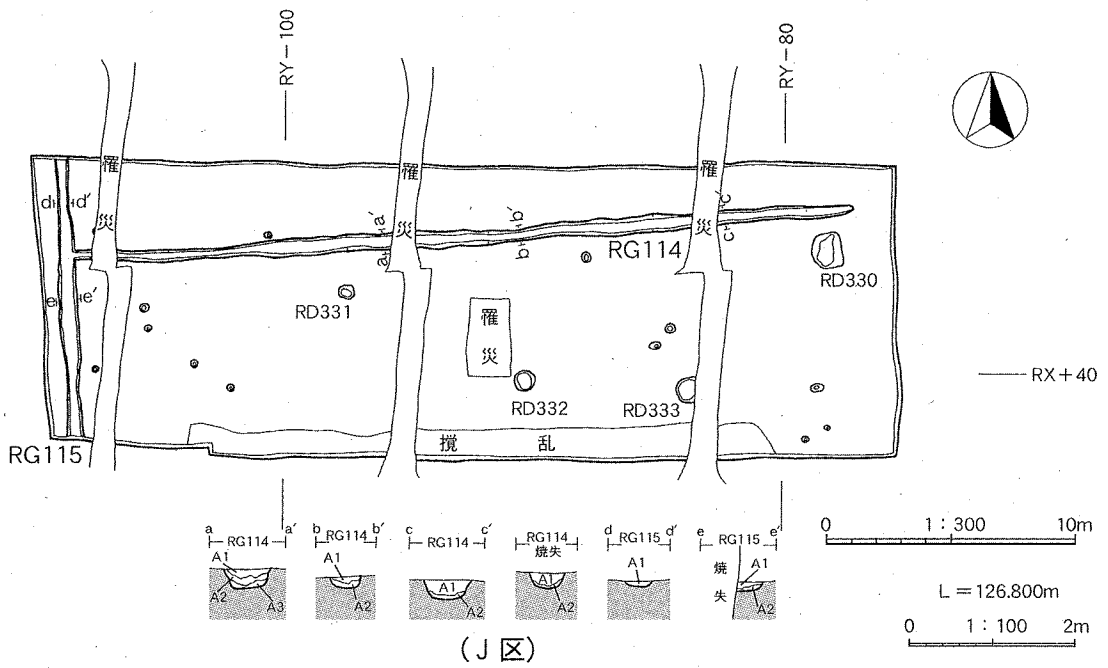
第89図 小幡遺跡F区溝跡, 小ピット



第90図 小幅遺跡G区溝跡, 小ピット



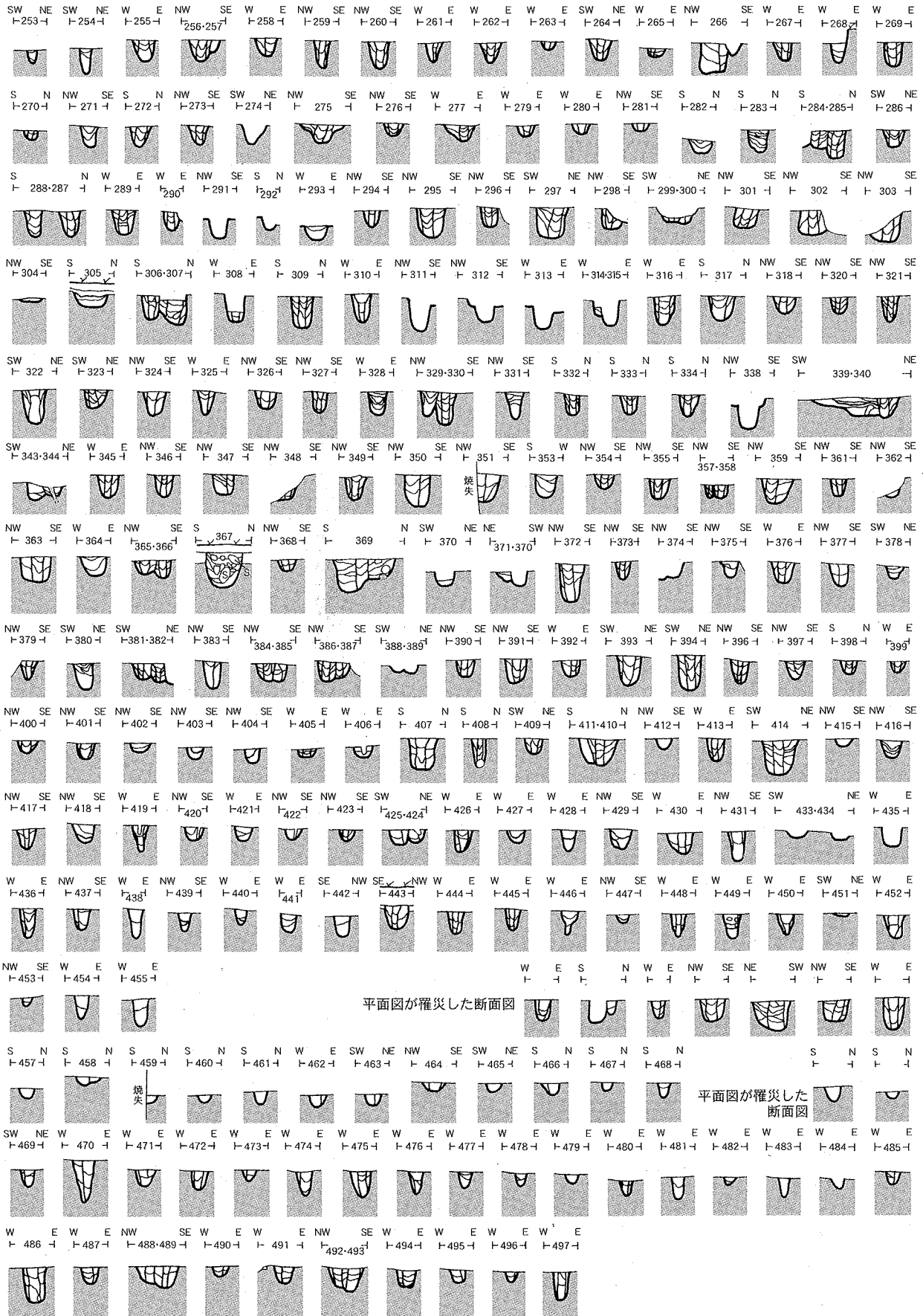
第91図 小幡遺跡H区, I区溝跡, 小ピット



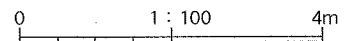
第92図 小幡遺跡J区, 12次調査 溝跡, 小ピット







罹災した断面図 No.278・319・335・336・337・341・342・352・356・360・395・432・456  
 No.253~455 L=125.400m, No.457~468 L=126.400m, No.469~497 L=125.800m

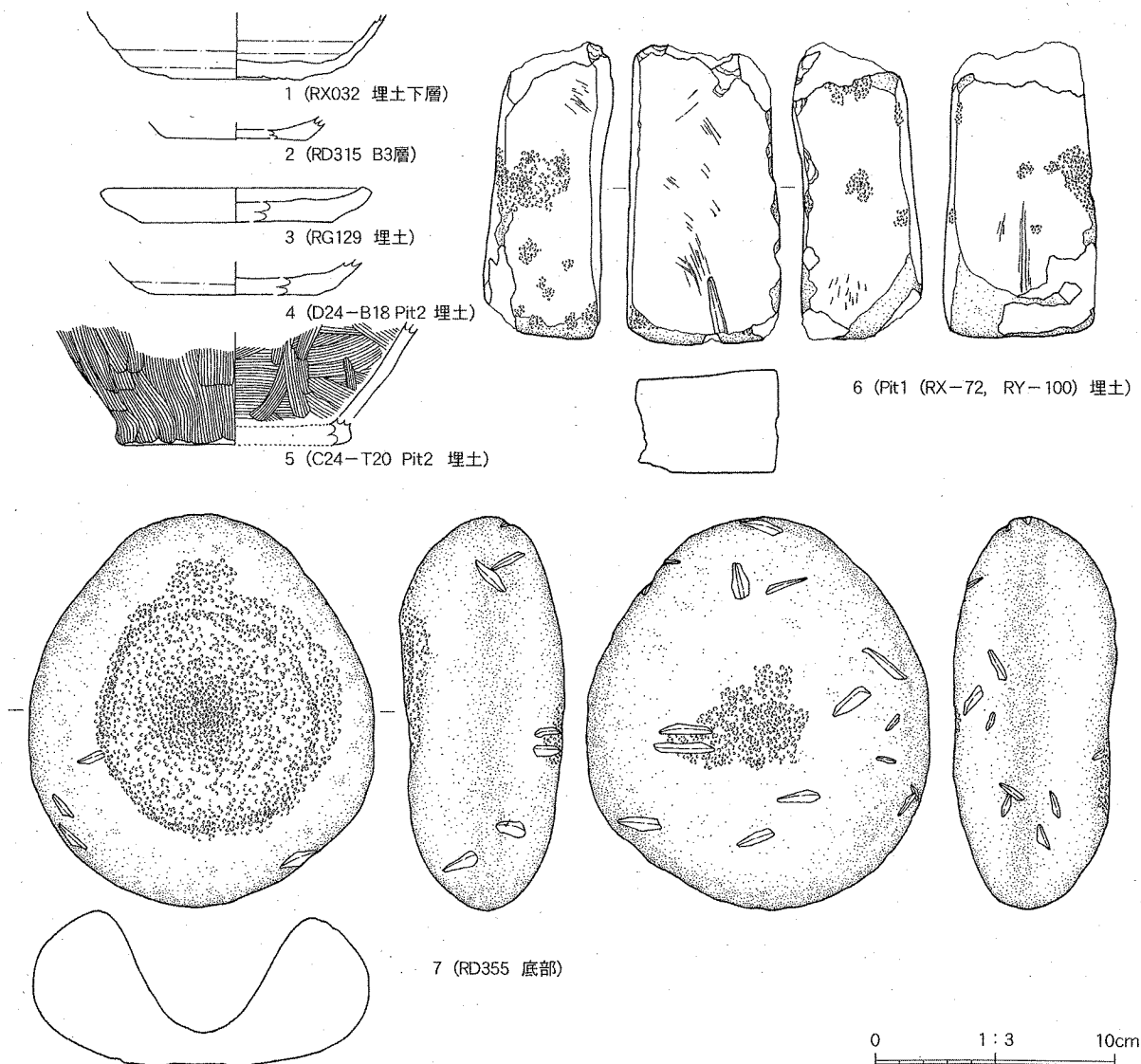


第94図 小幅遺跡 小ピット断面図 (2)

(9) 出土遺物 (第95図)

竪穴住居跡以外から出土した出土遺物の量は多くない。摩滅した古代の土器片が大半を占める。図示できたものを第95図に示した。

1はRX032円形周溝埋土下層出土の、あかやき土器の坏である。底部切り離しは糸切無調整。  
 2はRD315土坑埋土B層出土の、ロクロ成形のかわらけ小皿である。小破片。3はRG129溝跡埋土出土の、ロクロ成形のかわらけである。4は小ピット出土のロクロ成形のかわらけ大皿である。5は小ピット出土の土師器甕である。内外面ともに強いヘラナデ調整が施されている。残存状況は悪いが、底面は砂底と見られる。6は小ピット出土の砥石である。7はRD355土坑底面出土の床束に使われたと考えられるくぼみ石である。



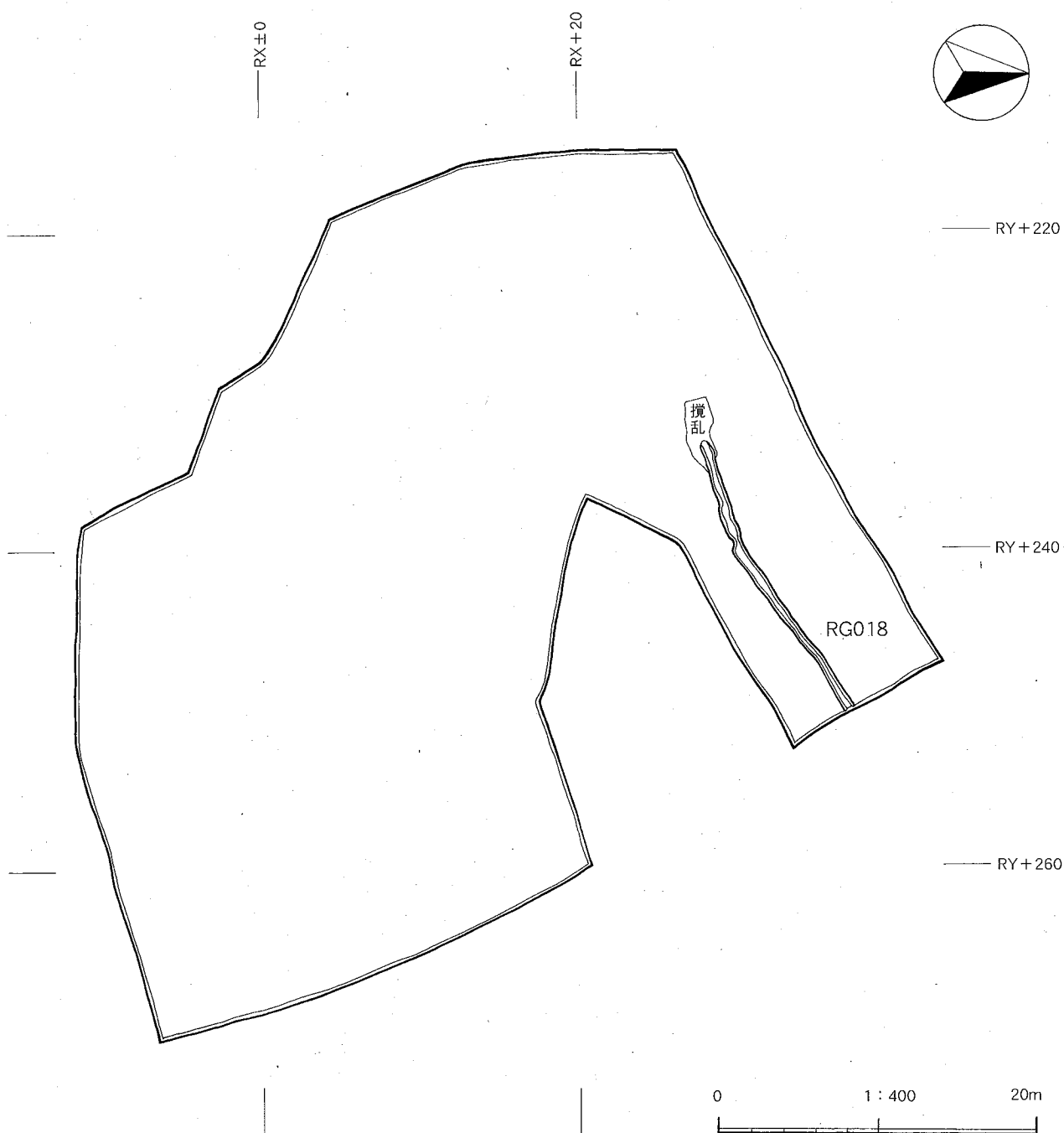
第95図 小幅遺跡 R X 032円形周溝, R D 315・355土坑, R G 129溝跡, 小ピット 出土遺物

### 3 宮沢遺跡 (第5次調査)

#### (1) 遺跡の概要

宮沢遺跡は、盛岡駅から南西約2kmの本宮字宮沢地内に位置する。盛南開発地域の北西部に位置する。区画整理事業前は宅地や工場などが立地していた。遺跡の北部は雫石川の旧河道と考えられる2mほどの段丘によって画される。遺跡の範囲は南北約230m、東西約200mと推定され、標高は約125~127mであり、ほぼ平坦である。中央部には谷地が入り込む。

本遺跡は小幅遺跡の東に隣接する。南には鬼柳A遺跡が、東には本宮熊堂B遺跡が立地し、それぞれ旧河道によって画されている。これまでの調査で、古代の集落および近世以降の建物跡や溝跡などが検出されている。当市教育委員会では平成5~12年度に、盛南開発にともなう



第96図 宮沢遺跡 第5次調査 全体図 (1:400)

発掘調査として、第5次調査を実施した（第9図・第1表）。諸記録や各図・出土遺物が罹災した。

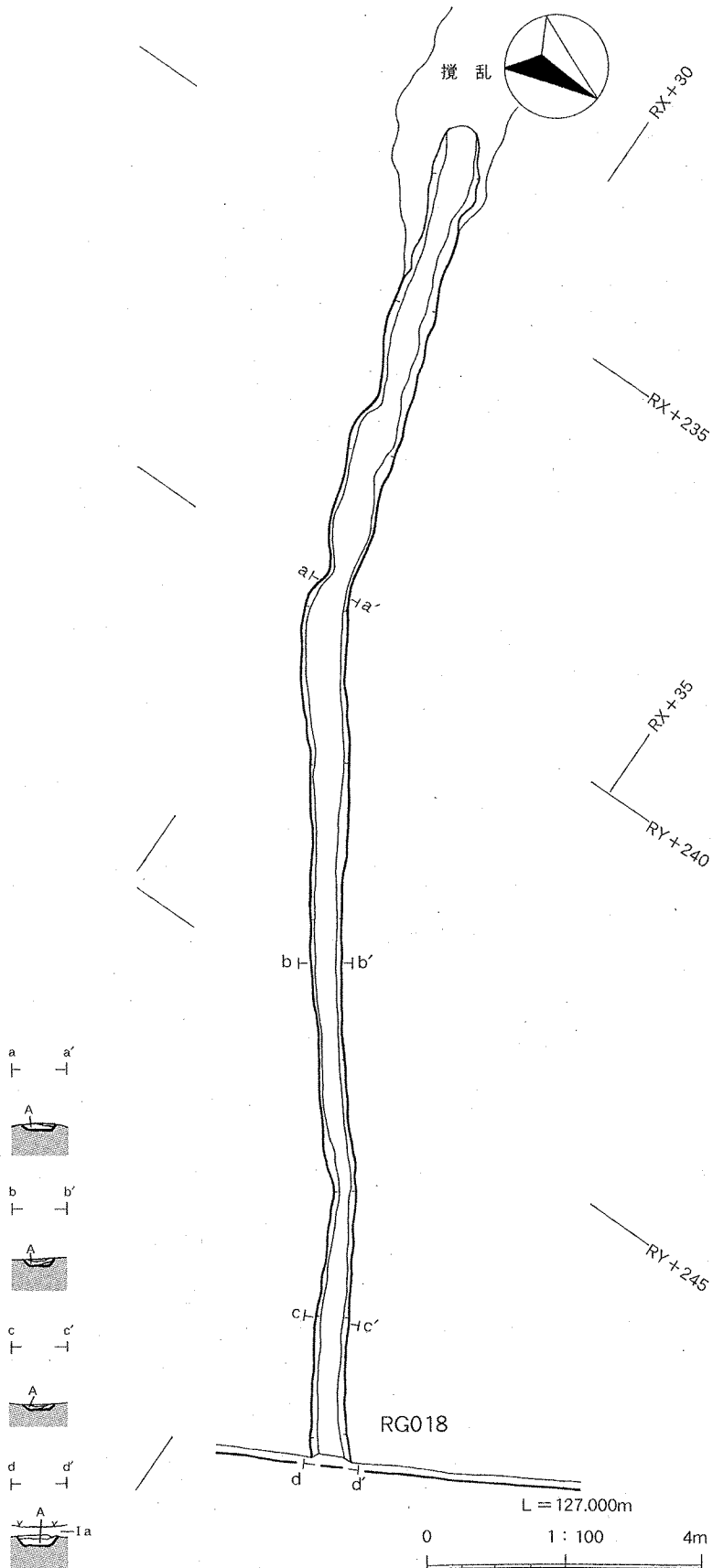
（2）第5次調査

位置 第5次調査は、区画整理事業にともない、平成11年4月21日から同年5月18日に、遺跡の中央北寄りの1,629㎡を対象に調査した（第9図・第1表）。調査前は畑地であり、調査区全面が耕作による削平を受けていた。遺構検出面は、シルト層であった。

検出遺構は溝跡1条（RG018）である（第96図）。

RA018溝跡（第97図）

上端幅約35～70cm，下端幅20～40cm，検出面から底面までの深さ10～20cmほどをはかる。埋土は自然堆積である。断面形は皿状を呈する。埋土の状況から、中近世以降の溝跡と考えられる。出土遺物は、無い。



第97図 宮沢遺跡 R G018溝跡

## 4 鬼柳 A 遺跡 (第 5 次調査)

### (1) 遺跡の概要

鬼柳 A 遺跡は、盛岡駅から南南西約 2.3km の本宮字鬼柳地内に位置する。盛南開発地域の西端に位置する。区画整理事業前は宅地や畑地などが立地していた。遺跡の周囲は雫石川の旧河道と考えられる 1m 内外の段丘によって画され、その外は水田であった。遺跡の範囲は南北約 200m、東西約 430m と推定され、標高は約 126m 前後であり、ほぼ平坦である。遺跡の西 2/3 は、区画整理事業区域外であり、以前の姿をとどめている。

本遺跡の周囲には、北に大宮北遺跡、小幅遺跡、宮沢遺跡、東に本宮熊堂 B 遺跡、稲荷遺跡、南に鬼柳 B 遺跡、鬼柳 C 遺跡が立地し、それぞれ旧河道によって画されている。いずれの遺跡からも、古代や中近世以降の遺構遺物を検出しているが、区画整理事業区域外では調査が進んでおらず、詳細は不明である。

これまでの調査で、古代の集落および近世以降の溝跡などが検出されている。当市教育委員会では、平成 5～12 年度に盛南開発にともない、第 2・3 次調査としての試掘調査、第 5 次調査として本調査を実施した (第 98 図・第 1 表)。各遺構の諸記録や各図・出土遺物が罹災した。

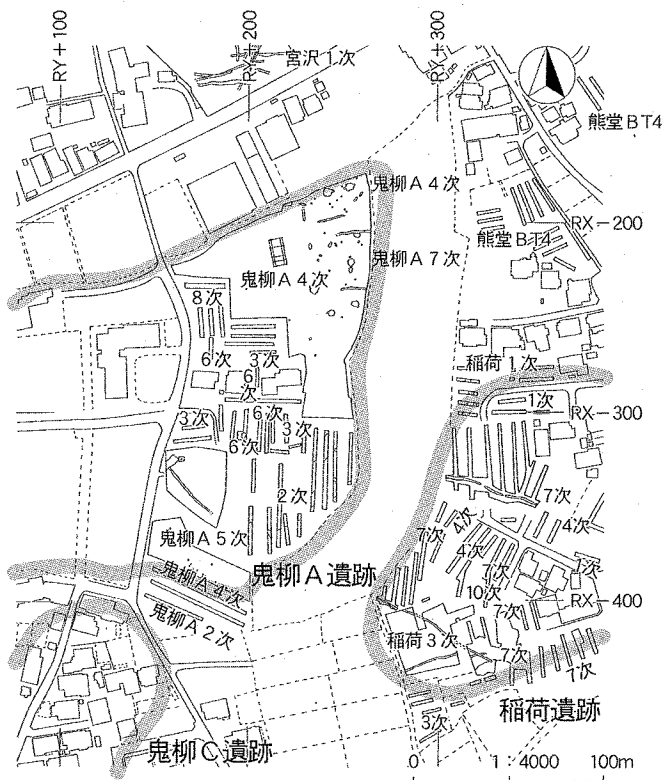
### (2) 第 5 次調査

第 5 次調査は、区画整理事業にともない、平成 11 年 7 月 22 日から同年 8 月 10 に、遺跡の南西部 1,171m<sup>2</sup> を対象に実施した (第 98 図・第 1 表)。

調査区は畑地であり、全面に渡って、耕作による削平を受けていた。遺構検出面は、シルト層であった。検出遺構は土坑 1 基 (RD002)、竪穴建物 1 棟 (RE001)、溝跡 1 条 (RG001) である (第 99 図)。

#### RD002 土坑 (第 99 図)

直径 1.6m ほどの円形を呈する。断面形は皿条を呈する。埋土から近世以降の遺構と考えられる。



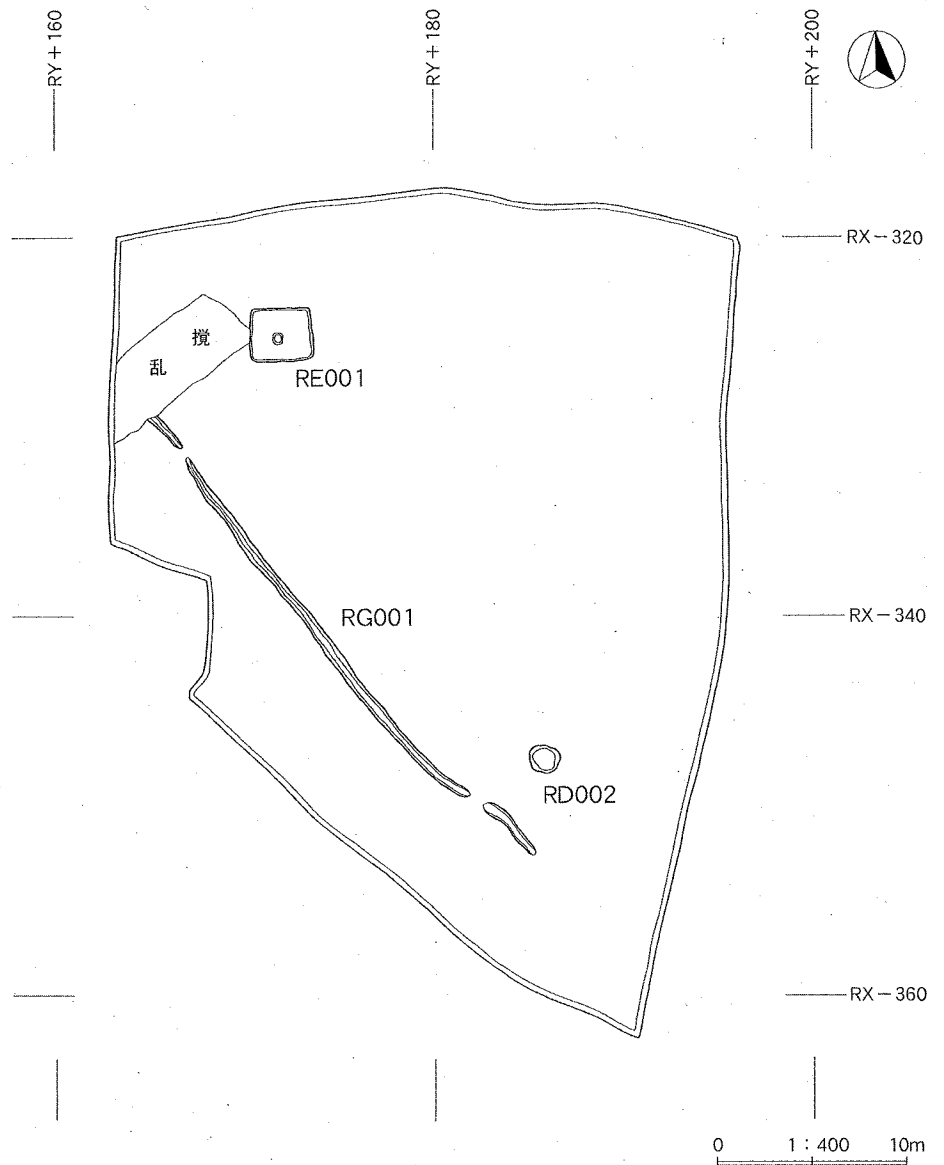
第 98 図 鬼柳 A 遺跡 全体図 (1:4000)

**RE001 竖穴建物跡 (第100図)**

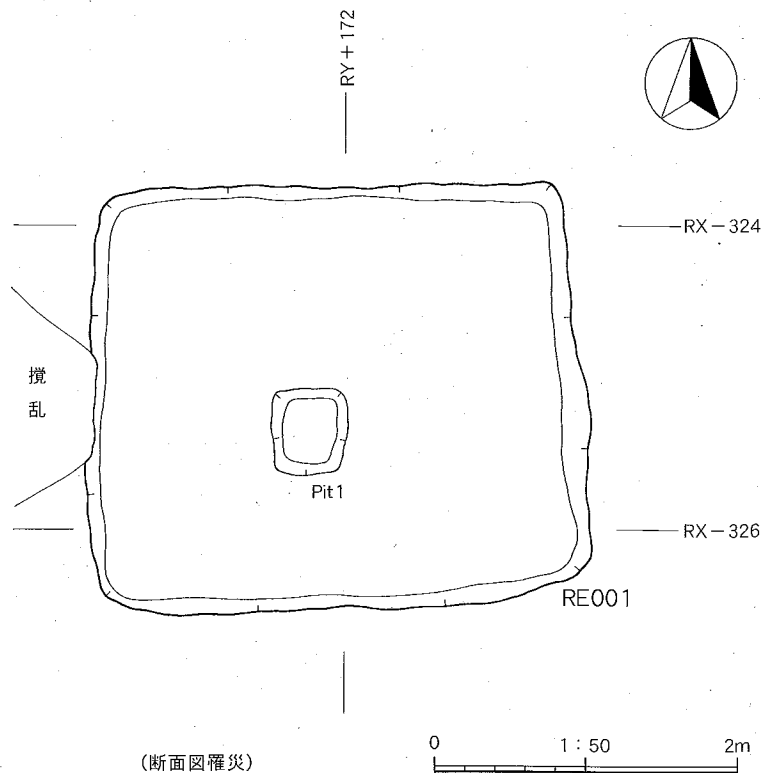
南北2.8m, 東西3.3mほどの方形を呈する。床面中央に方形のピットを検出した。柱穴と考えられる。埋土と遺構の状況から近世以降の室と考えられる。

**RG001 溝跡 (第99図)**

上端幅30cmほどをはかる。断面形は皿状を呈する。後世の削平を受け、残存状況は悪い。埋土の状況から、近世以降のものと考えられる。



第99図 鬼柳A遺跡第5次調査全体図



第100図 鬼柳A遺跡RE001竖穴建物跡

## IV まとめ

### 1 各調査成果のまとめ

大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡の平成5～12年度調査成果は、第Ⅲ章にのべたとおりである。平成12年12月の文化財調査室の火災により、大方の資料が罹災したため、不十分な報告となってしまった。以下、特徴的な成果をまとめる。

大宮北遺跡第8次調査では、規模の大きな掘立柱建物跡3棟が重複して検出されたほか、4棟の掘立柱建物跡、土坑などが検出された。RB002とRB004、重複しているRB005・006・007は、南北方向に桁行を揃えている。また、桁方向をそろえる各建物に囲まれた中心付近には、あかやき土器坏および高台付坏を多く出土したRD008土坑が位置する。RD008出土土器には完形品はなく、ことごとく割れており、意図して打ち欠いたと見られる破片も見られることから、土器廃棄の土坑と考えられる。あわせて、出土した土器の大半が坏および高台付坏であることから、一般的な集落ではなく、なんらかの儀式を行っていたことが想定される。

大宮北遺跡  
第8次調査

また、RB001とRB003は、RB002とRB004、およびRB005・006・007と時期差があると考えられるが、前後関係は不明である。しかし、RB001・003の間には、やはりRD008土坑ほどではないにしても土器を一定量出土したRD007が位置することから、大きな時間差があるものではなく、かつ同じような使われ方をした建物群と捉えてよいと考えられる。

後述するが、出土した土器群については、おおむね10世紀半ば過ぎのものと考えられる。本遺跡周辺においては、北側に隣接する林崎遺跡において10世紀中葉と考えられる規模の大きな掘立柱建物群やそれを取り囲む板塀跡が検出されている。以上のことから、大宮北遺跡と林崎遺跡は、土器の違いから時期的に近いが同時存在するものではないと考えられること、周囲の集落には見られない規模の大きな掘立柱建物群を有すること、大宮北遺跡の建物群周囲からの出土土器に器種の偏りがあり、儀式的な土器群が出土していることから、地域支配の拠点的な役割を持った集落だったと想定される。大宮北遺跡、林崎遺跡ともに、その建物群の一部が調査されたに過ぎず、今後の調査の進展にともない、全体像が解明されると考えられる。

小幅遺跡は、区画整理にともない、ほぼ全域が調査されてきている。平成5～12年度の調査では、遺跡の中心部付近を調査し、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの調査区とあわせて、遺跡の全体像が見えてきたものである。

小幅遺跡

古代の遺構は、遺跡の全体に検出されている。おおむね9世紀中葉頃のものが多い。特徴としては、遺跡の北東部に重複して竪穴住居跡が見られること、2×2間の掘立柱建物跡が散見することがあげられる。

近世の遺構は、農家建物と考えられる掘立柱建物跡が、遺跡の北東部、中央北寄り、南部に見られる。

遺跡中央北部には、RG002・101溝跡によって方形に区画された内部にRB015・016・017建物跡を検出した。RB015建物跡は、5×3間の南北棟に東西桁行および北側梁行に1間分の庇か

縁がつき、北東隅から東側に3間分突出する曲り家状の建物である。また、RB015建物跡の南側に位置するRB016・017建物跡は重複し、RB017建物跡が新しい。RB016建物跡は、変形田字形の間仕切りが確認できる農家建物と考えられる。

遺跡南部には、RB023・027・028・029・030・031・032建物跡を検出した。いずれも近世の農家建物と考えられる。RB028建物跡は、比較的規模の大きな曲り家状の建物跡である。建物跡の北側が調査範囲外であり、全体像がつかみきれていない。RB029建物跡は、変形田字形の間仕切りをもつ建物跡である。

盛南地区遺跡群内においては、近世の農家建物が散見するが、本遺跡中央北側の囲郭された建物群のような様子はほとんど検出されていない。区画整理事業以前のこの地域の光景も、田園地帯に農家住宅が散見する状況であったことから、近世以降の景色と似ていたのではないかと思われる。

**宮沢遺跡** 宮沢遺跡は、小幅遺跡同様、区画整理にともない、ほぼ全域が調査されている。平成5～12年度の調査では、遺跡の中心部付近を調査し、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの調査区とあわせて、遺跡の全体像が見えてきたものである。遺跡の北西部からは9世紀頃の竪穴住居跡が検出されているが、西に隣接する小幅遺跡の集落と一体のものと考えられる。また、本遺跡南部からは溝跡を多数検出している。1次調査で検出した溝跡の埋土中には、十和田a火山灰(915年頃降下)と考えられる灰白色粉状パミスがブロック状に多く含まれていたことから、古代の溝跡と考えられる。平成5～12年度調査の第5次調査で検出したRG018溝跡からは、上記灰白色粉状パミスは検出されておらず、詳細な年代は不明だが、埋土の状況から中近世以降のものと考えられる。

**鬼柳A遺跡** 鬼柳A遺跡は、区画整理事業でその東1/3が調査されている。おおむね北東端に古代の竪穴住居跡や近世の掘立柱建物跡が検出されている。第5次調査区においては竪穴建物跡と溝跡、土坑が検出された。埋土状況から近世以降のものと考えられる。



## 2 大宮北遺跡 出土土器について

大宮北遺跡第8次調査 RD008土坑から、あかやき土器坏および高台付坏を多く出土した。その出土土器には完形品はなく、ことごとく割れており、意図して打ち欠いたと見られる破片も見られることから、土器廃棄の土坑と考えられる。あわせて、出土した土器の大半が坏および高台付坏であることから、一般的な集落ではなく、なんらかの儀式を行っていたことが想定される。

大宮北遺跡  
第8次調査

この土器群の年代について、若干の検討を加えることとする(第101図)。

大宮北遺跡の周辺域の、類似した土器群が出土した近隣の遺跡として林崎遺跡が上げられる。林崎遺跡は、志波城跡の北東に隣接し、旧河道の段丘崖に立地する。これまで、志波城跡の外大溝や、外郭築地線から約1町(109m程)の距離を平行して走る大溝跡などの志波城期の遺構のほか、9世紀後半の集落、10世紀中葉の大形の掘立柱建物跡や木柵、竪穴住居跡などが検出されている。出土土器には、灯明皿に使われたと想定される黒色の炭化物が付着したものや「寺」墨書土器など特徴的な土器が一定量含まれること、周辺の集落にはあまりみられない大形掘立柱建物跡や木柵といった区画施設が見られることから、律令体制崩壊後の宗教的な権威を掌握した地域支配の拠点となる有力者の存在が想定される遺跡である。RA03・09竪穴住居跡出土土器群は、10世紀前葉に位置づけられ、RA02竪穴住居跡出土土器群は10世紀中葉に位置づけられている。

林崎遺跡  
との比較

大宮北遺跡においては、林崎遺跡の掘立柱建物跡の規模には及ばないものの周辺集落には見られない規模の建物跡の存在と、極めて器種の限られた土器が出土している。大宮北遺跡出土土器群は、あかやき土器坏と高台付坏が主体を占める。坏の法量の平均は口径12.8cm・底径5.2cm・器高4.0cm、高台付坏の法量の平均は口径14.9cm・底径6.6cm・器高5.9cmをはかる。坏は口径12cm前後のものが大半を占め、口径14cm前後の大形のものがわずかに含まれる。法量にばらつきが見られず、ほぼ一定のものといえる。

大宮北遺跡一括出土資料と類似するものとして、奥州市の胆沢城跡 SE1050井戸跡第1層出土土器、同 SK155・152土坑出土土器、SX126焼土遺構出土土器がある。これらは、十和田a火山灰(10世紀前葉降下)との層位関係やその他の出土遺物との共伴関係から、10世紀第3四半期(10世紀中葉新段階)に位置づけられている。これらの土器群は、坏と皿が小型化し、坏の法量が口径10cm前後の小型坏と、口径11~14cmほどの坏の二極分化が進むとされている。一方、胆沢城跡 SD3110溝跡の十和田a火山灰上層出土の土器群には、口径9.2cmのいわゆる小皿が含まれている。この土器群とは、猿投窯東山72号窯式期併行相当灰釉陶器輪花椀が共伴しており、10世紀後葉古段階の年代が与えられており、胆沢城終末の土器群と位置づけられている。

胆沢城跡  
出土遺物  
との比較

胆沢城跡出土土器との比較においては、大宮北遺跡出土土器群は①口径がおおよそ12cmと法量の一定化が見られるが、法量の大小二極分化がはっきりとは進んでいないこと、②器種が坏と高台付坏に限定され、小型坏や小型皿が含まれないこと、から胆沢城跡 SE1050井戸跡第1層、同 SK155・152土坑、SX126焼土遺構出土土器よりもわずかに古い土器群と想定される。

また、林崎遺跡 RA02竪穴住居跡出土土器群と比較すると、坏の法量が小型化していること、柱状高台付坏が出土していること、などから一段階新しいものと考えられる。

以上のことから、おおむね10世紀中葉新段階でも古い土器群と想定される。

大宮北遺跡は、林崎遺跡に後続する集落と考えられ、地域の拠点的な集落であった林崎遺跡から何らかの理由で移動して営まれたものではないだろうか。今後、発掘調査の進展に伴い、大宮北遺跡の全体像が明らかになることによって、志波城跡が廃絶しておよそ150年後のこの地域社会の様子が、よりいっそう明らかになると考えられる。

〔参考文献〕

- 井上雅孝 1997 「陸奥における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究第7号』北陸古代土器研究会  
伊藤武士 1997 「出羽における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究第7号』北陸古代土器研究会  
盛岡市教育委員会 1979 『太田方八丁遺跡 昭和53年度発掘調査概報』

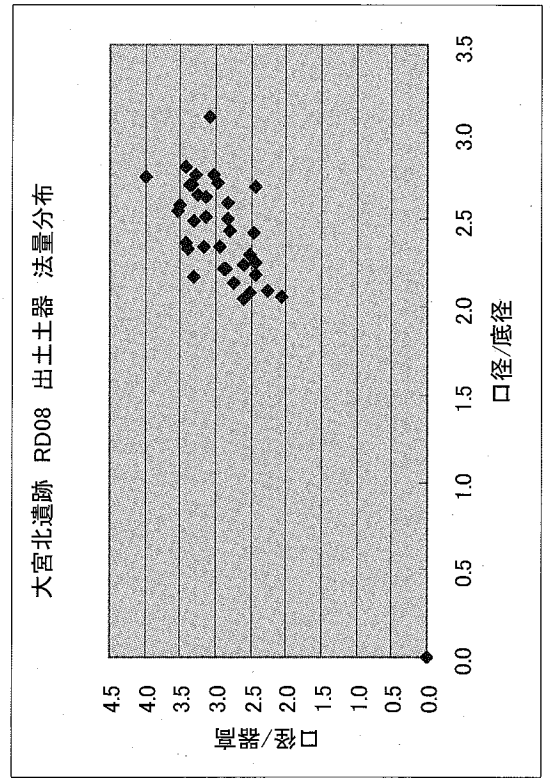
	大宮北遺跡	林崎遺跡	胆沢城跡
10世紀前葉		<p>RA03 竪穴住居跡出土</p> <p>RA09 竪穴住居跡出土</p>	<p>SK155 土坑跡</p> <p>SK152 土坑跡</p> <p>SK126 焼土遺構</p>
10世紀中葉	<p>RD008 土坑出土</p>	<p>RA02 竪穴住居跡出土</p>	<p>SK155 土坑跡</p> <p>SK152 土坑跡</p> <p>SK126 焼土遺構</p>

第101図 大宮北遺跡および10世紀代の土器 (S=1:6)

番号	図版 図版-型	遺物番号	出土			形態			寸法 (cm), ( ) は残存部分				底部切離	調整		墨書等・備考
			遺構 (埋葬時)	地点	層	区分	器種	器高	口径	体径	底径	脚部底径		口/底	口/高	
6-1		142	RD008 (RD0003)	—	検出面	土師器	坏蓋	—	—	—	—	—	—			底部穿孔
6-2		1	RD008 (RD0002)	Wベルト	C	あかやき	坏	—	—	—	—	—	—			底面～脚面墨痕
6-3	2	72	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	坏	3.4	11.9	—	—	2.6	3.5			回転糸切無調整
6-4		82	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	坏	3.4	11.1	—	—	2.6	3.3			回転糸切無調整
6-5		74	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	坏	3.9	11.0	—	—	2.5	2.8			墨書「上万」
6-6	2	155	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	坏	3.9	11.3	—	—	2.2	2.9			胎土に金雲母含む 器面マツ 底部に穴あり(貫通)
6-7		43	RD008 (RD0002)	Eベルト	A1	あかやき	坏	3.4	11.6	—	—	2.4	3.4			器面マツ 二次焼成?
6-8	2	135	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	坏	4.7	11.5	—	—	2.3	2.4			小形坏
6-9		123	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	坏	4.1	12.4	—	—	2.8	3.0			胎土に金雲母・酸化鉄含む
6-10		119	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	坏	4.0	12.6	—	—	2.6	3.2			胎土に金雲母・わずかに酸化鉄含む
6-11		121	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	坏	3.8	12.7	—	—	2.7	3.3			口縁にゆがみあり 胎土に金雲母・わずかに酸化鉄含む
6-12		125	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	坏	4.7	14.5	—	—	3.1	3.1			
6-13		124	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	坏	4.1	13.5	—	—	2.8	3.3			胎土に金雲母・酸化鉄含む 墨書か
6-14		122	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	坏	3.9	12.4	—	—	2.3	3.2			胎土に金雲母含む
6-15	2	80	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	坏	4.0	12.6	—	—	2.5	3.2			
6-16		127	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	坏	4.6	13.0	—	—	2.6	2.8			胎土に金雲母含む スス器面に多く見られる
6-17		128	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	坏	4.0	13.2	—	—	2.5	3.3			口縁にゆがみあり 胎土に金雲母含む
6-18		116	RD008 (RD0003)	—	A2	あかやき	坏	4.0	13.5	—	—	2.7	3.4			内面底部に穴 焼成前刺突～回転
6-19		129	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	坏	4.1	14.0	—	—	2.8	3.4			
6-20		73	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	坏	4.7	12.3	—	—	2.2	2.6			口縁ゆがみ顕著
6-21	2	83	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	坏	3.7	12.2	—	—	2.2	3.3			
6-22		151	RD008 (RD0008)	—	A	あかやき	坏	4.4	12.9	—	—	2.3	2.9			胎土に金雲母含む
6-23		79	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	坏	3.9	13.8	—	—	2.6	3.5			
6-24		126	RD008 (RD0002)	—	検出面	あかやき	坏	3.9	13.3	—	—	2.3	3.4			
6-25		85	RD008 (RD0003)	—	A	あかやき	坏	—	—	—	—	—	—			胎土に酸化鉄粒・金雲母含む
6-26		120	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	坏	3.3	13.2	—	—	2.8	4.0			口縁にゆがみあり 胎土に金雲母含む
7-27		147	RD008 (RD0008)	Wベルト	A2	あかやき	高台付坏	6.6	13.6	—	—	6.6	8.5			
7-28		35	RD008 (RD0002)	Eベルト	A2	あかやき	高台付坏	6.0	14.8	—	—	6.1	8.0			
7-29	2	44	RD008 (RD0002)	Eベルト	A1	あかやき	高台付坏	5.4	15.5	—	—	7.0	8.5			菊花文 器面ややマツ
7-30		45	RD008 (RD0002)	Eベルト	A1	あかやき	高台付坏	6.4	15.6	—	—	5.8	7.1			胎土に金雲母含む 体部外面墨書「万」
7-31	2	62	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	高台付坏	6.3	14.2	—	—	6.8	6.5			
7-32	3	65	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	高台付坏	5.9	14.4	—	—	6.6	6.9			
7-33		66	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	高台付坏	5.9	14.8	—	—	7.1	7.8			
7-34	3	63	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	高台付坏	5.8	16.0	—	—	7.5	7.5			菊花文くずれ
7-35	3	64	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	高台付坏	6.5	16.3	—	—	7.1	7.8			2/3残存
7-36		154	RD008 (RD0008)	—	検出面	あかやき	高台付坏	5.5	14.3	—	—	7.0	7.8			体部の高台との接合部へ調整
7-37		46	RD008 (RD0002)	Eベルト	A1	あかやき	高台付坏	—	—	—	—	—	—			脚部内側回転ヘラナデ
7-38		68	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	高台付坏	—	—	—	—	6.5	7.9			
7-39		67	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	高台付坏	—	—	—	—	6.6	7.4			
7-40		69	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	高台付坏	—	—	—	—	6.4	8.4			
7-41	3	131	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	高台付坏	5.2	14.6	—	—	6.0	6.4			柱状高台
7-42	3	130	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	高台付坏	5.1	15.2	—	—	5.6	6.6			柱状高台 胎土に酸化鉄わずか含む
7-43		75	RD008 (RD0002)	—	A	あかやき	坏	—	—	—	—	—	—			墨書「？」
7-44		132	RD008 (RD0003)	—	検出面	あかやき	坏	—	—	—	—	—	—			墨書「？」
7-45		100	RD008 (RD0002)	—	A	土師器	坏	—	22.0	—	—	—	—			内面口縁部内黒・体部とび黒 底部網代痕
7-46		14	RD007 (RD0001)	SW区	A	あかやき	坏	—	—	—	—	5.9	—			下部ヘラケズリ へらミガキ

8-47	44	M-3	Pit1	あかやき	坏	4.5	12.2	5.4	2.3	2.7	回転糸切無調整		胎土に金雲母・わずかに酸化鉄含む。口縁部外面に焼成前ヘラ状 工具で刻線
8-48	88	G-6	Pit1	あかやき	坏	3.7	12.7	5.9	2.2	3.4	回転糸切無調整		焼成良好 内面水引き細かい
8-49	59	M-8	Pit2	あかやき	坏	3.5	11.9	4.7	2.5	3.4	回転糸切再調整		胎土に金雲母・わずかに酸化鉄含む
8-50	4	G-5	検出面	あかやき	坏	4.3	11.8	4.2	2.8	2.7	回転糸切無調整		
8-51	28	H-7	検出面	あかやき	坏	3.7	12.2	4.7	2.6	3.3	回転糸切無調整		ヘラ状工具使用か 1/4 残存
8-52	2	N-7	検出面	あかやき	坏	3.6	11.8	4.8	2.5	3.3	回転糸切無調整	内底面ヘラ状工具で 回転調整	
8-53	29	H-7	検出面	あかやき	坏	4.4	13.4	5.8	2.3	3.0	回転糸切無調整	内底面ヘラ状工具で 調整	胎土に金雲母含む 1/3 残存
8-54	201	N-9	検出面	あかやき	坏	3.5	12.3	5.0	2.5	3.5	回転糸切無調整		胎土に金雲母含む 1/5 残存
8-55	5	G-5	検出面	あかやき	坏	3.3	12.4	5.2	2.4	3.8	回転糸切無調整		
8-56	3	G-5	検出面	あかやき	坏	4.6	12.8	4.8	2.7	2.8	回転糸切無調整		口縁部の一部に底化物付着 内面底部付近うすくス付着
8-57	20	G-7	検出面	あかやき	坏	4.4	13.5	6.0	2.3	3.1	回転糸切無調整		表面マメツ(二次焼成?) 胎土砂粒含む。悪
8-58	6	G-5	検出面	あかやき	坏	4.2	13.3	5.8	2.3	3.2	回転糸切無調整		胎土に金雲母含む
8-59	27	H-7	検出面	あかやき	坏	4.0	12.8	6.3	2.0	3.2	回転糸切無調整		
8-60	318	S-9	検出面	あかやき	坏	4.8	14.6	7.8	1.9	3.0	回転糸切無調整		
8-61	97	L-5	検出面	あかやき	坏	4.8	15.3	6.3	2.4	3.2	回転糸切無調整		内面底部焼成後穿孔 2/3 残存
8-62	212	O-3	検出面	あかやき	坏	4.7	15.4	6.4	2.4	3.3	回転糸切無調整		墨書「?」 体下部回転ヘラクズリ再調整
8-63	284	R-6	検出面	あかやき	坏	—	—	5.2	—	—	回転糸切無調整		墨書「?」
8-64	238	O-10	検出面	あかやき	高台付坏	—	—	—	9.8	—	回転糸切無調整		高台 胎土に金雲母含む
8-65	104	L-7	検出面	あかやき	坏	—	—	—	—	—	回転糸切無調整		墨書「?」
8-66	170	N-4	検出面	あかやき	坏	—	—	—	—	—	回転糸切無調整		墨書「?」
8-67	198	N-9	検出面	あかやき	坏	—	—	—	—	—	回転糸切無調整		墨書「?」
8-68	199	N-9	検出面	あかやき	坏	—	—	—	—	—	回転糸切無調整		墨書「?」
8-69	77	R-3	Pit2	あかやき	坏	—	—	—	—	—	回転糸切無調整		墨書「?」
8-70	297	R-10	検出面	あかやき	坏	—	—	—	—	—	回転糸切無調整		墨書「?」
8-71	344	—	表土	あかやき	坏	—	—	—	—	—	回転糸切無調整		墨書「?」
8-72	273	O-9	検出面	あかやき	耳皿	—	—	—	—	—	回転糸切無調整		墨書「?」

第5表 大宮北遺跡 出土土器一覽





## V 写真図版



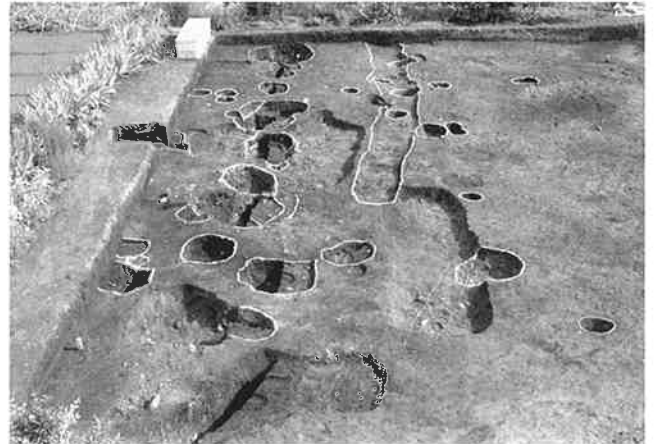
大宮北遺跡 第8次調査区(西から)



大宮北遺跡 第8次調査区(東から)



大宮北遺跡 第8次調査区  
(RB002・003 東から)



大宮北遺跡 第8次調査区  
(RB005・006・007 北から)



小幅遺跡 第17次調査区(北東から)



小幅遺跡 第17次調査区(南から)



小幅遺跡 第17次調査区  
(RA039 竪穴住居跡 東から)

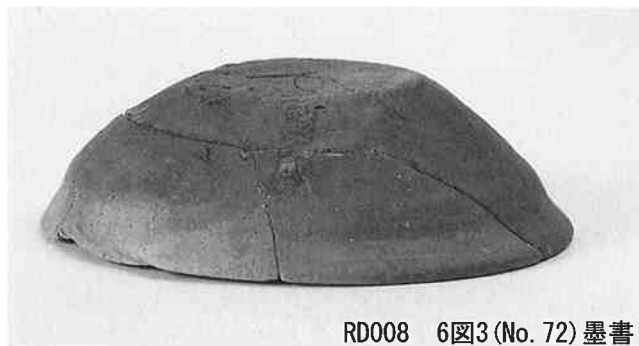


小幅遺跡 第17次調査区  
(RX032 円形周溝 北から)





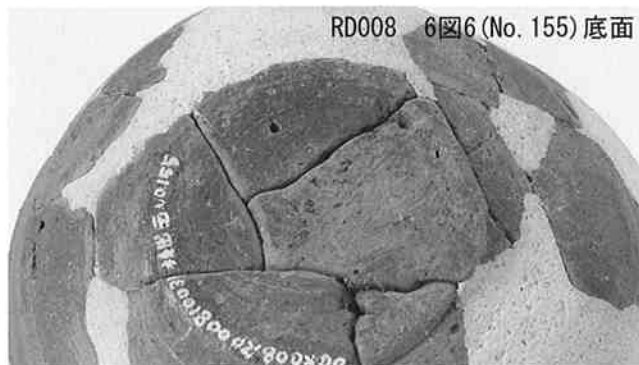
RD008 6図3 (No. 72)



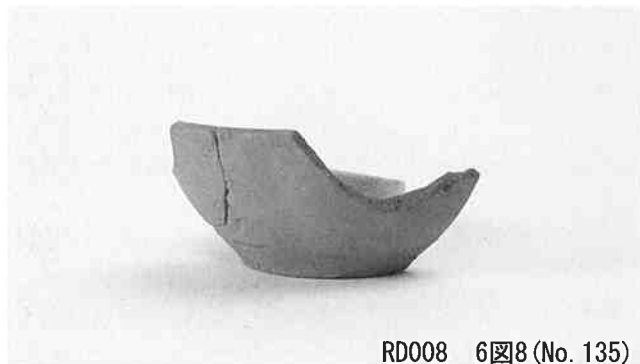
RD008 6図3 (No. 72) 墨書



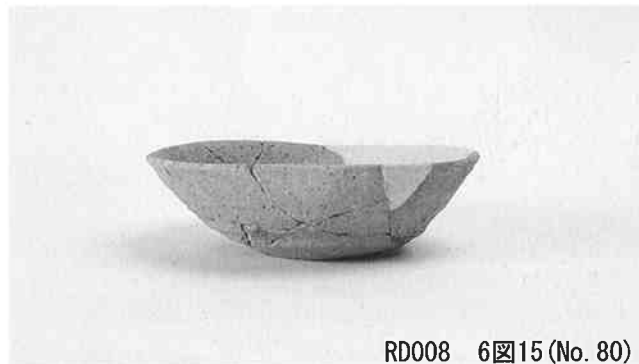
RD008 6図6 (No. 155)



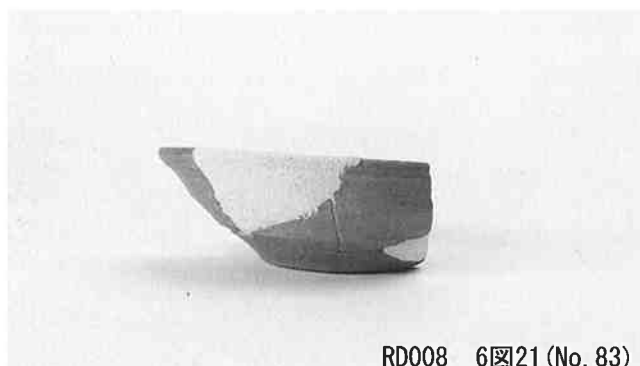
RD008 6図6 (No. 155) 底面



RD008 6図8 (No. 135)



RD008 6図15 (No. 80)



RD008 6図21 (No. 83)



検出面 8図52 (No. 181)



RD008 7図29 (No. 44)



RD008 7図31 (No. 62)

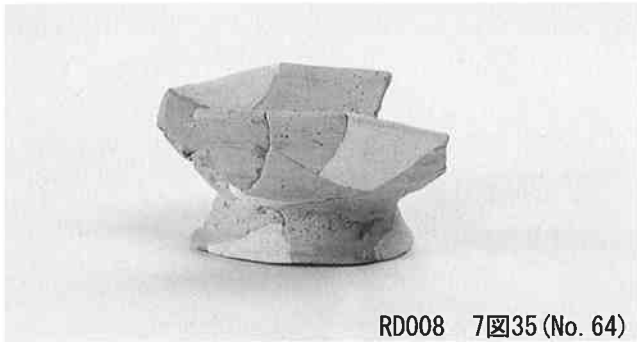
大宮北遺跡 第8次調査出土土器(1)



RD008 7図32 (No. 65)



RD008 7図34 (No. 63)



RD008 7図35 (No. 64)



RD008 7図41 (No. 131)



RD008 7図42 (No. 130)



RD008 7図42 (No. 130) 底面

大宮北遺跡 第8次調査出土土器(2)



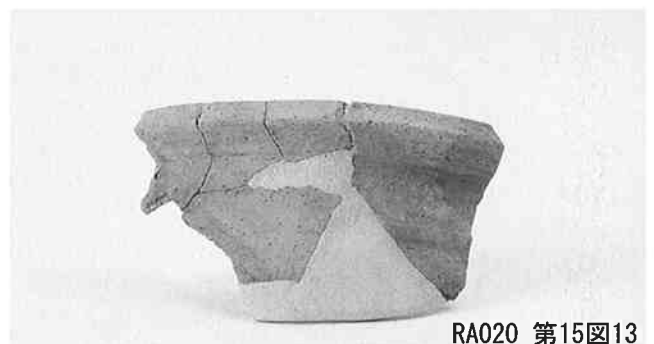
RA020 第15図10



RA020 第15図11

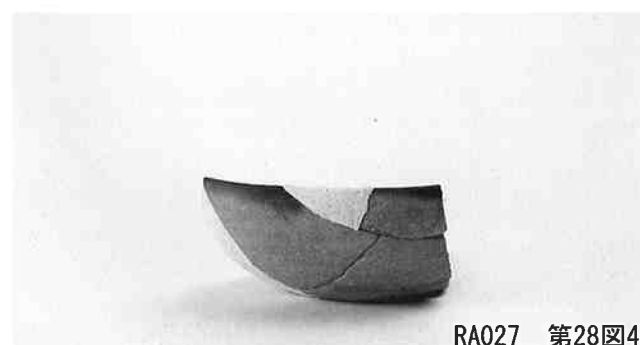
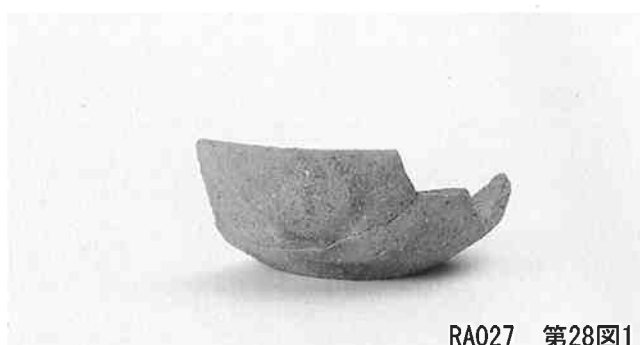
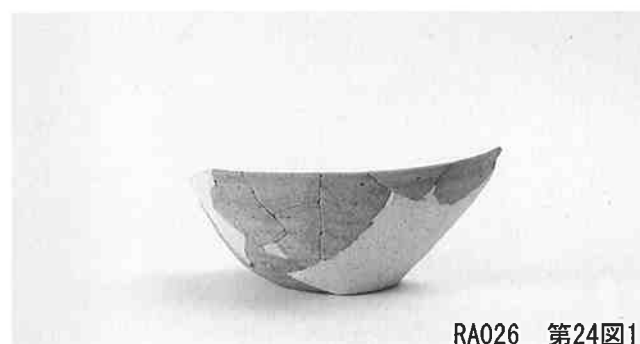
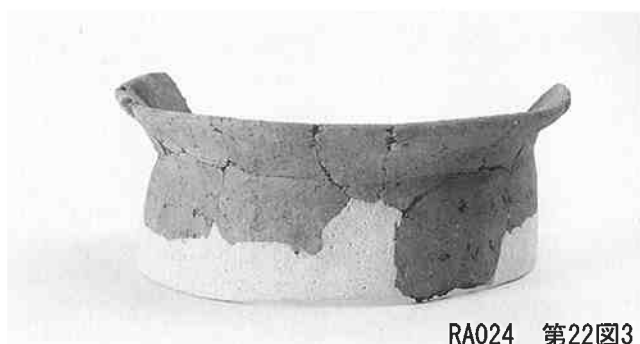


RA020 第15図12



RA020 第15図13

小幅遺跡 出土土器(1)



小幅遺跡 出土土器(2)



RA030 35図1



RA030 35図2



RA030 35図4



RA031 36図1



RA031 36図3



RA039 38図1



RA039 38図2



C24-T20 Pit2 95図5

## 報告書抄録

ふりがな	せいなんちくいせきぐんほくつちょうさほうこくしょ Ⅰ							
書名	盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅰ							
副書名	盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡 平成5～12年度調査報告① 大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡							
編著者名	今野公顕							
編集機関	盛岡市教育委員会 盛岡市遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 TEL 019-635-6600							
発行年月日	2007年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおみやきたいせき 大宮北遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 もとみやあざおおみや 本宮字大宮	03201		39度40分59秒	141度7分10秒	8次：2000.06.02～07.10 9次：2000.05.23～06.01	500 792	土地区画整理事業 (盛岡南新都市開発整備事業)
こはばいせき 小幅遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 もとみやあざこはば 本宮字小幅			39度41分6秒	141度7分31秒	8次：1998.04.06～11.06 1998.11.01～11.30 12次：1999.09.06～09.30 17次：2000.05.09～05.29	11,655 500 460 365	
みやざわいせき 宮沢遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 もとみやあざみやざわ 本宮字宮沢			39度41分3秒	141度7分40秒	5次：1999.04.21～05.18	1,629	
おにやなぎえいせき 鬼柳A遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 もとみやあざおにやなぎ 本宮字鬼柳			39度40分49秒	141度7分25秒	5次：1999.07.22～08.10	1,171	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大宮北遺跡	集 落	平安時代 古代	掘立柱建物跡・土坑・小 柱穴 溝跡		須恵器・ あかやき土器・ 土師器		10世紀半ばの土器一括廃棄土坑と 掘立柱建物跡	
小幅遺跡		平安時代 中世 近世以降	竪穴住居跡・掘立柱建物 跡・溝跡・ 土坑・円形周溝 ほか		須恵器・ あかやき土器・ 土師器		平安時代の集落と、近世の村落	
宮沢遺跡		古代以降	溝跡 ほか					
鬼柳A遺跡		古代以降	竪穴状遺構 溝跡・土坑 ほか					

盛南地区遺跡群発掘調査報告書 I  
盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡 平成5～12年度調査報告①  
大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡

2007年3月30日 発行

発行 盛岡市教育委員会 盛岡市遺跡の学び館  
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13-1  
電話 019-635-6600 FAX019-635-6605

印刷 株式会社熊谷印刷  
〒020-0066 岩手県盛岡市上田一丁目 6-49  
電話 019-653-4151